

(公財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

18

2022年3月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、(公財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その18)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

18年目にあたる2020年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。

なお、2020年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、劇場の事業や運営全体に大きな影響を受けており、自主事業や貸館事業の実績、パブリシティ効果などの主要な指標の多くでは、開館以降最も低い結果となった。しかしその一方で、実際に公演を鑑賞した観客や貸館での施設の利用者のアンケートによると、満足度を測る指標の多くが開館以降最も高くなっていた。そうした結果から、コロナ禍においても北九州芸術劇場への支持や共感は変わっておらず、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。

末筆ではあるが、2003年度以降、18ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(公財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2022年3月
ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室

◎ 目 次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
-----------------------------	---

[本編]

第1章 2020年度事業の概要と実績	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価	10
第3章 貸館利用者からみた評価	16
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果	20
第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果	27

[資料編]

資料Ⅰ 実績調査結果	資-1
資料Ⅱ 観客調査結果	資-25
資料Ⅲ 貸館利用者調査結果	資-71
資料Ⅳ 経済波及効果	資-103
資料Ⅴ パブリシティ効果	資-117

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

18年目にあたる2020年度は、2003年度あるいは2004年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
- ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
- ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
- ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出

を実施した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から18年間の経年分析を行なった(詳細は、p.資-1～資-24参照)。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-25～資-69参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、2020年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-71～資-102参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-103～資-115参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-117～資-126参照)。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内

容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる5つの章によって構成されている。

- 「第1章 2020年度事業の概要と実績」
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果」
第1章から第4章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。
 - A 劇場の設置目的:
鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献
 - B 運営・管理: 場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理
 - C 経営: 経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「実績調査結果」では、2020年度の劇場運営の基礎データや2003年以降の推移を整理した。
- 資料Ⅱ「観客調査結果」では、2020年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「貸館利用者調査結果」では、2010年度～20年度の11ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅳ「経済波及効果」では、2020年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅴ「パブリシティ一覧」では、2020年度の新聞記事掲載件数や金額換算の実績や2003年以降の推移を整理した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 主任研究員)

太田真奈美(社会研究部 研究アシスタント)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2020年度事業の概要と実績

事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2020年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と2020年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

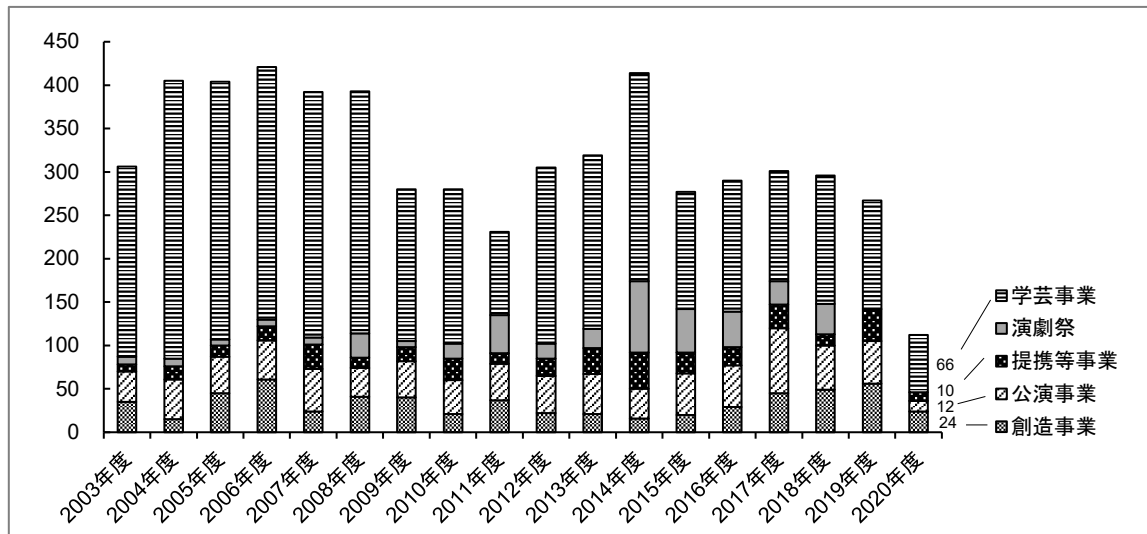
北九州芸術劇場では、開館以来「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードにした事業展開が行われてきた。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州発のオリジナリティのある良質の作品づくりを通じて、地域資源の発掘と北九州市のシティブランド発信に取り組む。
- **【育つ】**: 『交流』と『育成』を柱に、舞台芸術の力を活用し、地域の未来を担う人材を育成する。
- **【観る】**: 幅広いラインナップの充実を図り、市民に良質な公演を提供する。また、新たな観客づくりや、にぎわいづくりに寄与する。
- **【支える】**: 市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を積極的に行う。

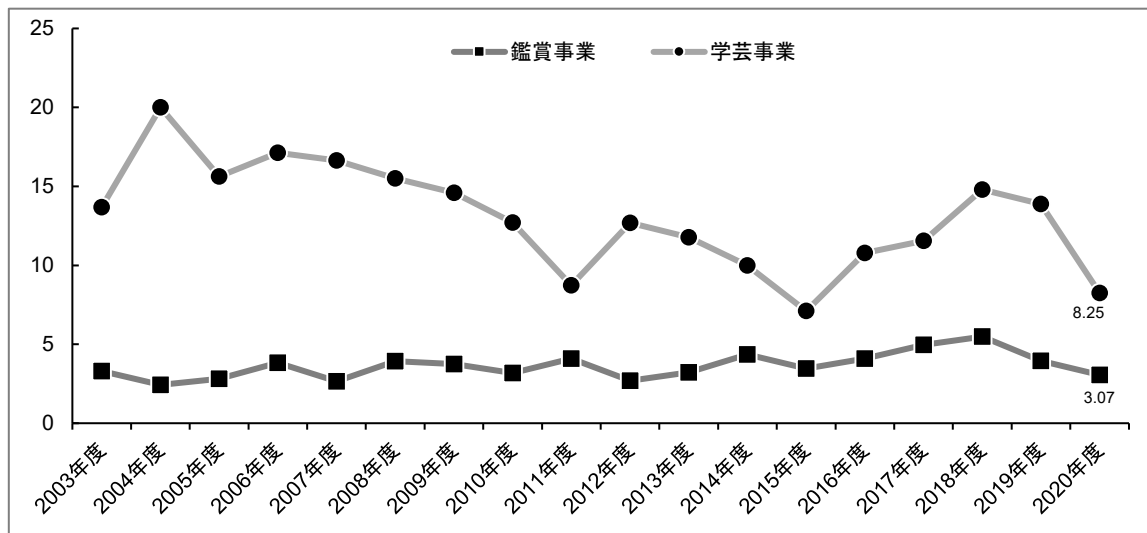
(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 2020年度も4つのコンセプトに基づき、2020年度の自主事業の事業数は、鑑賞事業が15事業、学芸事業が8事業、支援事業が2事業となっている。2020年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために中止となった事業が多く、すべての事業で開館以降最も少ない事業数となっている。
- 2020年度の鑑賞事業の公演回数は46回、学芸事業の実施回数は66回、支援事業は24回となっている(図表1-1)。鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は3.07回、学芸事業の1事業あたりの実施回数は8.25回となっている(図表1-2)。
- 2020年度の鑑賞事業の入場者数は6,674人、学芸事業の参加者数は448人、支援事業の参加者数は151人(WEB企画の参加者数406人を含む場合は557人)となっており、年間の入場者(参加者)数の総合計は7,122人となっている。
- 2020年度の鑑賞事業で、総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数は4,730人で、総席数は6,063席となっており、入場率は78.0%となっている(図表1-3)。多くの鑑賞事業で収容率を制限した設定席数での実施となったことが大きな要因である。
- なお、2020年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために中止となった自主事業が計20事業(うち4事業では一部の公演は実施)、68回の公演やワークショップなどが中止、キャンセル、または延期となった。

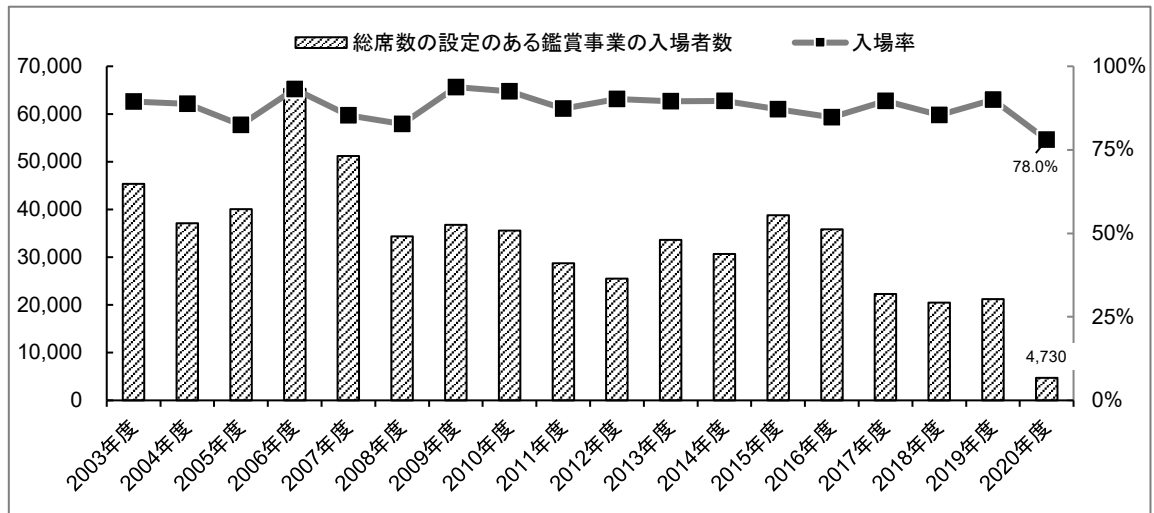
図表1-1 公演(実施)回数の実績



図表1-2 1事業あたりの公演(実施)回数



図表1-3 入場者数と入場率



- 以下、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
 - 開始から17年目を迎えて延べ1,300人以上の参加の市民参加企画でラストステージを迎える合唱物語「わたしの青い鳥2020」(劇場公式 YouTube でのライブ動画配信、公演とワークショップは中止)
 - 北九州の街に長年暮らしてきた高齢者の方々の様々な“思い出”や“記憶”を地元の若手作家たちがインタビューし物語をつくる、9年目を迎えた「Re:北九州の記憶」(インタビューは中止)
 - 「東アジア文化都市2020北九州」の事業の一環として、北九州出身の3名の詩人が紡ぐ言葉と、国内外で躍進を続ける3名の振付家が身体を通して表出させる「詩、踊る」といった事業が実施された。
- 2020年度は3事業で24回の公演・ワークショップが行われ、入場者数は474人となっている。2019年度と比べると、回数、入場者数ともに大幅に減少している(2019年度の実績は4事業、56回、1,893人)。入場率では、2019年度の79%から2020年度では77%とやや減少している。
- 個別の入場率では「Re:北九州の記憶」のリーディング公演が96%となっている(小劇場・収容率50%での実施)。一方で、「詩、踊る」の公演が68%となっている(中劇場1階席・収容率100%での実施)。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
 - 「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」として、演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて行う「アウトリーチ」
 - 高校生に[的]を絞った取り組みを通して、演劇・パフォーマンスをより身近に感じていただき、高校生が劇場を[的]にして集うきっかけを提供した「高校生[的]シアター」
 - 演劇やダンスなど、アートによる想像力を使って様々な遊びをやってみるワークショップ「北九州芸術劇場こどもプロジェクト あそびのじかん」
 - 北九州芸術劇場と北九州市子ども・若者応援センター「YELL(エール)」との連携で就労支援を必要とする若者を対象に芸術体験ワークショップを行う「ひとまち+アーツ協働事業YELL」

など、学芸事業全体では、創造参加も含め、8事業で66回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は851人となっている(各会場利用人数制限下で実施)。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、劇作家・演出家・音楽家・映画監督など多彩な顔を持つケラリーノ・サンドロヴィッチが結成した新たなユニット、ケムリ研究室の記念すべき第一回公演「ベイジルタウンの女神」、演劇界の鬼才・野田秀樹が同じくクラシック音楽界の鬼才・井上道義とタッグを組み誕生させた“誰も見たことのないオペラ”の待望の再演「モーツァルト 歌劇『フィガロの結婚』〜庭師は見た!〜」、前二作はともに演劇界の垣根を越えて話題が沸騰し、観客に衝撃を与えた二兎社の人気シリーズの集大成「ザ・空気ver.3 そして彼は去った…」など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 公演事業では8事業が上演され、公演数は12回、入場者数は3,762人となっている。2019年

度と比べると、公演数、入場者数ともに大幅に減少している(2019年度の実績は49回、17,657人)。また、多くの公演事業が収容率を制限した設定席数となっている中で、公演事業全体の入場率は78%となっている。

- 提携等事業では、小劇場・現代演劇など4事業が上演され、公演数は10回、入場者数は2,438人であった。2019年度と比べると、公演数、入場者数ともに大幅に減少している(2019年度の実績は37回、10,375人)。
- 創造事業、公演事業、提携等事業を含めた公演事業全体の公演作品数は15本、公演数は46回、入場者数は6,674人である。2019年度の年間入場者数と比べると、公演数、入場者数ともに大幅に減少している(2019年度の実績は36本、142回、29,925人)。

④支える:地元劇団等の創造活動支援、多施設との連携、貸館事業

- 「支える」に対応した主催事業では、
 - 地域舞台人の新たな表現活動の一助となるため、創造活動を行う表現者の創造環境支援に重点を置いて実施する「演カツ！！2020」
 - 「上演時間は20分以内」「登場人物は3人まで」というルールのもと、九州各地の劇団による短編作品を上演し、競い合う「劇ツ×20分」(劇場公式Twitterアカウントでの出場予定の劇団によるショート動画配信&投票、公演は中止)などを行った。
- 支援事業の入場者数は151人(前掲の「観る:公演事業」と「育つ:学芸事業」の入場者数の計に含まれる。WEB企画の参加者数406人を含む場合は557人)。
- また、「支える」では市民の文化活動の支援を貸館として行い、「提案する劇場」として、使用申込みから当日までのケア、催し内容へのアドバイス、施設の安全性や非常時対応の説明等、使用者が安心して催しを開催できるように総合的にサポートした。
- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、公演や講演など、計75事業が開催された。公演・講演数は142回、総来場者数は36,984人となっている。

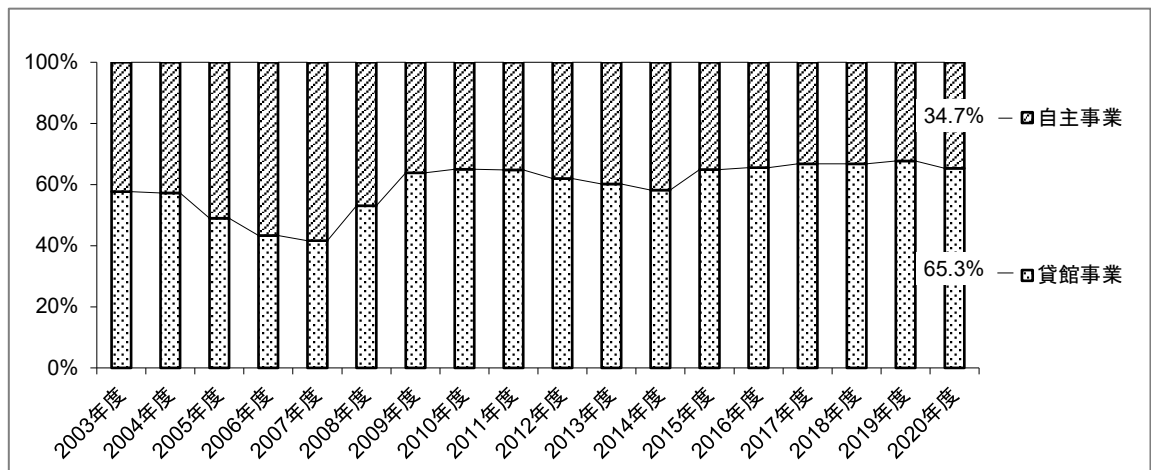
⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数を見ると、2020年度は691件の利用があり(図表1-4)、利用者数は約6万9千人となっている。
- そのうち、利用件数は自主事業240件、貸館事業451件となっており、利用者数は自主事業約1万1,000人、貸館事業約5万8,000人である。前年度と比べて、自主事業、貸館事業ともに利用件数と利用者数は大幅に減少している。
- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースでみると、2020年度は、貸館事業が65.3%、自主事業は34.7%となっている(図表1-5)。開館から2007年度までは自主事業の利用の比率が増加傾向にあったが、2008年度以降は貸館事業の比率が増加傾向にある。
- ホールの規模別の自主事業の比率を見ると、2020年度は大ホールが18.9%、中劇場が29.8%、小劇場が50.8%となっている(図表1-6)。特に小劇場の自主事業での利用の比率は、2018年度に次いで2番目に少ない比率となっている。
- 2013年度以降の第3期からは、自主事業が劇場から地域に出て展開する企画が増加しており、その分、劇場は貸館事業に利用されることが増加していると考えられる。

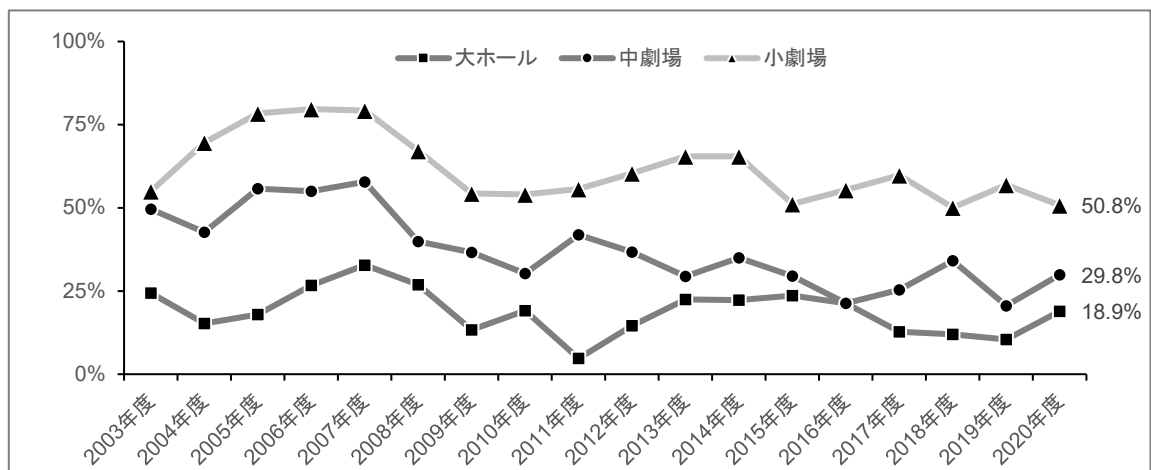
図表1-4 施設の利用件数

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	66	205	271	143	145	288	121	99	220	330	449	779
2004年度	87	482	569	242	325	567	404	176	580	733	983	1,716
2005年度	102	467	569	289	229	518	471	130	601	862	826	1,688
2006年度	139	382	521	298	244	542	573	146	719	1,010	772	1,782
2007年度	186	381	567	325	237	562	564	148	712	1,075	766	1,841
2008年度	134	365	499	217	327	544	462	226	688	813	918	1,731
2009年度	64	415	479	213	369	582	318	267	585	595	1,051	1,646
2010年度	104	441	545	159	367	526	316	269	585	579	1,077	1,656
2011年度	25	503	528	230	319	549	337	268	605	592	1,090	1,682
2012年度	80	470	550	197	340	537	368	241	609	645	1,051	1,696
2013年度	131	452	583	158	379	537	399	210	609	688	1,041	1,729
2014年度	110	383	493	175	325	500	359	189	548	644	897	1,541
2015年度	139	450	589	177	424	601	324	310	634	640	1,184	1,824
2016年度	120	443	563	99	366	465	359	289	648	578	1,098	1,676
2017年度	69	470	539	135	397	532	341	229	570	545	1,096	1,641
2018年度	59	435	494	159	307	466	259	258	517	477	1,000	1,477
2019年度	56	482	538	105	405	510	333	252	585	494	1,139	1,633
2020年度	35	150	185	74	174	248	131	127	258	240	451	691
累計	1,706	7,376	9,082	3,395	5,679	9,074	6,439	3,834	10,273	11,540	16,889	28,429

図表1-5 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース]



図表1-6 ホール別の自主事業比率 [件数ベース]



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の施設稼働率(利用対象日数に対する公演日数の割合)は、大ホールが38%、中劇場は40%、小劇場は44%となっており、3ホール合計では41%となっている(図表1-7)。新型コロナウイルスの影響により、開館以降で最も少ない稼働率となっている。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2017年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70.3%)と比較して高い水準にある。
- 施設の稼働率について第1期、第2期、第3期を比較すると、第3期は大ホール、中劇場、小劇場ともに稼働率が第1期と第2期を上回っている。ただし、限られたスタッフ体制のもとでの施設利用の安全性を考慮すると、稼働率が100%に近づくことが望ましいわけではない。

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の2020年度の事業費は約1億2,000万円となっている。前年度(約2億3,000万円)から大幅な減少となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約700万円で全体の6%、市の補助金が約8,000万円で68%、文化庁と(一財)地域創造などによる外部資金が約3,100万円で27%となっている(図表1-8、図表1-9)。事業費の財源のうちチケット収入と外部資金で事業費のおよそ3割(33%)をカバーしている。
- 全国平均の試算値※と比較すると、2020年度のチケット収入の割合は平均を下回っている。全国平均の試算値での「設置者からの補助金・委託費」(53%)が、北九州芸術劇場における2003～2020年度累計のチケット収入の割合(51%)とほぼ同じ比率となっている。

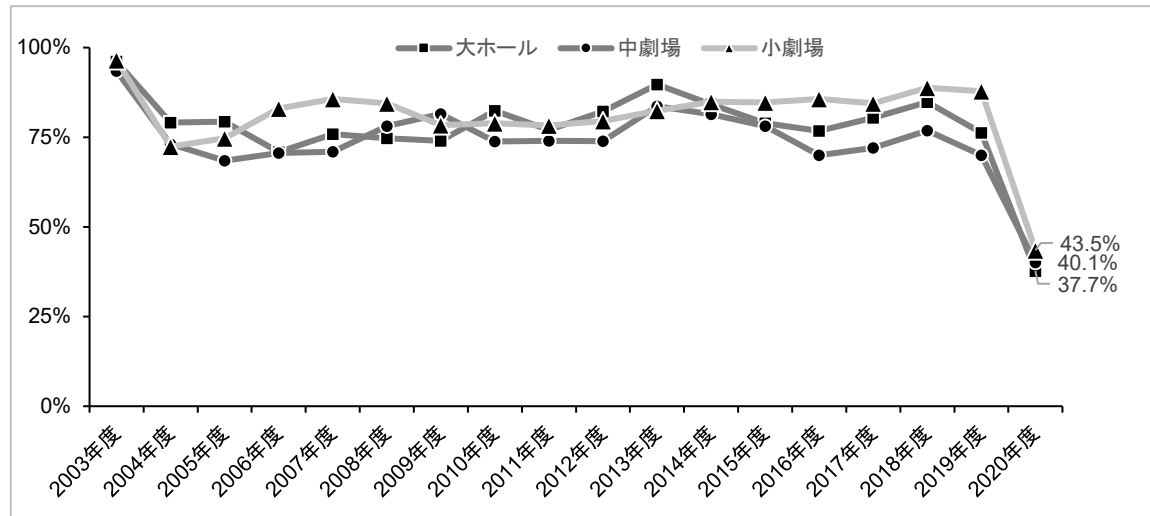
※(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの収入」が67.0%、「事業収入」が11.7%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が2.1%である。

※指定管理施設の平成25年度決算金額平均値の「収入」欄から、それぞれの内訳比率を算出したため、「設置者からの収入」には人件費や運営管理費の財源でもある指定管理料が含まれている。

(2) 事業収支

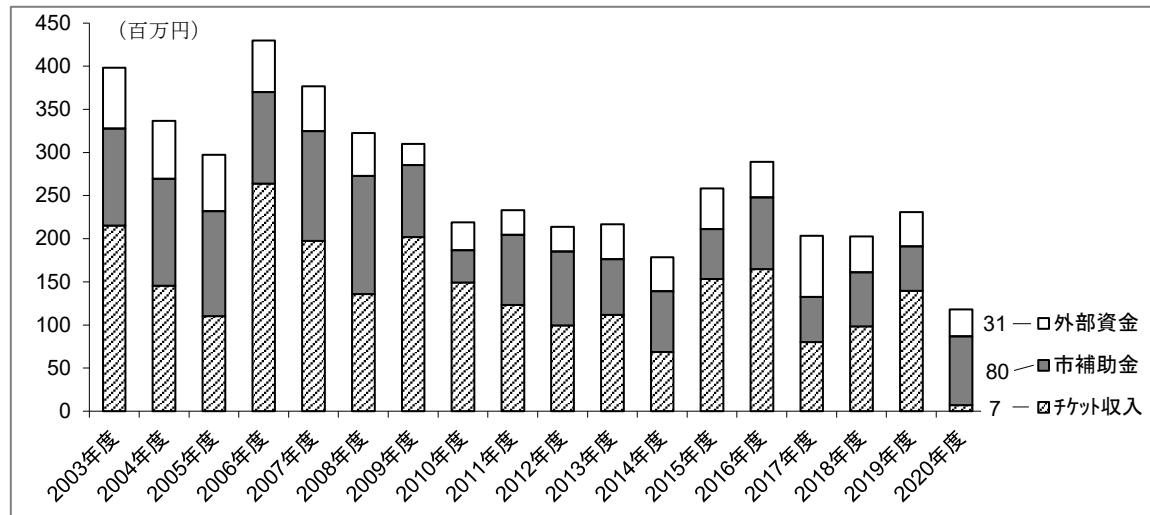
- 2020年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約3,218万円の減収、補助金等収入は約1,640万円の減収となっている。2020年度は新型コロナウイルスの影響によって事業費が減少したことにより、補助金等収入も減少した形になった。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行っていることがうかがえる。

図表1-7 北九州芸術劇場の稼働率

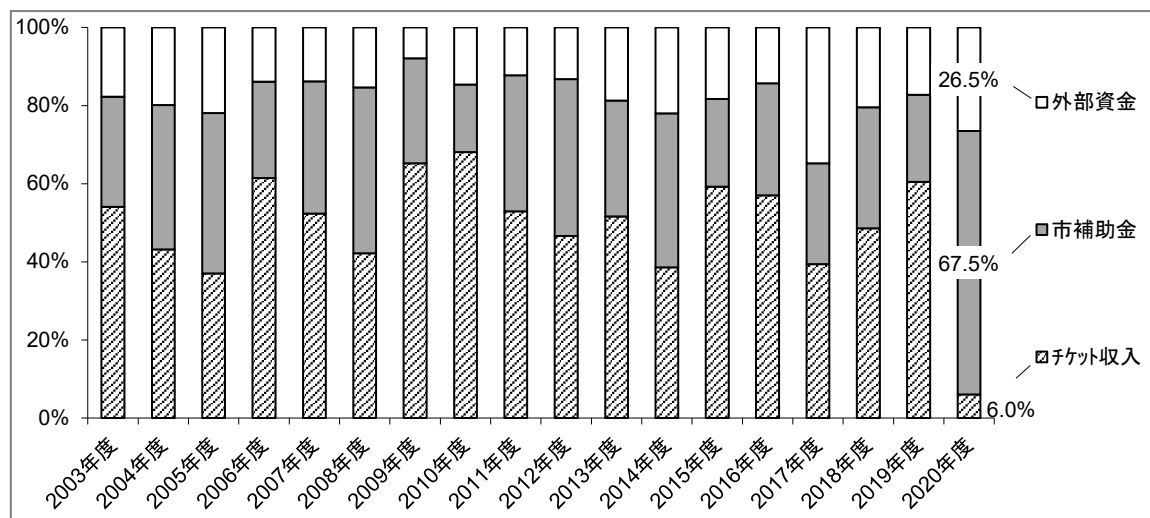


注) 稼働率は「公演日数／利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

図表1-8 事業費の財源内訳



図表1-9 事業費の比率



第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に來場した観客に対するアンケート調査の結果から、2020年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1. 観客調査の実施要領

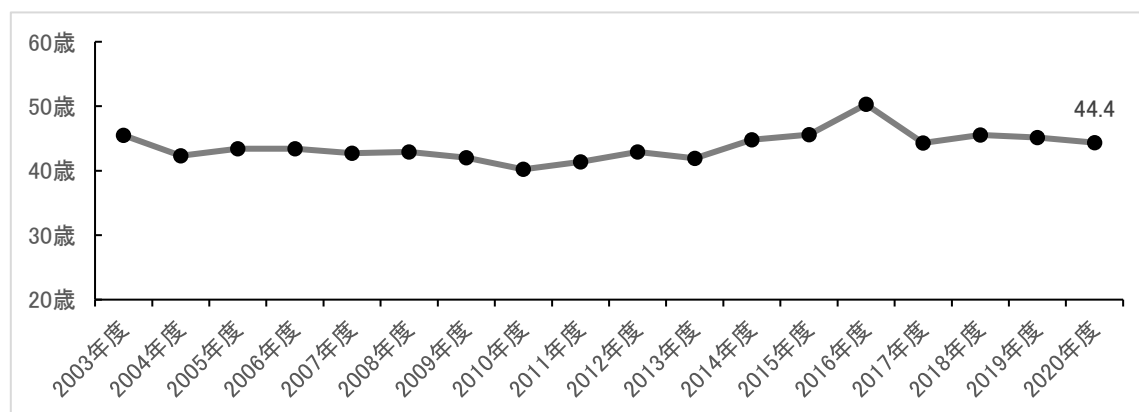
- 調査の対象: 2020年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 11公演
- 配布・回収方法: 各公演の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期: 2020年10月9日～2021年2月21日
- 有効回答数(回収率): 457件、回収率: 10.0%(配布数: 4,658件)

2. 観客調査の結果概要

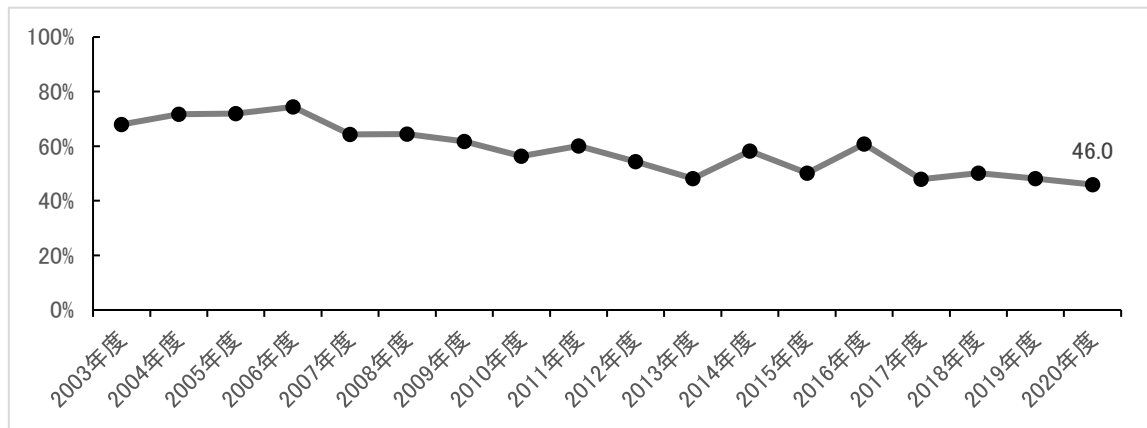
(1) 観客(アンケート回答者)の属性

- 観客は、男性が21%、女性が79%と、女性の割合が高い。いずれのジャンルも男性に比べて女性の割合が高い。
- 平均年齢は44.4歳。年齢層に大きな偏りはなく、「40歳代」が26%と最も割合が高い。「50歳代」が24%、「60歳以上」が17%、「30歳代」が15%、「18～29歳」が16%、「18歳未満」が3%と、幅広い年齢層の観客が來場している。
- 年齢層の割合の推移を見ると、2016年度が最も平均年齢が高く50.3歳となったが、それ以外は40歳代で推移している(図表2-1)。
- 居住地域は、北九州市及び周辺地域が46%(「北九州市」: 41%、北九州市周辺: 6%)を占めている。2020年度は開館以降で最も北九州市及び周辺地域の割合が低い(図表2-2)。福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの來場者は40%となっている。
- 観客の居住地域の経年推移を見ると、07年度以降は増減があるものの、北九州市と周辺以外のエリア(福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など)の割合が3割を超え、北九州市+周辺が減少する傾向にあった。
- 福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県(10件)、佐賀県(7件)、熊本県(6件)、長崎県(1件)、宮崎県(1件)等の記載がある。九州・山口以外では、東京都、兵庫県、広島県、愛媛県、北海道、神奈川県、大阪府の回答もある。

図表2-1 平均年齢



図表2-2 居住地域（北九州市+周辺の割合）



(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

①来場公演のジャンル

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が73%である。アンケート配布公演11公演のうち6公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、18歳未満では「ダンス・現代舞踊」の割合が40%と他の年齢層に比べて高い(全体では「ダンス・現代舞踊」は13%)。

②公演情報の入手経路

- 公演情報の入手経路は、全体では「ホームページ、情報誌Q」が37%、「Facebook、TwitterなどのSNS」が31%、「ダイレクトメール」が13%、「出演者、公演関係者から聞いた」が12%となっている(図表2-3)。
- 2020年度は「ホームページ、情報誌Q」と「Facebook、TwitterなどのSNS」が前年度に比べて大幅に増加している。
- 公演情報の入手経路を年齢別で見ると、18歳未満では「街中のチラシ・ポスター」と「ホームページ、情報誌Q」、「18～29歳」と「30歳代」では「Facebook、TwitterなどのSNS」、それ以外の年齢層では「ホームページ、情報誌Q」が最も高い。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が「11回以上」では「ホームページ、情報誌Q」の割合が61.4%と非常に高い割合となっている。

③公演に来た理由

- 公演に来た理由については「出演者が好きだから」が65%、「公演内容が面白そうだったから」が53%となっている(図表2-4)。「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは2003年度、2014年度、2018年度の3回となっている。
- 過去調査と比較して、2020年度は「出演者等が好きだから」が過去最高の割合となった。また、例年は「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合は1割を下回っていたが、20年度は15.8%となっているのが特徴的である。

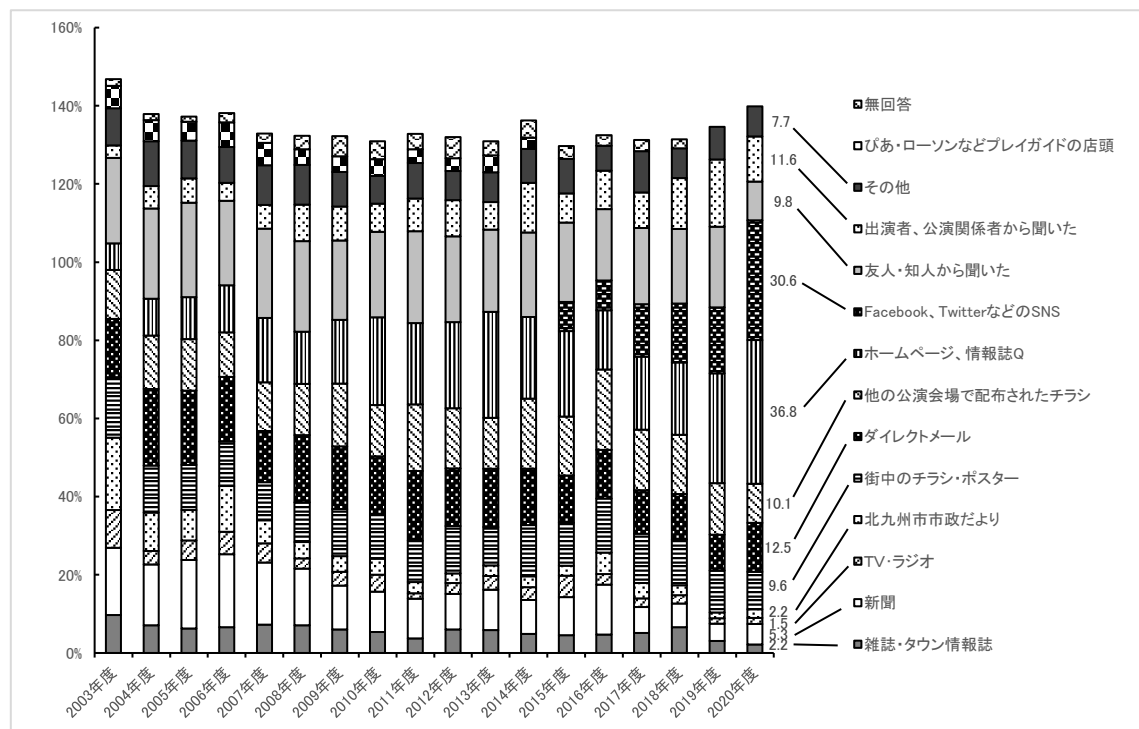
④北九州芸術劇場での鑑賞経験

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が35%と最も高い。次いで、「今日が初めて」(20%)、「3～5回」(17%)、「6～10回」(14%)、「1～2回」(9%)と、大きな偏りがなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。
- 北九州芸術劇場の鑑賞経験が6回以上の割合の推移を見ると、2008年度までの調査では増加傾向で2008～2009年度は30%を超えていたものの、2010年度は29%と減少し、2011年

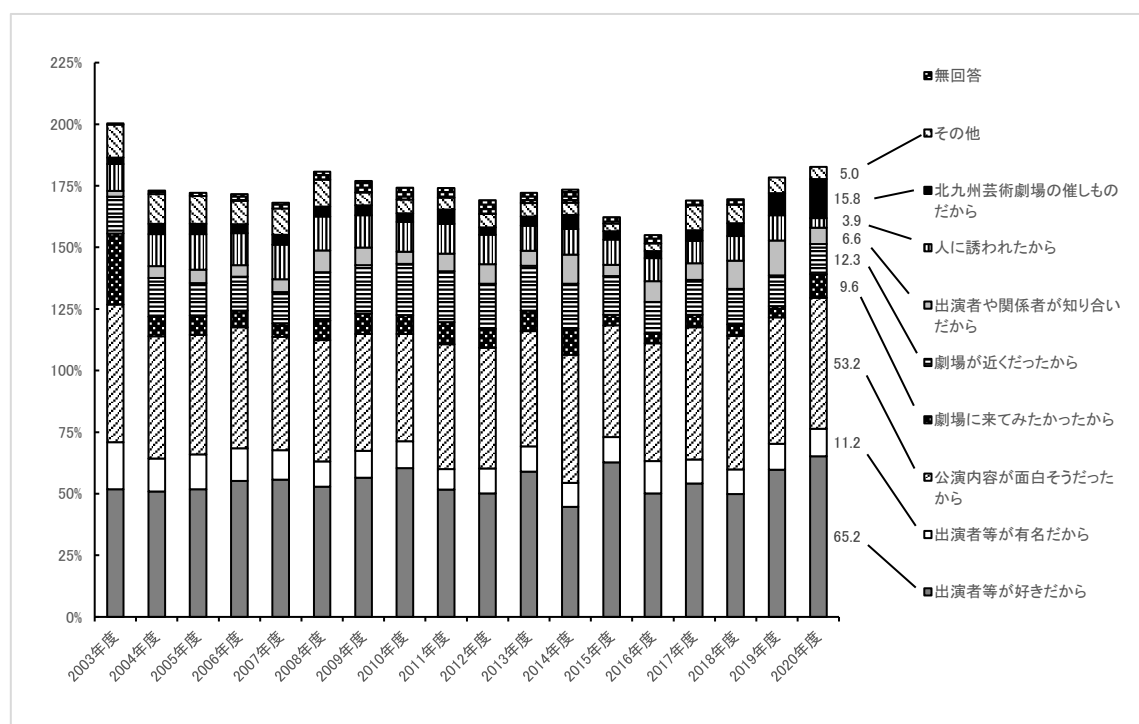
度以降は、6回以上の割合が30%から40%の間を増減している。2020年度の6回以上の割合は48.4%と過去最高となっている(図表2-5)。

- 年々劇場での鑑賞経験の多い観客が増えており、6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは年齢別では50歳代以上で、2020年度では50歳以上で6回以上の鑑賞経験者の割合は66%である。

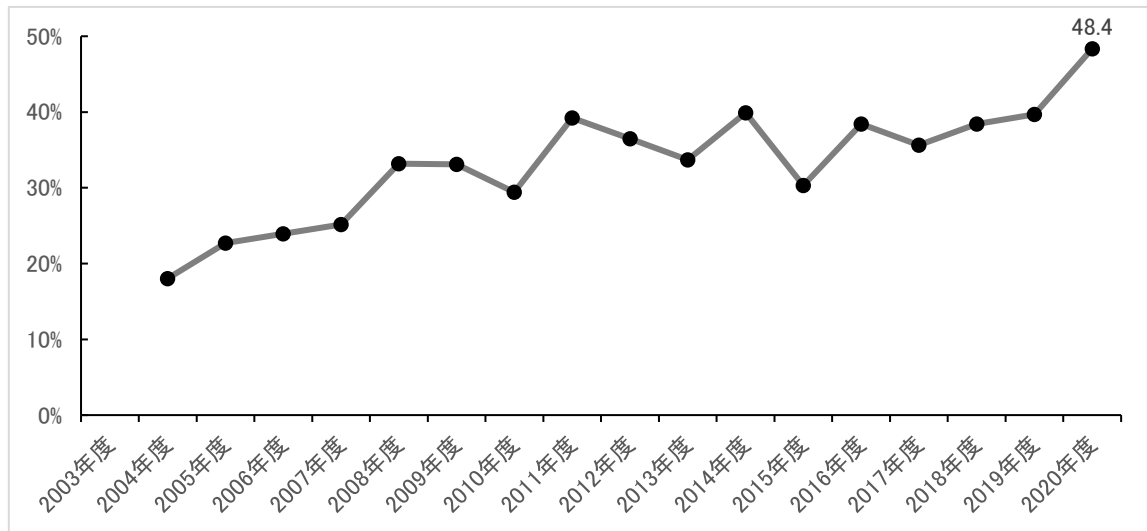
図表2-3 公演情報の入手経路



図表2-4 公演に来た理由



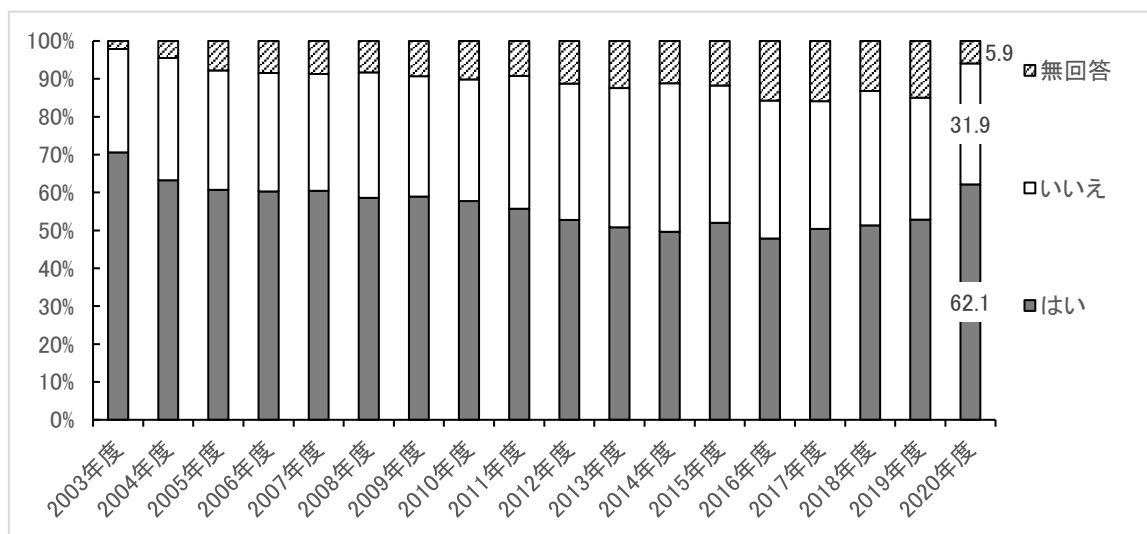
図表2-5 北九州芸術劇場での鑑賞経験(6回以上の割合)



⑤公演前後の飲食やショッピング

- 公演前後に飲食やショッピングをしている割合は62%である(図表2-6)。飲食をしている場合の平均金額は1,967.4円、ショッピングをしている場合の平均金額は2,859.5円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額は増加し、ショッピング平均額は減少している。

● 図表2-6 公演前後の飲食・ショッピング



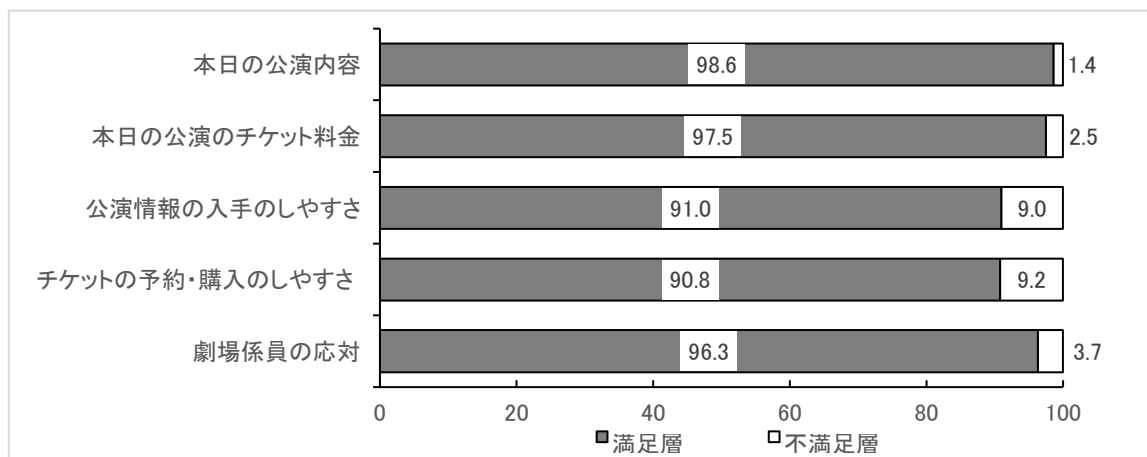
(3) 公演や劇場に対する満足度

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が95%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「劇場係員の応対」の3項目である(図表2-7)。
- 「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」、「本日の公演のチケット料金」の3項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ83%、67%、57%と高い評価となっている。
- 「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」の3項目で、年齢層が高いほど「たいへん満足」の割合が低くなる傾向にある。
- 過去調査結果の満足層の推移を見ると、「本日の公演内容」は2003年度以降、「劇場係員

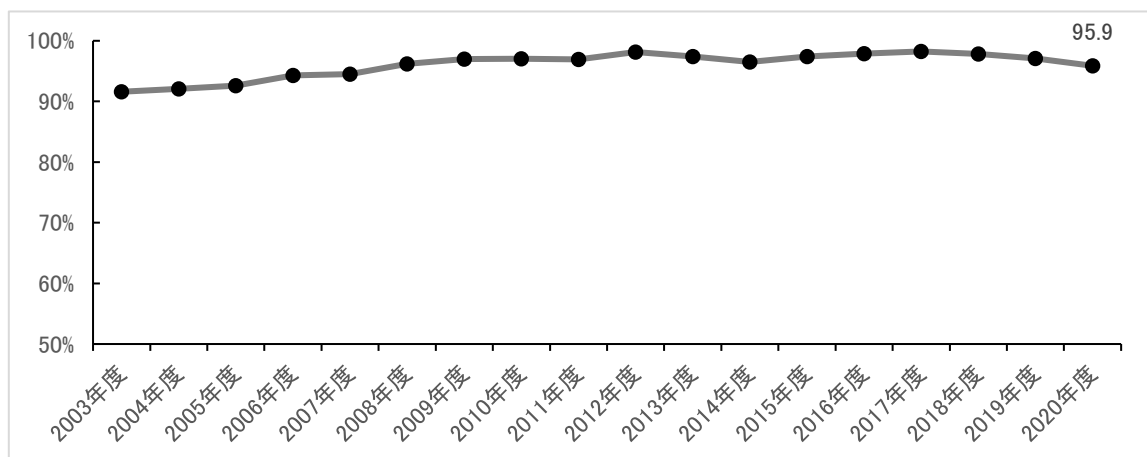
の対応」は2004年度以降は安定して高い評価を得ており、それ以外の項目でも、おおむね増加傾向となっている。

- 「公演内容」については、2003年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も2005年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも関わっていると考えられる。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、増減しながらも満足度は向上し、2015年度の満足層の割合が前年度に比べて減少したが2016年度に再び向上した。
- 「劇場係員の対応」は開館当初から、満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった2011年度に90%まで伸び、2015年度は前年度から減少したが、2016年度は再び向上した。
- 2020年度の劇場に対する総合的な意見（満足度）については、満足層が96%（「たいへん満足」＋「まあ満足」の割合。無回答は除く）である。過去調査結果の満足層の推移を見ると、満足層の割合は12年度の98%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、2017年度は2012年度と同率で過去最高の割合となっている（図表2-8）

図表2-7 公演や劇場に対する満足層と不満足層の割合（無回答を除く）



図表2-8 総合的な満足度



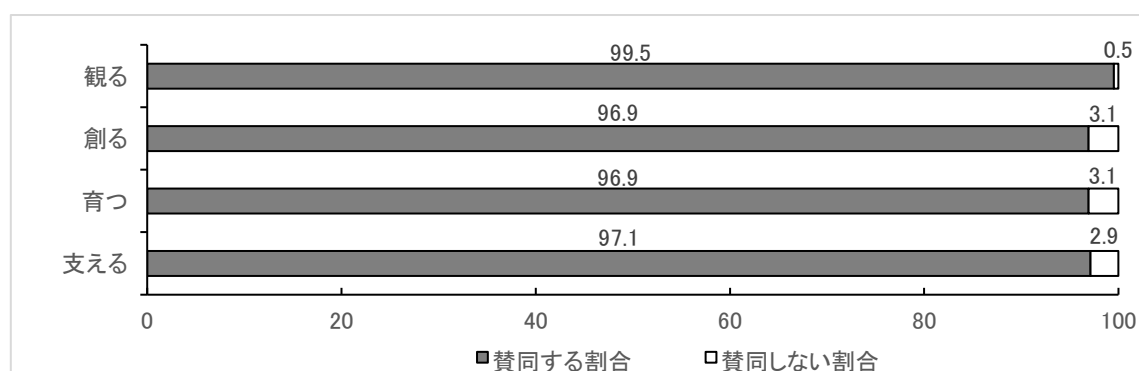
(4) 劇場の運営方針について

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)については、いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は100%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も81%と高い割合を占める(図表2-10)。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わり、16年度からアンケート調査に含めている。

- 「創る」、「育つ」、「支える」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」がいずれも過半の割合を占めている。
- 「創る」は「18歳未満」で「ぜひやってほしい」が80%、「育つ」は「18～29歳」で「ぜひやってほしい」が75%と高い割合となっている。

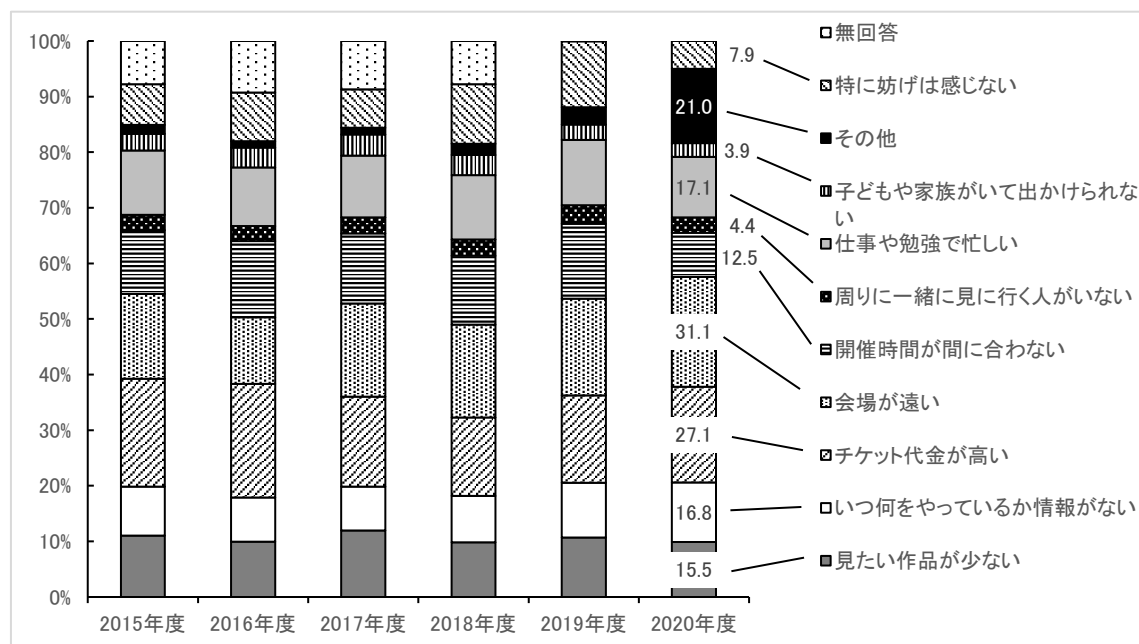
図表2-9 運営方針への賛同する割合と賛同しない割合



(5) 来場の妨げになっていること

- 来場の妨げになっていることは、「会場が遠い」(31%)、「チケット代金が高い」(27%)、「その他」(21%)、「仕事や勉強で忙しい」(17%)、「いつ何をやっているのか情報がない」(17%)となっている(図表2-11)。「その他」の自由記述では「新型コロナウイルスの感染不安」という意見が多数となっている。

図表2-11 来場の妨げになっていること



第3章 貸館利用者からみた評価

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2020年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:85件
- 有効回答数(回収率):68件(80.0%)

2. 利用者調査の結果概要

(1)劇場の使いごちに関する総合的な満足度

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が90%、「まあ満足している」が10%である。劇場利用者の満足度は大変高い。
- 2010年度以降の経年変化でみると、2016年度から2018年度にかけて「とても満足している」が81%から84%まで向上し、2020年度は過去最高の割合となっている(図表3-1)。

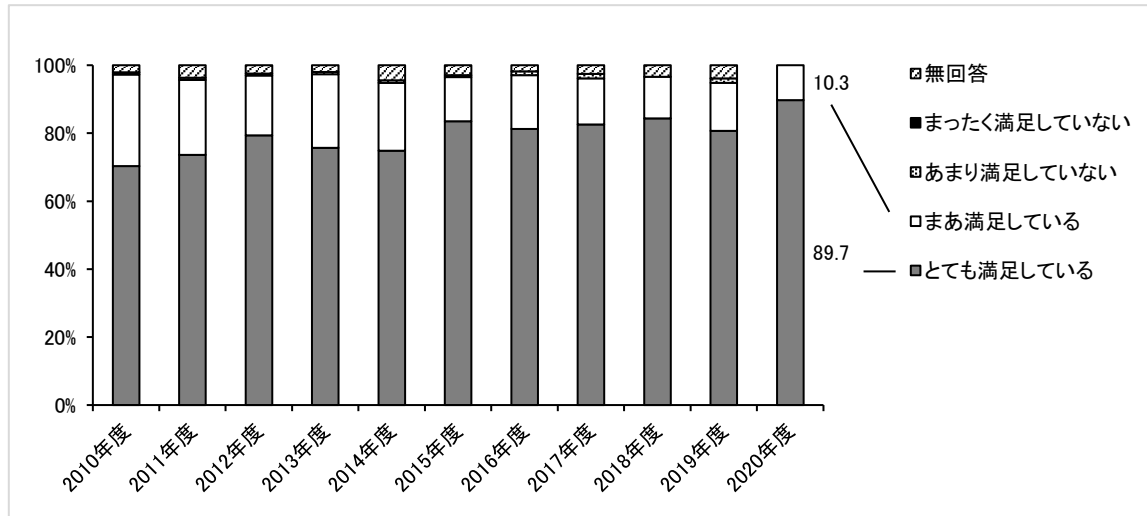
(2)施設に関する意見

- 施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「搬入・搬出がやりやすい」が99%で、それ以外の6項目はいずれも100%となっている。
- 「はい」の割合をみると、「搬入・搬出がやりやすい」以外の6項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い(図表3-2)。
- 2010年以降の経年変化を見ると、「館内が清潔」は「はい」の回答は常に高い割合(97%以上)を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、2020年度は過去11年間で最も高い割合(88%)となっている。
※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。
- 2020年度は「館内が清潔」以外の6項目で過去最高の割合となっている中で、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がい」、「舞台設備・機器が充実している」は100%が「はい」と回答している。

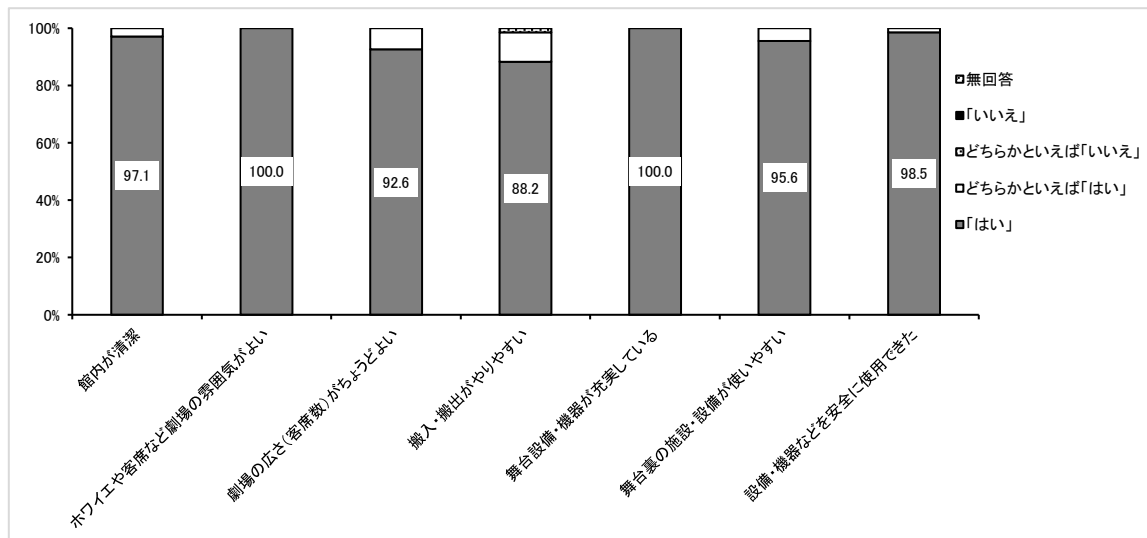
(3)運営や応対に関する意見

- 劇場の運営や応対に関する11項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、すべての項目で95%以上となっている(図表3-3)。
- 経年変化を見ると、「事務スタッフの応対がい」、「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの応対がい」は、「はい」の回答が2010年以降90%を超えており、常に高い割合を維持している。
- 2020年度は「技術スタッフの応対がい」、「苦情や要望への対応等が適切」、「現在の開館時間は適当」の3項目で過去最高の割合となっている。

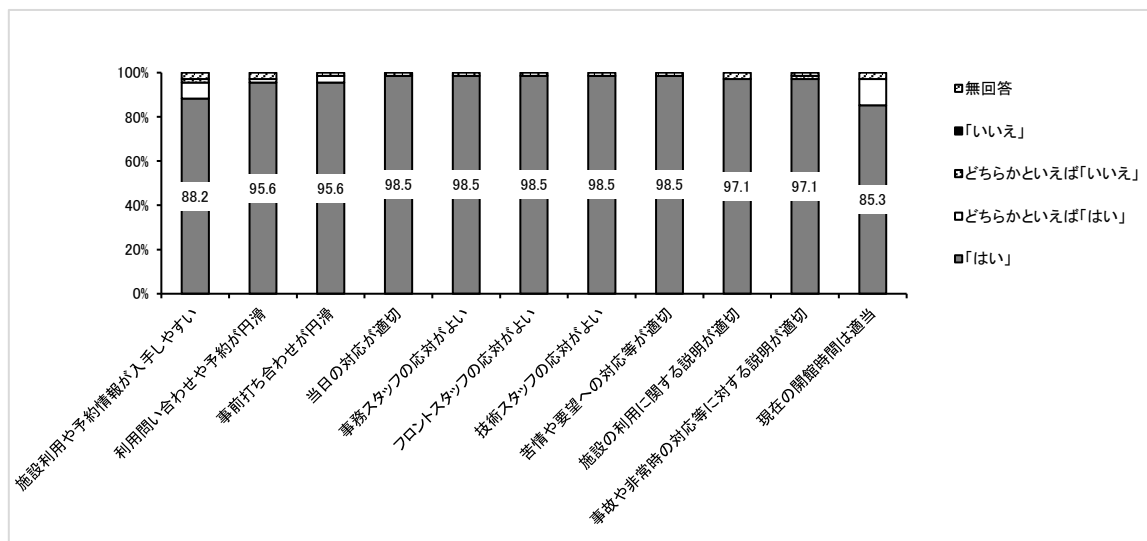
図表3-1 使いごちに関する総合的な意見



図表3-2 施設(ハード)に関する意見



図表3-3 運営や応対(ソフト)に関する意見



(4) 今後の利用の意向

- 今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が97%、「どちらかといえば『はい』」が2%となっており、今後の利用の意向のある回答（「はい」＋「どちらかといえば『はい』」）は99%となっている。
- 2010年度以降の経年変化でみると、2015年度の92%から2018年度の97%まで「はい」の回答が向上したが、2019年度にやや減少し、2020年度は2019年度に比べて増加している（図表3-4）。今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

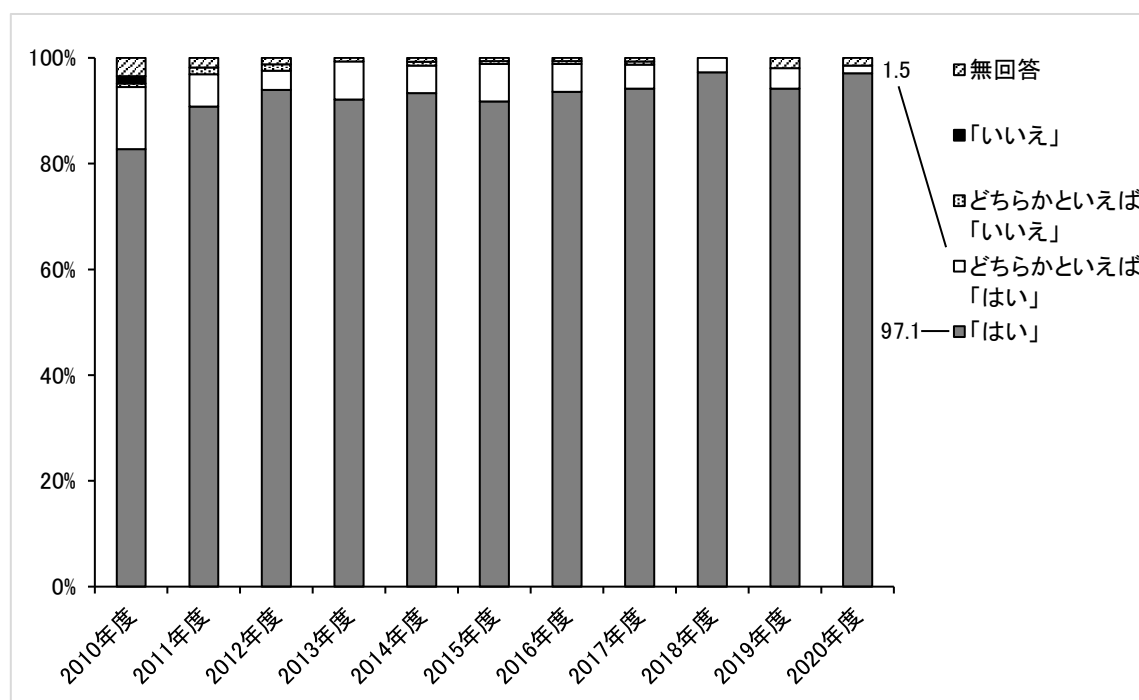
(5) 利用の際、重視すること

- 施設を利用する際重視することとして回答が多いのは、「立地がよいこと」（93%）、「ホールの規模が適切」（81%）となっている。次いで、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「舞台設備・機器が充実」、「利用料金が安い」、「技術スタッフの専門性が高い」が50%以上となっている。「立地がよいこと」は、2010年度以降で最も高い割合となっている。
- 施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」と「ホールの規模が適切」が同率（31%）で最も多く、次いで「分野に適したホール特性」（24%）と続いている。2番目に重視することは、「立地が良いこと」（28%）が最も多く、次いで「分野に適したホール特性」（22%）となっている（図表3-5）。

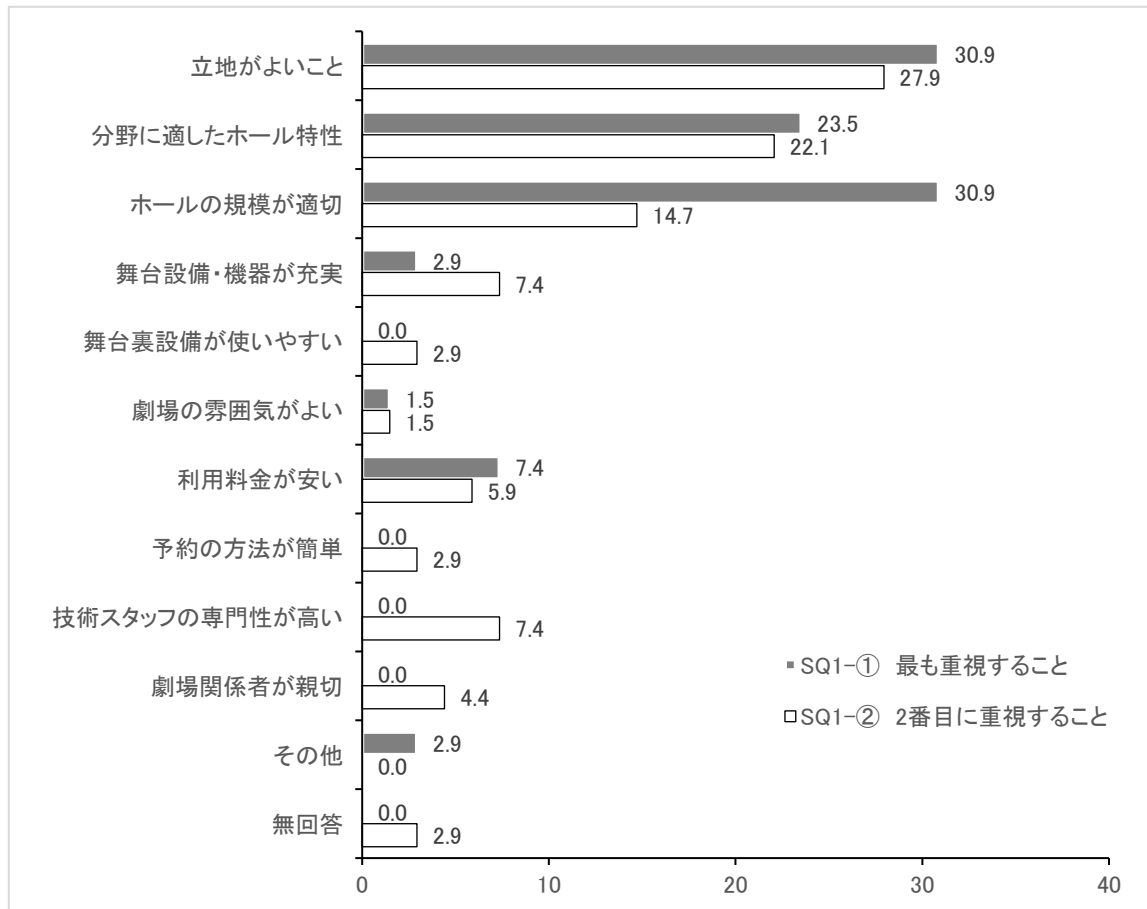
(6) 利用のきっかけ

- 劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、68%を占めている。劇場への満足度が高くリピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「劇場のHP、情報誌を見て」（15%）、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」（13%）となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっている（図表3-6）。

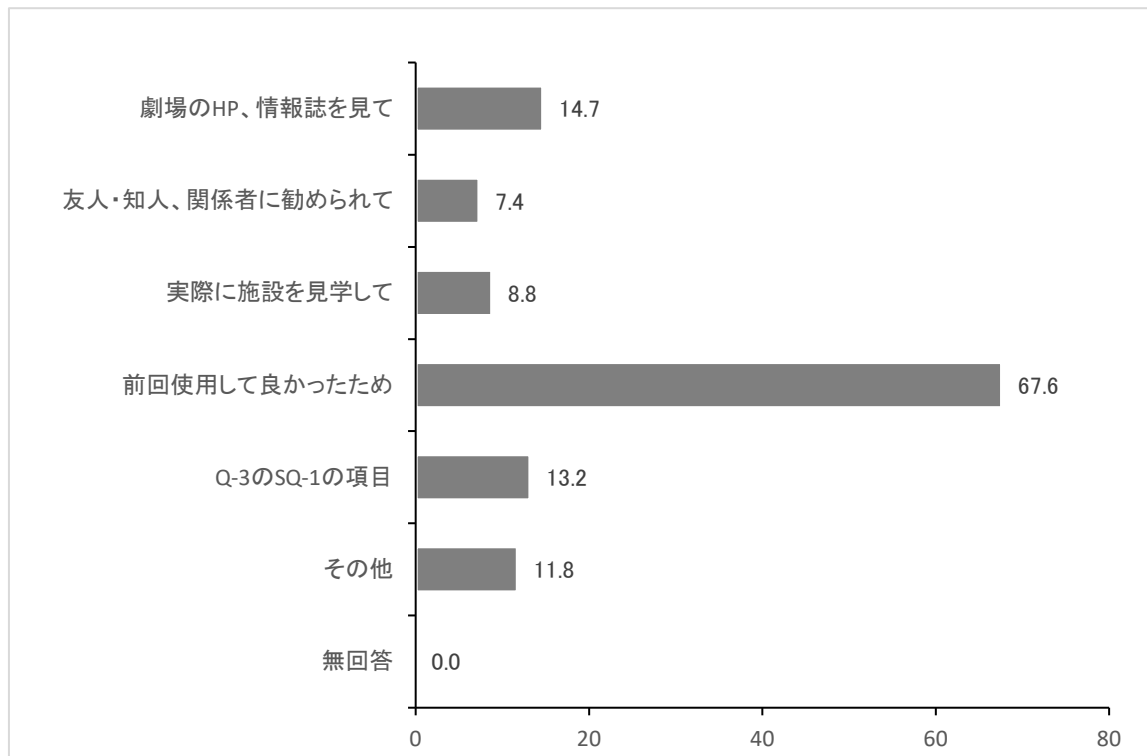
図表3-4 今後の利用の意向



図表3-5 利用の際、重視すること(最も重視すること／2番目に重視すること)



図表3-6 利用のきっかけ



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

2020年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出（最終需要）は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる（図表4-1）。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億1,100万円、1億1,400万円、4,700万円、合計で7億7,300万円となっている。そのうち、78%にあたる約6億300万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が8億1,500万円、②が1億7,900万円、③が7,000万円、合計で10億6,400万円である。そのうち、73%にあたる7億7,800万円が北九州市内で

の経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.38、北九州市内で1.29である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、約2億100万円～2億2,300万円、生産誘発係数は1.29である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約12億6,500万円～12億8,700万円、生産誘発係数は1.36、北九州市内に限ってみると、約9億7,800万円～10億円で生産誘発係数は1.29となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では119～123人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で108～109人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果

	最終需要	経済波及効果	誘発係数
①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億1,100万円 (5億4,000万円)	8億1,500万円 (6億9,600万円)	1.33 (1.29)
②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	1億1,400万円 (3,600万円)	1億7,900万円 (4,700万円)	1.56 (1.30)
③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	4,700万円 (2,700万円)	7,000万円 (3,500万円)	1.49 (1.29)
小計	7億7,300万円 (6億300万円)	10億6,400万円 (7億7,800万円)	1.38 (1.29)
④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	3,400万円 ～5,100万円	4,400万円 ～6,600万円	1.28
⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億2,100万円	1億5,700万円	1.30
小計(参考値)	1億5,500万円 ～1億7,200万円	2億100万円 ～2億2,300万円	1.29
合計(参考値)	9億2,800万円 ～9億4,500万円 (7億5,800万円 ～7億7,500万円)	12億6,500万円 ～12億8,700万円 (9億7,800万円 ～10億円)	1.36 (1.29)
		雇用効果	
		(北九州市内)	119～123人(就業者ベース) 108～109人(雇用者ベース)

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

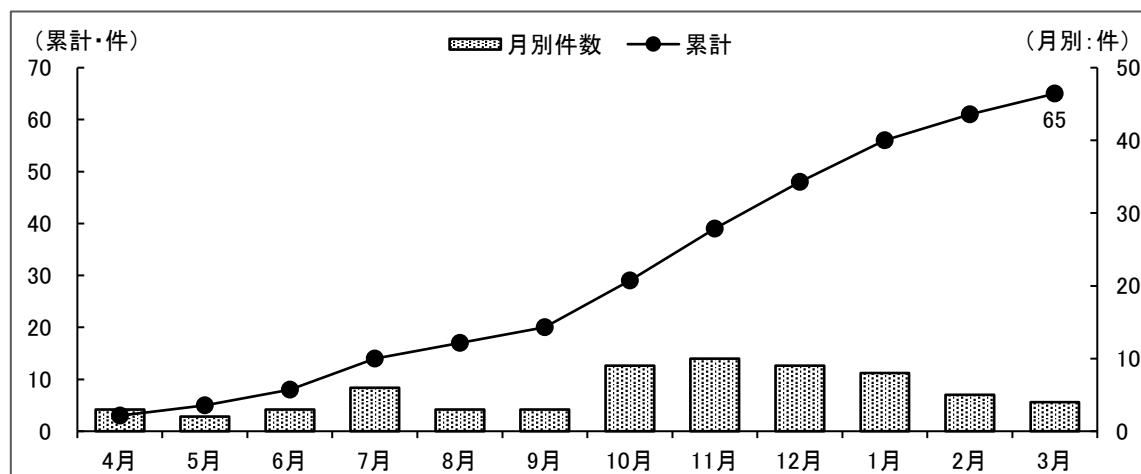
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2003年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、2020年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

(1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした2020年度の掲載記事の件数と内容

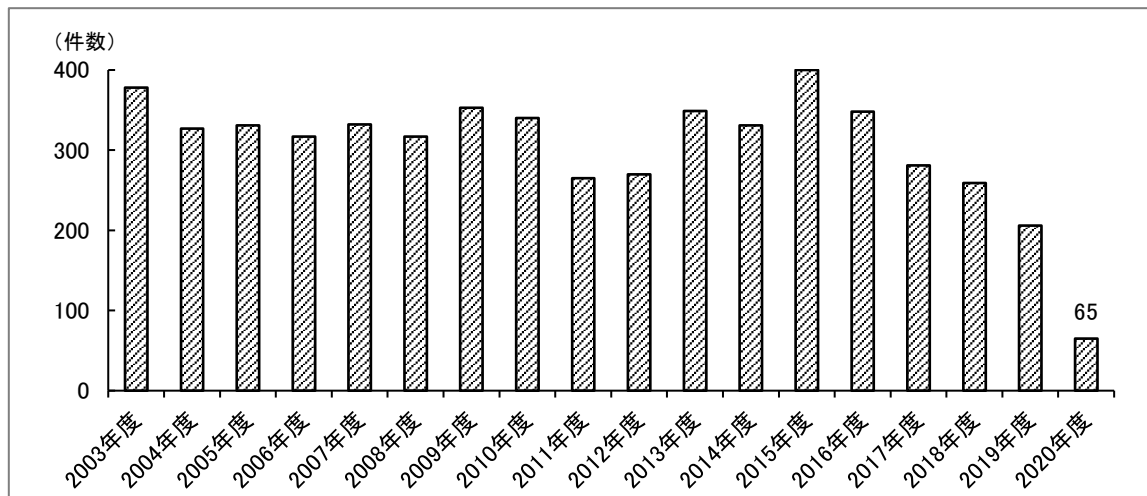
- 2020年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は65件である(図表4-2)。
- 2003年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。2004年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。2011年度に過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられる。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、掲載件数は開館以降で最も少ない件数となっている(図表4-3)。
- 新聞別に見ると、2020年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(30件)、次いで、毎日新聞(15件)、読売新聞(7件)、朝日新聞(6件)、その他の新聞は7件となっている(図表4-4)。
- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベント情報(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、47件であった(2019年度:132件)。
- その内容を「主催/提携・協力事業」「学芸事業」「貸館事業」「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、18件、2件、13件、14件であった(図表4-5)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計

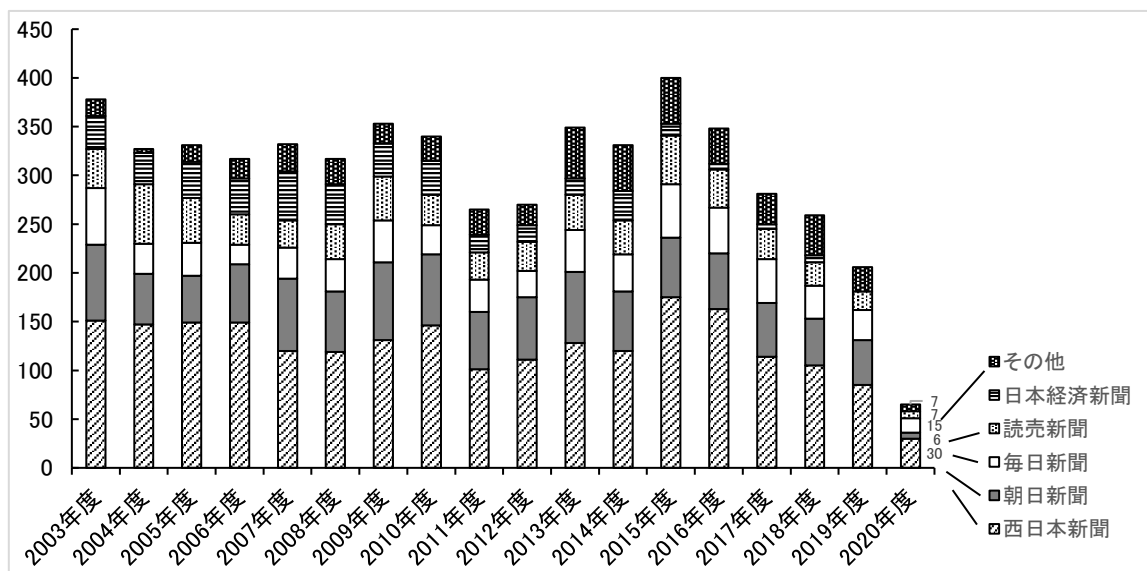


資料)「日経テレコン」記事検索の結果より作成(図表4-3、4-4も同様)

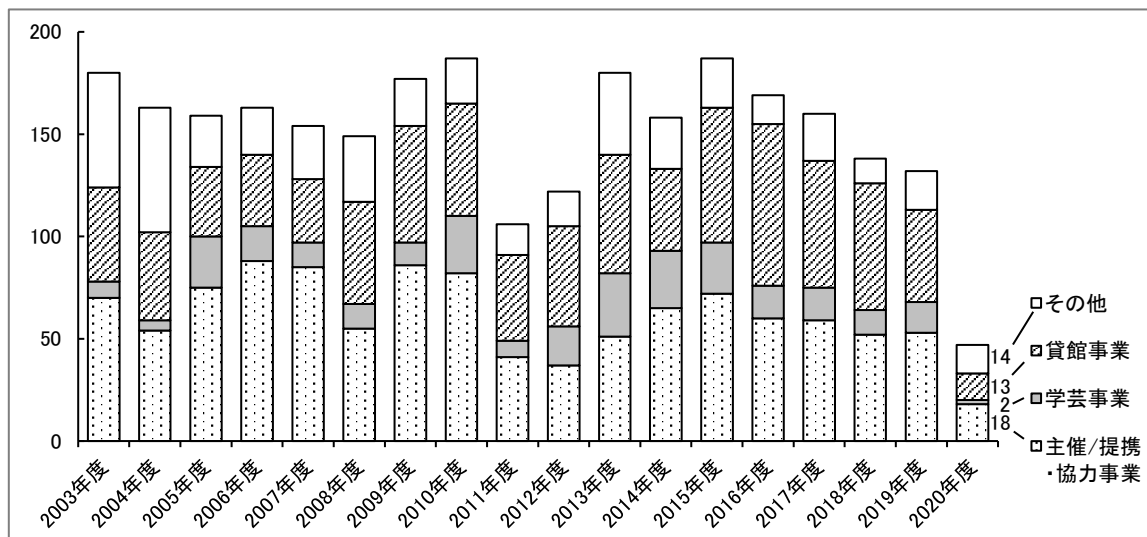
図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数



図表4-4 新聞別件数



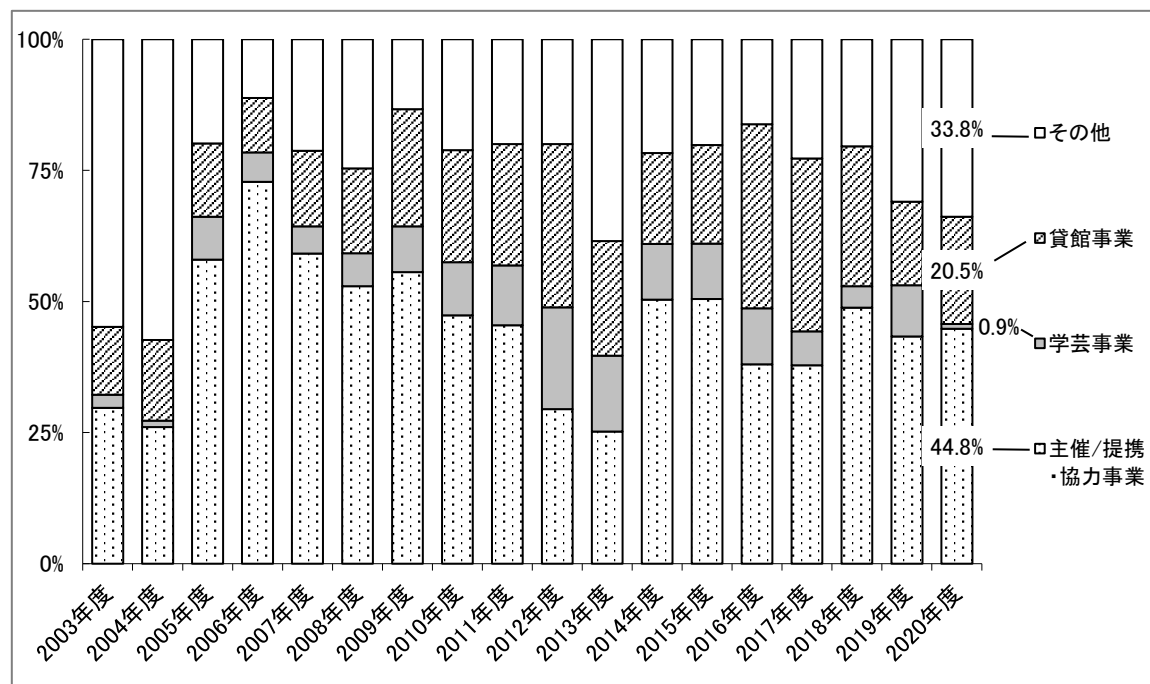
図表4-5 新聞掲載記事の内容と件数



(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら47件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約6,000万円という結果となっている(2019年度:約1億4,500万円)。
- 2003年度は開館、2004年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 2005年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、2006年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、2005年度と2006年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 2007年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。2020年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,000万円であり、開館以降で初めて劇場事業のパブリシティ効果が補助金の規模を下回る結果となった。
- 事業ごとの掲載割合を金額換算ベースで見た場合、2009年度の時点で過半数の割合だった主催/提携・協力事業の割合が年々減少し、学芸事業、貸館事業、その他事業の割合が年々増加してきたが、2014年度は主催/提携・協力事業の割合が2013年度に比べて大幅に増加した(図表4-6)。

図表4-6 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース]



※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

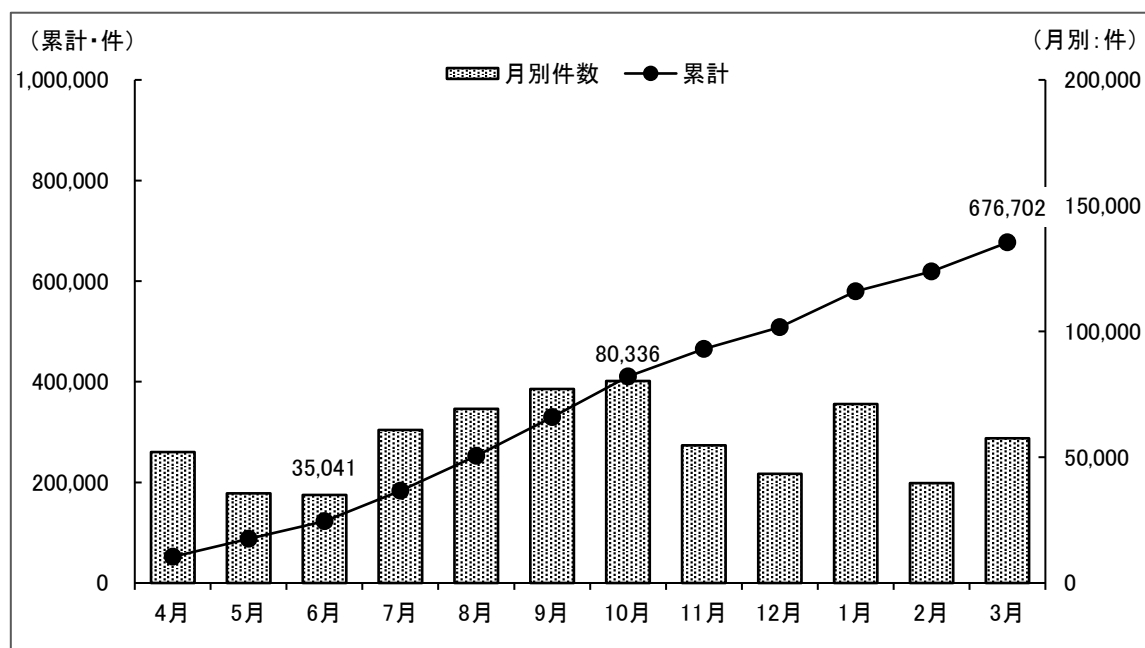
(3) ホームページ、SNS によるパブリシティ効果

- 新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果に加えて、2019年度からはホームページやSNSによるパブリシティ効果についても測定を行うこととした。
- 2020年度の北九州芸術劇場のホームページへのアクセス件数は累計で676,702件となっている。10月のアクセス件数が80,336件で最も多く、6月が35,041件で最も少なくなっている(図表4-7)。月平均では56,392件となっている。
- 2008年度以降の北九州芸術劇場のホームページのアクセス件数の推移を見ると、2012年

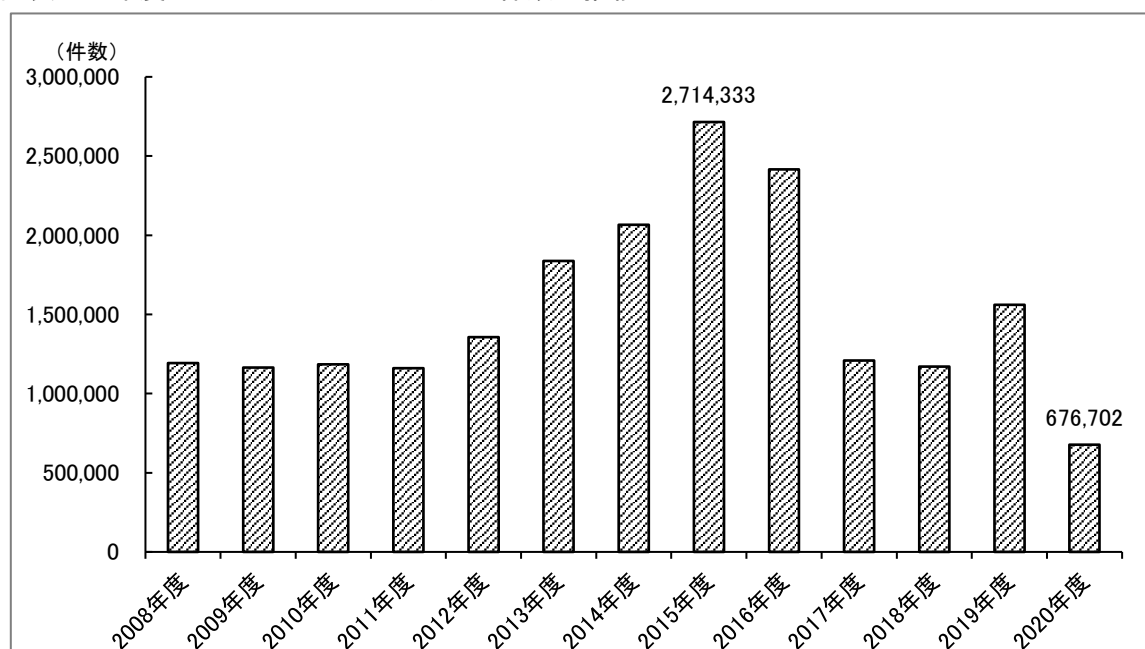
度から2015年度にかけてアクセスが増加し、最も多いアクセス件数があったのは2015年度の2,714,333件で月平均では約22万6千件のアクセスがあった。2017年度には前年度に比べてアクセス件数が1,208,504件に大幅に減少したものの、2019年度は1,560,639件まで増加している。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、アクセス件数、月平均件数ともに過去最少となっている。(図表4-8)。

- 2021年3月31日現在のTwitterのフォロワー数は7,105人で、2020年度の北九州芸術劇場のTwitterのインプレッション数(投稿が他のTwitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数)は累計で5,980,842件となっている。10月のインプレッション数が991,256件で最も多く、4月が284,290件で最も少なくなっている(図表4-9)。月平均では498,404件となっている。

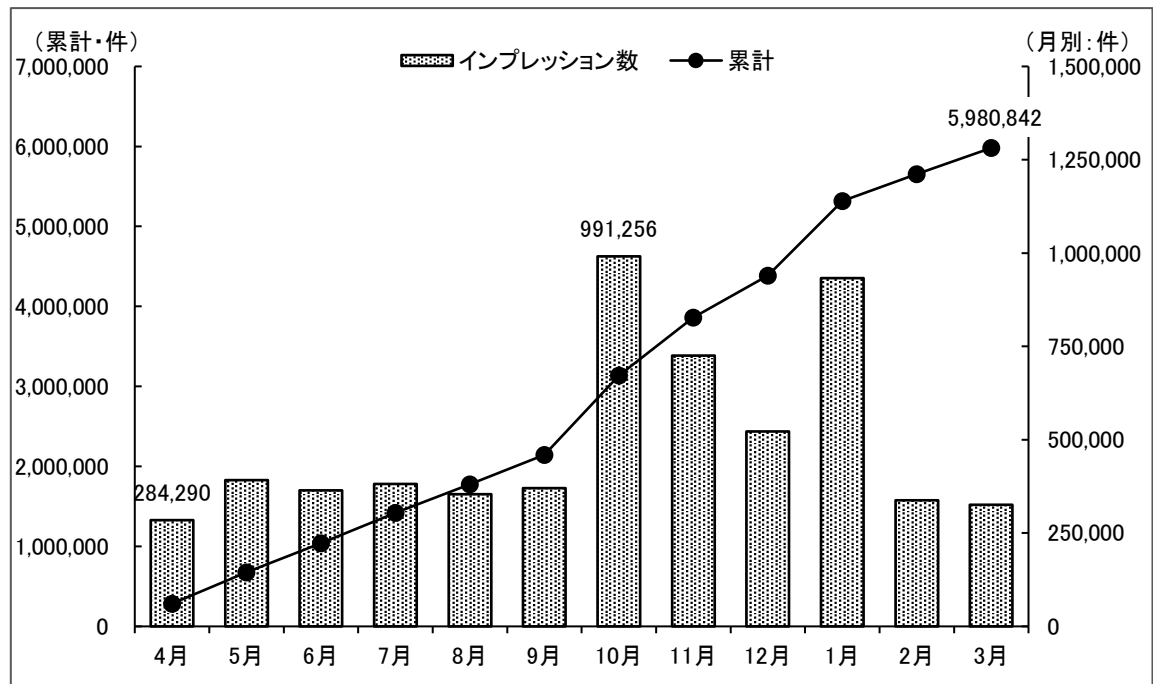
図表4-7 ホームページの月ごとのアクセス件数と累計



図表4-8 年度ごとのホームページアクセス件数の推移



図表4-9 Twitter の月ごとのインプレッション数と累計



第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から2020年度までの18ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。2007年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、2008年度に、(一財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表5-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業
		A-2	創造系事業
		A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
		A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
		A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
		A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ&マーケティング
		C-3	経営努力

- 2020年度は、上記図表5-1の基本フレームに基づいて、2003年度から2020年度の18ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」「支える」

①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。開館10周年の節目を経過し、新たな一歩を踏み出すため、4つめのキーワードとして、2014年度から「支える」が加わった。
- 2014年度から、4つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業、市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を展開し、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 2010年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。
- 2016年度に実施したグループインタビューでは「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」をテーマに設定したところ、教育や福祉といった分野の団体は、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果であるという見方が多く、地域経済の担い手である企業は、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率※は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の2003年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、2005年度以降、毎年27～28万人で推移し、2018年度と2019年度は約26万人となり、2020年度は新型コロナウイルスの影響により、約6万9千人と開館以降で最も少ない利用者数となった。この18年間で利用者数は延べ477万人を超えた。2020年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約93万であり、すでに人口の5倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇場を地域になくしてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 「観る」

「観る」: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 2020年度も、「観る」(鑑賞事業)では、中劇場を中心として小劇場系現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 2020年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために中止となった事業が多く、公演事業については、8事業で12回の公演が行われた。入場者数は3,762人、多くの公演事業が収容率を制限した設定席数となっている中で、公演事業全体の入場率は78%となっている。
- 2020年度の創造事業、提携・協力事業も含めた鑑賞系事業全体では、15事業、公演回数は46回。入場者数は6,674人、入場率は78%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演（主催／提携・協力事業）に対する観客の満足度をみると、開館年度（2003年度）から継続して「（本日の）公演内容」への満足度の高さが顕著である。2020年度も満足層の割合※は99%で、無回答を除いた「たいへん満足」の割合が83%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「（本日の）公演のチケット料金」も満足層の割合は98%であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 2009年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 2009年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 「創る」

「創る」：北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 2020年度も、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- 入場率では、「北九州芸術劇場＋市民共同創作リーディング『Re:北九州の記憶』～番外編～」で96%となっている。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。

②年間延べ観客数

- 2020年度、「創る」では、3事業で24回の公演・ワークショップが行われ、入場者は474人、入場率は平均で77%となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 2010年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄

せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。

- 2009年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

〔育つ〕:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワークづくり等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。2020年度は、「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」として、演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて行う「アウトリーチ」など、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 「高校生〔的〕シアター」や「北九州芸術劇場こどもプロジェクト あそびのじかん」など、将来を担う子どもたちを対象にした人材育成・教育普及事業に継続的に取り組んでいる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 2020年度の主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は50回、参加延人数は489人。

③講座・ワークショップ参加者の満足度

- 2015年度に実施したワークショップ参加者を対象としたアンケート調査によると、講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高く、参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度は94%(うち「たいへん満足」は64%)となっている。
- 「たいへん満足」の割合の高い項目は、劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)となっている。

④参加者が事業から得たもの(事業の効果)

- 2015年度に実施したワークショップ参加者を対象としたグループインタビュー調査によると、ワークショップに参加したことが、表現の技術や活動をさらに向上させたり、活動の展開を広げたりするきっかけや意欲を持つことにつながっている。
- さらに、自分自身の価値観や生き方が大きく変わったり、参加者相互が家族のようにつながったりするような、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。

A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 2017年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園!？」等を行った。
- 2018年度に実施した「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」での市内の小中学校のほか、「ひとまち+アーツ協働事業」での高齢者福祉施設でのアウトリーチなど、教育・福祉関係

での活動に2020年度も引き続き取り組んだ。

②学校等と連携したプログラム数と参加人数

2020年度の学校、福祉施設等と連携したアウトリーチなどの回数は16回、参加延人数は362人となっている。

- 2016年度に実施したグループインタビューで、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。

A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、2020年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2020」、「ダンスダイブ〜ワークショップ編」、「Re:北九州の記憶」の3事業が実施されたが、新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために一部の事業はオンラインでの実施に切り替えられた。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」は2004年度から継続実施されている事業で、開始から2019年度までの16年間で延べ1,300人以上の市民の参加があった。
- 2010年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「事務スタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」については、「はい」という積極的な肯定が95%以上と高い評価となっている。
- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」(85%)の回答が少ないが、関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」を見ると、満足層の割合※は100%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、2009年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)。

A-6 地域への貢献①(地域経済への波及効果など)

① 地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、2007年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、2020年度は40%となっている。

②公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、2020年度の飲食またはショッピングをした人の割合は62%。
- 飲食をしている割合は55%で平均金額は1,967円、ショッピングをしている割合は49%で平

※ 「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

均金額は2,860円となっている。

③経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた2020年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.1億円、主催事業が約1.1億円、主催事業の観客の消費支出が約0.5億円となっている。
- それらの経済波及効果は、約10.6億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約1.6～1.7億円、経済波及効果が約2.0～2.2億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業（観客消費支出含む）で1.38、貸館を含めると1.36となっている。試算を始めた2004年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで119～123人、雇用者ベースで108～109人という結果となっている。

A-7 地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)

①シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、2010年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。
- 2016年度に実施したグループインタビューで、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。

②パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する2020年度の記事掲載件数(記事性が高いもの)は47件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、2020年度は約6,000万円となる。
- 2020年度では「新型コロナウイルス」による劇場の事業や運営に対する影響に関する記事が多い。
- 2020年度の北九州芸術劇場のホームページへのアクセス件数は累計で676,702件となっている。
- 2020年3月31日現在のTwitterのフォロワー数は7,105人で、2020年度の北九州芸術劇場のTwitterのインプレッション数(投稿が他のTwitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数)は累計で5,980,842件となっている。
- 2020年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,000万円であり、開館以降で初めて劇場事業のパブリシティ効果が補助金の規模を下回る結果となった。

A-8 広域施設としての役割発揮

①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 2009年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の

専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。

- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。
- 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

②当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。
- 今後の北九州芸術劇場あるいは(公財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援(貸館)[支える]

①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、2014年度から「支える」として地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

②貸館事業における入場者数

- 2020年度の貸館の公演・講演事業数は75事業。計142回の公演・講演が実施され、入場者数は36,984人となっている。

③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度[※]は100%で、利用者の全員が満足している。また、今後の利用意向[※]も99%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度[※]は、すべて95%以上と非常に高く、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 2005年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 観客アンケート調査で開館年度(2003年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手の

※ 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。

しやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続いてきたが、2020年度は91%で開館以降最も高い割合となっている。

②ホスピタリティに関する満足度

- 利用者調査で2003年度に満足度が97%であった「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がい」は、2018年度に90%まで低下したものの、2020年度は100%と開館以降最も高い割合となっている。

③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度

- 2003年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、継続して高い満足度を保っており、2020年度も96%と満足層の割合は非常に高い。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、2003年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、2004年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した2011年度以降およそ90%の満足度を維持したが、2015年度に79%と10ポイント減少し、2016年度に91%に持ち直している。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、2007年度に80%に達し、2018年度は87%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器が充実している」については「はい」への回答が100%、「設備・機器などを安全に使用できた」、「館内が清潔」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」については、「はい」への回答が95%以上と大変高い評価となっている。また、2005年度(利用者調査開始年度)以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが38%、中劇場が40%、小劇場が43%である。新型コロナウイルスの影響により、開館以降で最も少ない稼働率となっている。
- 開館年の2003年度を除き、3つのホールの稼働率は約70~80%で推移しており、2016年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2014年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準にある。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の2020年度の事業費は約1億1,792万円。財源内訳をみると、チケット収入

が全体の6%、市の補助金が68%、文化庁と(一財)地域創造、その他助成金による外部資金が27%となっている。

- 2020年度では、新型コロナウイルスの影響により、チケット収入の割合が大幅に低く、市補助金の割合が開館以降で最も高くなっている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 2020年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約3,218万円の減収、補助金等収入は約1,640万円の減収となっている。2020年度は新型コロナウイルスの影響により多くの事業が中止となり、事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。

3. 事業評価の結果から－今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、2003年度の開館年度から図表5-2のと通りの調査を行ってきた。

図表5-2 北九州芸術劇場における実施調査

年度	継続調査	テーマ調査
2003	劇場運営基礎データの収集・分析 パブリシティ効果の把握	
2004	経済波及効果の算出	専門家による座談会（開場から1年間の劇場運営の成果について）、ワークショップ参加者を対象とした学芸調査（アンケート／グループインタビュー）
2005	貸館利用者を対象としたアンケート調査（実施：2005年度～）	市民意識調査（アンケート）
2006	↓	（舞台芸術の公演による）劇場使用者へのグループインタビュー
2007	（整理・分析：2007年度）	学校を対象とした学芸調査（アンケート）
2008		劇場スタッフへのグループインタビュー
2009		北九州芸術劇場の広域的役割と長期的ビジョンに関するグループインタビュー
2010		舞台芸術以外の分野から見た北九州芸術劇場の役割（座談会）
2011		
2012		北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化
2013		北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年
2014		舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場
2015		ワークショップ参加者を対象とした調査
2016		まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査
2017		
2018		北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証
2019		
2020	↓ ↓ ↓	

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の6点に整理した。

①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客(あるいは会員)、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域(市民センターなど)でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から10年以上経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要もある。

③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウンタビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけでなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

⑥次期北九州市文化振興計画を見据えた事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入りたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な

観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)との関係を広げていくことが2010年度の座談会でも期待されている。

また近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、2012年度のテーマ調査では、10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、短期的・中長期的な成果(アウトカム)、直接的・間接的な影響や効果(インパクト)に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

図表5-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2020年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A:劇場の設置目的

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0	[ミッション] 「創る」 「育つ」 「観る」 「支える」	①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	- 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定、2014年度から「支える」が加わった。 [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価している。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。 [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、教育や福祉の団体は、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果だという見方が多く、地域経済の担い手である企業は、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。	3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 14年度から運営方針に加わった「支える」に対しても支持率は高いが、新たな方針が加わったことによる成果の広がりが望まれる。	- 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 - 観客調査の継続。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	- 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(2003年)度から90%以上。 ○2020年度 創る:97%、育つ:97%、観る:100%、支える:97% [観客調査/2020年度] - 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/2005年度] ※支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。		
		③事業や運営に対する自己評価や振り返り、運営データの蓄積	業務の振り返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。[劇場スタッフへのグルイン/2008年度]	事業評価データ等を活用し、係を超えた振り返りの機会づくりが必要。	
		④市民の劇場の認知度や劇場への意見	- 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。 [市民調査/2005年度] - 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。 [劇場スタッフへのグルイン/2008年度]	運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。	
		⑤劇場の来場者(利用者)数	年間来場者(利用者)数は、2005年度から2009年度まで毎年27～28万人で推移。2010年度は1年間で31万人に増加した。2020年度は新型コロナウイルスの影響により、約6万9千人と開館以降で最も少ない利用者数となった。	北九州市の人口(2020年4月1日現在)は約93万人であり、すでに人口の5倍以上の利用者が来場。	
A-1	[鑑賞系事業] 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	- 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊など幅広いラインナップの公演事業を実施。 - 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳以下:19%、30歳代:15%、40歳代:26%、50歳代:24%、60歳以上:17% 平均年齢:44歳。[観客調査/2020年度] ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:20%、1～2回:9%、3～5回:17%、6回以上:48% - 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客は、2013年度が過去最高の割合(44%)。 ○2006年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%⇒18:38%⇒19:37%⇒20:40%	小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	2020年度の公演事業は8事業、公演回数は12回、入場者数は3,762人である。入場率は78%。 - 創造事業、提携・協力事業も含めた鑑賞系事業全体では、15事業、公演回数は46回、入場者数は6,674人である。入場率は78%。	公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。	
		③公演に対する観客の満足度	- 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は99%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 - 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 2003年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98%⇒13:97%⇒14:97%⇒15:98%⇒16:98%⇒17:98%⇒18:99%⇒19:98%⇒20:98% ○公演のチケット料金 2003年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94%⇒13:93%⇒14:94%⇒15:92%⇒16:94%⇒17:95%⇒18:95%⇒19:95%⇒20:98%[観客調査/2020年度] 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/2010年度]	公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。	
		④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	- 公演事業での劇場利用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/2006年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度]でも、魅力的なものと呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 [全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。	- 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。中長期的な市内と市域外との集客バランスの検討。 - 観客調査のアンケートにおける無回答の割合が増加している。	

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-2	[創造系事業] 「創る」 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます	①ミッションに基づいた創造系事業の実施	● 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 ● 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 ● 2004年度から2019年度までの16年間で延べ1,300人以上の市民の参加があった合唱物語「わたしの青い鳥2020」(劇場公式YouTubeでのライブ動画配信・公演とワークショップは中止)を行った。	● 高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 ● 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● 九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 ● 今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 ● 美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。	● 観客調査の継続。 ● 創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	● 2020年度は、3事業で24回の公演・ワークショップが行われ、入場者は474人。入場率では平均で77%。 ● 「Re: 北九州の記憶」のリーディング公演が96%となっている一方で、「詩、踊る」の公演が68%となっている。		
		③創造系事業の公演に対する観客の満足度	● 鑑賞系事業③を参照		
		④創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果	● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/2006年度] ● [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 ● [専門家との座談会/2010年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 ● [全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。		
A-3	「育つ」 アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワークづくり等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域とともに育っていく劇場を目指します [普及系事業①] 主に劇場内で実施するワークショップや講座など	①ミッションに基づいた普及系事業の実施	● 普及系事業を継続的に実施。2020年度も、「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」として、演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて行う「アウトリーチ」などの多様なプログラムを実施。	● 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● ワorkshopや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生まれている。 ● 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 ● 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。	● 事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 ● 長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。
		②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数	● 2020年度は、主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は66回、参加延人数は851人。 ● 「北九州芸術劇場こどもプロジェクト あそびのじかん」や「ひとまち＋アーツ協働事業(YELL)」など、地域と劇場との関係を積極的に開拓するような企画内容が多く見られる。		
		③講座・ワークショップ参加者の満足度	● 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/2015年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:94%、うち「たいへん満足」:64% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)		
		④参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ	● 講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。[学芸調査・アンケート/2015年度] 「人間関係に広がりが生まれた」(70%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(53%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(53%)、「舞台づくりや劇場について新たな発見があった」(52%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(46%)など。 ● グループインタビューでも、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。[学芸調査・グルイン/2015年度]		
A-4	[普及系事業②] アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など	①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容	● 2017年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園!？」等を行った。 ● 「キタQ アーティスト ふれあいプログラム」での市内の小学校のほか、「ひとまち＋アーツ協働事業」での就労支援を必要とする若者を対象のアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に2020年度も引き続き取り組んだ。		
		②学校等と連携したプログラム数と参加者数	● 学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/2007年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。 ● 2020年度の学校、福祉施設等と連携したアウトリーチなどの回数は16回、参加人数は362人となっている。 ● [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/2016年度]では、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-5	[市民文化活動支援] 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など	①ミッションに基づいた市民活動支援の実施	- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。 2020年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2020」、「ダンスダイブ〜ワークショップ編」、「Re:北九州の記憶」の3事業でワークショップやアウトリーチなどが実施されたが、新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために一部の事業はオンラインでの実施に切り替えられた。 - 合唱物語「わたしの青い鳥」は2004年度から継続実施されている事業で、開始から2019年度までの16年間で延べ1,300人以上の市民の参加があった。 [専門家との座談会/2010年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。	- 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 - 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。	- 貸館調査の継続。 - 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 - 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)	- 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについて、「事務スタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」は、「はい」という積極的な肯定が95%以上と高い評価となっている。 - 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」も99%の高い満足度。[貸館調査/2020年度]		
A-6	[地域への貢献①] 地域経済への波及効果など	①地域外からの来場者割合	2006年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、2020年度は40%となっている。 ○地域外からの来場者割合 2006年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%⇒18:38%⇒19:37%⇒20:40%[観客調査/2020年度]	- 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 - 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 - 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。	- 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 - 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 - 所得増、雇用増、税収増の試算。 - 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 - 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②公演鑑賞に伴う消費行動	- 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、2020年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は62%。 - 飲食をしている場合の平均金額は1,967円、ショッピングの場合は2,860円。[観客調査/2020年度]		
		③経済波及効果	2020年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の管理運営:約6.1億円、主催事業:約1.1億円、主催事業の観客の消費支出:約0.5億円 (参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約1.6〜1.7億円 ※試算 ○経済波及効果 約10.6億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約2.0〜2.2億円 ※試算 - 経済波及効果の誘発係数は、 ○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出:1.38 ○貸館を含めた消費支出:1.36 2004年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45〜1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしている。 - 雇用効果は、就業者ベースで119〜123人、雇用者ベースで108〜109人。		
A-7	[地域への貢献②] 地域アピール、ブランド力のアップなど	①シビックプライドの醸成	- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、2010年度の座談会出席者の共通認識であった。 - その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/2010年度] [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/2016年度]では、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。	- 毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がりを評価。 2020年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,000万円であり、開館以降で初めて劇場事業のパブリシティ効果が補助金の規模を下回る結果となった。 - 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 - 北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。	- より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。
		②パブリシティ効果	- 北九州芸術劇場や劇場事業に関する2020年度の記事掲載件数(記事性が高いもの)は47件。 47件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、2020年度は約6,000万円(2019年度:約1億4,500万円)。 2020年度では「新型コロナウイルス」による劇場の事業や運営に対する影響に関する記事が多い。		
		③劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合	- 市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 - 劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 - 一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/2005年度] - 劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのかが、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/2008年度]		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-8	〔広域施設としての役割発揮〕 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします ＊「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定	①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携	● 舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 ● 「シアターラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。〔九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度〕 ● 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。〔舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/2014年度〕	● 今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 ● 「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 ● 国や他の地方自治体（とくに九州圏域の県や市）との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。	● 広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興	● 北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。〔九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度〕 ● 国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ヴィジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。〔全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度〕 ● 2003年に開館して以来、「創る」、「観る」、「育つ」という事業の考え方と、事業評価を行うことの二点において、北九州芸術劇場が公共劇場のスタンダードを形成してきたと言える。〔北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年/2013年度〕 ● （公社）日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。〔舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/2014年度〕		

B:管理運営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2020年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	「支える」 [場の提供・支援(貸館事業)]	①ミッションに基づいた貸館事業の実施	貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。	- 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100%近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 - 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	- 貸館調査の継続。 - 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②貸館における入場者数	2020年度の貸館公演・講演は75事業。計142回の公演・講演が実施され、入場者数は36,984人。		
		③利用者の満足度	- 劇場利用に関する総合的な満足度は100%。今後の利用意向も99%と満足度はたいへん高い。 - ソフト面に関する11項目のすべての満足層の割合が95%以上。貸館事業におけるスタッフの応対への評価は高い。[貸館調査/2020年度] 2005年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。		
B-2	[施設のホスピタリティ・サービス]	①公演や催し物情報に関する満足度	開館年度(2003年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続いてきたが、2020年度は91%で、開館以降最も高い割合となっている。[観客調査/2020年度] ○公演情報の入手のしやすさ 2003年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:88%⇒14:88%⇒15:83%⇒16:91%⇒17:89%⇒18:89%⇒19:88%⇒20:91%	- 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 - 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②ホスピタリティに関する満足度	- 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、2018度は93%であった。 2003年度に満足度が97%であった「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」は、2018年度に90%まで低下したものの、2020年度は100%と開館以降最も高い割合となっている。[貸館調査/2020年度]		
		③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度	「電話予約・チケットカウンターの応対」「劇場係員の応対」への満足度は大変高い。「劇場係員の応対」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、2020年度は96%であった。 - 開館年度(2003年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続き、2014年度には89%の満足度となった。2015年度に79%に減少したが、2016年度に91%に持ち直している[観客調査/2019年度] ○劇場係員の応対 2003年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:99%⇒13:98%⇒14:97%⇒15:97%⇒16:98%⇒17:98%⇒18:98%⇒19:98%⇒20:96% ○チケットの予約購入 2003年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:89%⇒15:79%⇒16:91%⇒17:90%⇒18:90%⇒19:87%⇒20:91%		
		④飲食に関する満足度	劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、2007年度に80%に達し、2018年度は87%となっている。[観客調査/2018年度] ○飲食サービス 2003年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86%⇒13:85%⇒14:87%⇒15:87%⇒16:87%⇒17:86%⇒18:87% ※2019年度以降は観客調査の簡略化により設問から除外		
B-3	[施設の維持管理]	①施設の維持管理	貸館調査でも、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。。満足層の割合は次のとおり。[貸館調査/2020年度] ○館内は清潔に保たれていた:100% ○劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:100% ○舞台設備・機器は充実している:100% ○設備・機器などを安全に使用できた:100% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい:100% ○搬入・搬出がやりやすい:99% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい:100%	- 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 - スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。	- 貸館調査の継続。 - 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 - 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。
		②稼働率	- 施設稼働率は、大ホールが38%、中劇場が40%、小劇場が43%である。新型コロナウイルスの影響により、開館以降で最も少ない稼働率となっている。 - 開館年の2003年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。		

C:経営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2020年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	[経営努力]	①外部資金、チケット収入の割合	2020年度事業費は約1億1,792万円。財源内訳は、チケット収入:約707万円(6%)、外部資金:約3,124万円(27%)、市の補助金:約7,961万円(68%)。 2019年度は、財団として初めて市の補助金を財源としない「完全主催事業」として実施した公演事業(NODA・MAP公演)の収入が支出を上回った。公益性の高い事業を収益性の高い事業とのバランスを図ることで、経済的な劇場文化の好循環が現れた結果となっている。 2020年度では、新型コロナウイルスの影響により、チケット収入の割合が大幅に低く、市補助金の割合が開館以降で最も高くなっている。 - チケット収入と外部資金の2003年度からの比率をみると次のとおり。 ○チケット収入 2003年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%⇒13:52%⇒14:39%⇒15:59%⇒16:57%⇒17:39%⇒18:49%⇒19:61%⇒20:6% ○外部資金 2003年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%⇒13:19%⇒14:22%⇒15:18%⇒16:14%⇒17:35%⇒18:20%⇒19:17%⇒20:27%	チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。	- 継続したデータ収集・分析の実施。 - 詳細調査の必要性の検討、実施。
		②事業収支からみた経営努力	2020年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約3,218万円の減収、補助金等収入は約1,640万円の減収となっており、新型コロナウイルスの影響により多くの事業が中止となり、事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

北九州芸術劇場
事業評価調査
〔資料編〕



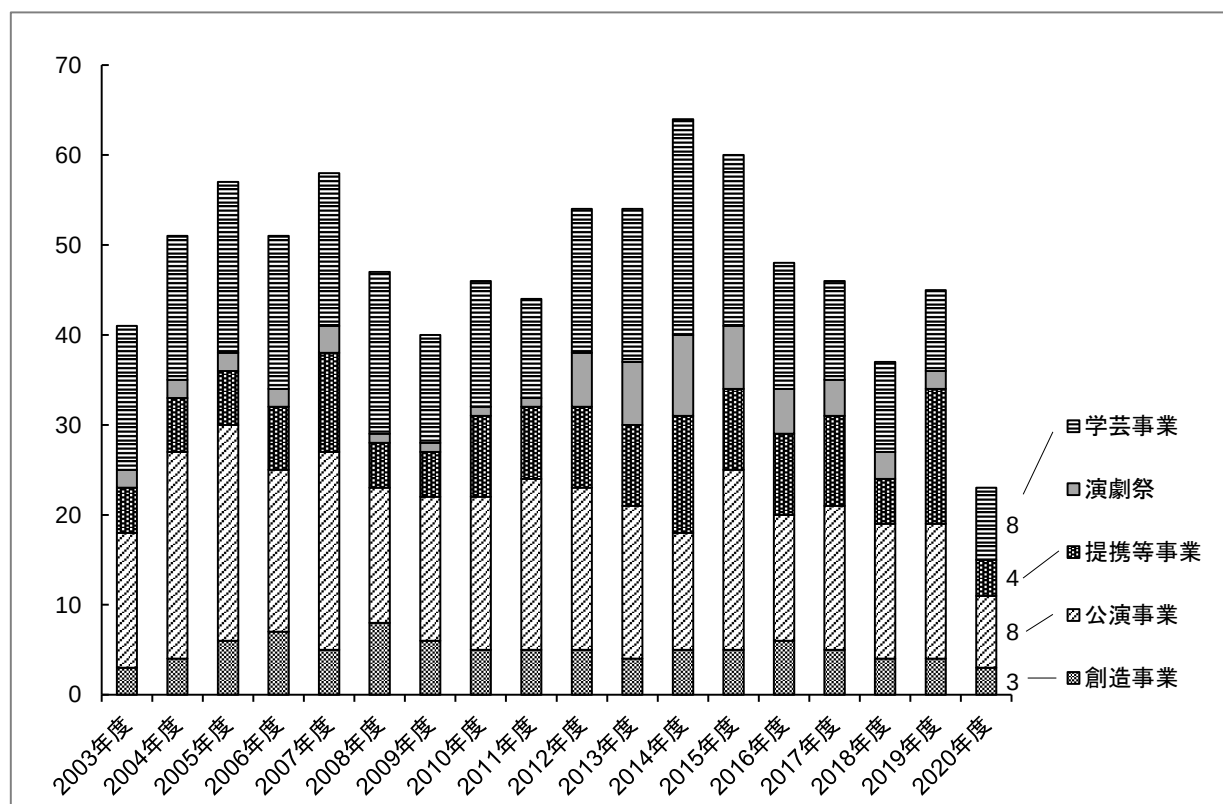
実績調査結果

(1) 事業数

2020年度の自主事業の事業数は、鑑賞事業が15事業、学芸事業が8事業、支援事業が2事業となっている。2020年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために中止となった事業が多く、開館以降で最も少ない事業数となっている。

	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	計			
2003年度	3	15	5	2	2	27	16	—	—
2004年度	4	23	6	—	2	35	16	—	—
2005年度	6	24	6	—	2	38	19	—	—
2006年度	7	18	7	—	2	34	17	—	—
2007年度	5	22	11	—	3	41	17	—	—
2008年度	8	15	5	—	1	29	18	—	—
2009年度	6	16	5	—	1	28	12	—	—
2010年度	5	17	9	—	1	32	14	—	—
2011年度	5	19	8	—	1	33	11	—	—
2012年度	5	18	9	—	6	38	16	—	—
2013年度	4	17	9	—	7	37	17	—	—
2014年度	5	13	13	—	9	40	24	—	1
2015年度	5	20	9	—	7	41	19	5	3
2016年度	6	14	9	—	5	34	14	6	3
2017年度	5	16	10	—	4	35	11	4	3
2018年度	4	15	5	—	3	27	10	5	—
2019年度	4	15	15	—	2	36	9	4	—
2020年度	3	8	4	—	—	15	8	2	—
累計	90	305	145	2	58	600	268	26	10

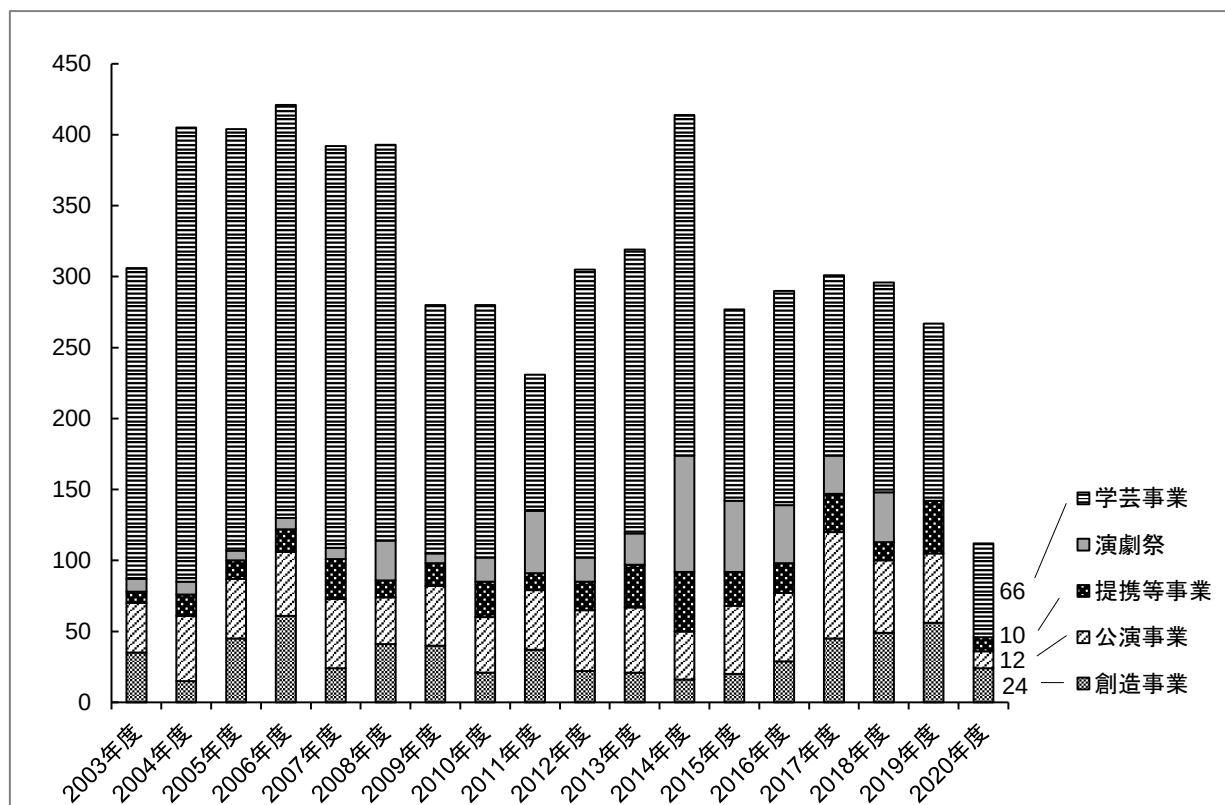
※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル『北九州芸術工業地帯』」として開催。



(2) 公演(実施)回数

2020年度の鑑賞事業の公演回数は46回、学芸事業の実施回数は66回、支援事業は24回となっており、開館以降で最も少ない公演(実施)回数となっている。

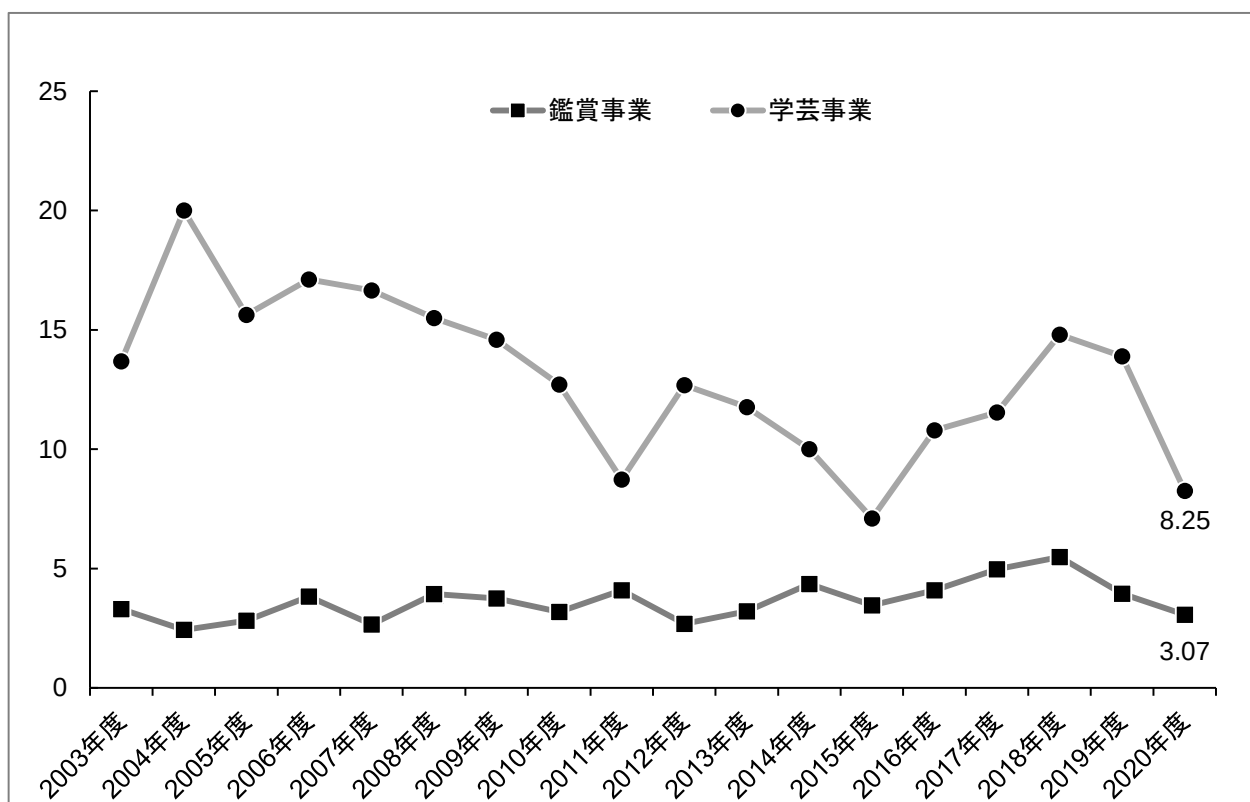
	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	計			
2003年度	35	35	8	2	9	89	219	—	—
2004年度	15	46	15	—	9	85	320	—	—
2005年度	45	42	13	—	7	107	297	—	—
2006年度	61	45	16	—	8	130	291	—	—
2007年度	24	49	28	—	8	109	283	—	—
2008年度	41	33	12	—	28	114	279	—	—
2009年度	40	42	16	—	7	105	175	—	—
2010年度	21	39	25	—	17	102	178	—	—
2011年度	37	42	12	—	44	135	96	—	—
2012年度	22	43	20	—	17	102	203	—	—
2013年度	21	46	30	—	22	119	200	—	—
2014年度	16	34	42	—	82	174	240	—	3
2015年度	20	48	24	—	50	142	135	75	14
2016年度	29	48	21	—	41	139	151	77	16
2017年度	45	75	27	—	27	174	127	90	15
2018年度	49	51	13	—	35	148	148	54	—
2019年度	56	49	37	—	0	142	125	29	—
2020年度	24	12	10	—	0	46	66	24	—
累計	601	779	369	2	411	2,162	3,533	349	48



(3) 1事業あたりの公演(実施)回数

2020年度の鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は3.07回、学芸事業の1事業あたりの実施回数は8.25回となっている。

	鑑賞事業	学芸事業
2003年度	3.30	13.69
2004年度	2.43	20.00
2005年度	2.82	15.63
2006年度	3.82	17.12
2007年度	2.66	16.65
2008年度	3.93	15.50
2009年度	3.75	14.58
2010年度	3.19	12.71
2011年度	4.09	8.73
2012年度	2.68	12.69
2013年度	3.22	11.76
2014年度	4.35	10.00
2015年度	3.46	7.11
2016年度	4.09	10.79
2017年度	4.97	11.55
2018年度	5.48	14.80
2019年度	3.94	13.89
2020年度	3.07	8.25



(4) 入場者(参加者)数

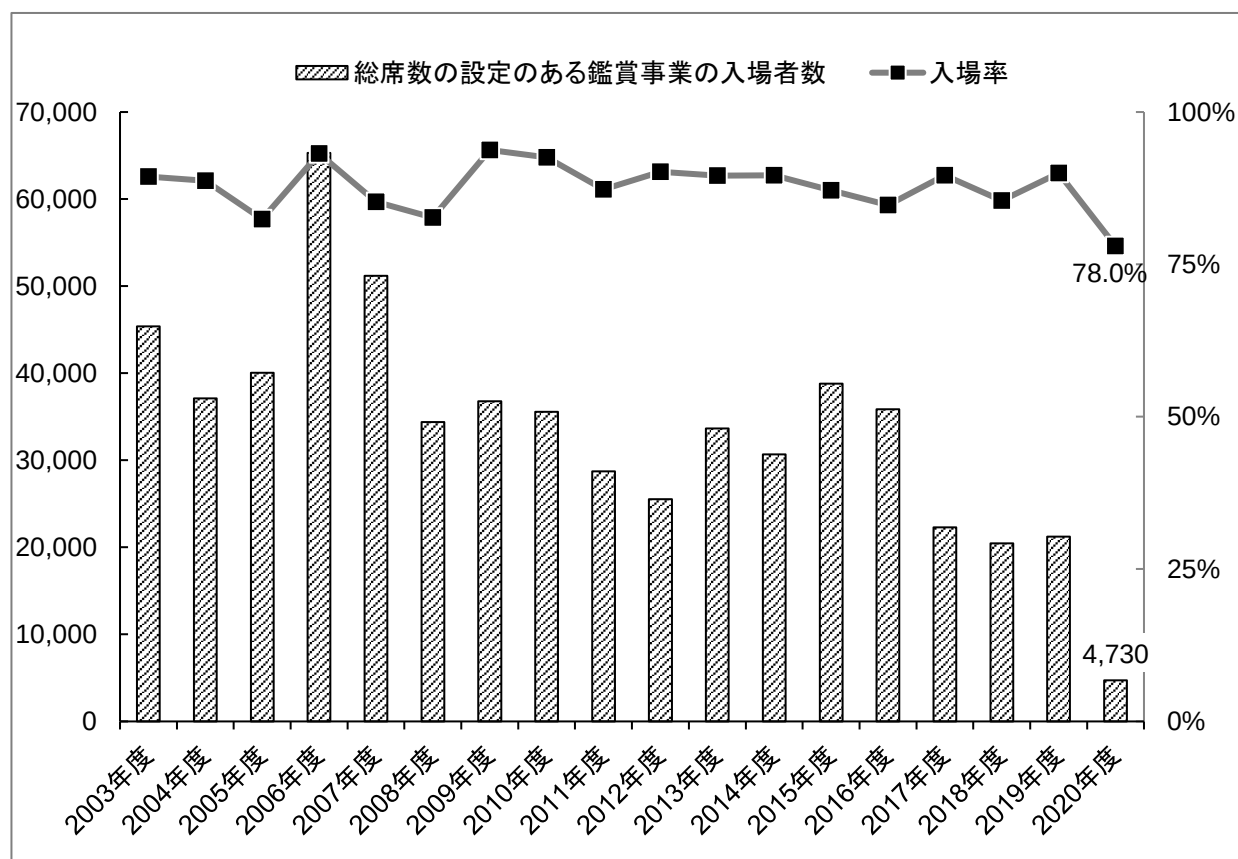
2020年度の鑑賞事業の入場者数は6,674人、学芸事業の参加者数は448人、支援事業の参加者数は151人で、年間の入場者(参加者)数の総合計は7,122人となっている。新型コロナウイルスの影響により、開館以降で最も少ない入場者(参加者)数となっている。

	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業	総合計
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	計				
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390	2,404	—	—	47,794
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095	4,734	—	—	41,829
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047	6,327	—	—	46,374
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289	6,758	—	—	72,047
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195	6,200	—	—	57,395
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068	10,577	—	—	46,645
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783	5,889	—	—	42,672
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579	5,404	—	—	40,983
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716	3,568	—	—	32,284
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458	5,900	—	—	35,358
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312	6,554	—	—	44,866
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059	6,332	—	296	42,687
2015年度	2,723	26,296	9,918	—	6,459	45,396	6,377	9,774	1,463	49,162
2016年度	3,128	23,970	8,117	—	1,530	36,745	5,496	3,113	2,385	40,989
2017年度	3,641	14,447	10,585	—	998	29,671	2,988	2,560	1,255	32,416
2018年度	2,528	15,704	2,633		1,210	22,075	1,800	2,438	—	23,875
2019年度	1,893	17,657	10,375		0	29,925	3,039	767	—	32,964
2020年度	474	3,762	2,438		0	6,674	448	151	—	7,122
累計	122,852	362,947	127,277	1,592	35,809	650,477	90,795	18,803	5,399	737,462

(5) 入場者数と入場率

2020年度の鑑賞事業で、総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数は4,730人で、総席数は6,063席となっており、入場率は78.0%となっている。多くの鑑賞事業で収容率50%の制限下での実施となったことが大きな要因である。

	鑑賞事業の入場者数の計(再掲含む)	総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数(実数:再掲除く)	総席数	入場率
2003年度	45,390	45,390	50,756	89.4%
2004年度	37,095	37,095	41,808	88.7%
2005年度	40,047	40,047	48,575	82.4%
2006年度	65,289	65,289	70,065	93.2%
2007年度	51,195	51,195	60,036	85.3%
2008年度	36,068	34,379	41,580	82.7%
2009年度	36,783	36,783	39,225	93.8%
2010年度	35,579	35,579	38,447	92.5%
2011年度	28,716	28,716	32,885	87.3%
2012年度	29,458	25,537	28,316	90.2%
2013年度	38,312	33,657	37,585	89.5%
2014年度	36,059	30,678	34,225	89.6%
2015年度	45,396	38,781	44,494	87.2%
2016年度	36,745	35,866	42,333	84.7%
2017年度	29,671	22,301	24,886	89.6%
2018年度	22,075	20,473	23,961	85.4%
2019年度	29,925	21,243	23,602	90.0%
2020年度	6,674	4,730	6,063	78.0%
累計	650,477	607,739	688,842	88.2%



(6) 5カ年毎の事業数、公演(実施)回数、入場者(参加者)数

2003年度から2017年度までの15年間で5カ年毎で3期に区分して事業数、公演(実施)回数、入場(参加)者数の平均を算出した。5カ年毎の公演(実施)回数では、鑑賞事業1事業あたりの公演数が、第1期で2.97回だったのが、第2期、第3期と回数が伸び続けているものの、2020年度では3.07回となっている。

5カ年毎の事業数の平均と2020年度の事業数

	鑑賞事業					学芸事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計	
第1期 平均 2003年度～2007年度	5	20	7	2	35	17
第2期 平均 2008年度～2012年度	6	17	7	2	32	14
第3期 平均 2013年度～2017年度	5	16	10	6	37	17
2020年度	3	8	4	0	15	8

5カ年毎の公演数・実施回数の平均と2020年度の公演数・実施回数

	鑑賞事業					学芸事業	鑑賞事業1事業あたりの公演数	学芸事業1事業あたりの回数
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計			
第1期 平均 2003年度～2007年度	36	43	16	8	104	282	2.97	16.59
第2期 平均 2008年度～2012年度	32	40	17	23	112	186	3.49	13.11
第3期 平均 2013年度～2017年度	26	50	29	44	150	171	4.00	10.04
2020年度	24	12	10	0	46	66	3.07	8.25

5カ年毎の入場者・参加者数の平均と2020年度の入場者・参加者数

	鑑賞事業					学芸事業	総合計
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計		
第1期 平均 2003年度～2007年度	11,661	26,385	7,873	1,566	47,803	5,285	53,088
第2期 平均 2008年度～2012年度	8,596	18,877	3,899	1,949	33,321	6,268	39,588
第3期 平均 2013年度～2017年度	3,335	19,903	10,595	3,404	37,237	5,549	42,024
2020年度	474	3,762	2,438	0	6,674	448	7,122

	公演事業の入場者数の計(再掲含む)	総席数の設定のある公演事業の入場者数(実数:再掲除く)	総席数	入場率
第1期 平均 2003年度～2007年度	47,803	47,803	54,248	88.1%
第2期 平均 2008年度～2012年度	33,321	32,199	36,091	89.2%
第3期 平均 2013年度～2017年度	37,237	32,257	36,705	87.9%
2020年度	6,674	4,730	6,063	78.0%

(7) 2020年度自主事業一覧

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場プロデュース / 市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2020」 [WEB関連企画]「ZOOM de 合唱物語 わたしの青い鳥～ちよびっとさえずり編」 ※劇場公式YouTubeでのライブ動画配信	小劇場	6/28	1	【ZOOM参加】 本公演出演者3、市民参加26 【公演会場参加】 地元アーティスト3 劇場スタッフ14名 【リアルタイム視聴】472アクセス 【アーカイブ】873回		
2	【東アジア文化都市主催事業】東アジア文化都市2020北九州「詩、踊る」 公演(国内の詩人、振付家の作品創作・上演)	中劇場	11/7	1	385	262	68.0%
3	北九州芸術劇場＋市民共同創作リーディング「Re: 北九州の記憶」～番外編～ 「Re: 北九州の記憶」戯曲講座 リーディング公演 [関連企画] 戯曲講座「戯曲をよむ、記憶をよむ」 [WEB関連企画] オンライン戯曲紹介(4作品)	会議室 小劇場 八幡図書館	9/11, 10/3, 4, 24, 25, 11/14, 15, 12/12, 13 2/20～21 10/10, 11/1, 7 5/30, 6/12, 26, 7/3	9 3 6 4	- 186 - 【アーカイブ】 5/30 922回 6/12 613回 6/26 330回 7/3 302回	6 178 28 613回 302回	- 95.7% - 95.7%
	北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「Re: 北九州の記憶」～番外編～ 小計			22	186	212	95.7%
創造事業 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				24	571	474 440	77.1%

2 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
1	キタQ アーティスト ふれあいプログラム 講師:セレノグラフィ アウトリーチ 講師:太めパフォーマンス アウトリーチ アウトリーチ アウトリーチ 講師:有門正太郎 アウトリーチ 講師:中村蓉 アウトリーチ アウトリーチ キタQ アーティスト ふれあいプログラム 小計	八幡西特別支援学校 大谷小学校特別支援学級 小森江西小学校 葛原小学校 大谷小学校特別支援学級 赤坂小学校 二島小学校	9/28, 29 9/25 10/6 12/21 11/24, 25 12/8, 9 1/25, 26	2 1 1 2 2 2 4	中学生 小学生 小学生 小学生 小学生 小学生 小学生	13 8 29 61 8 32 20	25 8 29 122 16 63 80
2	高校生[的]シアター 高校生のための演劇塾(テクニカル体験講習・モギテク) 平原慎太郎ダンスワークショップ 高校生[的]ダンス体験WS 高校生[的]シアター 小計	小劇場・創造工房 創造工房	8/22, 23 12/5	2 1 3	高校生	17 2 19	33 2 35
3	北九州芸術劇場こどもプロジェクト あそびのじかん 後期ワークショップ	創造工房	10/11, 25, 11/15, 12/6	4	小学生	9	33
4	ひとまち＋アーツ協働事業 YELL 講師:有門正太郎、守田慎之介 クリエイション体験プログラム(オンラインプログラム) クリエイション体験プログラム 初心者向けワークショッププログラム(芸術体験ワークショップ) ひとまち＋アーツ協働事業 小計	創造工房、YELL事務所、市内各所 創造工房 大ホール ホワイエ	6/19, 7/1 10/23, 12/2, 9, 16, 18 7/22, 8/19	2 5 2 9	YELL利用者(若者世代)	19 46 21 86	19 46 21 86

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
5	ダンスダイブ～ワークショップ編						
	入手杏奈ダンスワークショップ ①からだで遊ぶ、親子でダンスWS	創造工房	9/13	1	4歳以上の未就学児親子	12	12
	②ナイスミドル&ミディ!ダンスWS		9/13	1	40～50代一般	11	11
	平原慎太郎ダンスワークショップ ①ダンサー向けダンスWS		12/4	1	若手ダンス経験者	9	9
	②高校生[的]ダンス体験WS <再掲:2学芸事業(2)参照>		12/5	1	高校生	2	2
	ダンスダイブ～ワークショップ編 小計			4		34	34
6	北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!! 2020」						
	太めパフォーマンス	創造工房	9/8～10, 15 12/2, 3, 6, 7 11/26～29,	8	地元劇団アーティスト等	4	18
	飛ぶ劇場		12/1 12/25～27, 1/11～14	5		15	64
	ブルーエゴナク		2/22～24	7		10	47
	劇団言魂			3		10	22
	北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!! 2020」 小計			23		39	151
7	劇場塾2020～オープンレクチャー						
	オープンレクチャーvol.1 『歌舞伎入門講座～かぶきの履歴書～』	小劇場	12/26	1	一般	33	33
	オープンレクチャーvol.2 『舞台照明デザイナーの仕事』		1/20	1		31	31
	劇場塾2020～オープンレクチャー 小計			2		64	64
8	市民劇場文化サポーター育成事業						
	ミーティング	会議室・セミナールーム	7/25, 8/30, 9/19, 10/21, 12/23, 1/30, 2/27	7	劇場文化サポーター	26	105
学芸事業(創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ等)を除く)				66		448	851

3 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	[WEB関連企画]「劇ツ×20秒」 ※劇場公式Twitterアカウントでの出場予定の劇団によるショート動画配信 & 投票		7/12			投票 406	
2	ケムリ研究室no.1「ベイジルタウンの女神」	中劇場	10/9～10	3	1,197	1,146	95.7%
3	モーツァルト歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た!～ ※収容率50%制限で発売(その後解除)	大ホール	10/18	1	729	539	73.9%
4	「ゲルニカ」 ※収容率50%制限で発売(その後解除)	大ホール	10/31～ 11/1	2	1,812	1,252	69.1%
5	フランソワ・シェニヨール&ニノ・レネ「不確かなロマンス～もう一人のオーランド～」						
	ワークショップ ※日程変更12/17→12/22	創造工房	12/22	1	-	10	-
	公演 ※日程変更12/19→12/23 ※収容率50%制限実施	中劇場	12/23	1	351	217	61.8%
	フランソワ・シェニヨール&ニノ・レネ「不確かなロマンス～もう一人のオーランド～」 小計			2	351	227	61.8%
6	子どもと大人のためのダンス 「日本昔ばなしのダンス」	中劇場 (舞台上客席)	1/16	2	138	115	83.3%
7	「ピーター&ザ・スターキャッチャー」 ※収容率50%制限実施	中劇場	1/24	1	284	218	76.8%
8	二兎社「ザ・空気ver.3 そして彼は去った…」 ※収容率50%制限実施	中劇場	2/4	1	308	265	86.0%
公演事業 小計 (※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				12	4,819	3,762 3,752	77.9%

※客席数を定めていないプログラムは、入場率の算定には含めていない。

4 提携等事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	康本雅子ダンス公演「全自動煩悩ずいずい図」	小劇場	11/14～15	2	190	148	77.9%
2	飛ぶ劇場 Vol.42「ガギゲゲ妖怪倍々禁」	小劇場	12/4～6	4	373	300	80.4%
3	Theatre Park「月夜のファウスト」	小劇場	12/7～8	2	110	90	81.8%
4	【協力】市川海老蔵 古典への誘い	大ホール	3/20	2	-	1,900	-
提携事業 小計				10	673	2,438 538	79.9%

小計(創造・公演・提携等事業)(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				46	6,063	6,674 4,730	78.0%
--	--	--	--	----	-------	----------------	-------

5 支援事業

	公 演 名	会 場	公演日	回数	対象及び 設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場創造支援事業「演力ツ!! 2020」 ＜再掲:2学芸事業(6)参照＞	小劇場	9/8～3/17	23	地元劇団、 アーティスト 等	151	-
2	「劇トツ×20分」2020 ＜再掲:3公演事業(3)参照＞	小劇場	7/12	1	一般	関連WEB企画 406	-
支援事業 小計				24	-	151	-

総 合 計 ※再掲の事業(支援事業は全て・平原高校生ダンスWS)は総計には含まず ※学芸事業は延人数ではなく参加者・入場者実数で計上 ※入場率は設定席数のない事業を除いて算出				111	6,063	7,122	78.0%
---	--	--	--	-----	-------	-------	-------

(8) 2020年度 新型コロナウイルス感染拡大防止による中止事業一覧

2020年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために中止となった自主事業が計20事業(うち4事業が一部の公演は実施)、68回の公演やワークショップなどが中止、キャンセル、または延期となった。

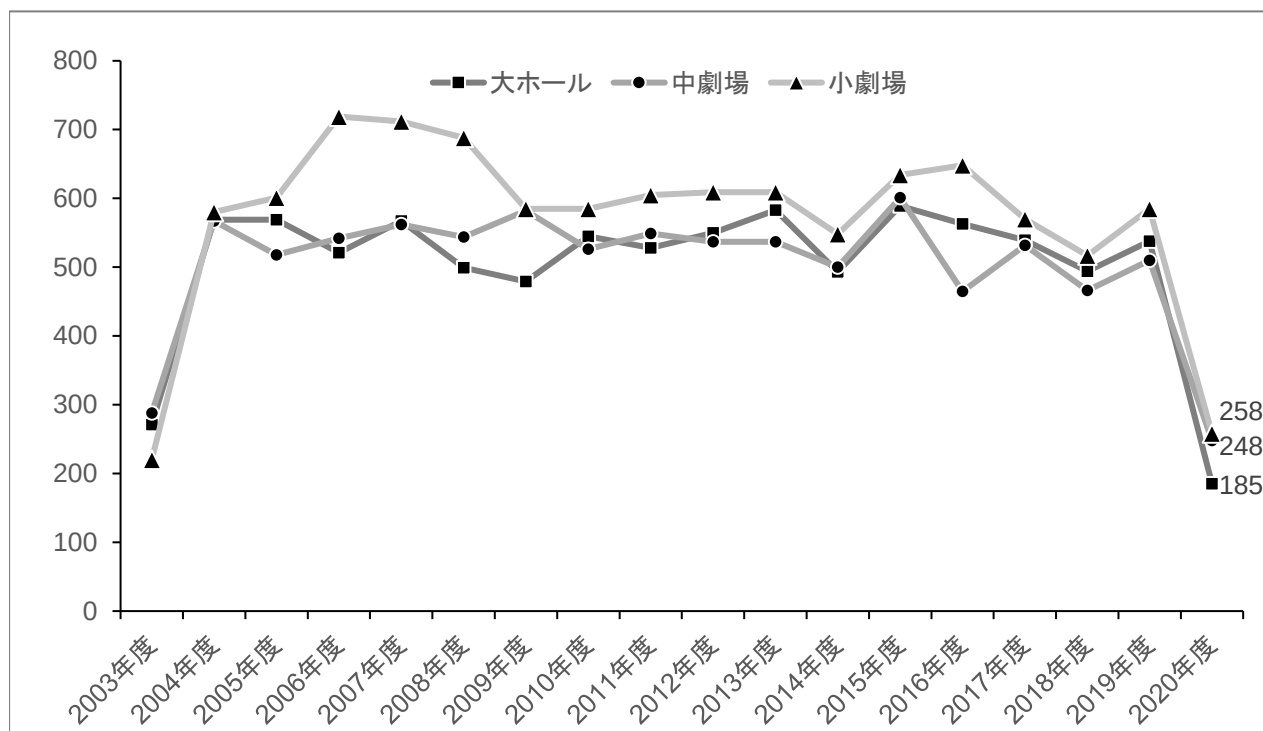
新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止事業 小計

	公演名・事業名	会場	公演・実施 予定日	中止回数	備考
1	北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2020」 コーラスワークショップ (対象:小学生～一般) 公演	中劇場・ 小劇場 中劇場	5/8～ 6/28 6/28	15 1	中止 中止
2	東アジア文化都市2020北九州「詩、踊る」 アウトリーチ 公演 (中国・韓国の詩人、振付家の作品創作・上演)	市内各所 中劇場(舞台 上客席)	11月 11/7～8	1 4	中止 中止
3	高校生[的]シアター 高校生のための演劇塾(戯曲講座) 高校生のための演劇塾(夏期ゼミ)	創造工房	6/13, 20, 7/4, 18 8/3～5	4 3	中止 中止
4	北九州芸術劇場こどもプロジェクト あそびのじかん 前期ワークショップ	創造工房	6/7, 21, 7/5, 19	4	中止
5	北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!! 2020」 ぼち大人	創造工房	3/6, 13, 17	3	キャンセル
6	公共ホール現代ダンス活性化事業 アウトリーチ ワークショップ	市内小中 学校・大学 創造工房	11/16～ 19	- -	R3年度へ延期
7	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2020 —海外編Ⅰ—「チクタク」	小劇場	4/29	1	中止
8	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2020 —海外編Ⅱ—「リトルトップ～はじめてのサーカス～」	小劇場	5/2～3	4	中止
9	「紙のサティさん」“Pan Satie” ※演目変更の上、日程を再調整するも上演中止	中劇場	3/23	2	中止
10	「劇トツ×20分」2020 公演	小劇場	7/12	1	中止
11	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2020「二分間の冒険」 みんな役ワークショップ&オーディション 公演	創造工房 小劇場	6/14 7/25～26	1 2	中止 中止
12	マームとジプシー「cocoon」	中劇場	8/9	1	中止
13	ヴォイツェク	小劇場	10/31～ 11/1	2	中止
14	【協力】ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド ～汚れなき瞳～	大ホール	4/10～12	4	中止
15	劇団言魂第七回公演/「劇トツ×20分」2019優勝公演 劇団言魂「こえの聴こえる」	小劇場	4/25～26	3	中止
16	【協力】コント集団カジャラ 第五回公演 「無関心の旅人」	中劇場	6/6～7	3	中止
17	イキウメ「外の道」	中劇場	7/5	1	中止
18	ブルーエゴナク	小劇場	10/2～4	4	中止
19	一度一緒に演りたかった関西の俳優達＋ 南河内万歳一座☆オールスターズ「ゴミと罰」	小劇場	2/6～7	2	中止
20	木ノ下歌舞伎「義経千本桜一渡海屋・大物浦一」	小劇場	3/20～21	2	中止
新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止事業 小計				68	

(9) 施設の利用件数

2020年度の施設利用の件数を見ると、大ホールは185件、中劇場は248件、小劇場は258件で、合計691件の利用となっている。3つのホールの合計のうち、貸館事業での利用が451件、自主事業での利用は240件となっている。新型コロナウイルスの影響により、開館以降で最も少ない利用件数となっている。

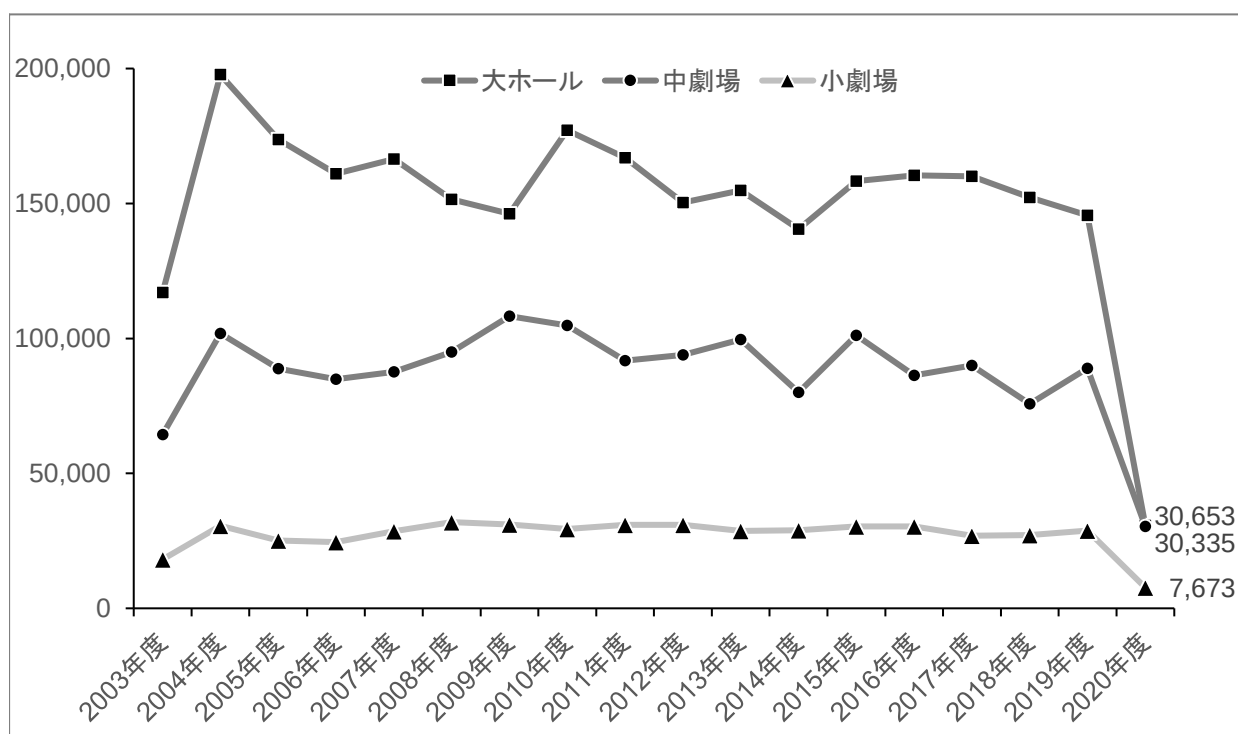
	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	66	205	271	143	145	288	121	99	220	330	449	779
2004年度	87	482	569	242	325	567	404	176	580	733	983	1,716
2005年度	102	467	569	289	229	518	471	130	601	862	826	1,688
2006年度	139	382	521	298	244	542	573	146	719	1,010	772	1,782
2007年度	186	381	567	325	237	562	564	148	712	1,075	766	1,841
2008年度	134	365	499	217	327	544	462	226	688	813	918	1,731
2009年度	64	415	479	213	369	582	318	267	585	595	1,051	1,646
2010年度	104	441	545	159	367	526	316	269	585	579	1,077	1,656
2011年度	25	503	528	230	319	549	337	268	605	592	1,090	1,682
2012年度	80	470	550	197	340	537	368	241	609	645	1,051	1,696
2013年度	131	452	583	158	379	537	399	210	609	688	1,041	1,729
2014年度	110	383	493	175	325	500	359	189	548	644	897	1,541
2015年度	139	450	589	177	424	601	324	310	634	640	1,184	1,824
2016年度	120	443	563	99	366	465	359	289	648	578	1,098	1,676
2017年度	69	470	539	135	397	532	341	229	570	545	1,096	1,641
2018年度	59	435	494	159	307	466	259	258	517	477	1,000	1,477
2019年度	56	482	538	105	405	510	333	252	585	494	1,139	1,633
2020年度	35	150	185	74	174	248	131	127	258	240	451	691
累計	1,706	7,376	9,082	3,395	5,679	9,074	6,439	3,834	10,273	11,540	16,889	28,429



(10) 施設の利用者数

2020年度の施設の利用者数を見ると、大ホールは30,653人、中劇場は30,335人、小劇場は7,673人で、合計68,661人となっている。3つのホールの合計のうち、貸館事業での利用者数は57,639人、自主事業での利用者数は11,022人となっている。

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	23,937	93,100	117,037	22,890	41,524	64,414	7,402	10,769	18,171	54,229	145,393	199,622
2004年度	22,445	175,273	197,718	29,970	71,901	101,871	16,996	13,626	30,622	69,411	260,800	330,211
2005年度	13,034	160,673	173,707	33,153	55,644	88,797	14,592	10,478	25,070	60,779	226,795	287,574
2006年度	26,027	134,966	160,993	29,814	55,050	84,864	15,651	8,853	24,504	71,492	198,869	270,361
2007年度	34,015	132,444	166,459	29,182	58,491	87,673	17,837	10,772	28,609	81,034	201,707	282,741
2008年度	17,877	133,686	151,563	17,699	77,324	95,023	14,661	17,281	31,942	50,237	228,291	278,528
2009年度	7,625	138,611	146,236	22,087	86,166	108,253	12,873	18,186	31,059	42,585	242,963	285,548
2010年度	21,429	155,767	177,196	16,140	88,614	104,754	12,457	16,967	29,424	50,026	261,348	311,374
2011年度	2,979	163,922	166,901	20,838	70,958	91,796	11,947	19,011	30,958	35,764	253,891	289,655
2012年度	10,696	139,621	150,317	18,158	75,782	93,940	12,954	18,014	30,968	41,808	233,417	275,225
2013年度	23,017	131,814	154,831	15,696	83,956	99,652	15,563	13,088	28,651	54,276	228,858	283,134
2014年度	19,526	121,017	140,543	10,645	69,397	80,042	12,726	16,140	28,866	42,897	206,554	249,451
2015年度	25,106	133,240	158,346	19,581	81,557	101,138	10,555	19,839	30,394	55,242	234,636	289,878
2016年度	30,999	129,465	160,464	10,753	75,534	86,287	12,419	17,893	30,312	54,171	222,892	277,063
2017年度	11,962	148,154	160,116	11,455	78,566	90,021	11,128	15,770	26,898	34,545	242,490	277,035
2018年度	12,757	139,469	152,226	12,676	63,035	75,711	7,958	19,216	27,174	33,391	221,720	255,111
2019年度	13,460	132,085	145,545	10,422	78,458	88,880	12,378	16,372	28,750	36,260	226,915	263,175
2020年度	3,536	27,117	30,653	4,382	25,953	30,335	3,104	4,569	7,673	11,022	57,639	68,661
累計	320,427	2,390,424	2,710,851	335,541	1,237,910	1,573,451	223,201	266,844	490,045	879,169	3,895,178	4,774,347



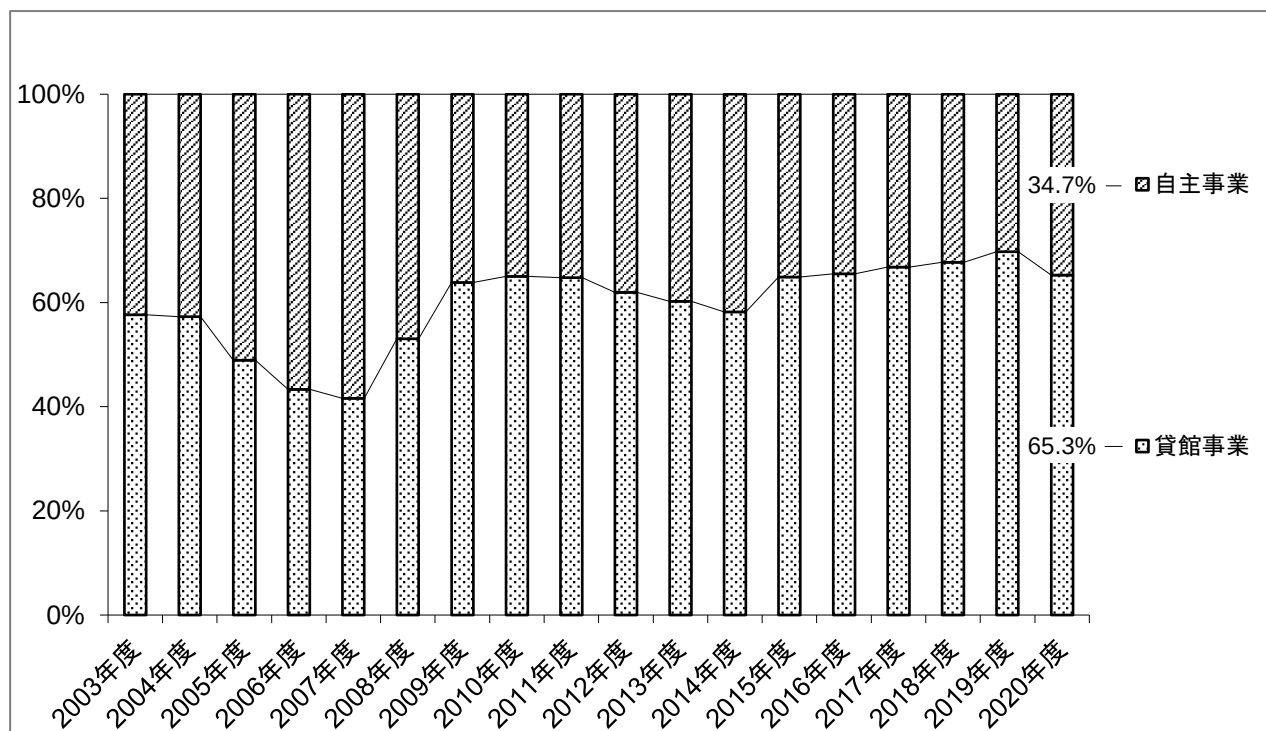
(11) 自主事業・貸館事業比率

2020年度の施設の利用件数で、自主事業と貸館事業の比率は、貸館事業が65.3%、自主事業は34.7%となっている。開館から2007年度までは自主事業の利用の比率が増加傾向にあったが、2008年度以降は貸館事業の比率が増加傾向にある。

自主事業と貸館事業の比率

[件数ベース]

	貸館事業	自主事業
2003年度	57.6%	42.4%
2004年度	57.3%	42.7%
2005年度	48.9%	51.1%
2006年度	43.3%	56.7%
2007年度	41.6%	58.4%
2008年度	53.0%	47.0%
2009年度	63.9%	36.1%
2010年度	65.0%	35.0%
2011年度	64.8%	35.2%
2012年度	62.0%	38.0%
2013年度	60.2%	39.8%
2014年度	58.2%	41.8%
2015年度	64.9%	35.1%
2016年度	65.5%	34.5%
2017年度	66.8%	33.2%
2018年度	67.7%	32.3%
2019年度	69.7%	30.3%
2020年度	65.3%	34.7%



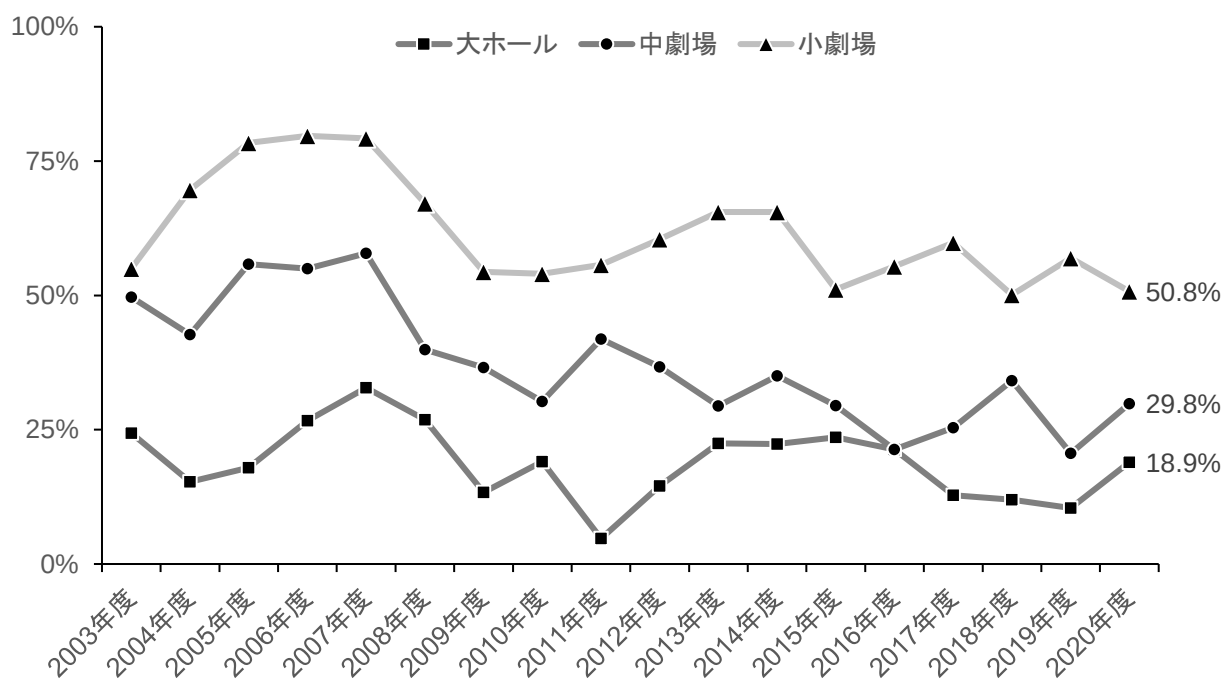
(12) ホール別の自主事業比率

ホール別の自主事業の利用件数の比率は、2020年度は大ホールが18.9%、中劇場が29.8%、小劇場が50.8%となっている。

ホール別の自主事業比率

[件数ベース]

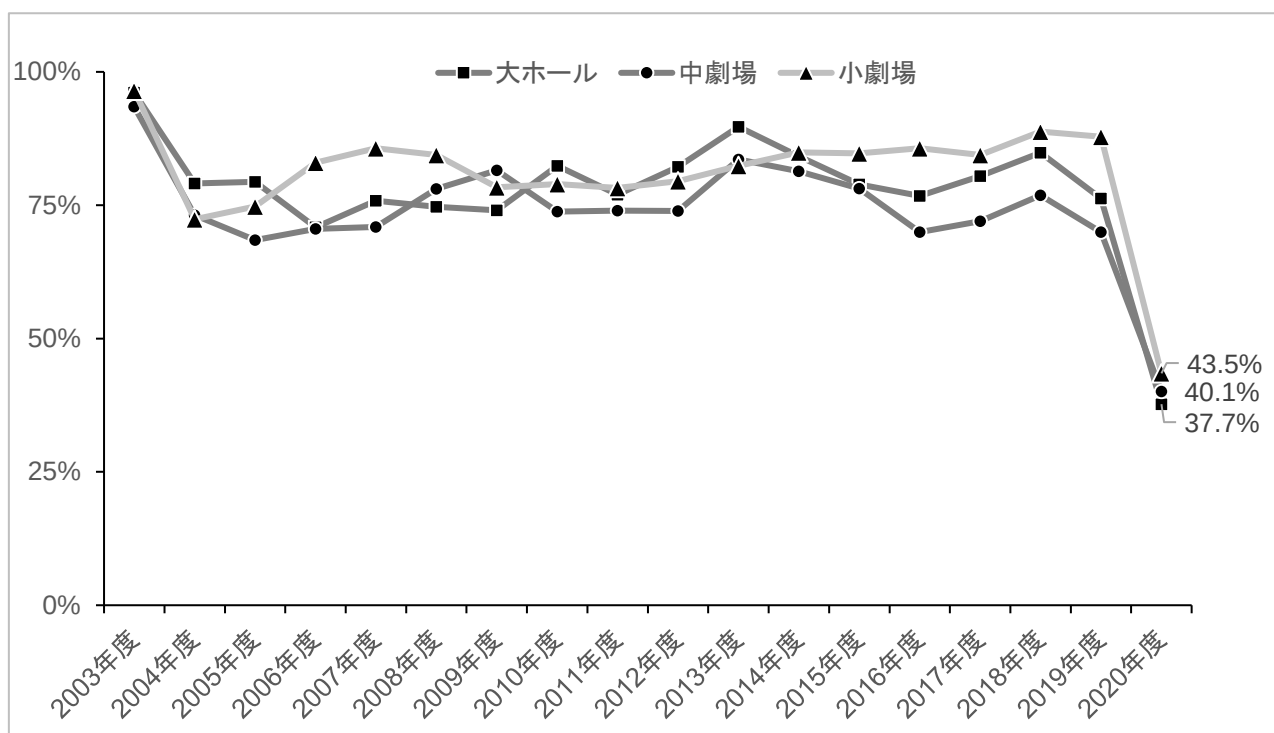
	大ホール	中劇場	小劇場
2003年度	24.4%	49.7%	55.0%
2004年度	15.3%	42.7%	69.7%
2005年度	17.9%	55.8%	78.4%
2006年度	26.7%	55.0%	79.7%
2007年度	32.8%	57.8%	79.2%
2008年度	26.9%	39.9%	67.2%
2009年度	13.4%	36.6%	54.4%
2010年度	19.1%	30.2%	54.0%
2011年度	4.7%	41.9%	55.7%
2012年度	14.5%	36.7%	60.4%
2013年度	22.5%	29.4%	65.5%
2014年度	22.3%	35.0%	65.5%
2015年度	23.6%	29.5%	51.1%
2016年度	21.3%	21.3%	55.4%
2017年度	12.8%	25.4%	59.8%
2018年度	11.9%	34.1%	50.1%
2019年度	10.4%	20.6%	56.9%
2020年度	18.9%	29.8%	50.8%



(13) 稼働率

2020年度の施設稼働率(利用対象日数に対する公演日数の割合)は、大ホールが37.7%、中劇場は40.1%、小劇場は43.5%となっており、3ホール合計では40.6%となっている。新型コロナウイルスの影響により、開館以降で最も少ない稼働率となっている。

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	公演 日数	利用対 象日数	稼働率	公演 日数	利用対 象日数	稼働率	公演 日数	利用対 象日数	稼働率	公演 日数	利用対 象日数	稼働率
2003年度	99	103	96.1%	100	107	93.5%	83	86	96.5%	282	296	95.3%
2004年度	219	277	79.1%	207	283	73.1%	220	304	72.4%	646	864	74.8%
2005年度	223	281	79.4%	189	276	68.5%	222	297	74.7%	634	854	74.2%
2006年度	202	285	70.9%	199	282	70.6%	254	306	83.0%	655	873	75.0%
2007年度	220	290	75.9%	205	289	70.9%	257	300	85.7%	682	879	77.6%
2008年度	192	257	74.7%	203	260	78.1%	249	295	84.4%	644	812	79.3%
2009年度	194	262	74.0%	212	260	81.5%	221	282	78.4%	627	804	78.0%
2010年度	215	261	82.4%	197	267	73.8%	225	285	78.9%	637	813	78.4%
2011年度	211	274	77.0%	202	273	74.0%	234	299	78.3%	647	846	76.5%
2012年度	217	264	82.2%	204	276	73.9%	237	298	79.5%	658	838	78.5%
2013年度	226	252	89.7%	204	244	83.6%	229	278	82.4%	659	774	85.1%
2014年度	192	228	84.2%	188	231	81.4%	208	245	84.9%	588	704	83.5%
2015年度	228	289	78.9%	225	288	78.1%	244	288	84.7%	697	865	80.6%
2016年度	218	284	76.8%	177	253	70.0%	246	287	85.7%	641	824	77.8%
2017年度	206	256	80.5%	206	286	72.0%	217	257	84.4%	629	799	78.7%
2018年度	190	224	84.8%	173	225	76.9%	198	223	88.8%	561	672	83.5%
2019年度	209	274	76.3%	198	283	70.0%	217	247	87.9%	624	804	77.6%
2020年度	69	183	37.7%	93	232	40.1%	100	230	43.5%	262	645	40.6%
累計	3,530	4,544	77.7%	3,382	4,615	73.3%	3,861	4,807	80.3%	10,773	13,966	77.1%



(14) 5か年毎の利用件数、利用者数、稼働率

2003年度から2017年度までの15年間で5か年毎で3期に区分して利用件数、利用者数、稼働率の平均を算出した。5か年毎の利用者数では、大ホールで、第1期で163,183人だったのが、第2期、第3期と利用者数が減少している。その一方で、稼働率は全体的に増加する傾向にあり、とくに大ホールの稼働率は第1期が77.9%だったのが、第2期、第3期と伸び続けてきた。しかし2020年度では、新型コロナウイルスの影響により、第1期から第3期までの平均と比較しても大幅に低い稼働率となっている。

5か年毎の平均利用件数と2020年度の利用件数

	大ホール	中劇場	小劇場	計※
第1期 平均 2003年度～2007年度	499	495	566	1,561
第2期 平均 2008年度～2012年度	520	548	614	1,682
第3期 平均 2013年度～2017年度	553	527	602	1,682
2020年度	185	248	258	691

※5か年毎の平均利用件数は小数点以下を四捨五入しているため、計の数値が各データの計と合わない箇所がある。

5か年毎の平均利用者数と2020年度の利用者数

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 平均 2003年度～2007年度	163,183	85,524	25,395	274,102
第2期 平均 2008年度～2012年度	158,443	98,753	30,870	288,066
第3期 平均 2013年度～2017年度	154,860	91,428	29,024	275,312
2020年度	30,653	30,335	7,673	68,661

5か年毎の平均稼働率※ と2020年度の稼働率

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 平均 2003年度～2007年度	77.9%	72.8%	80.1%	77.0%
第2期 平均 2008年度～2012年度	78.1%	76.2%	79.9%	78.1%
第3期 平均 2013年度～2017年度	81.7%	76.8%	84.4%	81.0%
2020年度	37.7%	40.1%	43.5%	40.6%

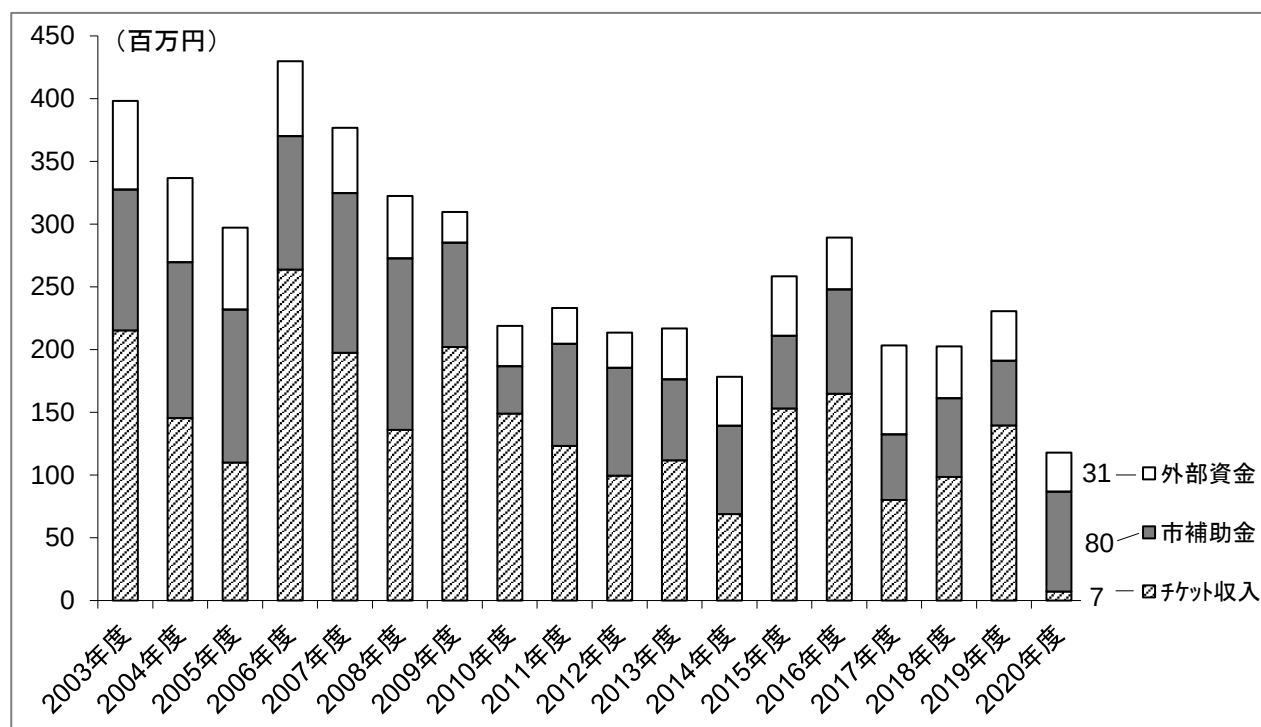
※平均稼働率は加重平均（5年間ごとの公演日数の合計を利用可能日数の合計で割った数値）となっている。

(15) 事業費の財源内訳

2020年度の事業費は、1億1,791万6千円となっている。その内訳を見ると、チケット収入が707万2千円、市補助金が7,960万6千円、外部資金が3,123万8千円となっている。

(単位:千円)

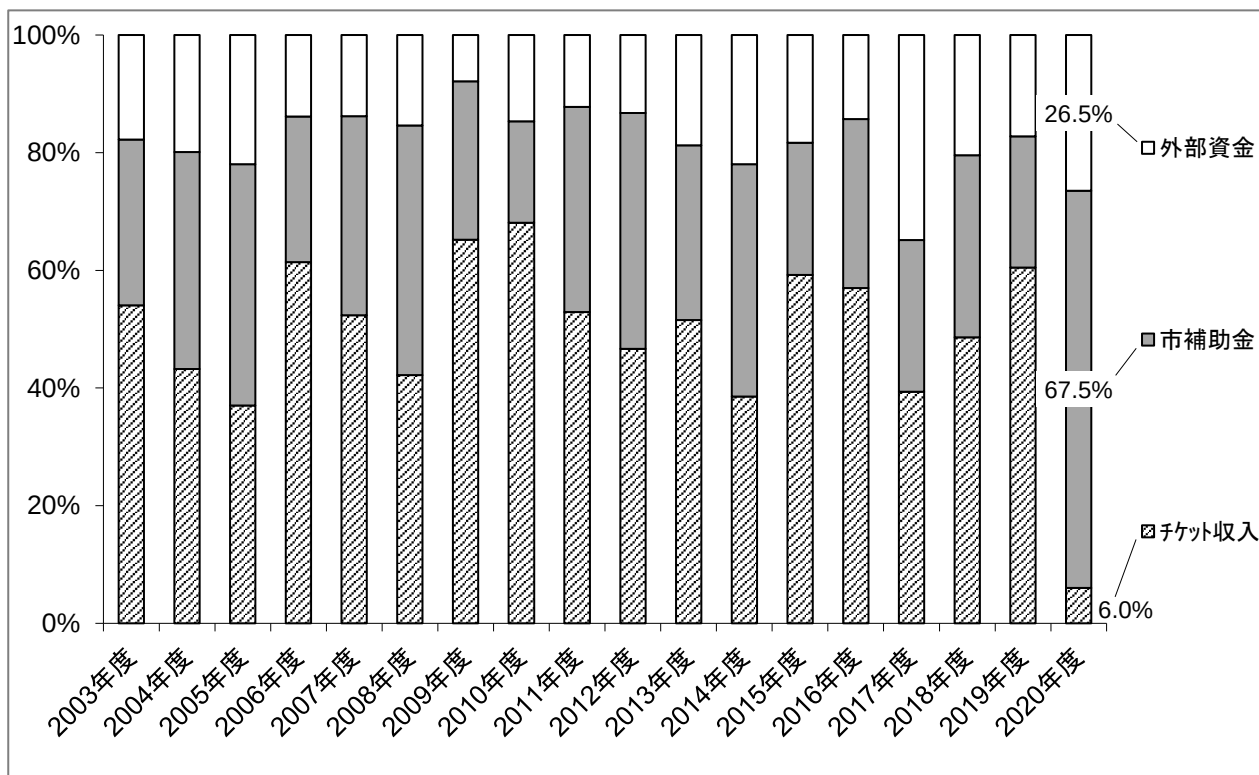
	チケット収入	市補助金	外部資金	(内訳)				計
				文化庁	地域創造	その他助成金	協賛金	
2003年度	215,389	112,225	70,700	49,000	10,000	11,700	0	398,314
2004年度	145,429	124,198	67,000	49,000	18,000	0	0	336,627
2005年度	110,060	121,965	65,295	45,795	19,500	0	0	297,320
2006年度	263,901	106,363	59,517	45,800	13,717	0	0	429,781
2007年度	197,355	127,456	52,051	36,600	15,451	0	0	376,862
2008年度	135,979	136,854	49,579	27,400	22,179	0	0	322,412
2009年度	202,004	83,331	24,432	18,000	6,432	0	0	309,767
2010年度	149,051	37,726	32,072	11,000	10,572	0	10,500	218,849
2011年度	123,355	81,302	28,509	26,902	1,607	0	0	233,166
2012年度	99,616	85,741	28,262	25,349	2,165	748	0	213,619
2013年度	111,886	64,354	40,693	33,965	6,728	0	0	216,933
2014年度	68,803	70,401	39,222	30,552	8,670	0	0	178,426
2015年度	153,107	58,001	47,376	36,236	7,707	3,433	0	258,484
2016年度	164,939	83,014	41,384	37,012	3,651	721	0	289,337
2017年度	80,032	52,420	70,786	62,534	6,851	1,401	0	203,238
2018年度	98,486	62,745	41,385	36,731	3,500	1,154	0	202,616
2019年度	139,510	51,489	39,746	34,703	3,914	1,129	0	230,745
2020年度	7,072	79,606	31,238	25,998	4,435	805	0	117,916
累計	2,465,974	1,539,191	829,247	632,577	165,079	21,091	10,500	4,834,412



(16) 事業費の財源比率

2020年度の事業費の財源比率を見ると、チケット収入が6.0%、市の補助金が67.5%、外部資金が26.5%となっている。2020年度では、新型コロナウイルスの影響により、チケット収入の割合が大幅に低く、市補助金の割合が開館以降で最も高くなっている。

	チケット収入	市補助金	外部資金
2003年度	54.1%	28.2%	17.7%
2004年度	43.2%	36.9%	19.9%
2005年度	37.0%	41.0%	22.0%
2006年度	61.4%	24.7%	13.8%
2007年度	52.4%	33.8%	13.8%
2008年度	42.2%	42.4%	15.4%
2009年度	65.2%	26.9%	7.9%
2010年度	68.1%	17.2%	14.7%
2011年度	52.9%	34.9%	12.2%
2012年度	46.6%	40.1%	13.2%
2013年度	51.6%	29.7%	18.8%
2014年度	38.6%	39.5%	22.0%
2015年度	59.2%	22.4%	18.3%
2016年度	57.0%	28.7%	14.3%
2017年度	39.4%	25.8%	34.8%
2018年度	48.6%	31.0%	20.4%
2019年度	60.5%	22.3%	17.2%
2020年度	6.0%	67.5%	26.5%
累計	51.0%	31.8%	17.2%



(17) 5か年毎の事業費の財源内訳

2003年度から2017年度までの15年間で3期に区分して財源の内訳の比率の平均を算出した。5か年毎の財源内訳の比率は増減しながら、チケット収入5割、市の補助金3割、外部資金2割の前後を推移している。

5か年毎の事業費の財源内訳の平均割合※

	チケット収入	市補助金	外部資金
第1期 平均 2003年度～2007年度	50.7%	32.2%	17.1%
第2期 平均 2008年度～2012年度	54.7%	32.7%	12.5%
第3期 平均 2013年度～2017年度	50.5%	28.6%	20.9%
2020年度	6.0%	67.5%	26.5%
参考: 全国平均試算値	36.6%	52.7%	10.7%

※平均割合は加重平均(5年間ごとに各収入の累計を収入全体の累計で割った数値)となっている。

(18) 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額

2020年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約3,218万円の減収、補助金等収入は約1,640万円の減収となっている。2020年度は新型コロナウイルスの影響により多くの事業が中止となり、事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。

(単位:千円)

	事業収入			補助金等収入		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	194,300 48.6%	215,389 54.1%	△ 21,089	205,700 51.4%	182,925 45.9%	22,775
2004年度	146,346 41.1%	145,429 43.2%	917	209,300 58.9%	191,198 56.8%	18,102
2005年度	130,500 37.3%	110,060 37.0%	20,440	219,500 62.7%	187,260 63.0%	32,240
2006年度	265,709 53.9%	263,901 61.4%	1,808	227,531 46.1%	165,880 38.6%	61,651
2007年度	212,173 50.2%	197,355 52.4%	14,818	210,800 49.8%	179,507 47.6%	31,293
2008年度	269,172 54.1%	135,979 42.2%	133,193	228,412 45.9%	186,433 57.8%	41,979
2009年度	157,949 44.7%	202,004 65.2%	△ 44,055	195,470 55.3%	107,763 34.8%	87,707
2010年度	110,503 43.9%	149,051 68.1%	△ 38,548	141,200 56.1%	69,798 31.9%	71,402
2011年度	140,284 45.8%	123,355 52.9%	16,929	166,136 54.2%	109,811 47.1%	56,325
2012年度	101,983 38.6%	99,616 46.6%	2,367	162,000 61.4%	114,003 53.4%	47,997
2013年度	84,322 36.7%	111,886 51.6%	△ 27,564	145,632 63.3%	105,047 48.4%	40,585
2014年度	46,545 27.2%	68,803 43.5%	△ 22,258	124,423 72.8%	89,336 56.5%	35,087
2015年度	155,232 56.2%	153,107 59.2%	2,125	120,780 43.8%	105,377 40.8%	15,403
2016年度	225,012 60.5%	164,939 57.0%	60,073	147,154 39.5%	124,398 43.0%	22,756
2017年度	90,332 36.0%	80,032 39.4%	10,300	160,689 64.0%	123,206 60.6%	37,483
2018年度	116,546 49.5%	98,486 48.6%	18,060	118,836 50.5%	104,130 51.4%	14,706
2019年度	127,701 51.6%	139,510 60.5%	△ 11,809	119,833 48.4%	91,235 39.5%	28,598
2020年度	39,250 23.6%	7,072 6.0%	32,178	127,247 76.4%	110,844 94.0%	16,403
累計	2,613,859 46.3%	2,465,974 51.2%	147,885	3,030,643 53.7%	2,348,151 48.8%	682,492

(19) 補助金等収入における市補助金と外部資金の内訳

2020年度の事業費について、補助金等収入の予算額と決算額の差異は市補助金収入で約541万円の減収、外部資金収入は約1,100万円の減収となっている。

(単位:千円)

	市補助金			外部資金		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	135,000 65.6%	112,225 61.4%	22,775	70,700 34.4%	70,700 38.6%	0
2004年度	135,000 64.5%	124,198 65.0%	10,802	74,300 35.5%	67,000 35.0%	7,300
2005年度	151,000 68.8%	121,965 65.1%	29,035	68,500 31.2%	65,295 34.9%	3,205
2006年度	145,000 63.7%	106,363 64.1%	38,637	82,531 36.3%	59,517 35.9%	23,014
2007年度	149,000 70.7%	127,456 71.0%	21,544	61,800 29.3%	52,051 29.0%	9,749
2008年度	149,000 65.2%	136,854 73.4%	12,146	79,412 34.8%	49,579 26.6%	29,833
2009年度	135,000 69.1%	83,331 77.3%	51,669	60,470 30.9%	24,432 22.7%	36,038
2010年度	108,000 76.5%	37,726 54.1%	70,274	33,200 23.5%	32,072 45.9%	1,128
2011年度	128,000 77.0%	81,302 74.0%	46,698	38,136 23.0%	28,509 26.0%	9,627
2012年度	128,000 79.0%	85,741 75.2%	42,259	34,000 21.0%	28,262 24.8%	5,738
2013年度	111,000 76.2%	64,354 61.3%	46,646	34,632 23.8%	40,693 38.7%	△ 6,061
2014年度	89,284 71.8%	50,114 56.1%	39,170	35,139 28.2%	39,222 43.9%	△ 4,083
2015年度	82,588 68.4%	58,001 55.0%	24,587	38,192 31.6%	47,376 45.0%	△ 9,184
2016年度	99,989 67.9%	83,014 66.7%	16,975	47,165 32.1%	41,384 33.3%	5,781
2017年度	94,576 58.9%	52,420 42.5%	42,156	66,113 41.1%	70,786 57.5%	△ 4,673
2018年度	81,116 68.3%	62,745 60.3%	18,371	37,720 31.7%	41,385 39.7%	△ 3,665
2019年度	71,668 59.8%	51,489 56.4%	20,179	48,165 40.2%	39,746 43.6%	8,419
2020年度	85,011 66.8%	79,606 71.8%	5,405	42,236 33.2%	31,238 28.2%	10,998
累計	2,078,232 68.6%	1,518,904 64.7%	559,328	952,411 31.4%	829,247 35.3%	123,164

(20) 5か年毎の事業費の財源内訳

2003年度から2017年度までの15年間で5か年毎で3期に区分して事業収入、補助金等収入の予算額・決算額比率の平均を算出した。5か年毎の事業収入と補助金等収入の比率は増減しながら、事業収入5割、補助金等収入5割の前後を推移している。

事業収入、補助金等収入の予算額・決算額のバランス※

	事業収入		補助金等収入	
	予算額	決算額	予算額	決算額
第1期 平均 2003年度～2007年度	46.9%	50.7%	53.1%	49.3%
第2期 平均 2008年度～2012年度	46.6%	54.7%	53.4%	45.3%
第3期 平均 2013年度～2017年度	46.3%	51.4%	53.7%	48.6%
2020年度	23.6%	6.0%	76.4%	94.0%

※平均割合は加重平均(5年間ごとに各収入の累計を収入全体の累計で割った数値)となっている。

II

觀客調查結果

序 観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2020年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演11公演
- 配布・回収方法:各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2020年10月9日～2021年2月21日
- 有効回答数:457、回収率:10.0%(配布数:4,658件)
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資 I -1のとおりである。

図表-資 I -1 アンケート調査実施公演一覧

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布日	配布数	回収数	回収率(%)
ケリ研究室 no.1「ベインタウンの女神」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/9～10	1,145	132	12.0%
モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」 ～庭師は見た！～	大ホール	音楽劇	10/18	539	47	9.0%
「ゲルニカ」	大ホール	小劇場・現代演劇	10/31～11/1	1,329	110	8.0%
「詩、踊る」	中劇場	ダンス・現代舞踊	11/7	262	21	8.0%
飛ぶ劇場 Vol.42「ガググゲグ妖怪倍々禁」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/4～6	300	43	14.0%
Theatre Park 「月夜のファウスト」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/7～8	90	9	10.0%
フアン・シェニョー&ニコ・レネ「不確かなロマンス —もう一人のオーランドー—	中劇場	ダンス・現代舞踊	12/23	217	23	11.0%
子どもと大人のためのダンス「日本昔ばなしのダンス」	中劇場	ダンス・現代舞踊	1/16	115	14	12.0%
「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	中劇場	音楽劇	1/24	218	18	8.0%
二兎社「ザ・空気 ver.3」	中劇場	小劇場・現代演劇	2/4	265	24	9.0%
「Re:北九州の記憶」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/20～21	178	16	9.0%
計	—	—	—	4,658	457	10.0%

(注)配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル(調査票の右肩に記載されている公演名から分類)
- 情報入手経路、公演に来た理由
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験
- 来場の妨げになっていること
- 基本属性(性別、年齢層、居住エリア)

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

①来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「音楽劇」、「ダンス・現代舞踊」の3つのジャンルに分類した(例年では「ミュージカル・商業演劇」、「古典芸能(歌舞伎・能等)」、「パフォーマンス」を加えて集計しているが、2020年度は当該分野の事業が行われなかった)。
- 調査対象11公演のジャンル分類は図表-資 I -1にも記しているとおり、
 - 小劇場・現代演劇： 6公演 ※下記他ジャンルの5公演以外
 - 音楽劇： 2公演…モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た！～／「ピーター&ザ・スターキャッチャー」
 - ダンス・現代舞踊： 3公演…「詩、踊る」／フランソワ・シェニョー&ニノ・レネ「不確かなロマンスーもう一人のオーランドー」／子どもと大人のためのダンス「日本昔ばなしのダンス」

となっている。

※20年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が例年多いことを考えると、20年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

②年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」の4つを集計・分析の柱(基本分析軸)として設定した。
- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資 I -2のとおりである。

図表-資 I -2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全 体		457	—
来場公演の ジャンル n=457	小劇場・現代演劇	334	73.1%
	音楽劇	65	14.2%
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0%
	古典芸能(歌舞伎・能等)	0	0.0%
	ダンス・現代舞踊	58	12.7%
	パフォーマンス	0	0.0%
性別 n=431	男性	89	20.6%
	女性	342	79.4%
年齢層 n=373	18歳未満	10	2.7%
	18～29歳	60	16.1%
	30歳代	54	14.5%

	40歳代	97	26.0%
	50歳代	90	24.1%
	60歳以上	62	16.6%
北九州芸術劇場 での鑑賞経験 n=434	今日が初めて	92	21.2%
	1～2回	42	9.7%
	3～5回	79	18.2%
	6～10回	63	14.5%
	11回以上	158	36.4%

(注1) 基本分析軸に無回答は含まない。

(注2) 無回答の件数は、性別:26件、年齢層:84件、北九州芸術劇場での鑑賞経験:23件である。

1 属性

回答者の性別は、「男性」が20.6%、「女性」が79.4%と、「女性」の割合が高い。

		全体	Q12性別【除無回答、単一回答】	
			男性	女性
全体		431	20.6	79.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	321	21.2	78.8
	音楽劇	58	17.2	82.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	52	21.2	78.8
	パフォーマンス	0	0.0	0.0
性別	男性	89	100.0	0.0
	女性	342	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	10	30.0	70.0
	18～29歳	60	20.0	80.0
	30歳代	54	24.1	75.9
	40歳代	97	14.4	85.6
	50歳代	90	30.0	70.0
	60歳以上	62	24.2	75.8
鑑賞経験	今日が初めて	91	16.5	83.5
	1～2回	42	26.2	73.8
	3～5回	78	20.5	79.5
	6～10回	62	25.8	74.2
	11回以上	155	20.0	80.0

※n=431は、無回答(26件)を除く。

※表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

[来場公演のジャンル別]

- いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。

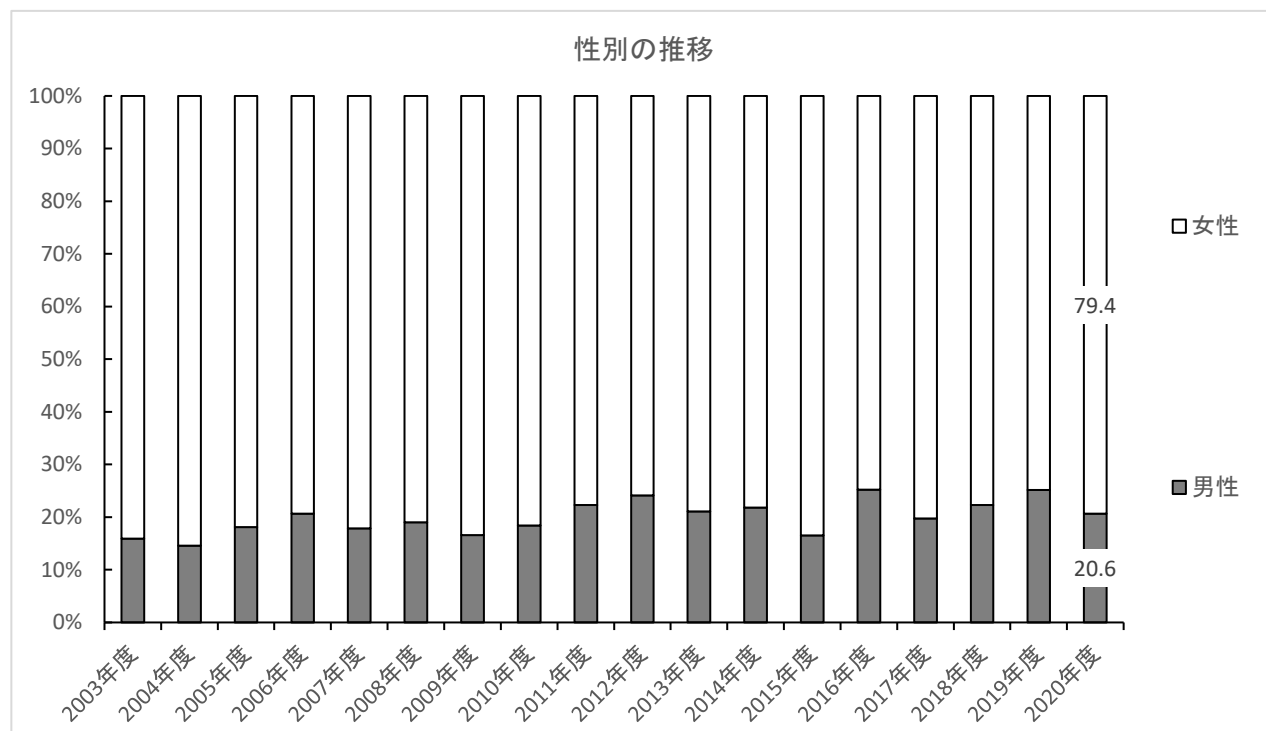
[年齢別]

- いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。「18歳未満」と「50歳代」で「男性」の割合が30.0%と他の年齢層に比べて高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高い。「1～2回」では「男性」の割合が26.2%と他の鑑賞経験に比べて高い。

性別の割合の推移を見ると、「女性」は7割から8割、「男性」は2割から3割のあいだを増減している。



回答者の平均年齢は44.4歳。「40歳代」が26.0%と最も割合が高い。「50歳代」が24.1%、「60歳以上」が16.6%、「18～29歳」が16.1%、「30歳代」が14.5%、「18歳未満」が2.7%と、幅広い年齢層の観客が来場している。

		全体	Q13-1年齢階層【除無回答、単一回答】						平均年齢
			18歳未満	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
全体		373	2.7	16.1	14.5	26.0	24.1	16.6	44.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	272	1.8	18.0	16.5	23.9	24.6	15.1	43.4
	音楽劇	55	1.8	10.9	10.9	29.1	23.6	23.6	47.9
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	46	8.7	10.9	6.5	34.8	21.7	17.4	45.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	84	3.6	14.3	15.5	16.7	32.1	17.9	45.6
	女性	289	2.4	16.6	14.2	28.7	21.8	16.3	44.0
年齢層	18歳未満	10	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	18～29歳	60	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.6
	30歳代	54	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	34.3
	40歳代	97	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	44.9
	50歳代	90	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	54.6
	60歳以上	62	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	65.0
鑑賞経験	今日が初めて	74	1.4	24.3	20.3	23.0	18.9	12.2	40.2
	1～2回	39	5.1	48.7	10.3	10.3	17.9	7.7	33.7
	3～5回	67	4.5	17.9	20.9	28.4	13.4	14.9	42.2
	6～10回	58	1.7	12.1	24.1	17.2	31.0	13.8	45.2
	11回以上	132	1.5	3.0	5.3	34.8	31.1	24.2	50.9

※n=373は、無回答(84件)を除く。

【来場公演のジャンル別】

- 平均年齢が最も高いのは「音楽劇」の47.9歳、最も低いのは「小劇場・現代演劇」の43.4歳となっている。

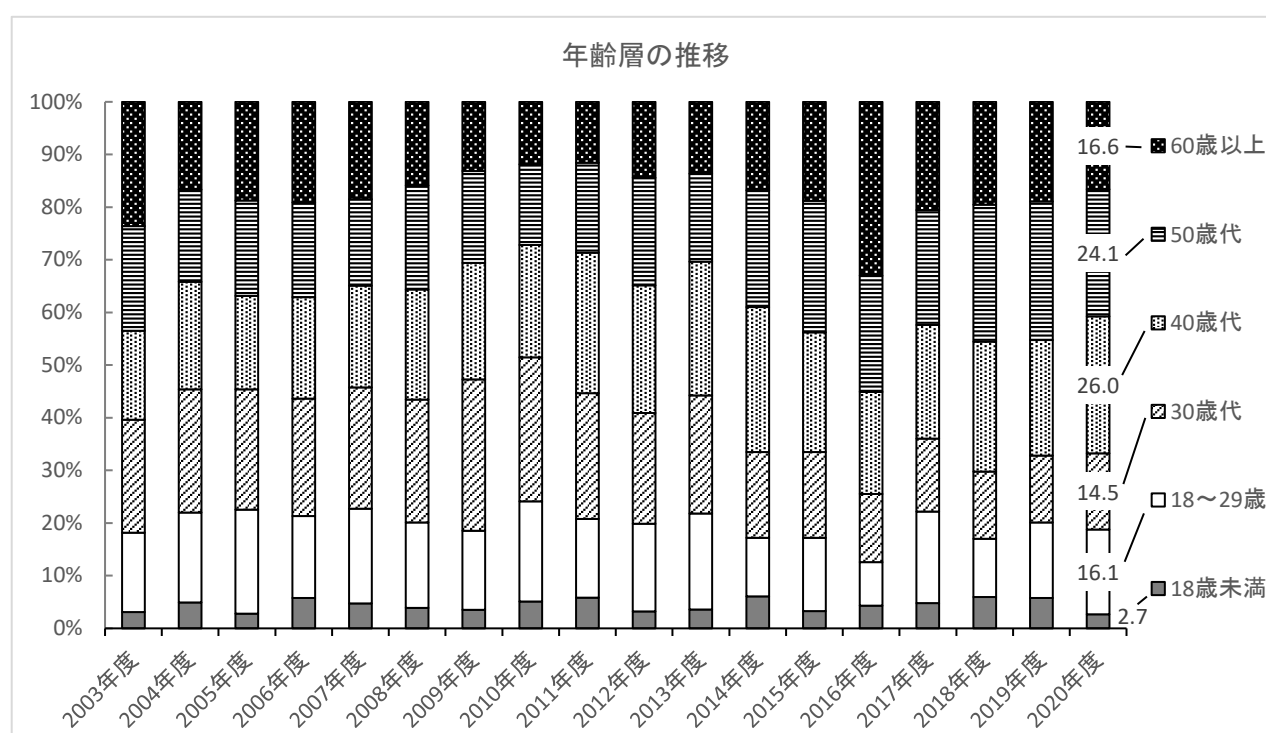
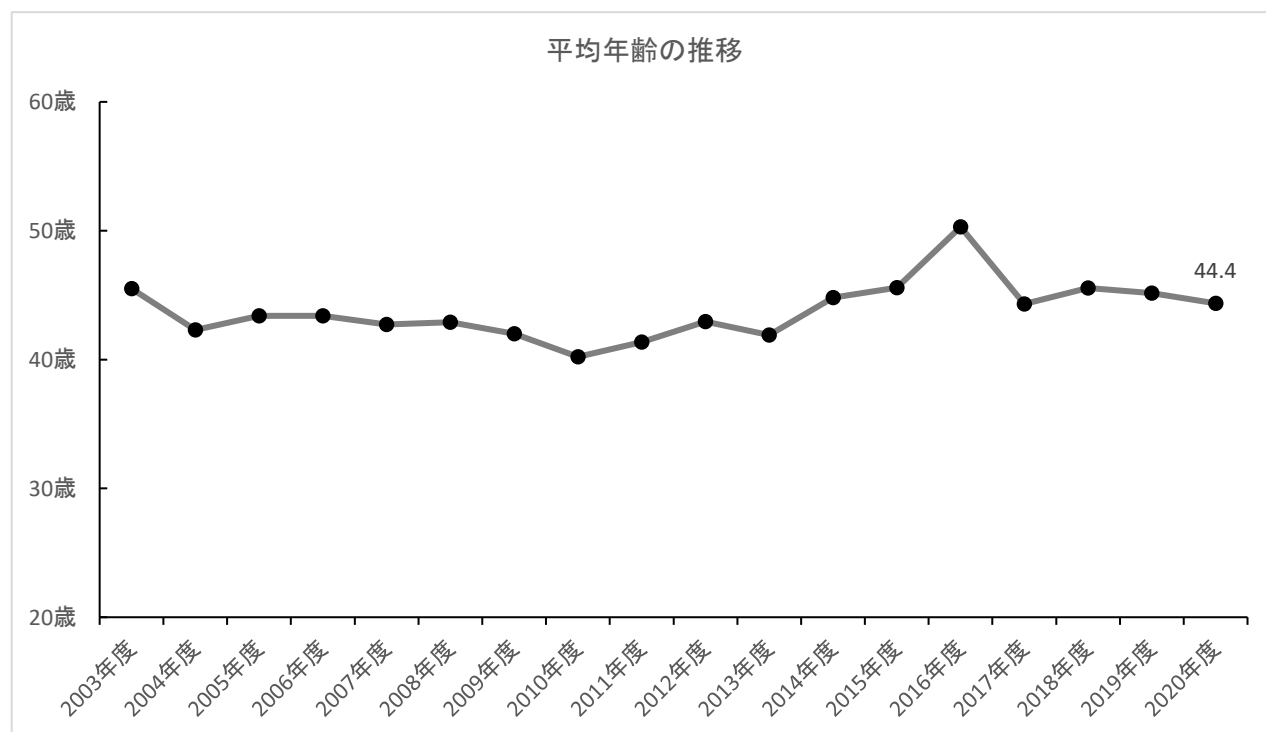
【性別】

- 平均年齢は、「男性」が45.6歳、「女性」が44.0歳と、男性の平均年齢が若干高い。
- 「男性」では「50歳代」の割合が女性に比べて高い。

【北九州芸術劇場での鑑賞経験別】

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど概ね平均年齢が高い。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が2回以下の回答者では、「18～29歳」の割合が高い。

年齢層の割合の推移を見ると、2016年度が最も平均年齢が高く50.3歳となったが、それ以外は40歳代で推移している。年齢層の推移を見ると、2004年度から2010年度までは「30歳代」が最も高い割合だったが、2011年度以降は最も割合の高い年齢層が「40歳代」から「50歳代」へと移行している。



回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が46.0%（「北九州市」：40.5%、北九州市周辺：5.5%）を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は39.8%となっている。福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（10件）、佐賀県（7件）、熊本県（6件）、長崎県（1件）、宮崎県（1件）等の記載がある。九州・山口以外では、東京都、兵庫県、広島県、愛媛県、北海道、神奈川県、大阪府の回答もある。

		全体	Q11居住エリア【単一回答】							北九州市+周辺	北九州市+周辺以外のエリア
			北九州市	北九州市周辺	福岡市+周辺	北九州・福岡周辺以外の九州	山口県	その他	無回答		
	全体	457	40.5	5.5	16.4	10.9	8.1	4.4	14.2	46.0	39.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	38.6	5.1	16.8	10.8	7.8	5.4	15.6	43.7	40.7
	音楽劇	65	46.2	4.6	16.9	9.2	12.3	1.5	9.2	50.8	40.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	44.8	8.6	13.8	13.8	5.2	1.7	12.1	53.4	34.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	55.1	2.2	21.3	7.9	7.9	3.4	2.2	57.3	40.4
	女性	342	39.2	6.4	16.1	12.0	8.8	5.0	12.6	45.6	41.8
年齢層	18歳未満	10	60.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	70.0	20.0
	18～29歳	60	31.7	5.0	15.0	18.3	6.7	3.3	20.0	36.7	43.3
	30歳代	54	51.9	7.4	14.8	16.7	0.0	1.9	7.4	59.3	33.3
	40歳代	97	39.2	4.1	17.5	13.4	12.4	6.2	7.2	43.3	49.5
	50歳代	90	44.4	1.1	25.6	4.4	12.2	6.7	5.6	45.6	48.9
	60歳以上	62	51.6	9.7	6.5	9.7	8.1	4.8	9.7	61.3	29.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	17.4	6.5	22.8	9.8	7.6	10.9	25.0	23.9	51.1
	1～2回	42	35.7	4.8	19.0	14.3	7.1	11.9	7.1	40.5	52.4
	3～5回	79	50.6	3.8	17.7	15.2	2.5	2.5	7.6	54.4	38.0
	6～10回	63	60.3	4.8	11.1	9.5	4.8	1.6	7.9	65.1	27.0
	11回以上	158	47.5	5.7	15.8	10.8	13.9	1.3	5.1	53.2	41.8

※小数点第2位以下を四捨五入しているため、「北九州市+周辺」、「北九州市+周辺以外のエリア」の数値が各データの計と合わない箇所がある。次頁以降の計の数値でも同様である。

〔来場公演のジャンル別〕

- ・ジャンルを問わず「北九州市」の占める割合が最も高く、大きな差はない。

〔性別〕

- ・性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高いものの、性別で大きな差はない。

〔年齢別〕

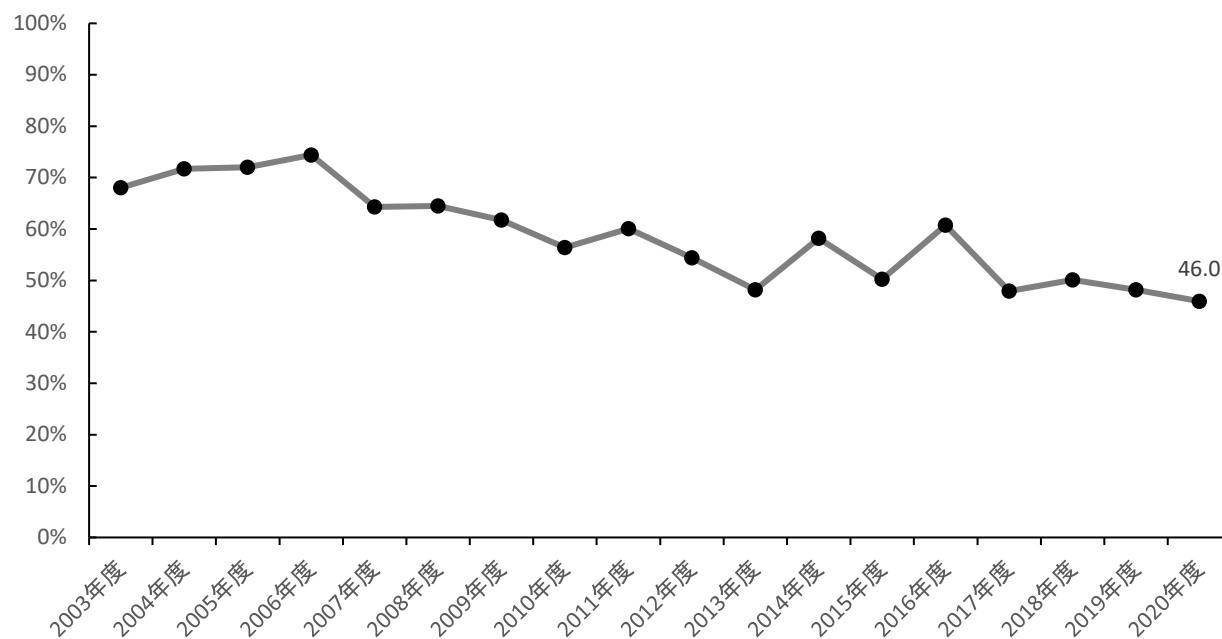
- ・「北九州市」の割合は、「18歳未満」で高く、60.0%となっている。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

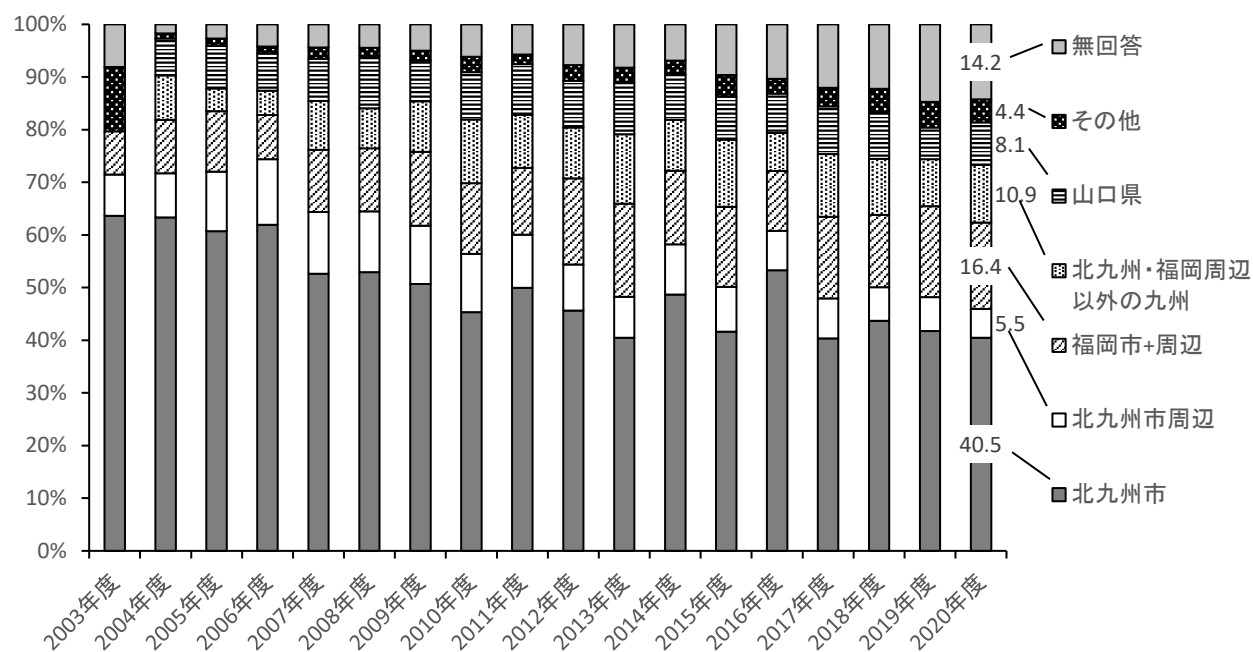
- ・「6～10回」の来場者は60.3%が「北九州市」の居住となっている。

居住エリアの推移を見ると、北九州市及び周辺の来場者は開館当初は7割から8割だったが、徐々に北九州市及び周辺以外からの来場者の割合の割合が伸びており、2014年度以降は北九州市及び周辺地域が5割から6割を推移している。2020年度は開館以降で最も北九州市及び周辺地域の割合が低い。

居住エリア（北九州市+周辺の割合）の推移



居住エリアの推移



(4) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が73.1%である。そのほかのジャンルについては、「音楽劇」が14.2%、「ダンス・現代舞踊」が12.7%となっている。

※ 2020年度のアンケート配布11公演のうち、「小劇場・現代演劇」が6公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。

	調査数 (n)	ジャンル【単一選択】						(単位: %)
		小劇場・ 現代演劇	音楽劇	ミュージ カル・商 業演劇	古典芸能 (歌舞伎・ 能)	ダンス・ 現代舞踊	パフォー マンス	
全体	457	73.1	14.2	0.0	0.0	12.7	0.0	
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	音楽劇	65	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	58	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	89	76.4	11.2	0.0	0.0	12.4	0.0
	女性	342	74.0	14.0	0.0	0.0	12.0	0.0
年齢層	18歳未満	10	50.0	10.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	18～29歳	60	81.7	10.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	30歳代	54	83.3	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0
	40歳代	97	67.0	16.5	0.0	0.0	16.5	0.0
	50歳代	90	74.4	14.4	0.0	0.0	11.1	0.0
	60歳以上	62	66.1	21.0	0.0	0.0	12.9	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	78.3	13.0	0.0	0.0	8.7	0.0
	1～2回	42	76.2	14.3	0.0	0.0	9.5	0.0
	3～5回	79	75.9	13.9	0.0	0.0	10.1	0.0
	6～10回	63	76.2	9.5	0.0	0.0	14.3	0.0
	11回以上	158	70.9	15.2	0.0	0.0	13.9	0.0

[性別]

- 性別で顕著な差は見当たらない。

[年齢別]

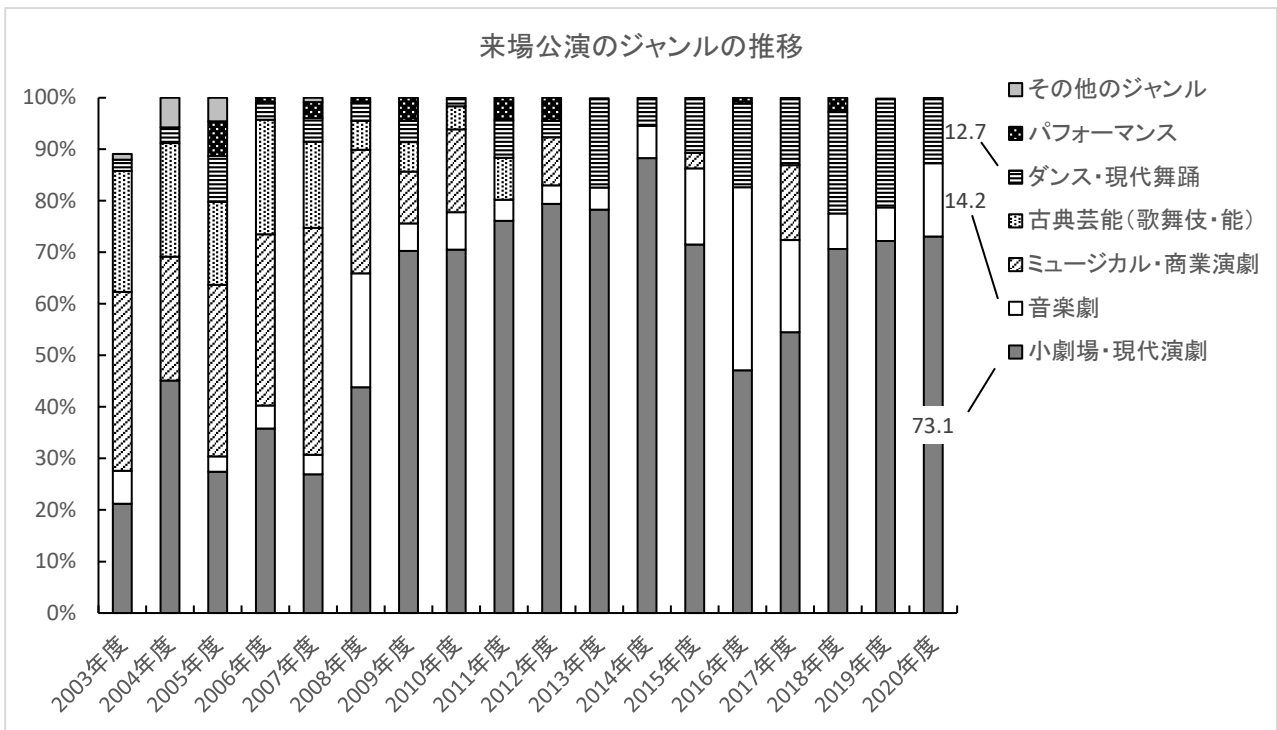
- すべての年代で「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に「30歳代」と「18～29歳」で高い。
- 「18歳未満」では「ダンス・現代舞踊」の割合が40.0%と他の年齢層に比べて高い。

[北九州芸術芸場での鑑賞経験別]

- すべて鑑賞経験の頻度で「小劇場・現代演劇」の割合が最も高くなっている。

(4) 来場公演のジャンル

過去調査と比較して、2007年度までは「ミュージカル・商業演劇」の割合が大きかったが、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加しており、14年度が最も高くなっている。
2013年度以降、年度によって増減はあるものの「ダンス・現代舞踊」の割合が増加する傾向にある。



(5) 北九州芸術劇場での鑑賞経験

Q8

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が34.6%と最も高い。次いで、「今日が初めて」(20.1%)、「3～5回」(17.3%)、「6～10回」(13.8%)、「1～2回」(9.2%)となっており、「11回以上」が3分の1を超える割合となっている。

		調査数 (n)	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験【単一回答】（単位：%）						6回以上の割合
			今日が初めて	1～2回	3～5回	6～10回	11回以上	無回答	
全体		457	20.1	9.2	17.3	13.8	34.6	5.0	48.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	21.6	9.6	18.0	14.4	33.5	3.0	47.9
	音楽劇	65	18.5	9.2	16.9	9.2	36.9	9.2	46.2
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	13.8	6.9	13.8	15.5	37.9	12.1	53.4
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	16.9	12.4	18.0	18.0	34.8	0.0	52.8
	女性	342	22.2	9.1	18.1	13.5	36.3	0.9	49.7
年齢層	18歳未満	10	10.0	20.0	30.0	10.0	20.0	10.0	30.0
	18～29歳	60	30.0	31.7	20.0	11.7	6.7	0.0	18.3
	30歳代	54	27.8	7.4	25.9	25.9	13.0	0.0	38.9
	40歳代	97	17.5	4.1	19.6	10.3	47.4	1.0	57.7
	50歳代	90	15.6	7.8	10.0	20.0	45.6	1.1	65.6
	60歳以上	62	14.5	4.8	16.1	12.9	51.6	0.0	64.5
鑑賞経験	今日が初めて	92	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1～2回	42	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5回	79	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6～10回	63	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	158	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0

[来場公演のジャンル別]

- いずれのジャンルも、「11回以上」の割合が最も高い。
- 「小劇場・現代演劇」では「今日が初めて」が21.6%と他のジャンルに比べて高い。

[性別]

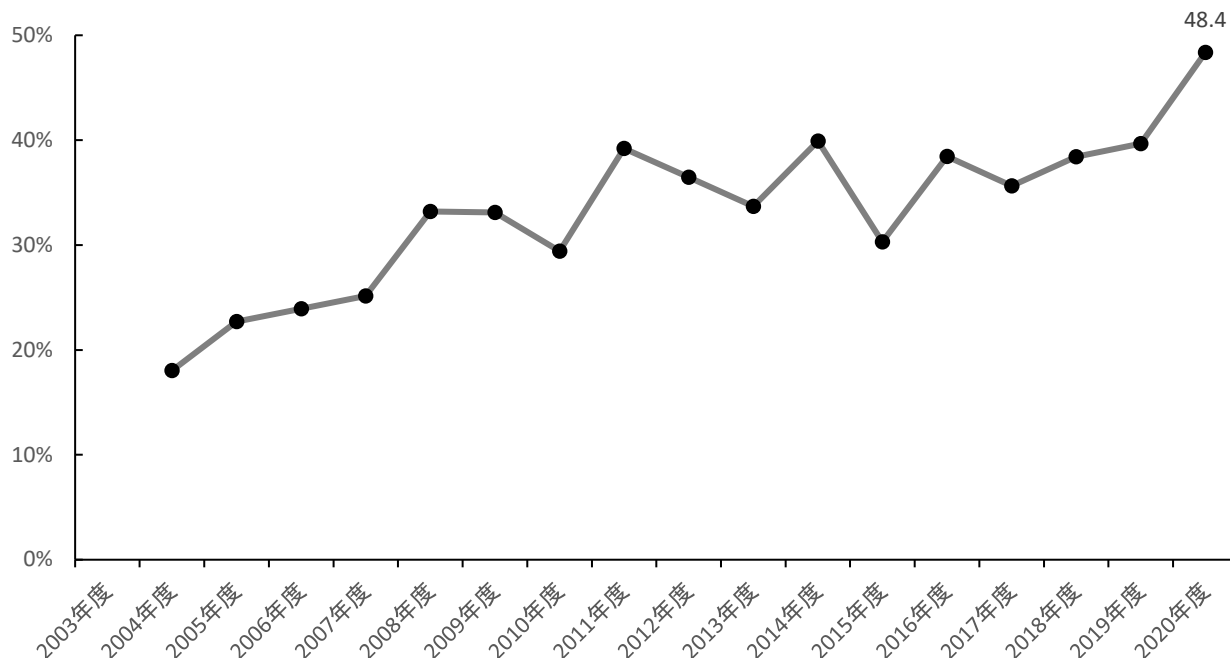
- 性別で顕著な傾向はみられない。

[年齢別]

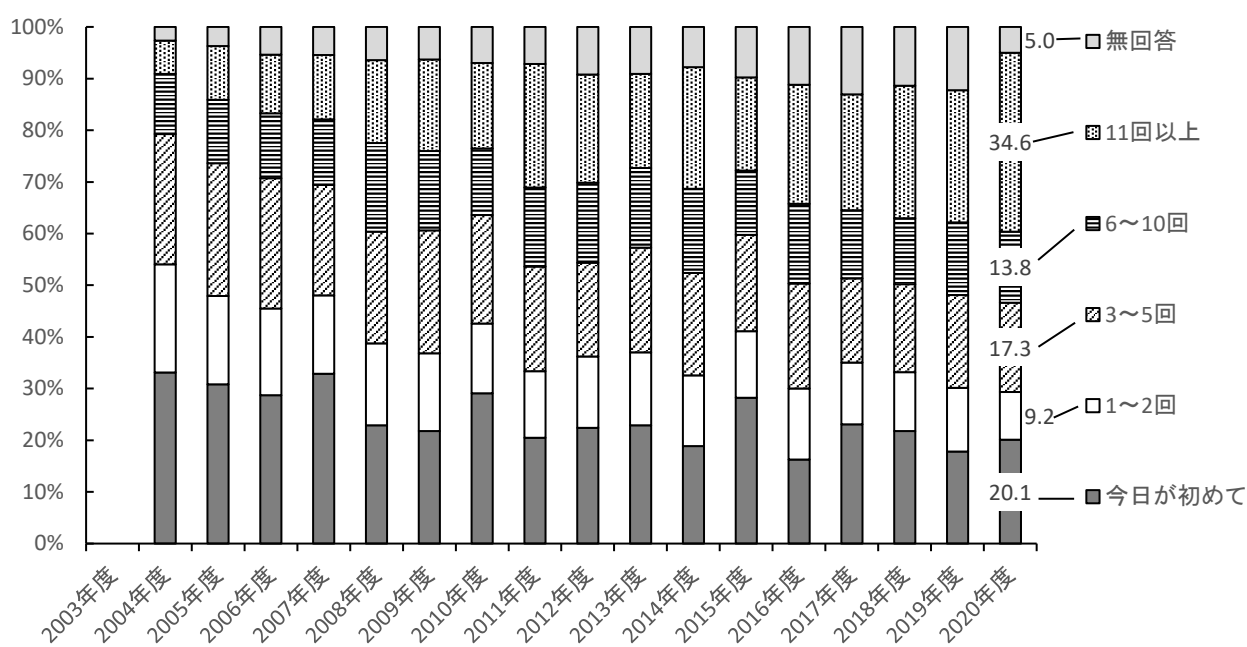
- 「18歳未満」では「3～5回」、「18～29歳」では「1～2回」、「30歳代」では「今日が初めて」の割合が最も高く、「40歳代」以上のグループは「11回以上」の割合が最も高い。

北九州芸術劇場の鑑賞経験が6回以上の割合の推移を見ると、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と減少し、11年度以降は、6回以上の割合が30%から40%の間を増減している。2020年度の6回以上の割合は48.4%と過去最高となっている。

北九州芸術劇場での鑑賞経験(6回以上の割合)の推移



北九州芸術劇場での鑑賞経験の推移



2 本日の公演や劇場に関する意見

(1) 公演情報の入手経路

Q1

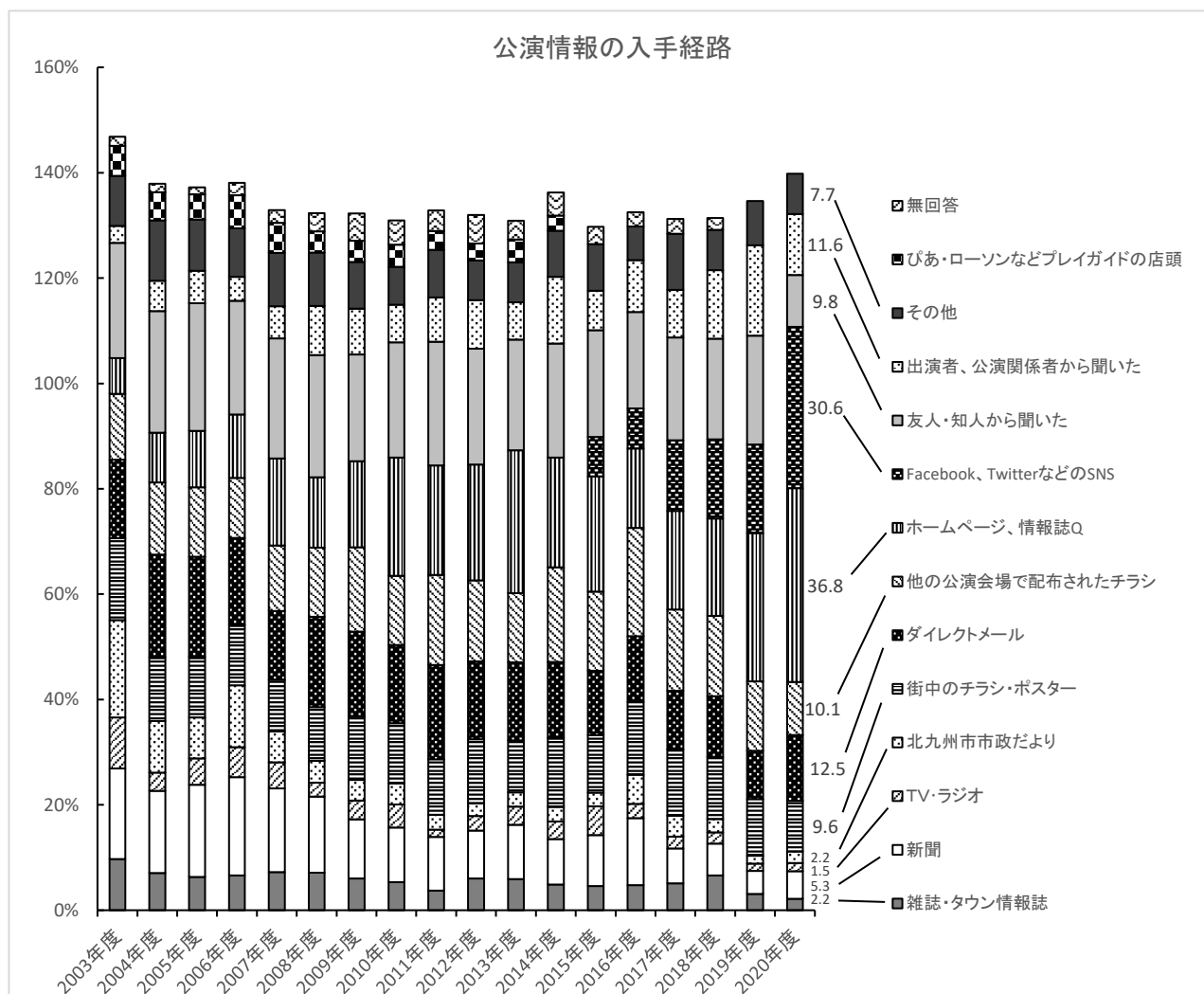
公演情報の入手経路については、「ホームページ、情報誌Q」が36.8%、続いて「Facebook、TwitterなどのSNS」(30.6%)、「ダイレクトメール」が12.5%、「出演者、公演関係者から聞いた」が11.6%となっており、例年に比べて「ホームページ、情報誌Q」と「Facebook、TwitterなどのSNS」が非常に多くなっている。「その他」(7.7%)の具体的な書き込みをみると、ファンクラブが多い。

※15年度から、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「びあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」を削除した。

※19年度は、18年度以前の調査で使用していた選択肢「ホームページ・ブログ」を「ホームページ、情報誌Q」に変更した。

		調査数（n）	Q1公演情報の入手経路【複数回答】											(単位: %)	
			雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	ホームページ、情報誌Q	Facebook、TwitterなどのSNS	友人・知人から聞いた	出演者、公演関係者から聞いた	その他	無回答
全体		457	2.2	5.3	1.5	2.2	9.6	12.5	10.1	36.8	30.6	9.8	11.6	7.7	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	1.5	3.9	1.5	1.2	6.3	12.0	10.2	36.5	34.7	8.7	13.2	9.3	0.0
	音楽劇	65	4.6	6.2	3.1	1.5	10.8	13.8	12.3	41.5	24.6	10.8	12.3	3.1	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	3.4	12.1	0.0	8.6	27.6	13.8	6.9	32.8	13.8	15.5	1.7	3.4	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	5.6	9.0	3.4	3.4	9.0	16.9	10.1	38.2	25.8	9.0	16.9	6.7	0.0
	女性	342	1.5	3.8	1.2	2.0	10.2	11.1	10.2	37.7	33.3	10.2	11.1	7.9	0.0
年齢層	18歳未満	10	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	10.0	10.0	30.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0
	18～29歳	60	3.3	0.0	1.7	1.7	8.3	11.7	6.7	18.3	46.7	10.0	11.7	13.3	0.0
	30歳代	54	1.9	7.4	3.7	1.9	16.7	16.7	18.5	37.0	42.6	9.3	14.8	3.7	0.0
	40歳代	97	1.0	3.1	1.0	1.0	11.3	7.2	5.2	45.4	32.0	8.2	10.3	4.1	0.0
	50歳代	90	4.4	4.4	1.1	3.3	6.7	13.3	6.7	47.8	28.9	11.1	17.8	6.7	0.0
	60歳以上	62	3.2	14.5	1.6	1.6	11.3	14.5	16.1	38.7	6.5	12.9	8.1	11.3	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	2.2	5.4	2.2	2.2	6.5	6.5	6.5	10.9	35.9	13.0	20.7	9.8	0.0
	1～2回	42	0.0	2.4	0.0	0.0	7.1	9.5	2.4	21.4	42.9	9.5	9.5	11.9	0.0
	3～5回	79	5.1	3.8	3.8	2.5	7.6	8.9	3.8	30.4	30.4	8.9	12.7	11.4	0.0
	6～10回	63	0.0	6.3	0.0	3.2	17.5	14.3	15.9	38.1	42.9	9.5	15.9	9.5	0.0
	11回以上	158	2.5	5.1	1.3	2.5	10.8	17.1	15.2	61.4	22.8	9.5	6.3	3.2	0.0

2011年度以降は「ホームページ、ブログ」と「友人・知人から聞いた」と最上位が年によって入れ替わっている。16年度は初めて「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い割合となった。一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク（18.7%）として減少、19年度はこれまでで最も低くなった（4.4%）。2020年度は「ホームページ、情報誌Q」と「Facebook、TwitterなどのSNS」が前年度に比べて大幅に増加している。



〔来場公演のジャンル別〕

- 公演情報の入手経路は、「ダンス・現代舞踊」では他のジャンルに比べて「街中のチラシ・ポスター」の割合も高い。

〔性別〕

- 性別で顕著な傾向はみられない。

〔年齢別〕

- 公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、「18歳未満」では「街中のチラシ・ポスター」と「ホームページ、情報誌Q」、「18～29歳」と「30歳代」では「Facebook、TwitterなどのSNS」、それ以外の年齢層では「ホームページ、情報誌Q」が最も高い。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が「11回以上」では「ホームページ、情報誌Q」の割合が61.4%と非常に高い割合となっている。

(2) 公演に来た理由

Q2

公演に来た理由については、「出演者が好きだから」が65.2%、「公演内容が面白そうだったから」が53.2%となっている。

		調査数 (n)	Q2公演に来た理由【複数回答】									(単位: %)	
			から出演者等が好きだ	から出演者等が有名だ	う公演内容が面白そう	かつ劇場に来てみた	から劇場が近くだった	出演者や関係者が知り合いだから	人に誘われたから	催しも九州芸術劇場の	その他	無回答	
全体		457	65.2	11.2	53.2	9.6	12.3	6.6	3.9	15.8	5.0	0.0	
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	73.4	12.9	47.3	10.5	12.9	7.5	4.2	15.3	1.5	0.0	
	音楽劇	65	50.8	10.8	67.7	7.7	15.4	4.6	3.1	18.5	15.4	0.0	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	58	34.5	1.7	70.7	6.9	5.2	3.4	3.4	15.5	13.8	0.0	
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	89	65.2	13.5	57.3	11.2	7.9	18.0	3.4	21.3	4.5	0.0	
	女性	342	68.1	11.1	53.5	9.4	13.2	4.1	4.1	14.3	5.3	0.0	
年齢層	18歳未満	10	40.0	0.0	40.0	10.0	30.0	0.0	10.0	30.0	20.0	0.0	
	18～29歳	60	75.0	13.3	46.7	23.3	18.3	10.0	5.0	11.7	1.7	0.0	
	30歳代	54	66.7	13.0	59.3	13.0	18.5	11.1	5.6	11.1	5.6	0.0	
	40歳代	97	72.2	10.3	62.9	4.1	8.2	4.1	2.1	19.6	4.1	0.0	
	50歳代	90	71.1	13.3	55.6	10.0	8.9	7.8	3.3	20.0	6.7	0.0	
	60歳以上	62	41.9	8.1	46.8	3.2	11.3	3.2	4.8	16.1	8.1	0.0	
鑑賞経験	今日が初めて	92	75.0	8.7	39.1	19.6	12.0	5.4	8.7	6.5	5.4	0.0	
	1～2回	42	66.7	7.1	59.5	16.7	11.9	9.5	2.4	7.1	2.4	0.0	
	3～5回	79	62.0	10.1	55.7	8.9	13.9	11.4	3.8	13.9	6.3	0.0	
	6～10回	63	68.3	20.6	66.7	3.2	14.3	9.5	6.3	22.2	7.9	0.0	
	11回以上	158	65.8	12.0	57.0	5.1	10.8	3.8	1.3	22.8	3.8	0.0	

[来場公演のジャンル別]

- 公演に来た理由は、ジャンルによって特徴があり、
 - 小劇場・現代演劇:「出演者等が好きだから」(73.4%)
 - 音楽劇:「公演内容が面白そうだったから」(67.7%)
 - ダンス・現代舞踊:「公演内容が面白そうだったから」(70.7%)

の割合が最も高い。

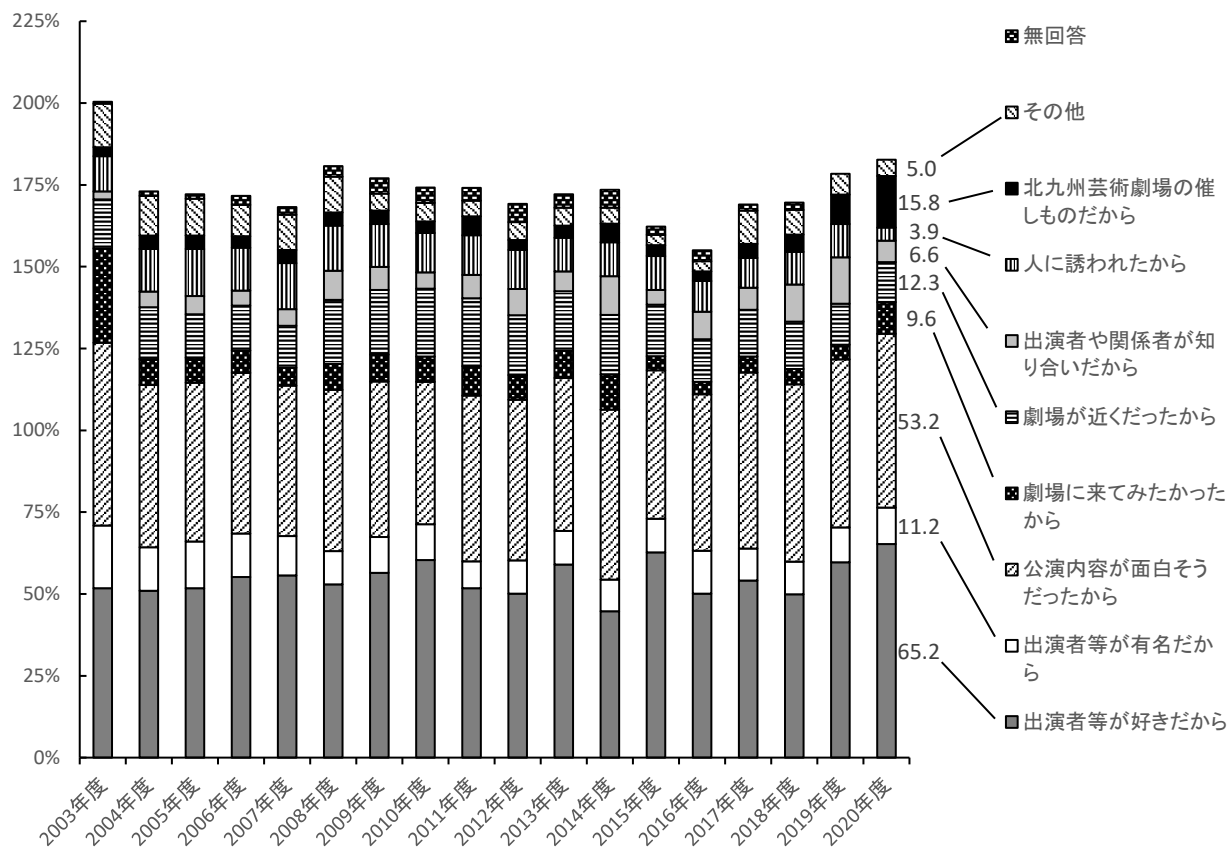
[性別]

- 「女性」に比べて「男性」の割合が顕著に高いのは、「出演者や関係者が知り合いだから」(18.0%)と「北九州芸術劇場の催しものだから」(21.3%)となっている。

[年齢別]

- 「60歳以上」では「出演者等が好きだから」よりも「公演内容が面白そうだったから」の割合が高くなっている。

「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは03年度、14年度、18年度の3回となっている。過去調査と比較して、20年度は「出演者等が好きだから」が過去最高の割合となった（15年度は62.7%、20年度は65.2%）。また、例年は「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合は1割を下回っていたが、20年度は15.8%となっているのが特徴的である。



[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 「今日が初めて」では「出演者等が好きだから」の割合が他の項目よりも高くなっている。
- 鑑賞経験が多いほど「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合が高く、鑑賞経験が少ないほど「劇場に来てみたかったから」の割合はおおむね高くなっている。

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は62.1%である。飲食をしている場合の平均金額は1967.4円、ショッピングをしている場合の平均金額は2859.5円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額は増加し、ショッピング平均額は減少している。

(単位: %)					(単位: 円)		
		調査数 (n)	Q6公演前後の飲食・ショッピング 【単一回答】			飲食をして いる場合の 平均金額 (n=252)	ショッピングを している場 合の平均金 額 (n=222)
			はい	いいえ	無回答		
全体		457	62.1	31.9	5.9	1967.4	2859.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	65.6	30.5	3.9	1861.9	2951.5
	音楽劇	65	47.7	41.5	10.8	2771.8	1238.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	58.6	29.3	12.1	1960.0	3885.4
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	61.8	38.2	0.0	2329.6	4040.8
	女性	342	66.1	31.6	2.3	1881.3	2611.1
年齢層	18歳未満	10	40.0	50.0	10.0	1116.7	3100.0
	18～29歳	60	70.0	30.0	0.0	2242.7	2956.3
	30歳代	54	83.3	16.7	0.0	1484.1	1987.5
	40歳代	97	67.0	32.0	1.0	2019.6	2613.6
	50歳代	90	63.3	33.3	3.3	2332.1	4485.9
	60歳以上	62	58.1	38.7	3.2	1941.9	3000.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	65.2	34.8	0.0	2490.9	3728.1
	1～2回	42	61.9	38.1	0.0	1461.0	1522.8
	3～5回	79	55.7	43.0	1.3	2207.4	2767.2
	6～10回	63	71.4	28.6	0.0	1693.5	1620.3
	11回以上	158	67.7	28.5	3.8	1858.2	3185.5

[来場公演のジャンル別]

- 飲食・ショッピングの割合は「小劇場・現代演劇」が高い。飲食をしている場合の平均額は「音楽劇」が、ショッピングをしている場合の平均金額では「ダンス・現代演劇」が高い。

[性別]

- 飲食やショッピングをしている割合は、「男性」が61.8%、「女性」が66.1%と「女性」の方が高い。平均金額では飲食・ショッピングともに「男性」が「女性」を上回っている。

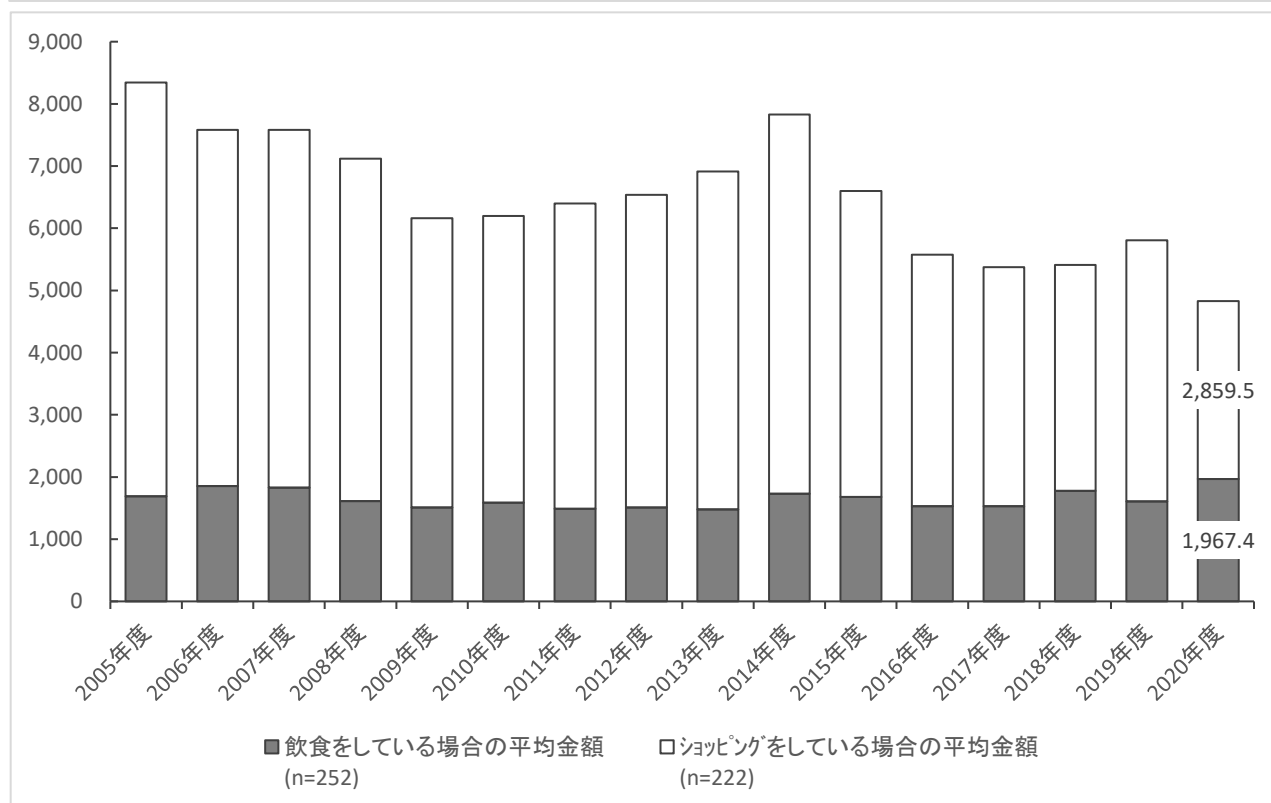
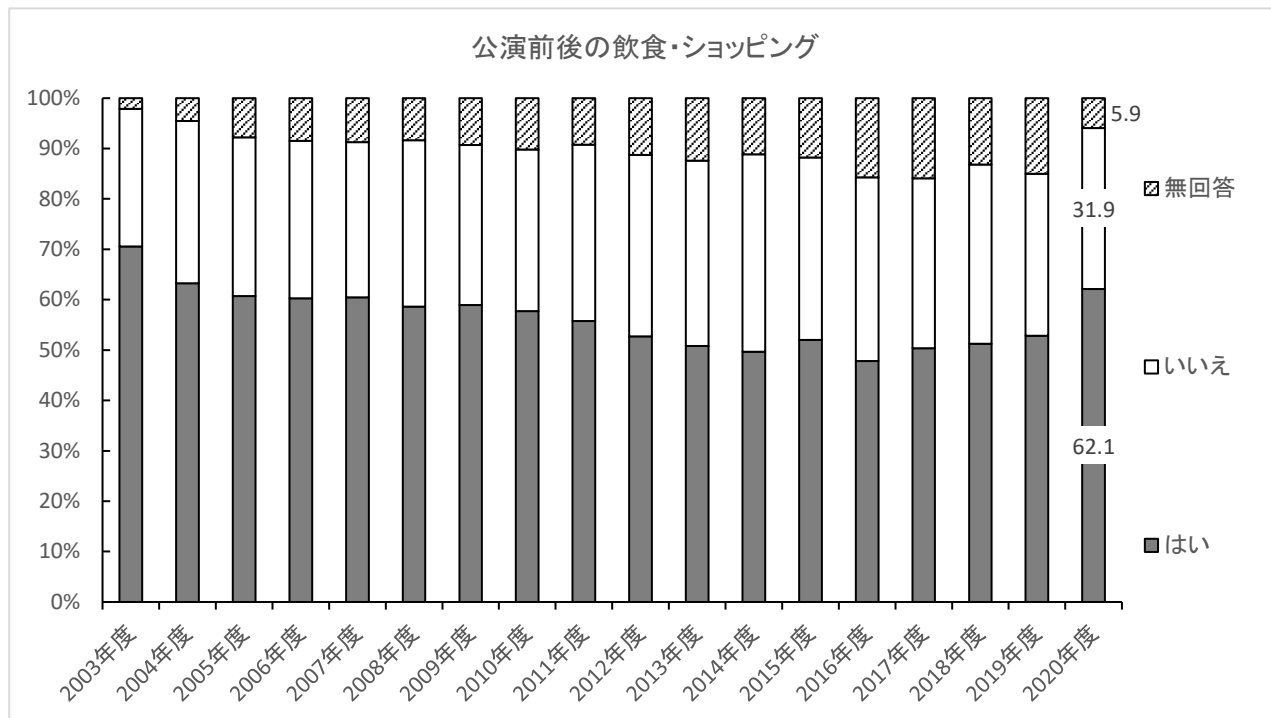
[年齢別]

- 飲食やショッピングをしている割合では「30歳代」が高く、飲食とショッピングの平均金額では「50歳代」が最も高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 飲食やショッピングをしている割合は、「6～10回」が最も高く、飲食・ショッピングをしている場合の平均額では「今日が初めて」が最も高い。

過去調査と比較して、年によって増減はあるものの、飲食やショッピングをしている割合は概ね減少傾向にあり、16年度の割合は過去最低となっている。飲食の平均金額に顕著な傾向は見られないが、ショッピングの平均金額は年度によってかなりの増減が見られる。



公演や劇場に対する5項目の満足度を満足層(※)の割合でみると、全項目で満足層の割合が90%以上を占めており、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「劇場係員の対応」の3項目は95%を超えている。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

「たいへん満足」と回答した割合が高い(5割以上)のは、「本日の公演内容」(82.5%)、「劇場係員の対応」(66.5%)、「本日の公演のチケット料金」(56.5%)の3項目である。「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢層、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合はいずれも高い。

[来場公演のジャンル別]

- ジャンルで顕著な差は見られない。

[性別]

- 性別で顕著な差は見られない。

[年齢別]

- 「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」の3項目で、「たいへん満足」の割合が年齢層が高いほど低くなり、この傾向は顕著である。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- 鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられない。

本日の公演内容

		全体	Q3-1本日の公演内容【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	457	82.5	10.7	0.7	0.7	5.5	98.6	1.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	83.8	10.8	0.6	0.9	3.9	98.4	1.6
	音楽劇	65	81.5	10.8	1.5	0.0	6.2	98.4	1.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	75.9	10.3	0.0	0.0	13.8	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	84.3	11.2	2.2	2.2	0.0	95.5	4.5
	女性	342	83.9	11.4	0.3	0.0	4.4	99.7	0.3
年齢層	18歳未満	10	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	85.0	13.3	1.7	0.0	0.0	98.3	1.7
	30歳代	54	90.7	9.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳代	97	84.5	12.4	1.0	0.0	2.1	98.9	1.1
	50歳代	90	87.8	5.6	0.0	0.0	6.7	100.0	0.0
	60歳以上	62	75.8	19.4	0.0	0.0	4.8	100.0	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	91.3	6.5	0.0	2.2	0.0	97.8	2.2
	1～2回	42	90.5	7.1	0.0	0.0	2.4	100.0	0.0
	3～5回	79	79.7	17.7	1.3	0.0	1.3	98.7	1.3
	6～10回	63	84.1	7.9	0.0	0.0	7.9	100.0	0.0
	11回以上	158	81.6	13.3	1.3	0.0	3.8	98.7	1.3

(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度

Q3

本日の公演のチケット料金

(単位: %)

		全体	Q3-2本日の公演のチケット料金【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	457	56.5	36.5	1.8	0.7	4.6	97.5	2.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	56.0	38.0	1.8	0.9	3.3	97.2	2.8
	音楽劇	65	60.0	33.8	1.5	0.0	4.6	98.4	1.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	55.2	31.0	1.7	0.0	12.1	98.0	2.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	57.3	36.0	4.5	2.2	0.0	93.3	6.7
	女性	342	57.9	38.0	1.2	0.0	2.9	98.8	1.2
年齢層	18歳未満	10	90.0	0.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	63.3	30.0	6.7	0.0	0.0	93.3	6.7
	30歳代	54	64.8	35.2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳代	97	62.9	36.1	1.0	0.0	0.0	99.0	1.0
	50歳代	90	53.3	40.0	1.1	0.0	5.6	98.8	1.2
	60歳以上	62	43.5	51.6	1.6	0.0	3.2	98.3	1.7
鑑賞経験	今日が初めて	92	53.3	42.4	2.2	2.2	0.0	95.7	4.3
	1～2回	42	54.8	38.1	4.8	0.0	2.4	95.1	4.9
	3～5回	79	60.8	35.4	1.3	0.0	2.5	98.7	1.3
	6～10回	63	63.5	34.9	0.0	0.0	1.6	100.0	0.0
	11回以上	158	57.6	38.0	1.9	0.0	2.5	98.1	1.9

公演情報の入手のしやすさ

		全体	Q3-3公演情報の入手のしやすさ【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	457	41.6	44.4	6.8	1.8	5.5	91.0	9.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	43.7	44.9	6.0	1.5	3.9	92.2	7.8
	音楽劇	65	35.4	46.2	6.2	4.6	7.7	88.3	11.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	36.2	39.7	12.1	0.0	12.1	86.3	13.7
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	42.7	44.9	7.9	4.5	0.0	87.6	12.4
	女性	342	44.2	45.3	7.0	0.3	3.2	92.4	7.6
年齢層	18歳未満	10	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	53.3	36.7	10.0	0.0	0.0	90.0	10.0
	30歳代	54	51.9	40.7	5.6	1.9	0.0	92.6	7.4
	40歳代	97	48.5	41.2	10.3	0.0	0.0	89.7	10.3
	50歳代	90	34.4	51.1	7.8	1.1	5.6	90.6	9.4
	60歳以上	62	35.5	59.7	0.0	1.6	3.2	98.3	1.7
鑑賞経験	今日が初めて	92	33.7	52.2	8.7	4.3	1.1	86.8	13.2
	1～2回	42	35.7	50.0	11.9	0.0	2.4	87.8	12.2
	3～5回	79	45.6	38.0	11.4	0.0	5.1	88.0	12.0
	6～10回	63	44.4	54.0	1.6	0.0	0.0	98.4	1.6
	11回以上	158	50.0	41.8	5.1	0.6	2.5	94.2	5.8

(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度

Q3

チケットの予約・購入のしやすさ

(単位: %)

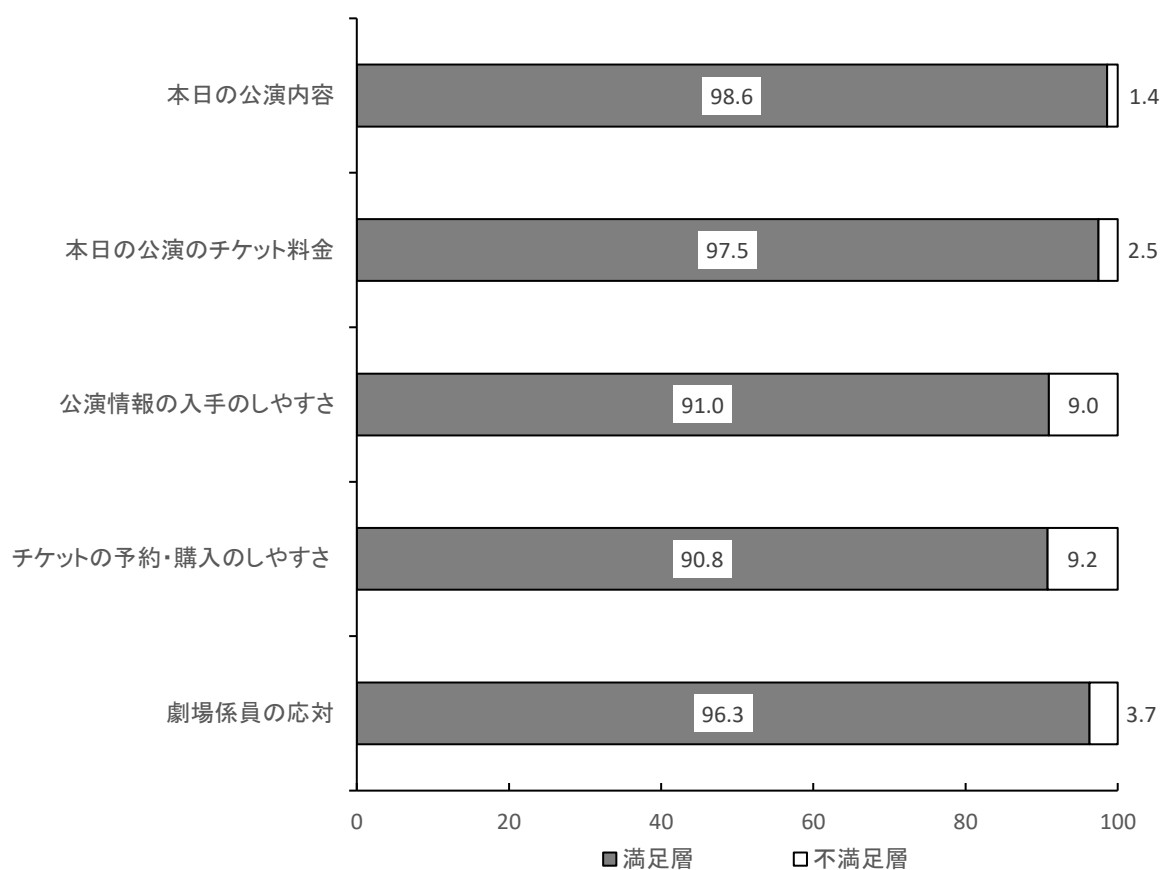
		全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	457	43.5	42.9	7.9	0.9	4.8	90.8	9.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	44.3	43.7	7.8	1.2	3.0	90.7	9.3
	音楽劇	65	40.0	43.1	9.2	0.0	7.7	90.0	10.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	43.1	37.9	6.9	0.0	12.1	92.2	7.8
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	53.9	34.8	10.1	1.1	0.0	88.8	11.2
	女性	342	43.0	46.5	7.3	0.9	2.3	91.6	8.4
年齢層	18歳未満	10	60.0	30.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	66.7	31.7	1.7	0.0	0.0	98.3	1.7
	30歳代	54	55.6	33.3	9.3	1.9	0.0	88.9	11.1
	40歳代	97	39.2	46.4	13.4	1.0	0.0	85.6	14.4
	50歳代	90	42.2	44.4	7.8	1.1	4.4	90.7	9.3
	60歳以上	62	32.3	61.3	4.8	0.0	1.6	95.1	4.9
鑑賞経験	今日が初めて	92	41.3	47.8	8.7	1.1	1.1	90.1	9.9
	1～2回	42	47.6	42.9	7.1	0.0	2.4	92.7	7.3
	3～5回	79	41.8	44.3	12.7	0.0	1.3	87.2	12.8
	6～10回	63	52.4	46.0	1.6	0.0	0.0	98.4	1.6
	11回以上	158	44.9	43.0	7.6	1.9	2.5	90.3	9.7

劇場係員の対応

		全体	Q3-5劇場係員の対応【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	457	66.5	24.7	3.1	0.4	5.3	96.3	3.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	66.2	26.9	3.3	0.3	3.3	96.3	3.7
	音楽劇	65	66.2	20.0	4.6	1.5	7.7	93.3	6.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	69.0	17.2	0.0	0.0	13.8	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	66.3	31.5	1.1	1.1	0.0	97.8	2.2
	女性	342	70.5	23.1	3.2	0.3	2.9	96.4	3.6
年齢層	18歳未満	10	70.0	10.0	0.0	0.0	20.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	54	79.6	18.5	1.9	0.0	0.0	98.1	1.9
	40歳代	97	70.1	24.7	4.1	1.0	0.0	94.8	5.2
	50歳代	90	54.4	36.7	3.3	1.1	4.4	95.3	4.7
	60歳以上	62	66.1	30.6	3.2	0.0	0.0	96.8	3.2
鑑賞経験	今日が初めて	92	66.3	28.3	2.2	1.1	2.2	96.7	3.3
	1～2回	42	81.0	16.7	0.0	0.0	2.4	100.0	0.0
	3～5回	79	75.9	21.5	2.5	0.0	0.0	97.5	2.5
	6～10回	63	69.8	25.4	4.8	0.0	0.0	95.2	4.8
	11回以上	158	63.9	28.5	3.2	0.6	3.8	96.1	3.9

すべての項目で満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めている。

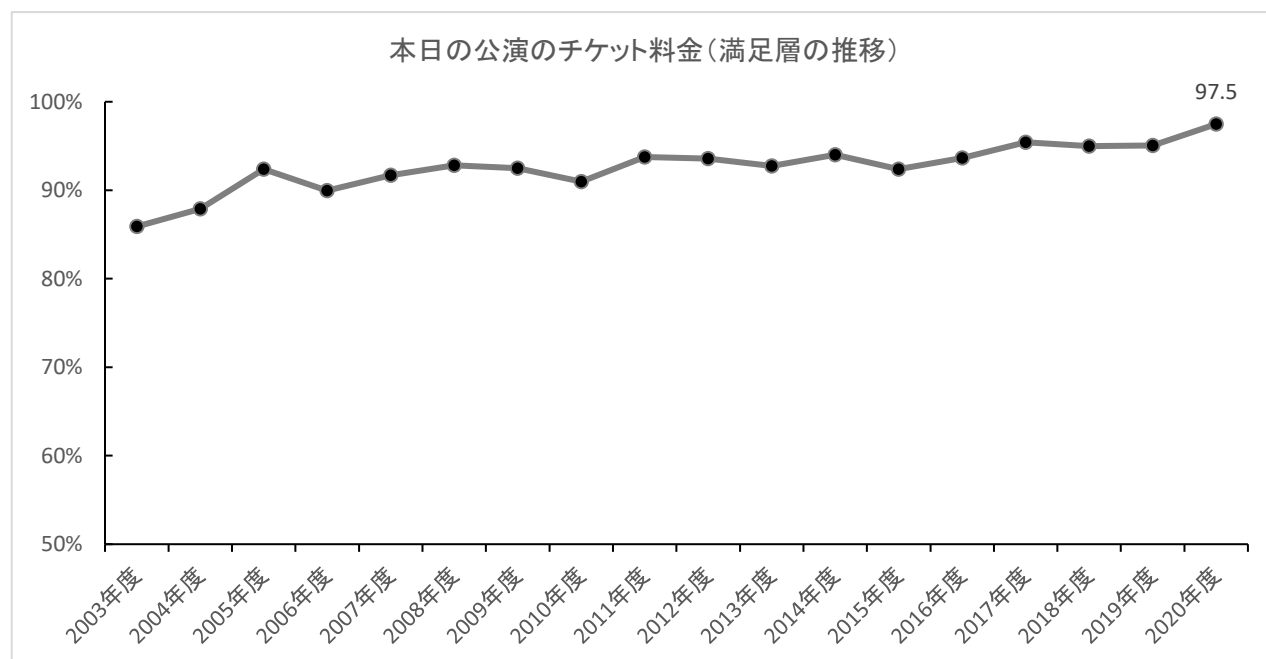
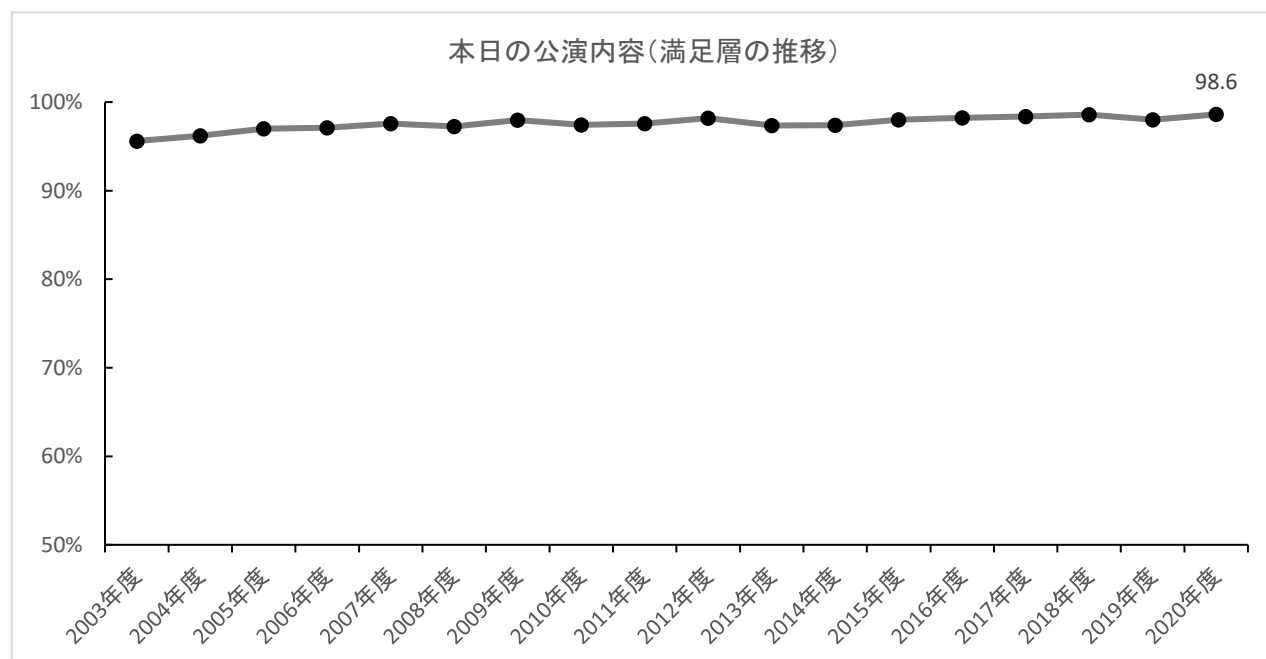
満足層と不満足層の割合(無回答を除く)

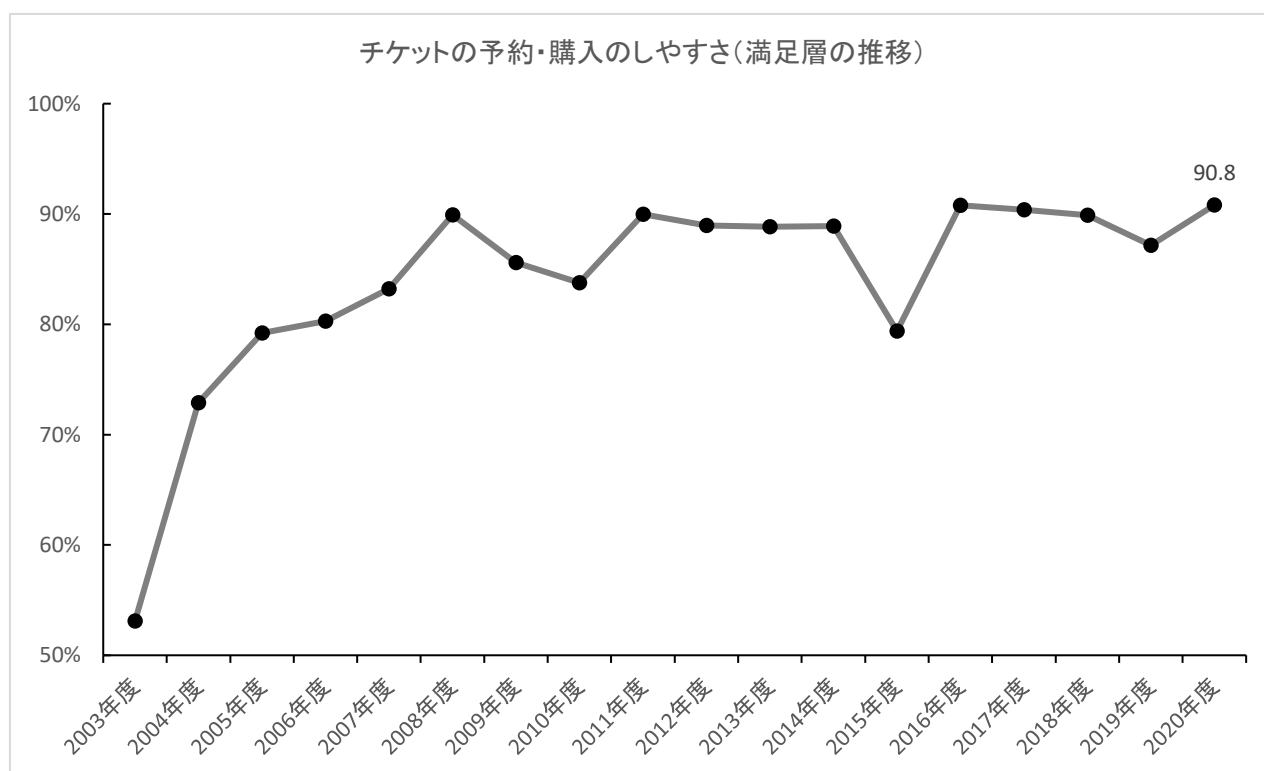
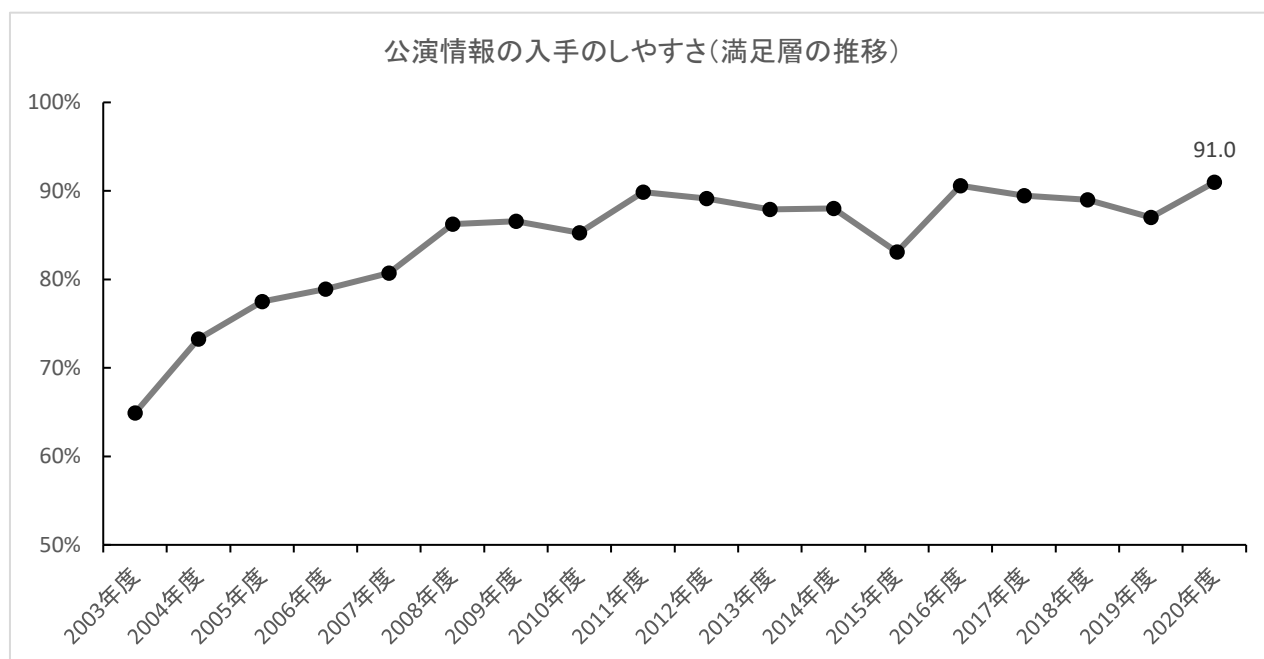


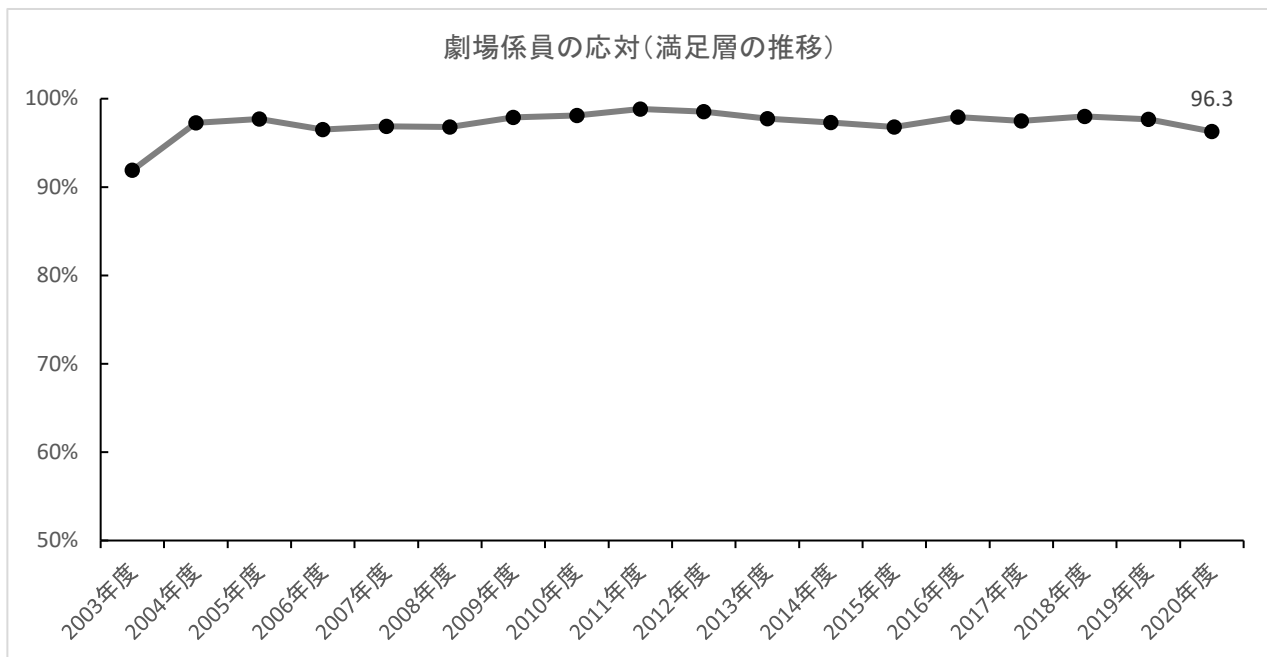
	満足層	不満足層
本日の公演内容	98.6	1.4
本日の公演のチケット料金	97.5	2.5
公演情報の入手のしやすさ	91.0	9.0
チケットの予約・購入のしやすさ	90.8	9.2
劇場係員の応対	96.3	3.7

過去調査結果の満足層(※)の推移を見ると、「本日の公演内容」、「劇場係員の対応」は安定して高い評価を得ており、それ以外の項目でも、おおむね増加傾向となっている。2020年度は、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」の4項目で、開館以降で最高の割合となっている。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。







(5) 総合的な満足度

Q4

劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が95.9%「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答は除く)である。

総合的な満足度

(単位: %)

		全体	Q4総合的な満足度【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	457	60.6	30.6	3.7	0.2	4.8	95.9	4.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	60.8	31.4	4.8	0.0	3.0	95.1	4.9
	音楽劇	65	55.4	33.8	1.5	1.5	7.7	96.7	3.3
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	65.5	22.4	0.0	0.0	12.1	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	60.7	37.1	1.1	1.1	0.0	97.8	2.2
	女性	342	63.7	29.5	4.1	0.0	2.6	95.8	4.2
年齢層	18歳未満	10	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	80.0	18.3	1.7	0.0	0.0	98.3	1.7
	30歳代	54	74.1	22.2	3.7	0.0	0.0	96.3	3.7
	40歳代	97	60.8	35.1	3.1	1.0	0.0	95.9	4.1
	50歳代	90	54.4	36.7	4.4	0.0	4.4	95.3	4.7
	60歳以上	62	54.8	38.7	6.5	0.0	0.0	93.5	6.5
鑑賞経験	今日が初めて	92	60.9	33.7	3.3	0.0	2.2	96.7	3.3
	1～2回	42	78.6	19.0	2.4	0.0	0.0	97.6	2.4
	3～5回	79	64.6	26.6	8.9	0.0	0.0	91.1	8.9
	6～10回	63	63.5	33.3	3.2	0.0	0.0	96.8	3.2
	11回以上	158	59.5	34.8	1.3	0.6	3.8	98.0	2.0

[来場公演のジャンル別]

- ・「たいへん満足」の割合は、「ダンス・現代舞踊」が特に高い。

[性別]

- ・満足度では、性別で顕著な差はない。

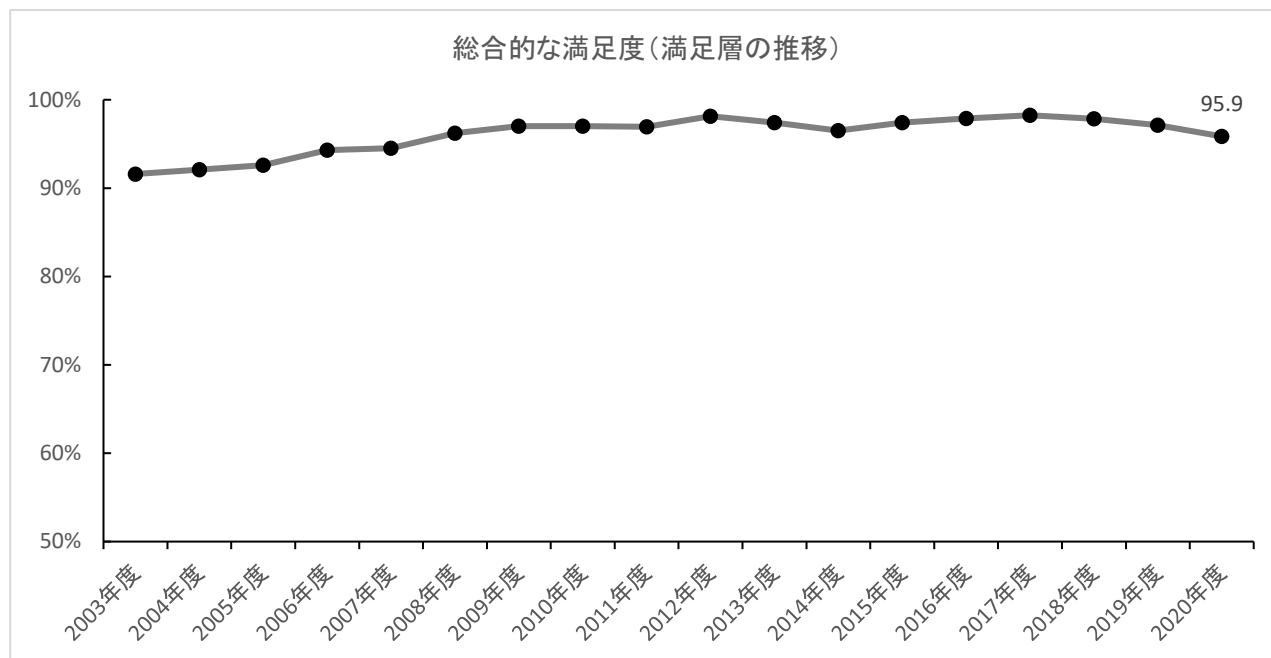
[年齢別]

- ・「18歳未満」と「18～29歳」の年齢層で「たいへん満足」の割合が高い。年齢層が高くなると「たいへん満足」の割合がやや低くなる傾向がある。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・「1～2回」で「たいへん満足」の割合が、他よりも高くなっている。

過去調査結果の満足層の推移を見ると、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、12年度と17年度は同率(98.2%)で過去最高の割合となっている。



「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)については、いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は99.5%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も81.4%と高い割合を占める。
※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わった。

[来場公演のジャンル別]

- ・「観る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が高い。特に「ダンス・現代舞踊」では「ぜひやってほしい」が82.8%となっている。
- ・「創る」、「育つ」、「支える」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が最も高い割合となっている。

[性別]

- ・賛同する割合では、性別で顕著な差はない。

[年齢別]

- ・「観る」:すべての年齢層で「ぜひやってほしい」の割合が8割以上と高い。
- ・「創る」:「18歳未満」と「40歳代」で「ぜひやってほしい」への割合が7割以上と高い。
- ・「育つ」、「支える」:「18～29歳」と「60歳以上」で「ぜひやってほしい」への割合が7割以上と高い。
- ・「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」:いずれも18歳未満で無回答の割合が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・鑑賞頻度で顕著な傾向はみられない。

運営方針:観る

(単位:%)

		全体	Q5-1運営方針:観る【単一回答】					「無回答」を除く	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する割合	賛同しない割合
	全体	457	81.4	11.4	0.2	0.2	6.8	99.5	0.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	81.1	13.2	0.3	0.3	5.1	99.4	0.6
	音楽劇	65	81.5	7.7	0.0	0.0	10.8	100.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	82.8	5.2	0.0	0.0	12.1	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	86.5	13.5	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	女性	342	85.1	11.4	0.3	0.3	2.9	99.4	0.6
年齢層	18歳未満	10	90.0	0.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	54	90.7	9.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳代	97	91.8	6.2	1.0	0.0	1.0	99.0	1.0
	50歳代	90	82.2	13.3	0.0	0.0	4.4	100.0	0.0
	60歳以上	62	85.5	11.3	0.0	1.6	1.6	98.4	1.6
鑑賞経験	今日が初めて	92	83.7	14.1	1.1	0.0	1.1	98.9	1.1
	1～2回	42	85.7	11.9	0.0	0.0	2.4	100.0	0.0
	3～5回	79	86.1	10.1	0.0	0.0	3.8	100.0	0.0
	6～10回	63	87.3	11.1	0.0	0.0	1.6	100.0	0.0
	11回以上	158	86.1	11.4	0.0	0.6	1.9	99.4	0.6

運営方針: 創る

(単位: %)

		全体	Q5-2運営方針: 創る【単一回答】					「無回答」を除く	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する割合	賛同しない割合
	全体	457	63.7	26.3	2.6	0.2	7.2	96.9	3.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	64.7	26.6	2.7	0.3	5.7	96.8	3.2
	音楽劇	65	64.6	23.1	1.5	0.0	10.8	98.3	1.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	56.9	27.6	3.4	0.0	12.1	96.1	3.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	70.8	23.6	5.6	0.0	0.0	94.4	5.6
	女性	342	65.8	28.4	2.0	0.3	3.5	97.6	2.4
年齢層	18歳未満	10	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	66.7	31.7	1.7	0.0	0.0	98.3	1.7
	30歳代	54	68.5	25.9	5.6	0.0	0.0	94.4	5.6
	40歳代	97	73.2	22.7	2.1	0.0	2.1	97.9	2.1
	50歳代	90	61.1	32.2	2.2	0.0	4.4	97.7	2.3
	60歳以上	62	67.7	21.0	6.5	1.6	3.2	91.7	8.3
鑑賞経験	今日が初めて	92	70.7	27.2	1.1	0.0	1.1	98.9	1.1
	1～2回	42	52.4	40.5	4.8	0.0	2.4	95.1	4.9
	3～5回	79	67.1	22.8	5.1	0.0	5.1	94.7	5.3
	6～10回	63	69.8	25.4	3.2	0.0	1.6	96.8	3.2
	11回以上	158	67.7	27.2	1.9	0.6	2.5	97.4	2.6

運営方針: 育つ

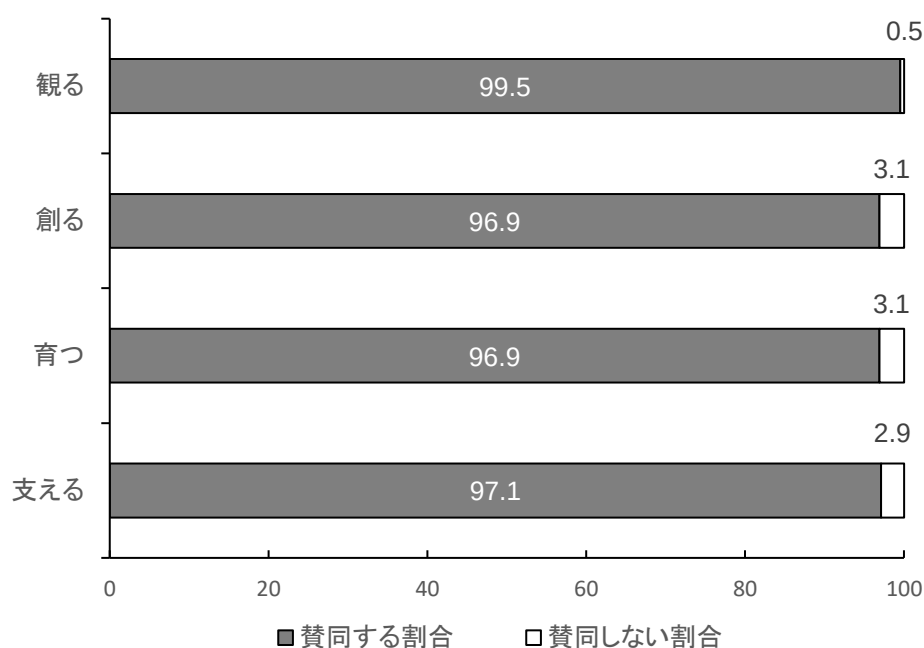
		全体	Q5-3運営方針: 育つ【単一回答】					「無回答」を除く	
			同上					同上	
	全体	457	63.7	26.0	2.4	0.4	7.4	96.9	3.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	62.3	29.0	2.4	0.6	5.7	96.8	3.2
	音楽劇	65	66.2	21.5	1.5	0.0	10.8	98.3	1.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	69.0	13.8	3.4	0.0	13.8	96.0	4.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	67.4	28.1	3.4	1.1	0.0	95.5	4.5
	女性	342	66.7	26.9	2.3	0.3	3.8	97.3	2.7
年齢層	18歳未満	10	70.0	20.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	75.0	18.3	6.7	0.0	0.0	93.3	6.7
	30歳代	54	63.0	33.3	3.7	0.0	0.0	96.3	3.7
	40歳代	97	68.0	27.8	1.0	0.0	3.1	98.9	1.1
	50歳代	90	62.2	31.1	1.1	1.1	4.4	97.7	2.3
	60歳以上	62	71.0	21.0	3.2	1.6	3.2	95.0	5.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	71.7	25.0	1.1	0.0	2.2	98.9	1.1
	1～2回	42	66.7	23.8	7.1	0.0	2.4	92.7	7.3
	3～5回	79	63.3	27.8	3.8	0.0	5.1	96.0	4.0
	6～10回	63	65.1	28.6	1.6	1.6	3.2	96.7	3.3
	11回以上	158	67.1	28.5	1.9	0.6	1.9	97.4	2.6

運営方針: 支える

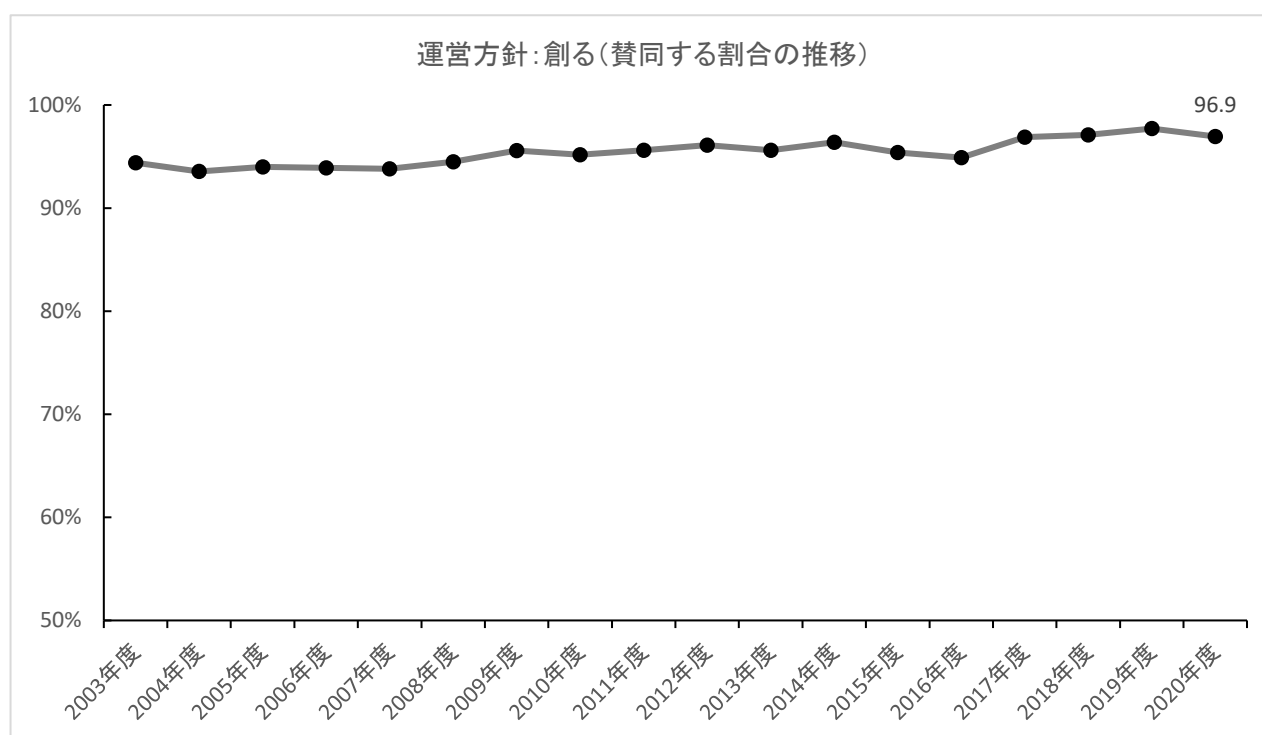
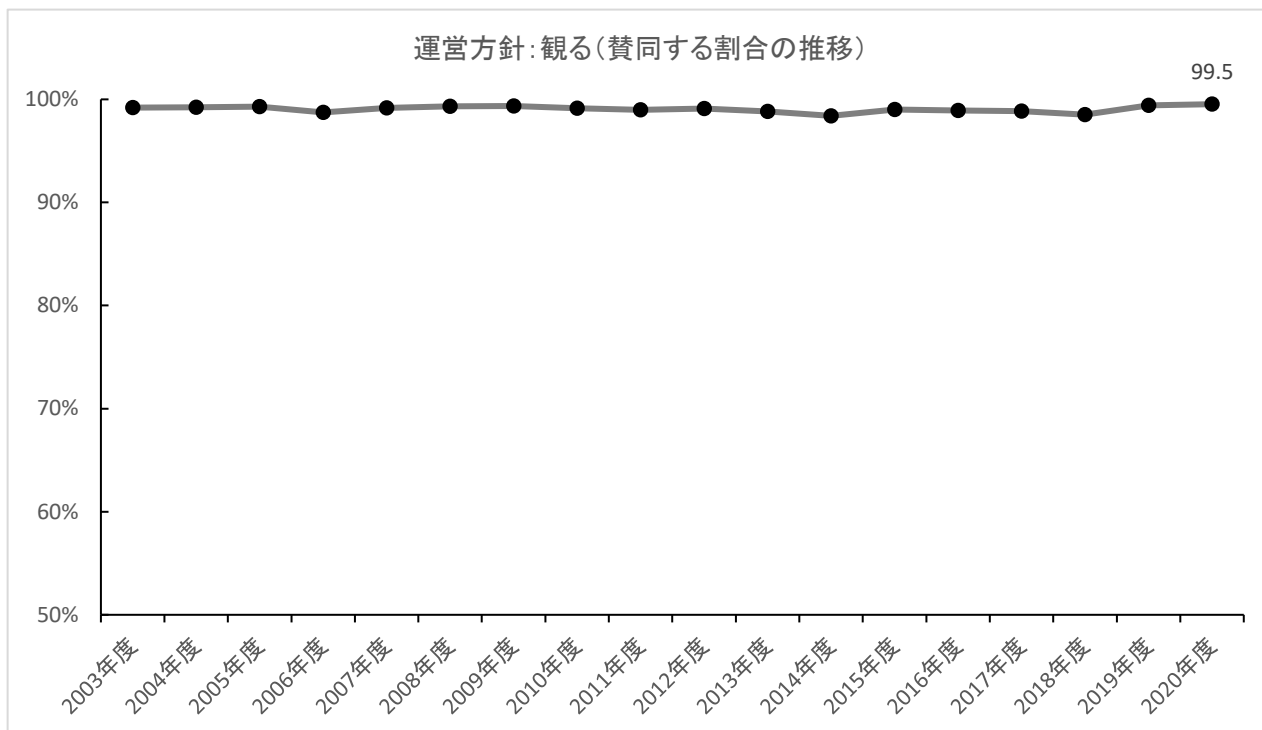
(単位: %)

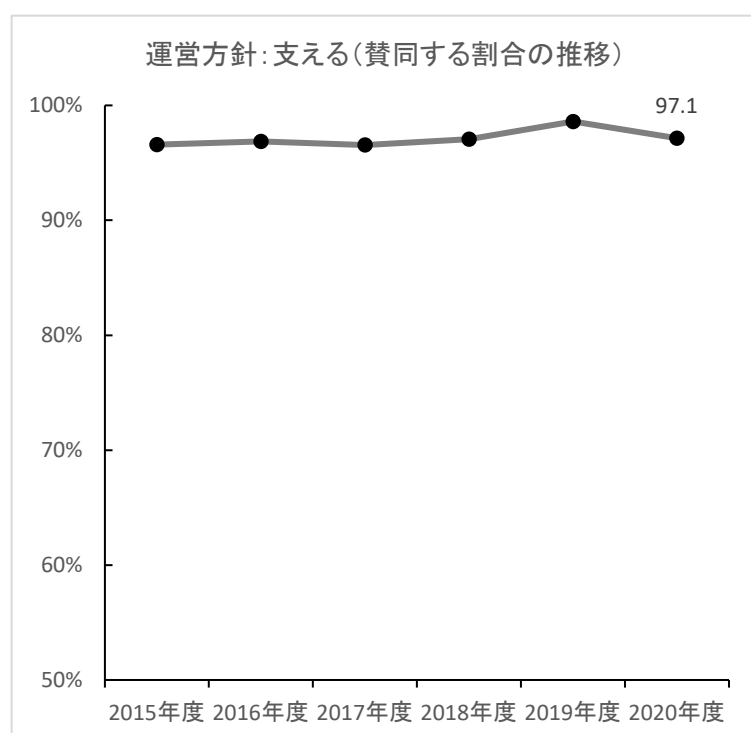
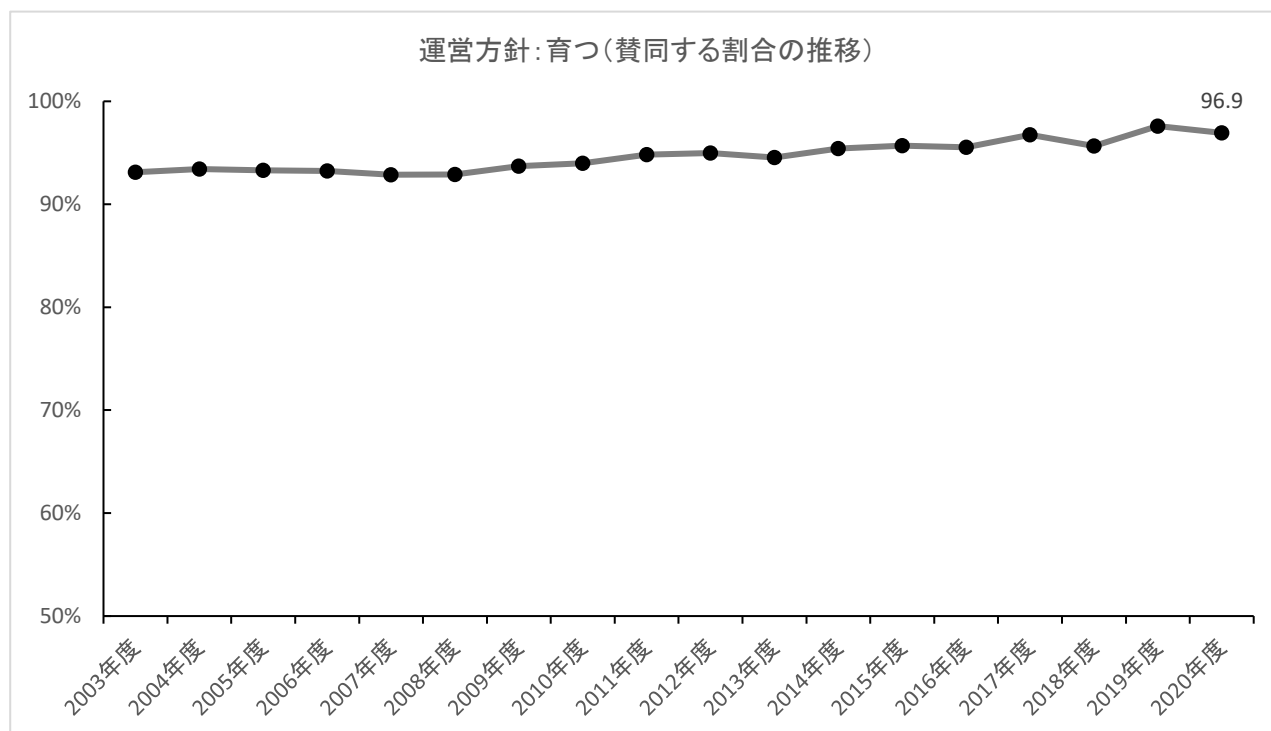
		全体	Q5-4運営方針: 支える【単一回答】					「無回答」を除く	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する割合	賛同しない割合
	全体	457	64.8	24.3	2.0	0.7	8.3	97.1	2.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	65.3	24.9	2.4	0.9	6.6	96.5	3.5
	音楽劇	65	63.1	24.6	0.0	0.0	12.3	100.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	63.8	20.7	1.7	0.0	13.8	98.0	2.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	69.7	25.8	1.1	1.1	2.2	97.7	2.3
	女性	342	67.5	25.1	2.3	0.6	4.4	96.9	3.1
年齢層	18歳未満	10	60.0	30.0	0.0	0.0	10.0	100.0	0.0
	18～29歳	60	71.7	20.0	3.3	1.7	3.3	94.8	5.2
	30歳代	54	68.5	24.1	7.4	0.0	0.0	92.6	7.4
	40歳代	97	73.2	23.7	0.0	0.0	3.1	100.0	0.0
	50歳代	90	62.2	28.9	1.1	1.1	6.7	97.6	2.4
	60歳以上	62	75.8	17.7	1.6	1.6	3.2	96.7	3.3
鑑賞経験	今日が初めて	92	69.6	23.9	3.3	0.0	3.3	96.6	3.4
	1～2回	42	61.9	23.8	7.1	0.0	7.1	92.3	7.7
	3～5回	79	73.4	20.3	0.0	1.3	5.1	98.7	1.3
	6～10回	63	77.8	17.5	0.0	1.6	3.2	98.4	1.6
	11回以上	158	62.7	32.3	1.9	0.6	2.5	97.4	2.6

運営方針への賛同する割合と賛同しない割合(無回答を除く)



過去調査結果を通じて、「観る」への賛同は極めて高い割合を維持している。一方、「創る」と「育つ」は、「観る」に比べて賛同の割合は低いものの、一定の割合を維持している。2020年度は「観る」の賛同の割合が過去最高となっている。





(7) 来場の妨げになっていること

Q10

来場の妨げになっていること(※)は、「会場が遠い」(31.1%)、「チケット代金が高い」(27.1%)、「その他」(21.0%)、「仕事や勉強で忙しい」(17.1%)、「いつ何をやっているのか情報がない」(16.8%)となっている。「その他」の自由記述では「新型コロナウイルスの感染不安」という意見が多数となっている。

※2015年度から設問を加えた。

		調査数 (n)	Q10来場の妨げになっていること (単位: %)										
			見たい作品が少ない	がいつ何をやっているか情報がない	チケット代金が高い	会場が遠い	開催時間が間に合わない	周りに一緒に見に行く人がいない	仕事や勉強で忙しい	子どもや家族がいて出かけられない	その他	特に妨げは感じない	無回答
全体		457	15.5	16.8	27.1	31.1	12.5	4.4	17.1	3.9	21.0	7.9	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	334	15.9	16.5	26.9	33.8	12.3	4.8	17.7	3.9	22.5	7.5	0.0
	音楽劇	65	16.9	13.8	29.2	23.1	12.3	4.6	15.4	0.0	18.5	4.6	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	58	12.1	22.4	25.9	24.1	13.8	1.7	15.5	8.6	15.5	13.8	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	89	18.0	21.3	24.7	20.2	9.0	9.0	19.1	4.5	21.3	5.6	0.0
	女性	342	16.1	17.0	29.8	36.0	14.0	3.5	17.5	4.1	22.5	8.5	0.0
年齢層	18歳未満	10	20.0	20.0	20.0	10.0	20.0	0.0	20.0	0.0	30.0	0.0	0.0
	18～29歳	60	20.0	13.3	43.3	43.3	11.7	18.3	26.7	0.0	15.0	5.0	0.0
	30歳代	54	18.5	24.1	25.9	42.6	5.6	5.6	11.1	13.0	16.7	5.6	0.0
	40歳代	97	14.4	19.6	29.9	33.0	18.6	2.1	20.6	6.2	19.6	14.4	0.0
	50歳代	90	13.3	15.6	25.6	30.0	12.2	1.1	20.0	2.2	20.0	5.6	0.0
	60歳以上	62	11.3	19.4	29.0	25.8	4.8	3.2	3.2	1.6	35.5	9.7	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	92	17.4	22.8	20.7	44.6	9.8	4.3	16.3	6.5	14.1	9.8	0.0
	1～2回	42	16.7	11.9	33.3	40.5	7.1	11.9	9.5	0.0	31.0	7.1	0.0
	3～5回	79	24.1	29.1	36.7	34.2	8.9	6.3	13.9	6.3	16.5	7.6	0.0
	6～10回	63	19.0	15.9	17.5	19.0	7.9	4.8	20.6	3.2	22.2	9.5	0.0
	11回以上	158	10.8	11.4	32.3	28.5	20.9	1.9	22.2	3.2	27.2	7.6	0.0

[来場公演のジャンル別]

- ・「音楽劇」と「ダンス・現代舞踊」では「チケット代金が高い」が最も高い割合となっている。

[性別]

- ・「男性」では「チケット代金が高い」が最も高い。

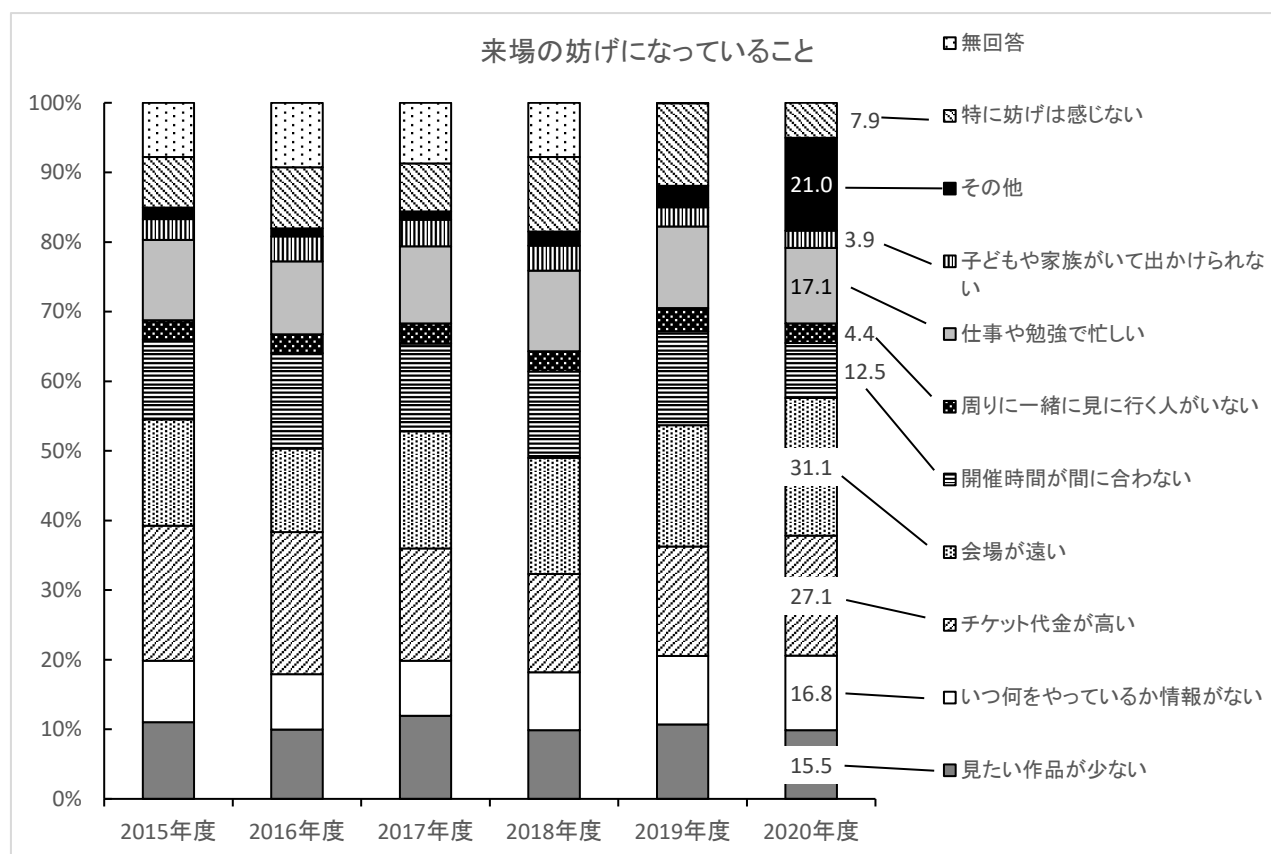
[年齢別]

- ・「18～29歳」と「30歳代」では「会場が遠い」の割合が他の世代よりも高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験の「3～5回」と「11回以上」では「チケット代金が高い」の割合が最も高い。

来場の妨げになっていることの割合の推移を見ると、17年度以降は4カ年続けて「会場が遠い」の割合が最も高くなっている。2020年度、以前と比較して「その他」が急激に増加しているが、自由記述の内容からも新型コロナウイルスの感染拡大が原因であることは明らかである。



参考 | 調査票

北九州芸術劇場 自主事業公演アンケート		「公演名〇〇〇〇」
お帰りの際に会場出入り口付近の回収箱にお入れいただくか、後日、郵送（下記住所宛）もしくはファックスにてご返送ください。		FAX 送付先： 093-562-2633
北九州芸術劇場 アンケート係 〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11		

本日は、北九州芸術劇場の公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。
すべての設問にご回答いただいた方々の中から抽選で、「公演名△△△」（〇月実施）の招待券をペアで5組・10名の方に差し上げます。なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。

Q1 今日の公演は何でお知りになりましたか。（〇はいくつでも）

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 雑誌・タウン情報誌（誌名：_____） | 2 新聞（紙名：_____） |
| 3 TV・ラジオ | 4 北九州市 市政だより |
| 5 街中のチラシ・ポスター | 6 郵送やEメールでのダイレクトメール |
| 7 他の公演会場で配布されたチラシ | 8 劇場ホームページ、情報誌Q |
| 9 Twitter、FacebookなどのSNS | 10 友人・知人から聞いた |
| 11 出演者、公演関係者から聞いた | 12 その他（具体的に_____） |

Q2 今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。（〇はいくつでも）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 出演者、出演団体が好きだから | 2 出演者、出演団体が有名だから |
| 3 公演内容が面白そうだったから | 4 劇場に来てみたかったから |
| 5 劇場が近くだったから | 6 出演者や関係者が知り合いだから |
| 7 人に誘われたから | 8 北九州芸術劇場の催しものだから |
| 9 その他（具体的に_____） | |

Q3 今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。（〇は各項目ひとつずつ）

	1 たいへん満足	2 まあ満足	3 少し不満足	4 まったく不満足
（記入見本）	1	2	③	4
本日の公演内容	1	2	3	4
本日の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
劇場係員の応対	1	2	3	4
北九州芸術劇場に対する総合的な満足度	1	2	3	4

Q4 北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。

（〇は各項目ひとつだけ）

		1 ぜひやってほしい	2 まあやってほしい	3 あまりやる必要はない	4 まったくやる必要がない
観る	国内外の舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る	劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創ります	1	2	3	4
育つ	アーティストを劇場の外に派遣するなどの活動を通じて、地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4
支える	市民の文化活動の支援や、地元劇団等の創作活動の支援を行います	1	2	3	4

Q 5 今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ

「1 はい」とお答えになった方へ

だいたいいくらくらいお使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食	円ぐらい
ショッピング	円ぐらい

Q 6 今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。(○はひとつ)

- 1 今日が初めて 2 1～2回 3 3～5回 4 6～10回 5 11回以上

Q 7 コンサートや演劇などの公演に出かけるのに、何が妨げになっていますか。(○はいくつでも)

- 1 見たい作品が少ない 2 いつ何をやっているか情報がない
3 チケット代金が高い 4 会場が遠い
5 開催時間が合わない 6 まわりに一緒に見に行く人がいない
7 仕事や勉強で忙しい 8 子どもや家族がいて出かけられない
9 その他(具体的に) 10 特に妨げは感じない

Q 8 お住まいのエリアをお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 北九州市 2 北九州市周辺(直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等)
3 福岡市 4 福岡市周辺(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、糟屋郡等)
5 上記以外の福岡県内(具体的に) 6 福岡県以外の九州(具体的に)
7 下関市 8 下関市以外の山口県(具体的に)
9 その他(具体的に)

Q 9 ご性別をお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 男性 2 女性

Q 10 ご年齢をお答えください。

ご年齢 歳

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。

(招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送と劇場及び演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使いません)

■お名前 (フリガナ)

■ご住所 〒

■TEL ■E-mail

・今後、北九州市芸術文化振興財団が主催する公演のご案内をお送りする場合がありますが、よろしいですか。

- 1 すでに届いている 2 はい(郵送で・E-mailで) 3 いいえ

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちしております。

III

貸館利用者
調査結果

序 利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2020年度の貸館利用者(大ホール、中劇場、小劇場)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:85件
- 回答数(回収率):68件(80.0%)

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

- 貸館利用者調査(「施設利用に関するアンケート調査」)は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4:劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

- 劇場の使いごちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 劇場の運営や応対に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

利用者調査結果

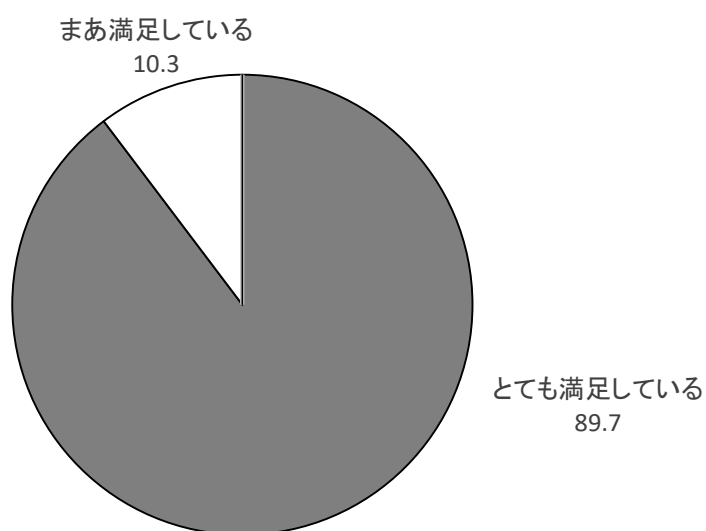
(1) 使いごちに関する総合的な意見

Q1

北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が89.7%、「まあ満足している」が10.3%である。劇場利用者の満足度は大変高い。

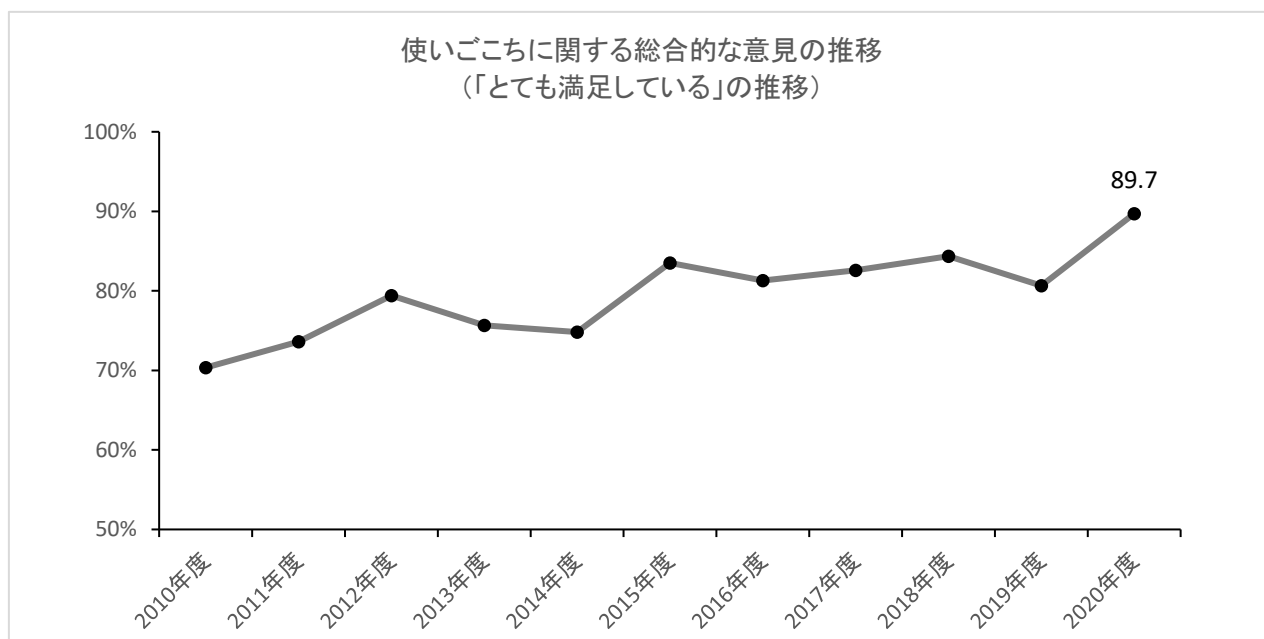
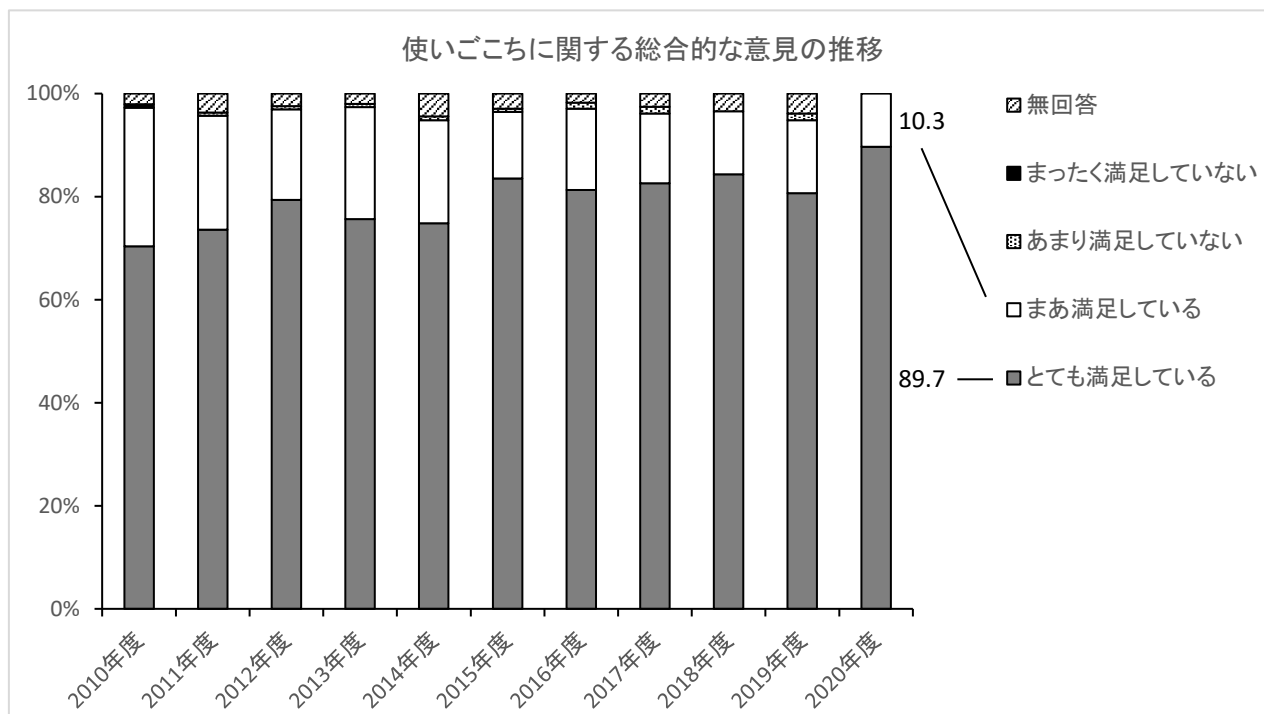
	調査数(n)	Q1 使いごちに関する総合的な意見【単一回答】 (単位: %)				
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
2010年度	145	70.3	26.9	0.0	0.7	2.1
2011年度	163	73.6	22.1	0.6	0.0	3.7
2012年度	165	79.4	17.6	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	75.7	21.7	0.7	0.0	2.0
2014年度	135	74.8	20.0	0.7	0.0	4.4
2015年度	170	83.5	12.9	0.6	0.0	2.9
2016年度	171	81.3	15.8	1.2	0.0	1.8
2017年度	155	82.6	13.5	1.3	0.0	2.6
2018年度	147	84.4	12.2	0.0	0.0	3.4
2019年度	155	80.6	14.2	1.3	0.0	3.9
2020年度	68	89.7	10.3	0.0	0.0	0.0

2020年度利用者の使いごちに関する総合的な意見



集計表には、参考として10年度～19年度の各年度の数字を掲載している。

経年変化でみると、貸館の利用者調査を開始した2010年度以降で、「とても満足している」回答が最も高い割合となっており、前年度と比べても大きく増加している。

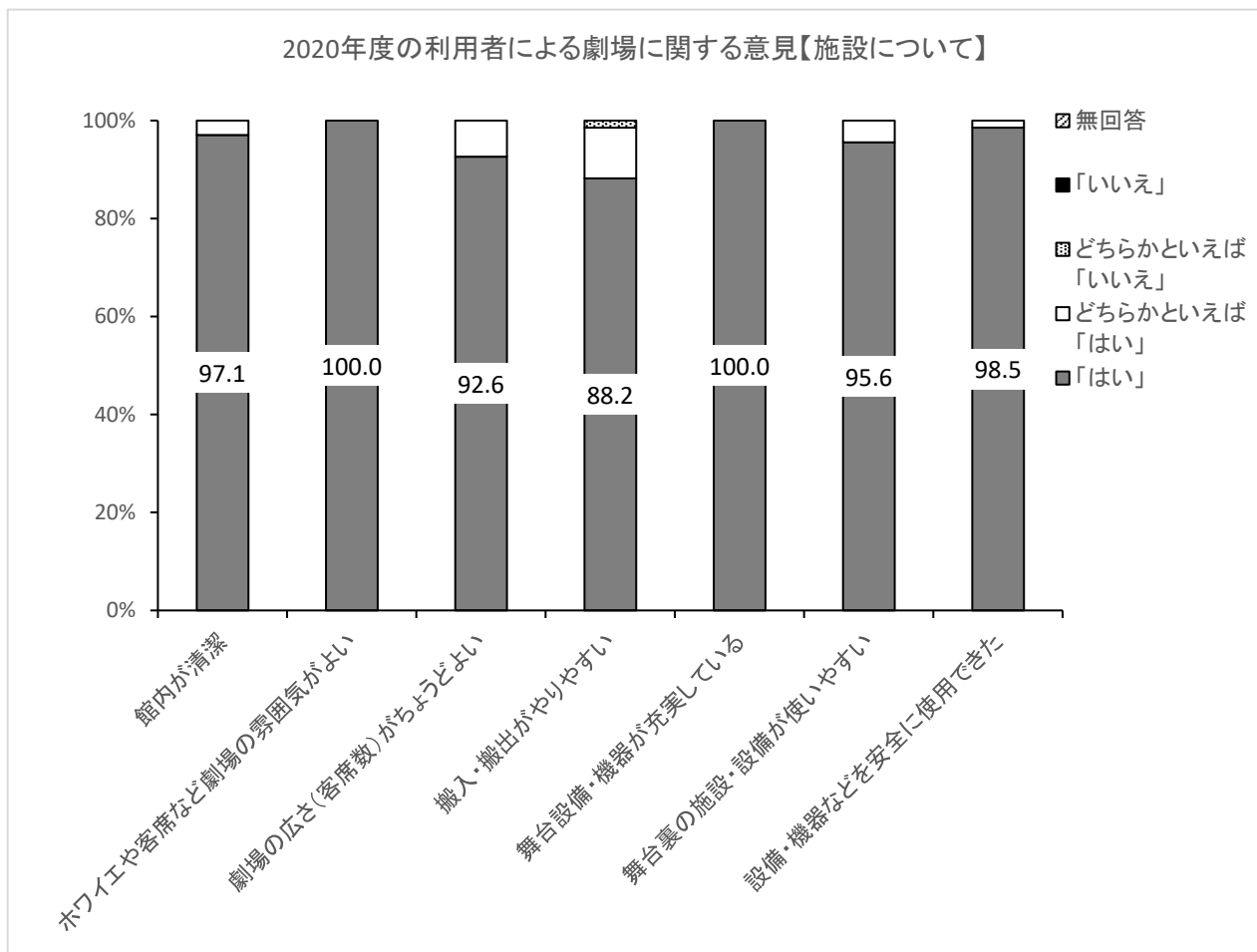


劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「搬入・搬出がやりやすい」が98.5%で、それ以外の6項目はいずれも100%となっている。
「はい」の割合をみると、「搬入・搬出がやりやすい」以外の6項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い。

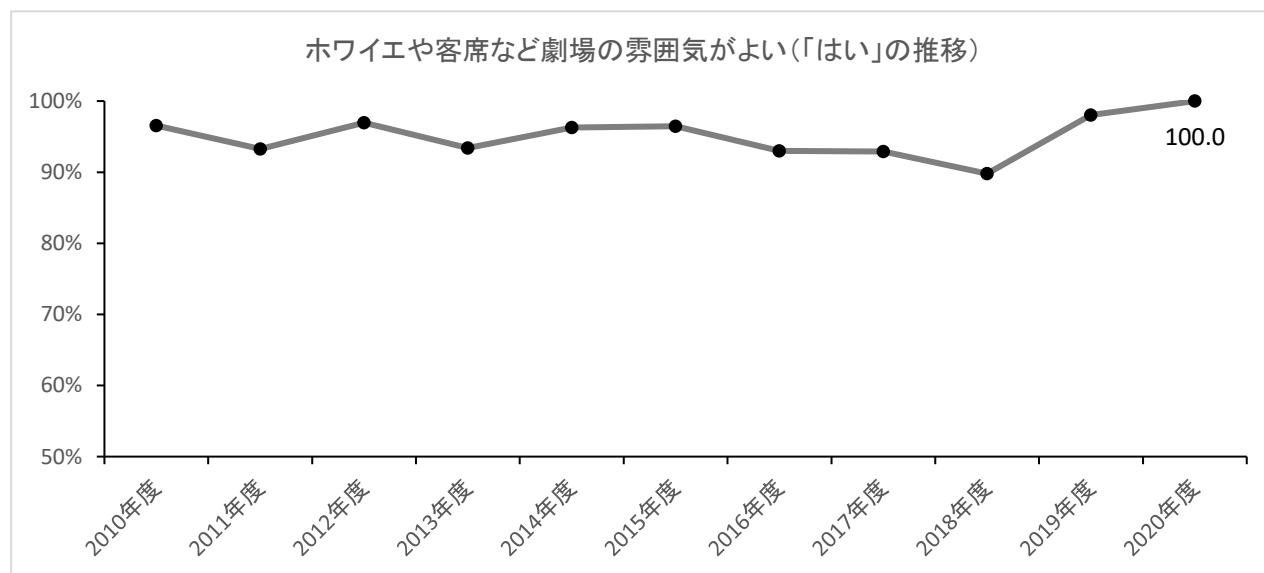
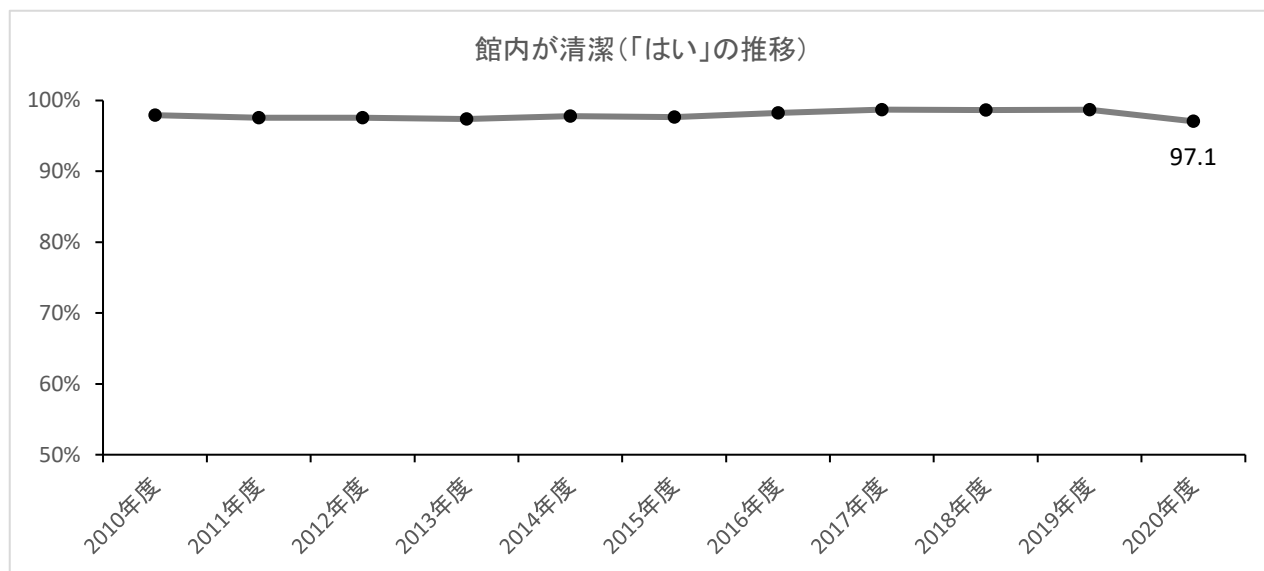
(単位: %)

【各項目で単一回答】	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
館内が清潔	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0
ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	92.6	7.4	0.0	0.0	0.0
搬入・搬出がやりやすい	88.2	10.3	1.5	0.0	0.0
舞台設備・機器が充実している	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
舞台裏の施設・設備が使いやすい	95.6	4.4	0.0	0.0	0.0
設備・機器などを安全に使用できた	98.5	1.5	0.0	0.0	0.0

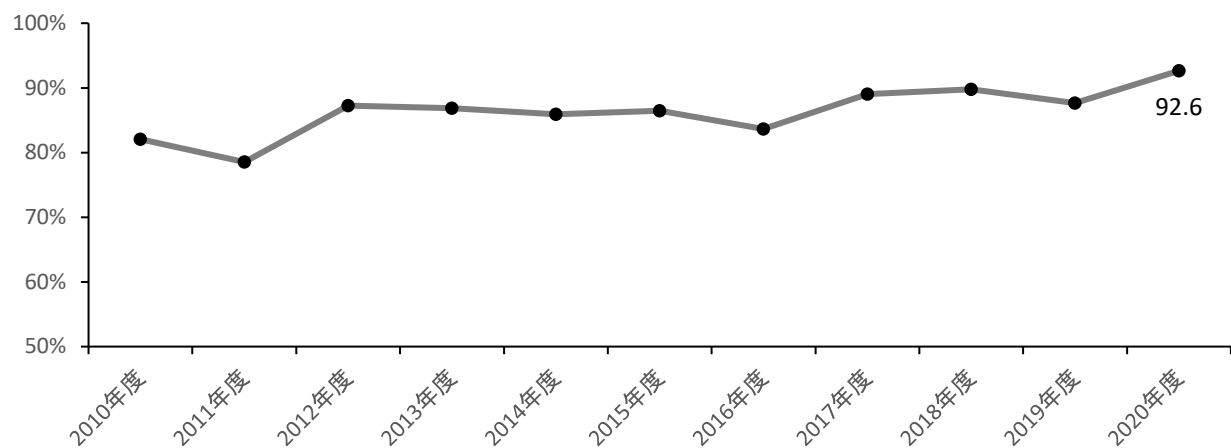
2020年度の利用者による劇場に関する意見【施設について】



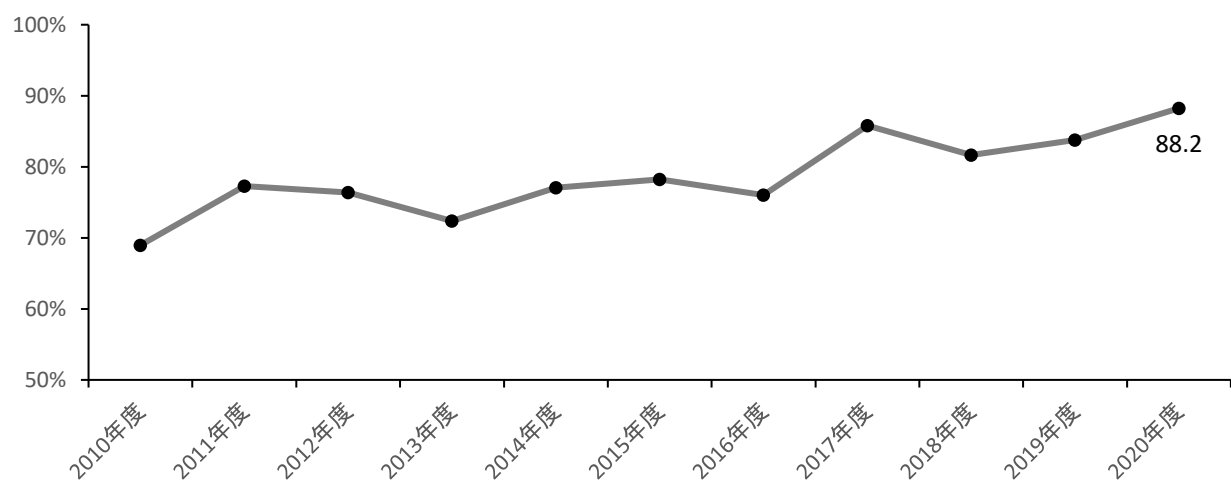
経年変化を見ると、「館内が清潔」は「はい」の回答が2010年度以降97%を超えており常に高い割合を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、2020年度は過去11年間で最も高い割合(88.2%)となっている。「館内が清潔」以外の6項目で過去最高の割合となっている中で、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」、「舞台設備・機器が充実している」は100.0%が「はい」と回答している。



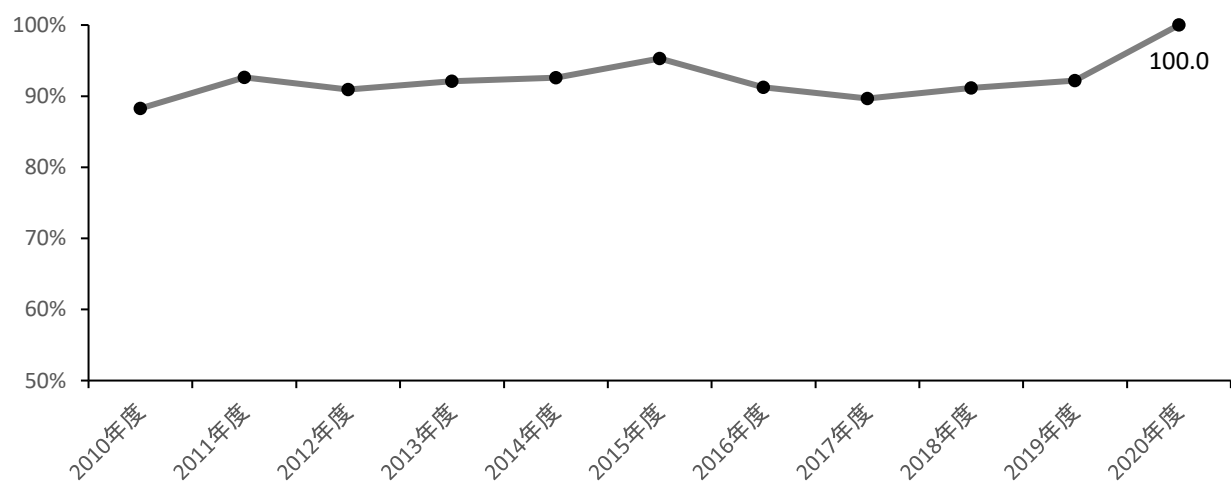
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい(「はい」の推移)



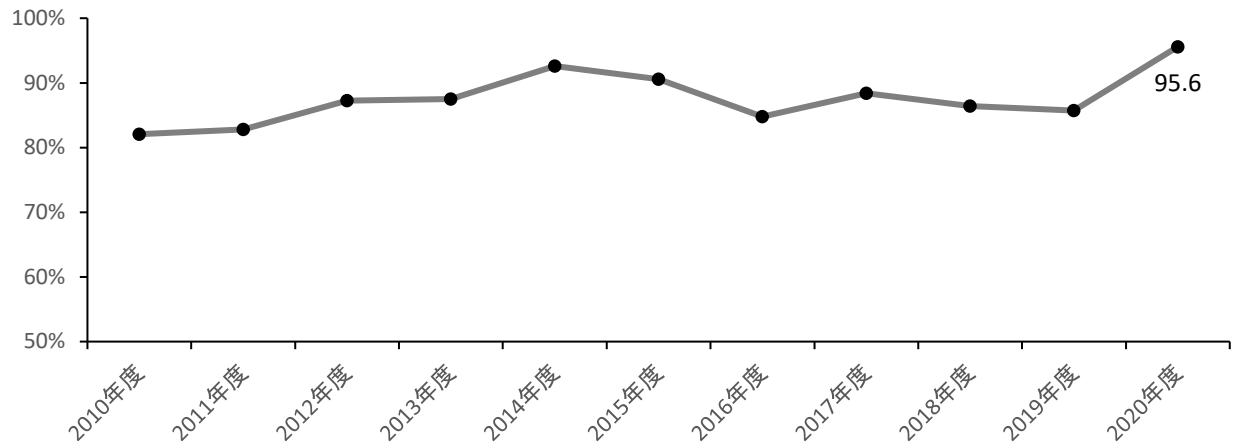
搬入・搬出がやりやすい(「はい」の推移)



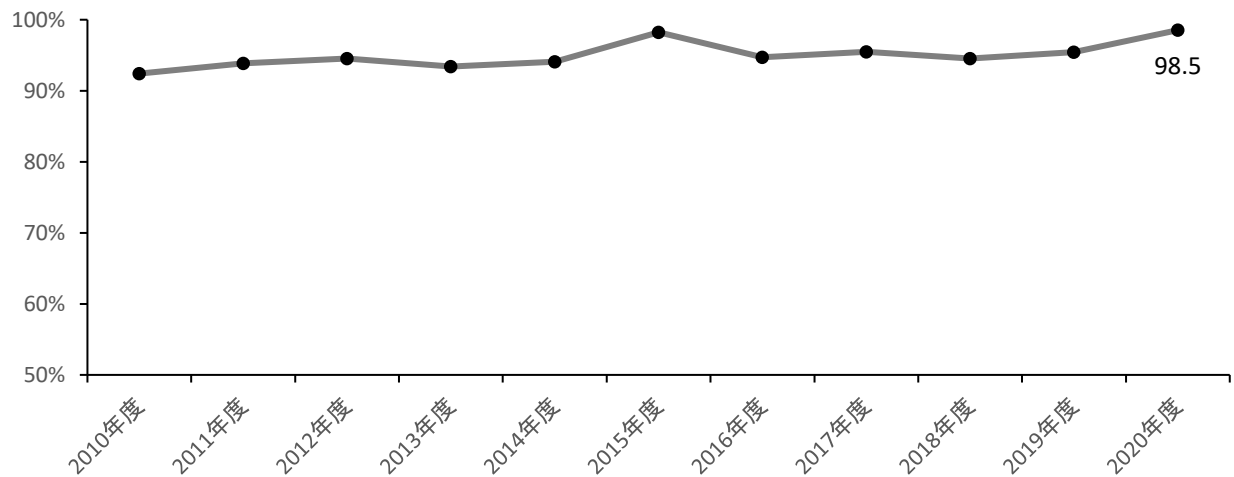
舞台設備・機器が充実している(「はい」の推移)



舞台裏の施設・設備が使いやすい(「はい」の推移)



設備・機器などを安全に使用できた(「はい」の推移)



(2) 劇場に関する意見【施設について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えば「はい」	どちらかとい えば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設① 館内が清潔						
2010年度	145	97.9	2.1	0.0	0.0	0.0
2011年度	163	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0
2012年度	165	97.6	2.4	0.0	0.0	0.0
2013年度	152	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0
2014年度	135	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	97.6	1.8	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	98.2	1.8	0.0	0.0	0.0
2017年度	155	98.7	1.3	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	98.6	1.4	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	98.7	1.3	0.0	0.0	0.0
2020年度	68	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0
Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい						
2010年度	145	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
2011年度	163	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0
2012年度	165	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0
2013年度	152	93.4	5.9	0.7	0.0	0.0
2014年度	135	96.3	3.0	0.7	0.0	0.0
2015年度	170	96.5	2.9	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	93.0	5.8	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	89.8	8.8	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	98.1	1.9	0.0	0.0	0.0
2020年度	68	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q2-施設③ 劇場の広さ(客席数)がちょうどよい						
2010年度	145	82.1	12.4	2.1	2.8	0.7
2011年度	163	78.5	16.0	3.7	1.8	0.0
2012年度	165	87.3	10.3	1.2	0.6	0.6
2013年度	152	86.8	9.2	3.3	0.7	0.0
2014年度	135	85.9	9.6	0.7	3.0	0.7
2015年度	170	86.5	10.6	1.8	0.6	0.6
2016年度	171	83.6	14.6	1.8	0.0	0.0
2017年度	155	89.0	7.7	1.9	1.3	0.0
2018年度	147	89.8	8.8	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	87.7	9.7	1.9	0.6	0.0
2020年度	68	92.6	7.4	0.0	0.0	0.0
Q2-施設④ 搬入・搬出がしやすい						
2010年度	145	69.0	22.1	6.2	1.4	1.4
2011年度	163	77.3	14.7	4.9	1.2	1.8
2012年度	165	76.4	17.6	3.6	0.6	1.8
2013年度	152	72.4	24.3	2.6	0.0	0.7
2014年度	135	77.0	14.8	5.2	0.7	2.2
2015年度	170	78.2	17.6	2.9	1.2	0.0
2016年度	171	76.0	18.7	4.1	0.0	1.2
2017年度	155	85.8	12.3	0.6	0.6	0.6
2018年度	147	81.6	14.3	1.4	0.7	2.0
2019年度	154	83.8	13.0	2.6	0.0	0.6
2020年度	68	88.2	10.3	1.5	0.0	0.0

(2) 劇場に関する意見 【施設について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えは「はい」	どちらかとい えは「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している						
2010年度	145	88.3	10.3	0.0	0.0	1.4
2011年度	163	92.6	6.7	0.0	0.0	0.6
2012年度	165	90.9	7.9	0.0	0.0	1.2
2013年度	152	92.1	7.2	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	92.6	4.4	1.5	0.0	1.5
2015年度	170	95.3	4.7	0.0	0.0	0.0
2016年度	171	91.2	7.0	1.2	0.0	0.6
2017年度	155	89.7	9.7	0.6	0.0	0.0
2018年度	147	91.2	7.5	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	92.2	6.5	0.6	0.0	0.6
2020年度	68	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい						
2010年度	145	82.1	15.2	0.0	1.4	1.4
2011年度	163	82.8	12.9	2.5	0.6	1.2
2012年度	165	87.3	9.1	3.0	0.0	0.6
2013年度	152	87.5	10.5	1.3	0.0	0.7
2014年度	135	92.6	5.2	1.5	0.7	0.0
2015年度	170	90.6	7.6	0.6	0.6	0.6
2016年度	171	84.8	12.3	2.3	0.6	0.0
2017年度	155	88.4	11.6	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	86.4	12.2	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	85.7	11.7	1.9	0.0	0.6
2020年度	68	95.6	4.4	0.0	0.0	0.0
Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた						
2010年度	145	92.4	6.2	0.0	0.0	1.4
2011年度	163	93.9	4.9	0.6	0.0	0.6
2012年度	165	94.5	3.6	0.0	0.0	1.8
2013年度	152	93.4	5.3	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	94.1	5.2	0.0	0.0	0.7
2015年度	170	98.2	1.2	0.0	0.6	0.0
2016年度	171	94.7	4.1	0.0	0.0	1.2
2017年度	155	95.5	3.9	0.0	0.6	0.0
2018年度	147	94.6	4.1	0.0	0.0	1.4
2019年度	154	95.5	1.9	1.3	0.6	0.6
2020年度	68	98.5	1.5	0.0	0.0	0.0

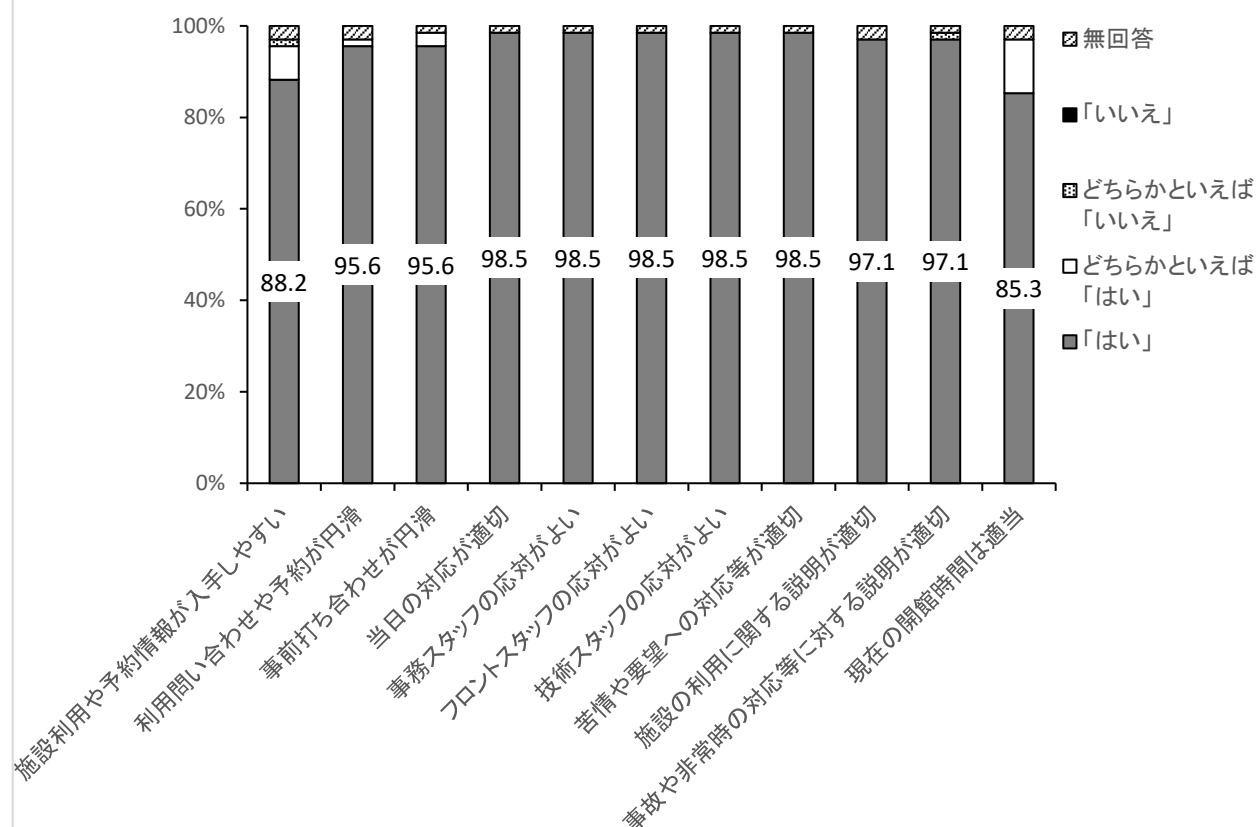
劇場の運営や対応に関する11項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、すべての項目で95%以上となっている。

「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」(85.3%)の回答が少なくなっている。

(単位: %)

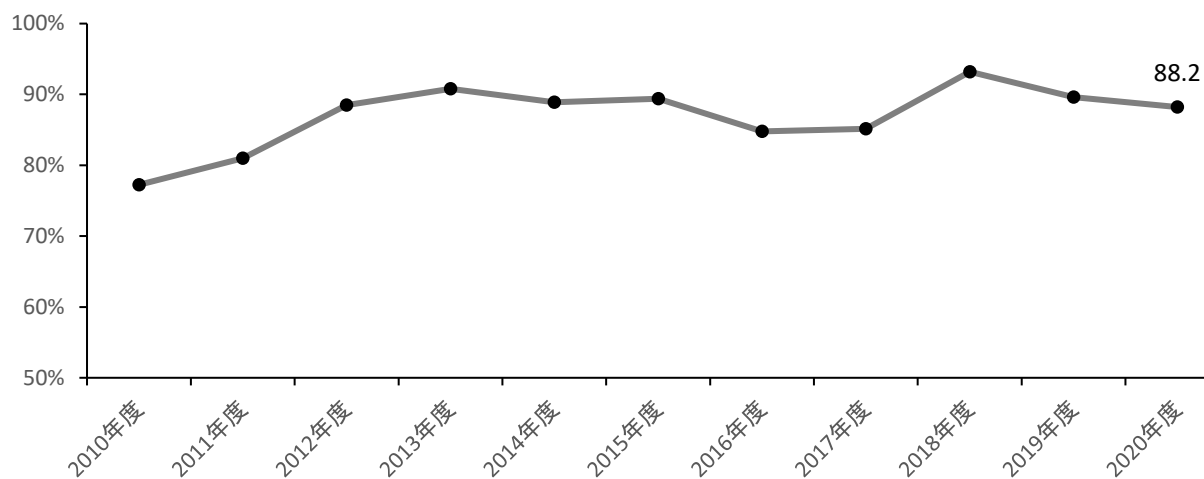
【各項目で単一回答】	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
施設利用や予約情報が入手しやすい	88.2	7.4	1.5	0.0	2.9
利用問い合わせや予約が円滑	95.6	1.5	0.0	0.0	2.9
事前打ち合わせが円滑	95.6	2.9	0.0	0.0	1.5
当日の対応が適切	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
事務スタッフの対応がよい	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
フロントスタッフの対応がよい	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
技術スタッフの対応がよい	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
苦情や要望への対応等が適切	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
施設の利用に関する説明が適切	97.1	0.0	0.0	0.0	2.9
事故や非常時の対応等に対する説明が適切	97.1	0.0	1.5	0.0	1.5
現在の開館時間は適当	85.3	11.8	0.0	0.0	2.9

2020年度の利用者による劇場に関する意見【施設について】

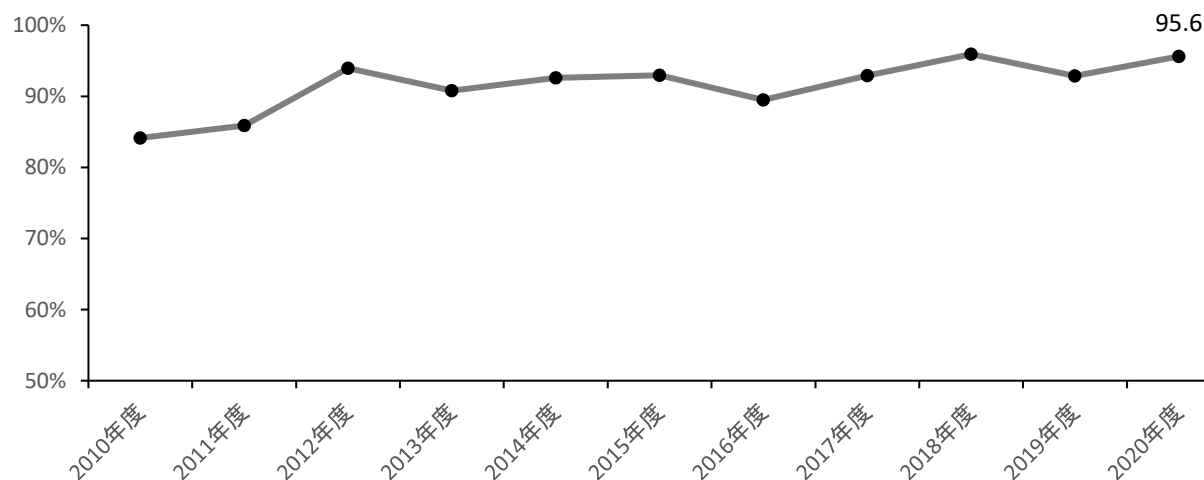


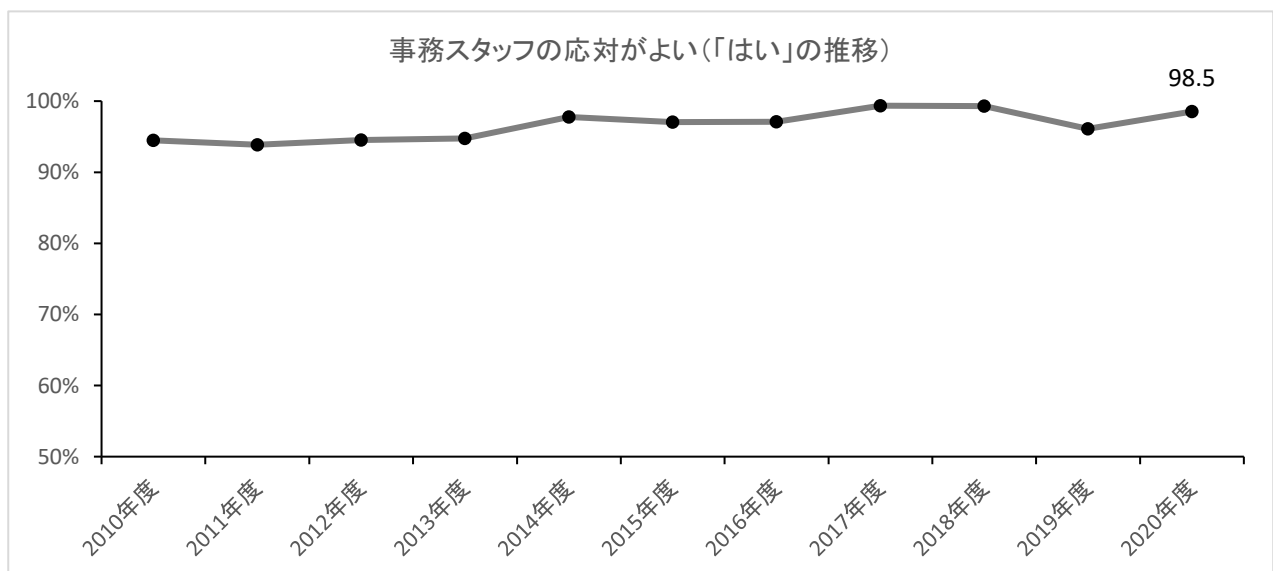
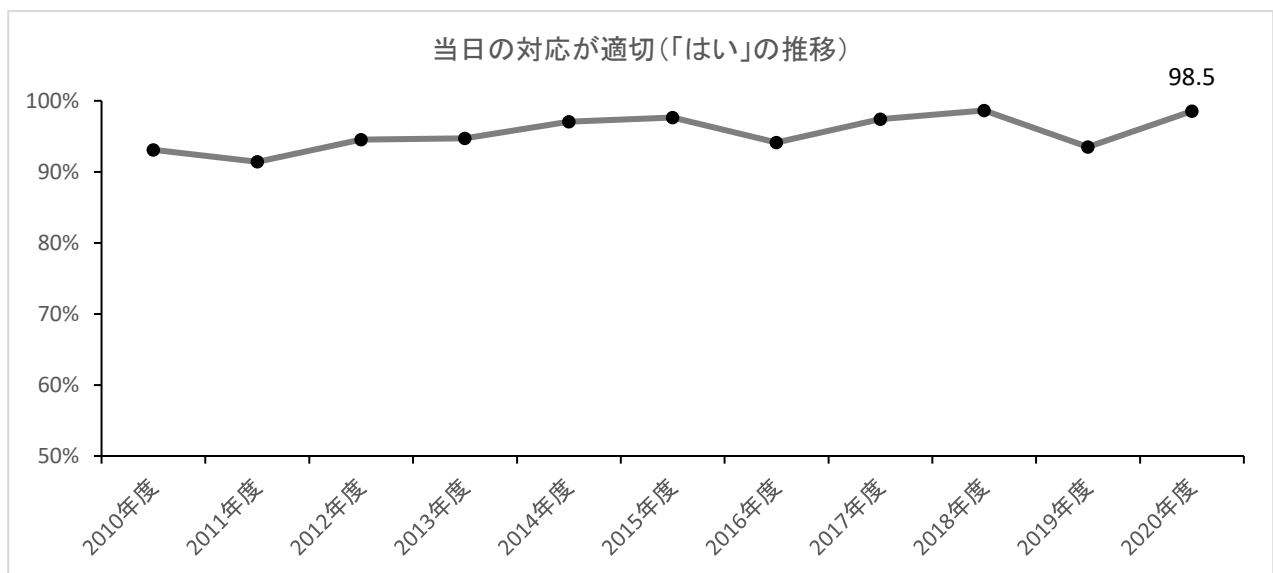
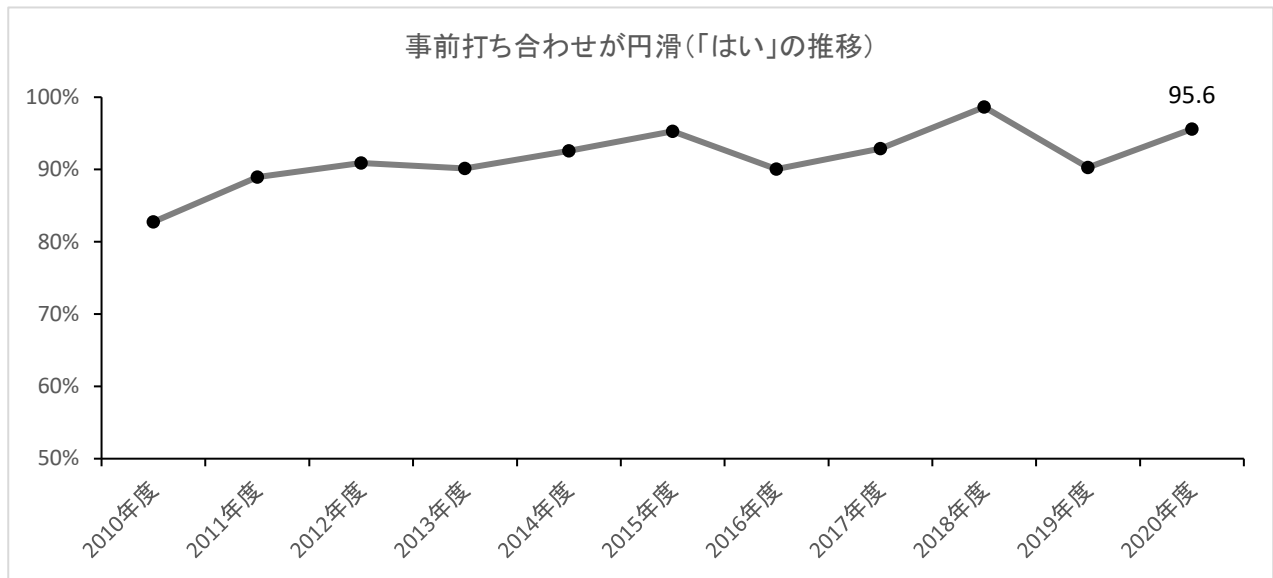
経年変化を見ると、「事務スタッフの対応がよい」、「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの対応がよい」は「はい」の回答が2010年度以降90%を超えており常に高い割合を維持している。2020年度は「技術スタッフの対応がよい」、「苦情や要望への対応等が適切」、「現在の開館時間は適当」の3項目で過去最高の割合となっている。

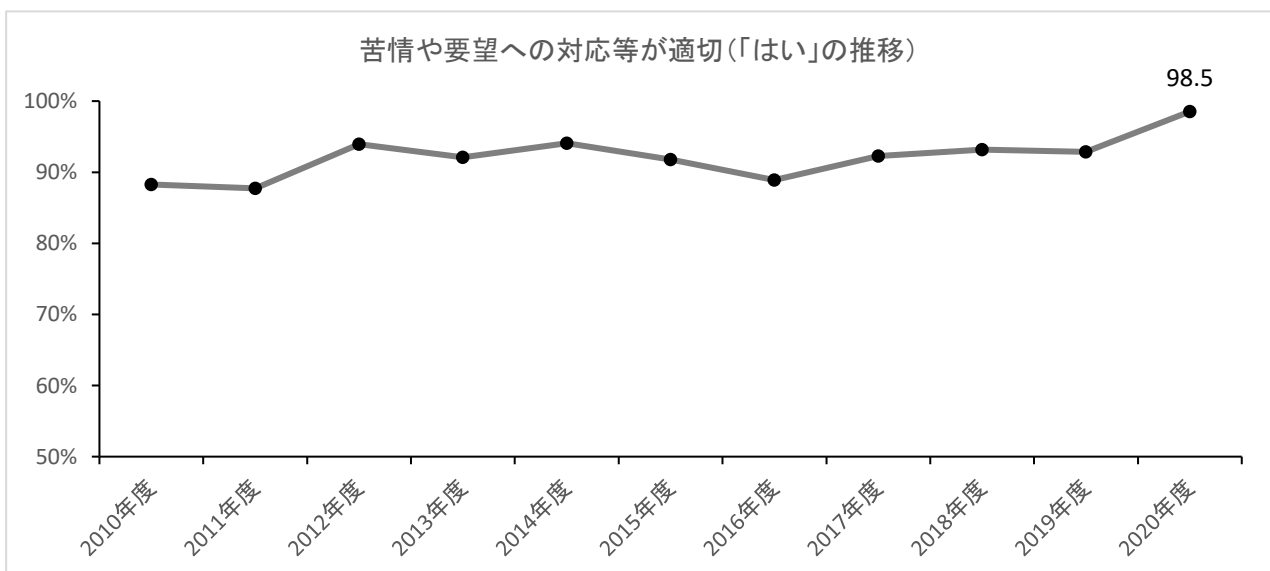
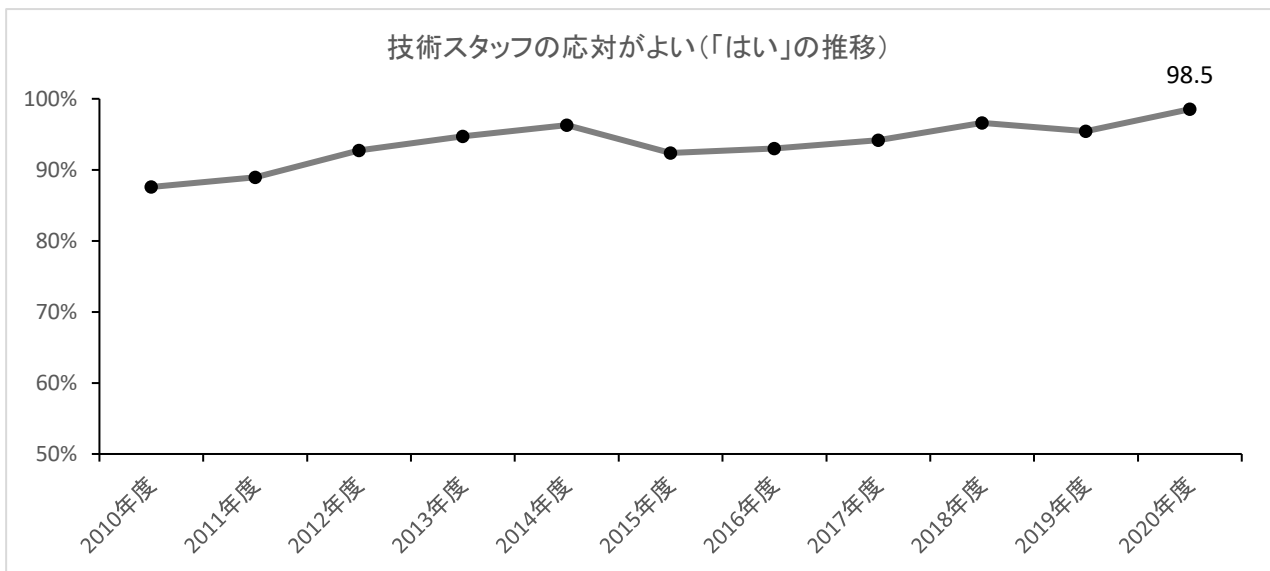
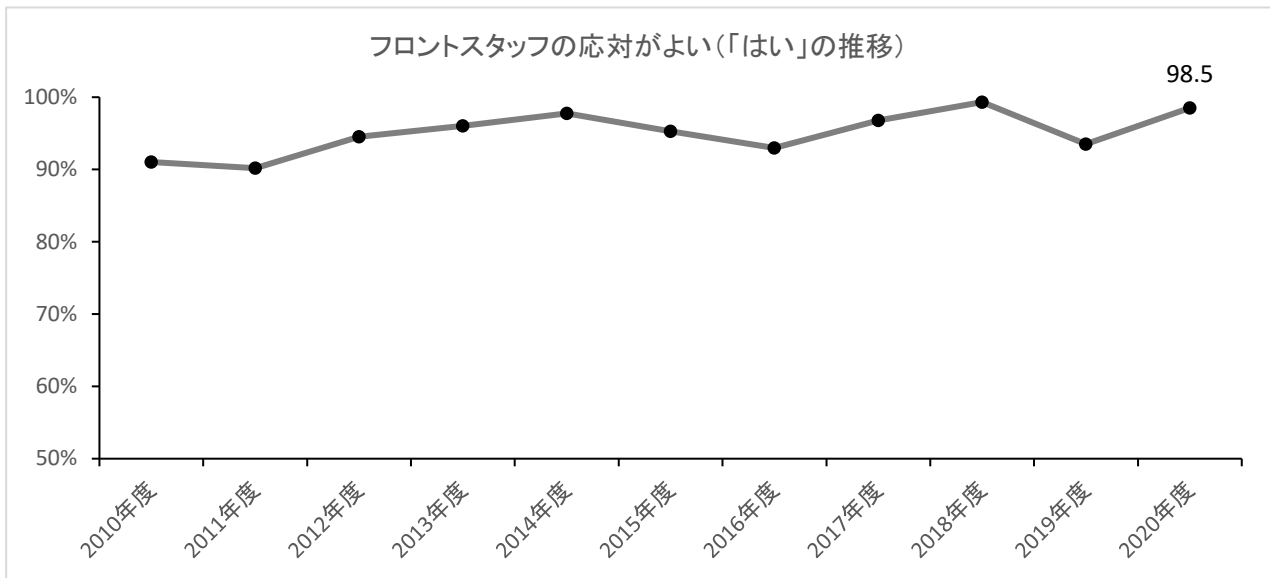
施設利用や予約情報が入手しやすい(「はい」の推移)

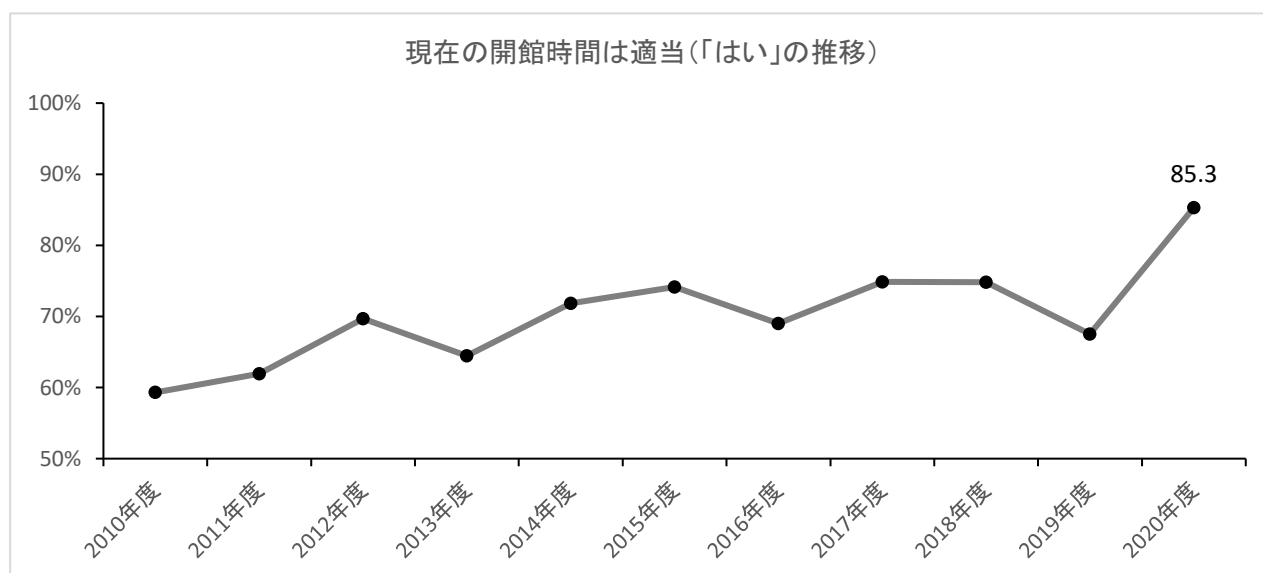
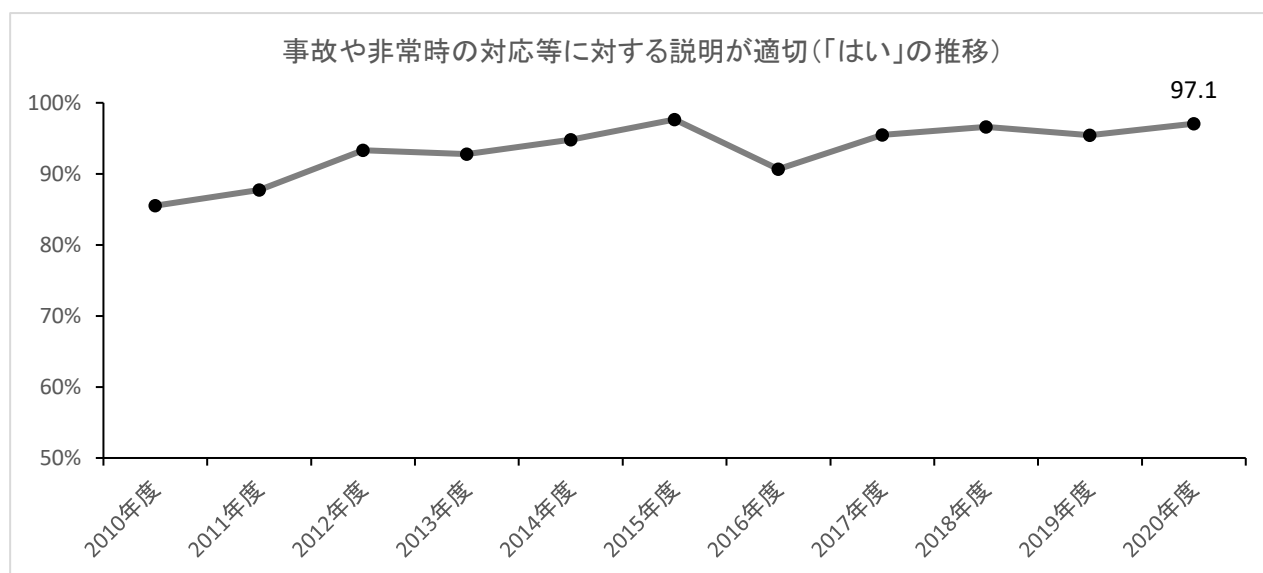
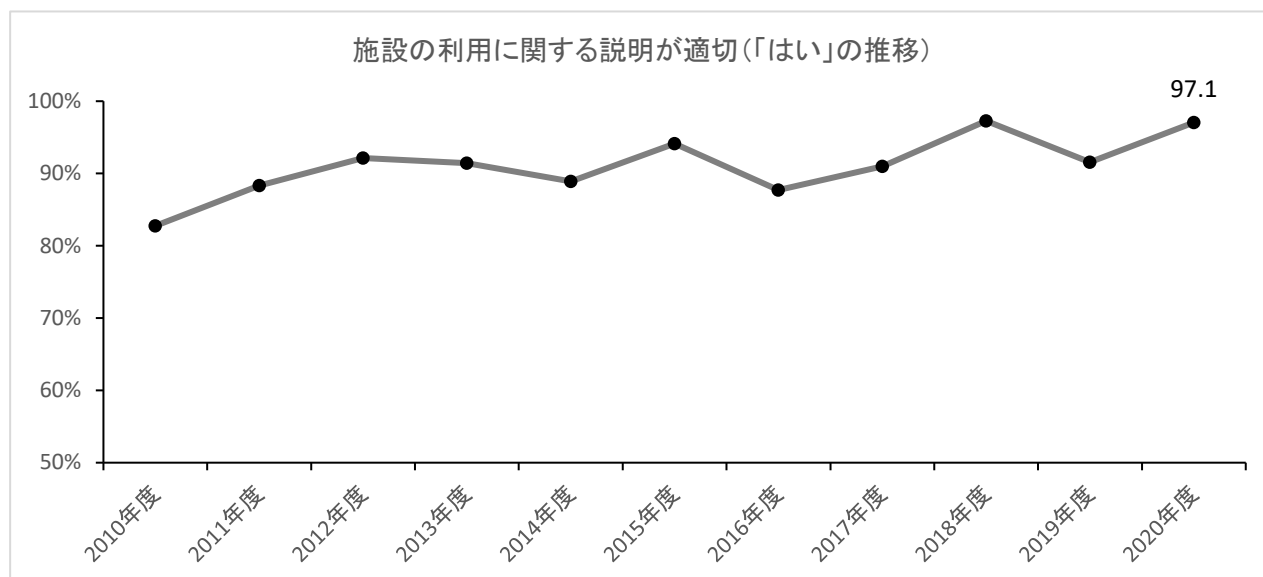


利用問い合わせや予約が円滑(「はい」の推移)









(2) 劇場に関する意見【運営について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えは「はい」	どちらかとい えは「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・対応① 施設利用や予約情報が入手しやすい						
2010年度	145	77.2	17.9	0.0	0.7	4.1
2011年度	163	81.0	14.1	1.8	0.0	3.1
2012年度	165	88.5	9.1	0.6	0.0	1.8
2013年度	152	90.8	7.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	88.9	6.7	0.0	0.0	4.4
2015年度	170	89.4	8.2	0.6	0.0	1.8
2016年度	171	84.8	11.1	1.8	0.0	2.3
2017年度	155	85.2	11.6	0.6	0.0	2.6
2018年度	147	93.2	6.1	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	89.6	7.1	1.3	0.0	1.9
2020年度	68	88.2	7.4	1.5	0.0	2.9
Q2-施設② 利用問い合わせや予約が円滑						
2010年度	145	84.1	9.0	0.7	1.4	4.8
2011年度	163	85.9	8.0	2.5	0.0	3.7
2012年度	165	93.9	2.4	0.6	0.0	3.0
2013年度	152	90.8	7.2	0.0	0.0	2.0
2014年度	135	92.6	3.7	0.0	0.0	3.7
2015年度	170	92.9	4.7	0.0	0.0	2.4
2016年度	171	89.5	7.0	0.0	0.0	3.5
2017年度	155	92.9	3.2	0.6	0.0	3.2
2018年度	100	95.9	3.4	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	92.9	5.2	0.0	0.0	1.9
2020年度	68	95.6	1.5	0.0	0.0	2.9
Q2-運営・対応③ 事前打ち合わせが円滑						
2010年度	145	82.8	12.4	1.4	2.1	1.4
2011年度	163	89.0	6.7	1.2	0.6	2.5
2012年度	165	90.9	5.5	0.6	0.6	2.4
2013年度	152	90.1	5.3	2.0	0.7	2.0
2014年度	135	92.6	1.5	2.2	0.0	3.7
2015年度	170	95.3	3.5	0.0	0.6	0.6
2016年度	171	90.1	5.8	1.8	0.0	2.3
2017年度	155	92.9	3.2	1.3	0.0	2.6
2018年度	147	98.6	0.7	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	90.3	6.5	0.6	0.6	1.9
2020年度	68	95.6	2.9	0.0	0.0	1.5
Q2-運営・対応④ 当日の対応が適切						
2010年度	145	93.1	4.8	0.0	1.4	0.7
2011年度	163	91.4	5.5	1.2	0.0	1.8
2012年度	165	94.5	3.6	0.0	0.6	1.2
2013年度	152	94.7	3.3	0.7	0.0	1.3
2014年度	135	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	97.6	1.8	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	94.2	4.1	0.0	0.0	1.8
2017年度	155	97.4	0.6	0.6	0.0	1.3
2018年度	147	98.6	0.7	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	93.5	4.5	0.6	0.6	0.6
2020年度	68	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5

(2) 劇場に関する意見【運営について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えば「はい」	どちらかとい えば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・対応⑤ 事務スタッフの対応がよい						
2010年度	145	94.5	4.1	0.0	1.4	0.0
2011年度	163	93.9	4.3	0.6	0.0	1.2
2012年度	165	94.5	4.2	0.0	0.0	1.2
2013年度	152	94.7	3.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	97.1	2.4	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	97.1	2.3	0.0	0.0	0.6
2017年度	155	99.4	0.6	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	99.3	0.7	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	96.1	1.9	0.6	0.0	1.3
2020年度	68	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
Q2-運営・対応⑥ フロントスタッフの対応がよい						
2010年度	145	91.0	7.6	0.0	1.4	0.0
2011年度	163	90.2	6.7	0.0	0.0	3.1
2012年度	165	94.5	3.6	0.0	0.0	1.8
2013年度	152	96.1	3.3	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	97.8	1.5	0.7	0.0	0.0
2015年度	170	95.3	3.5	0.0	0.0	1.2
2016年度	171	93.0	5.8	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	96.8	1.9	0.6	0.0	0.6
2018年度	147	99.3	0.7	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	93.5	4.5	0.0	0.0	1.9
2020年度	68	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
Q2-運営・対応⑦ 技術スタッフの対応がよい						
2010年度	145	87.6	6.9	0.7	1.4	3.4
2011年度	163	89.0	8.0	0.6	0.0	2.5
2012年度	165	92.7	4.8	0.0	0.6	1.8
2013年度	152	94.7	3.9	0.0	0.7	0.7
2014年度	135	96.3	2.2	0.0	0.0	1.5
2015年度	170	92.4	4.7	1.2	0.0	1.8
2016年度	171	93.0	4.7	0.0	1.2	1.2
2017年度	155	94.2	5.2	0.6	0.0	0.0
2018年度	147	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	95.5	1.9	0.6	0.6	1.3
2020年度	68	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5
Q2-運営・対応⑧ 苦情や要望への対応等が適切						
2010年度	145	88.3	9.0	0.0	1.4	1.4
2011年度	163	87.7	8.0	0.6	0.0	3.7
2012年度	165	93.9	3.0	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	92.1	5.3	0.7	0.0	2.0
2014年度	135	94.1	2.2	0.7	0.0	3.0
2015年度	170	91.8	6.5	0.0	0.0	1.8
2016年度	171	88.9	9.4	1.2	0.0	0.6
2017年度	155	92.3	3.9	0.6	0.0	3.2
2018年度	147	93.2	6.1	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	92.9	3.9	0.6	0.0	2.6
2020年度	68	98.5	0.0	0.0	0.0	1.5

(2) 劇場に関する意見【運営について】

Q2

(単位: %)

	調査数(n)	「はい」	どちらかとい えば「はい」	どちらかとい えば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・対応⑨ 施設の利用に関する説明が適切						
2010年度	145	82.8	11.0	2.8	0.0	3.4
2011年度	163	88.3	6.1	1.2	0.0	4.3
2012年度	165	92.1	4.2	0.0	0.0	3.6
2013年度	152	91.4	5.9	0.0	0.0	2.6
2014年度	135	88.9	4.4	0.7	0.7	5.2
2015年度	170	94.1	2.9	0.0	0.0	2.9
2016年度	171	87.7	8.8	1.2	0.0	2.3
2017年度	155	91.0	5.8	0.0	0.0	3.2
2018年度	147	97.3	2.0	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	91.6	5.8	0.6	0.0	1.9
2020年度	68	97.1	0.0	0.0	0.0	2.9
Q2-運営・対応⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切						
2010年度	145	85.5	11.0	0.7	0.0	2.8
2011年度	163	87.7	8.0	2.5	0.0	1.8
2012年度	165	93.3	3.6	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	92.8	5.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	94.8	3.7	0.0	0.0	1.5
2015年度	170	97.6	1.2	0.0	0.0	1.2
2016年度	171	90.6	8.2	0.0	0.0	1.2
2017年度	155	95.5	3.2	0.0	0.0	1.3
2018年度	147	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	95.5	3.2	0.0	0.0	1.3
2020年度	68	97.1	0.0	1.5	0.0	1.5
Q2-運営・対応⑪ 現在の開館時間は適当						
2010年度	145	59.3	19.3	14.5	4.8	2.1
2011年度	163	62.0	19.6	12.9	3.7	1.8
2012年度	165	69.7	17.6	5.5	3.0	4.2
2013年度	152	64.5	22.4	8.6	3.3	1.3
2014年度	135	71.9	17.8	5.9	3.7	0.7
2015年度	170	74.1	16.5	6.5	1.8	1.2
2016年度	171	69.0	21.6	5.3	2.9	1.2
2017年度	155	74.8	15.5	5.2	3.9	0.6
2018年度	147	74.8	18.4	4.1	2.7	0.0
2019年度	154	67.5	21.4	6.5	3.2	1.3
2020年度	68	85.3	11.8	0.0	0.0	2.9

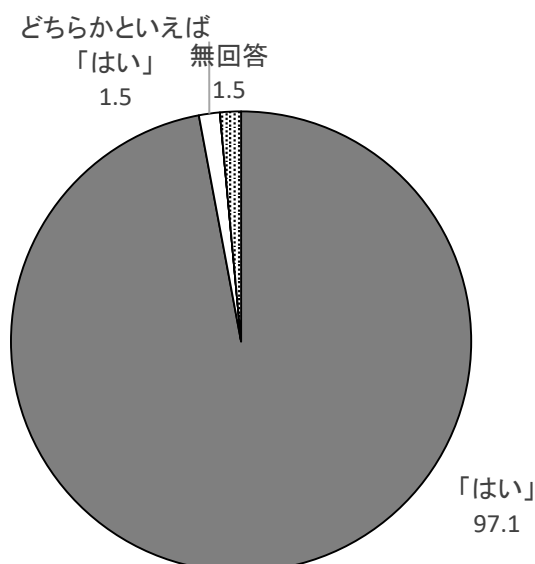
(3) 劇場に関する意見【今後の利用の意向】

Q2

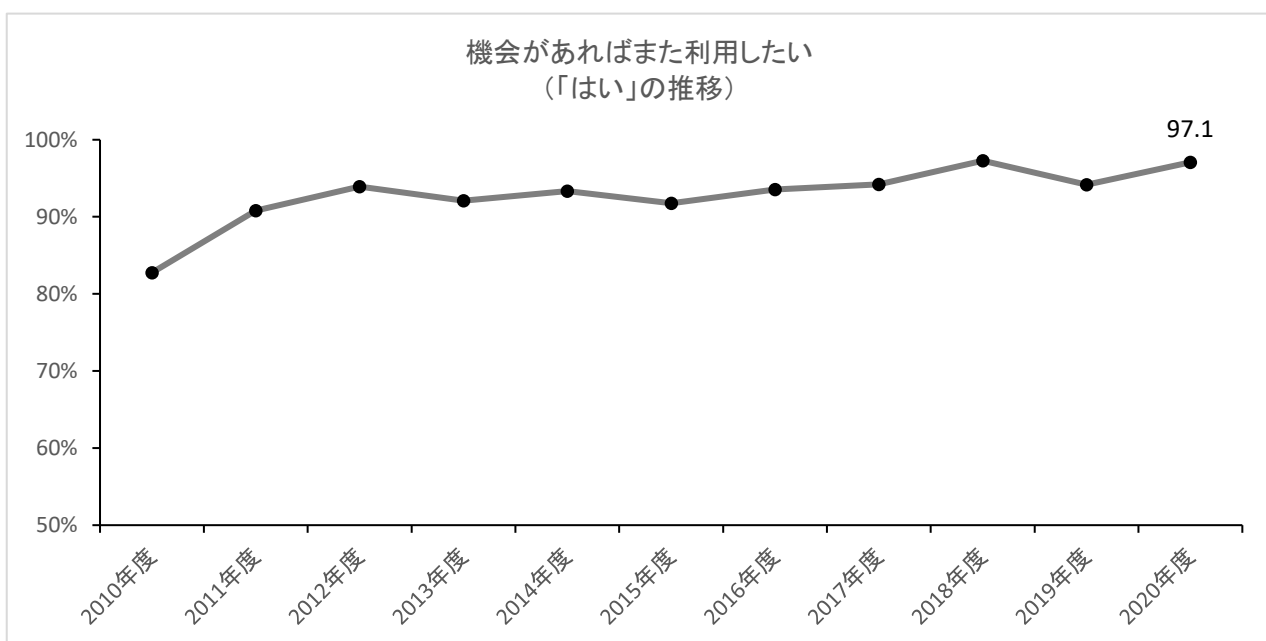
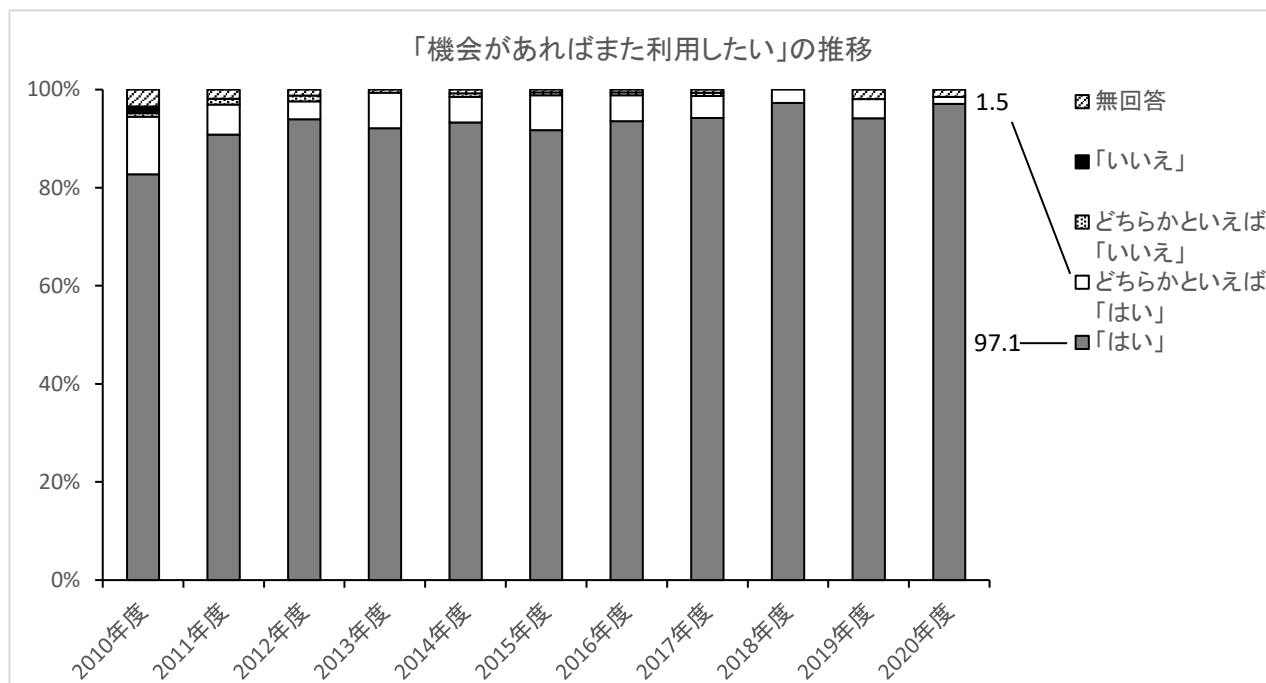
今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が97.1%で、2018年度に次いで2番目に高い割合となっている。

	調査数(n)	Q2 機会があればまた利用したい【単一回答】					(単位: %)
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答	
2010年度	145	82.8	11.7	0.7	1.4	3.4	
2011年度	163	90.8	6.1	1.2	0.0	1.8	
2012年度	165	93.9	3.6	1.2	0.0	1.2	
2013年度	152	92.1	7.2	0.0	0.0	0.7	
2014年度	135	93.3	5.2	0.7	0.0	0.7	
2015年度	170	91.8	7.1	0.6	0.0	0.6	
2016年度	171	93.6	5.3	0.6	0.0	0.6	
2017年度	155	94.2	4.5	0.6	0.0	0.6	
2018年度	147	97.3	2.7	0.0	0.0	0.0	
2019年度	154	94.2	3.9	0.0	0.0	1.9	
2020年度	68	97.1	1.5	0.0	0.0	1.5	

2020年度利用者の「機会があればまた利用したい」



経年変化でみると、2015年度から2018年度までは「はい」の回答が増加してきたが、2019年度にやや減少し、2020年度は2019年度に比べて増加している。



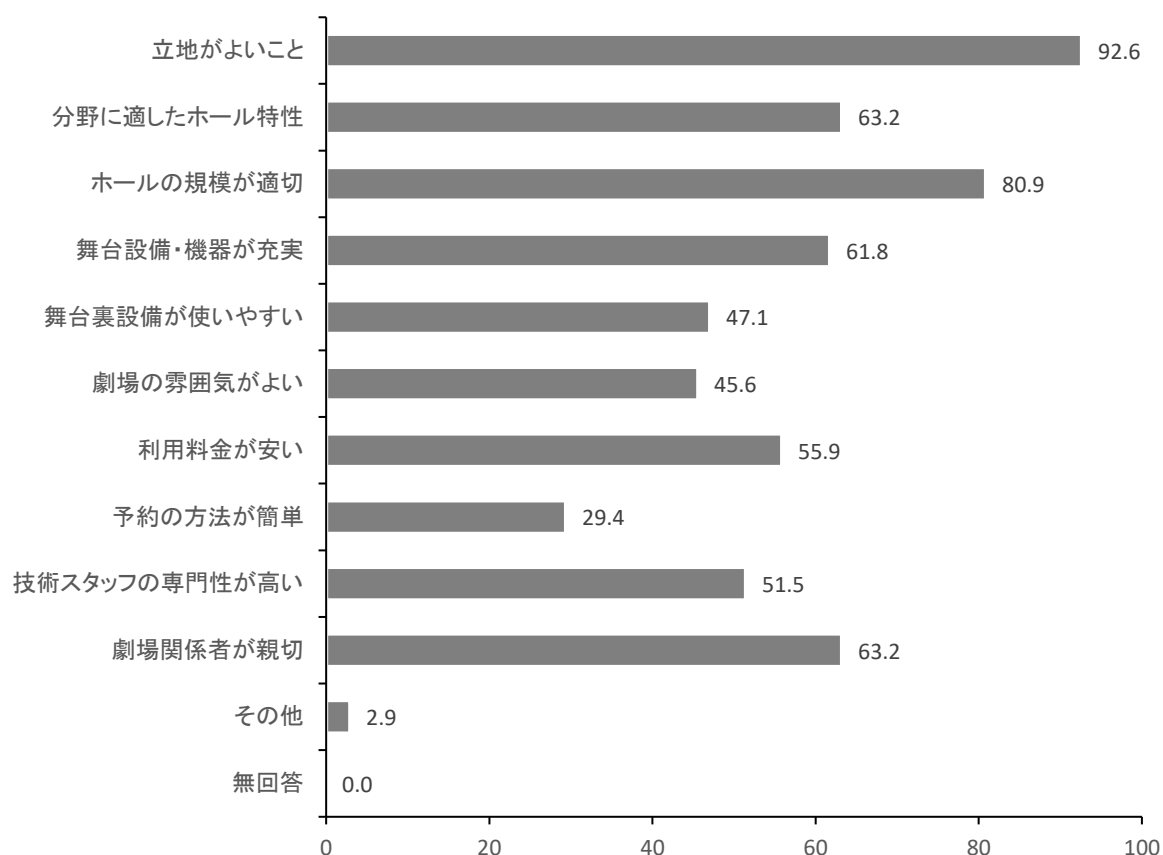
(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

施設を利用する際重視することとして回答が多いのは、「立地がよいこと」(92.6%)、「ホールの規模が適切」(80.9%)となっている。次いで、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「舞台設備・機器が充実」、「利用料金が安い」、「技術スタッフの専門性が高い」が50%以上の割合となっている。「立地がよいこと」は、2010年度以降で最も高い割合となっている。

	調査数 (n)	Q3 施設利用の際、重視すること【複数回答】											(単位: %)
		立地が よいこ と	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフの 専門性 が高い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
2010年度	145	82.8	49.0	75.9	52.4	33.1	29.0	53.8	17.9	35.9	46.9	1.4	2.1
2011年度	163	85.3	58.3	79.8	55.8	41.7	44.8	48.5	17.2	33.7	52.1	3.7	1.2
2012年度	165	84.8	69.7	83.6	60.0	44.8	42.4	52.7	16.4	38.8	59.4	3.6	0.6
2013年度	152	86.8	54.6	77.0	50.0	42.1	30.9	55.9	20.4	39.5	57.9	5.3	0.7
2014年度	135	85.2	60.0	77.8	56.3	39.3	38.5	54.8	22.2	41.5	63.0	1.5	1.5
2015年度	170	84.1	64.7	80.6	51.8	38.2	30.6	53.5	17.6	40.0	52.9	2.4	2.4
2016年度	171	84.2	63.7	84.8	50.3	40.9	36.3	47.4	15.2	36.3	54.4	4.1	0.6
2017年度	155	85.8	73.5	76.1	66.5	52.3	41.3	56.1	29.7	50.3	69.0	0.6	0.6
2018年度	147	87.1	59.2	85.0	52.4	42.2	34.7	57.1	25.2	43.5	57.8	1.4	1.4
2019年度	154	88.3	66.9	83.1	57.8	46.1	37.0	53.9	26.0	37.0	54.5	3.2	0.6
2020年度	68	92.6	63.2	80.9	61.8	47.1	45.6	55.9	29.4	51.5	63.2	2.9	0.0

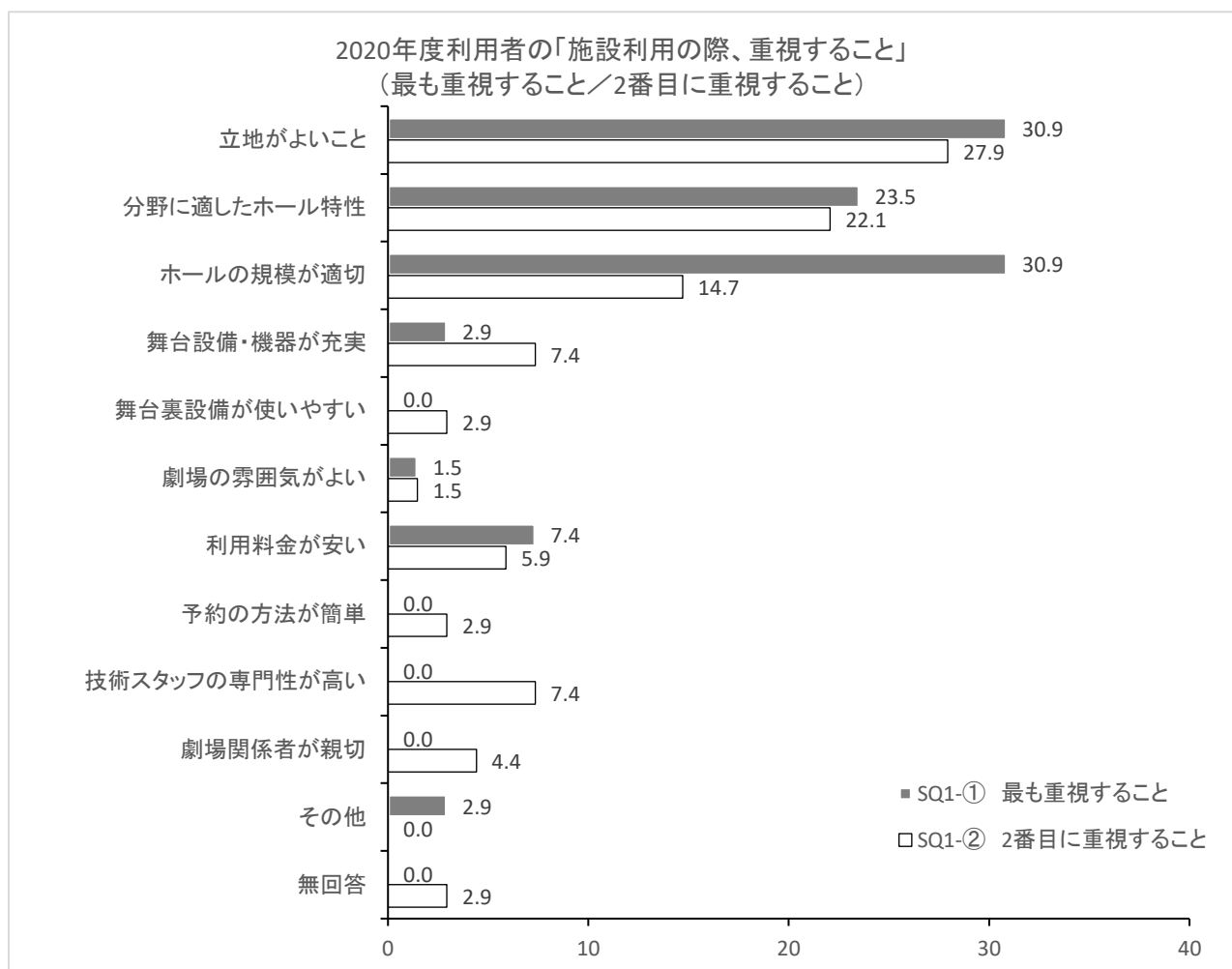
2020年度利用者の「施設利用の際、重視すること」



施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」と「ホールの規模が適切」が同率（30.9%）で最も多く、次いで「分野に適したホール特性」（23.5%）と続いている。

2番目に重視することでも、「立地が良いこと」（27.9%）が最も多く、次いで「分野に適したホール特性」（22.1%）となっている。

	Q3 施設利用の際、重視すること【単一回答】（単位：%）	
	SQ1-① 最も重視すること	SQ1-② 2番目に重視すること
立地がよいこと	30.9	27.9
分野に適したホール特性	23.5	22.1
ホールの規模が適切	30.9	14.7
舞台設備・機器が充実	2.9	7.4
舞台裏設備が使いやすい	0.0	2.9
劇場の雰囲気がよい	1.5	1.5
利用料金が安い	7.4	5.9
予約の方法が簡単	0.0	2.9
技術スタッフの専門性が高い	0.0	7.4
劇場関係者が親切	0.0	4.4
その他	2.9	0.0
無回答	0.0	2.9



(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

	調査数 (n)	SQ1-① 最も重視すること											(単位: %)	
		立地が よいこ と	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフ の専門 性が高 い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答	
2010年度	145	31.7	20.7	29.0	4.8	0.7	0.7	6.9	0.0	0.0	2.8	0.7	2.1	
2011年度	163	28.2	22.7	27.0	4.9	0.6	0.6	7.4	0.0	1.2	4.3	1.2	1.8	
2012年度	165	29.7	29.1	25.5	3.6	0.0	0.6	4.8	0.0	1.8	3.6	0.0	1.2	
2013年度	152	29.6	26.3	27.0	1.3	0.7	0.7	6.6	0.0	0.7	3.3	2.6	1.3	
2014年度	135	31.9	25.9	23.0	4.4	0.0	1.5	6.7	0.0	0.7	4.4	0.0	1.5	
2015年度	170	24.7	26.5	26.5	2.9	0.0	1.2	10.6	0.0	0.6	2.9	1.2	2.9	
2016年度	171	25.7	24.0	28.7	4.7	1.8	1.2	8.8	0.0	0.6	2.3	1.8	0.6	
2017年度	155	30.3	26.5	21.9	6.5	0.6	0.0	10.3	0.6	0.0	3.2	0.0	0.0	
2018年度	147	34.0	21.8	24.5	3.4	0.7	0.7	8.8	0.7	0.7	2.0	0.0	2.7	
2019年度	154	42.2	18.8	20.8	3.2	0.0	0.0	7.1	0.6	1.3	4.5	0.6	0.6	
2020年度	68	30.9	23.5	30.9	2.9	0.0	1.5	7.4	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	

	調査数 (n)	SQ1-② 2番目に重視すること											(単位: %)	
		立地が よいこ と	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機 器が充 実	舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフ の専門 性が高 い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答	
2010年度	145	21.4	9.0	19.3	8.3	3.4	3.4	15.9	0.7	3.4	9.7	0.7	4.8	
2011年度	163	23.9	9.8	20.2	10.4	3.7	4.9	18.4	0.0	2.5	3.7	0.0	2.5	
2012年度	165	18.8	9.7	23.6	9.7	5.5	5.5	14.5	0.0	4.2	6.1	0.0	2.4	
2013年度	152	19.1	11.2	22.4	10.5	1.3	3.3	19.7	0.7	3.3	5.3	1.3	2.0	
2014年度	135	17.0	14.1	25.9	6.7	4.4	2.2	15.6	0.0	5.2	5.2	0.0	3.7	
2015年度	170	20.0	11.2	23.5	11.2	1.8	2.9	15.3	0.0	5.3	4.7	0.0	4.1	
2016年度	171	21.6	12.3	25.7	7.0	2.9	1.2	12.3	0.0	5.8	9.4	0.6	1.2	
2017年度	155	16.8	14.8	23.2	8.4	7.1	1.9	14.8	0.6	5.2	6.5	0.0	0.6	
2018年度	147	17.0	14.3	23.8	8.2	2.0	0.7	17.0	0.7	5.4	8.2	0.7	2.0	
2019年度	154	16.9	16.9	25.3	7.8	4.5	3.9	11.7	0.6	5.8	5.8	0.0	0.6	
2020年度	68	27.9	22.1	14.7	7.4	2.9	1.5	5.9	2.9	7.4	4.4	0.0	2.9	

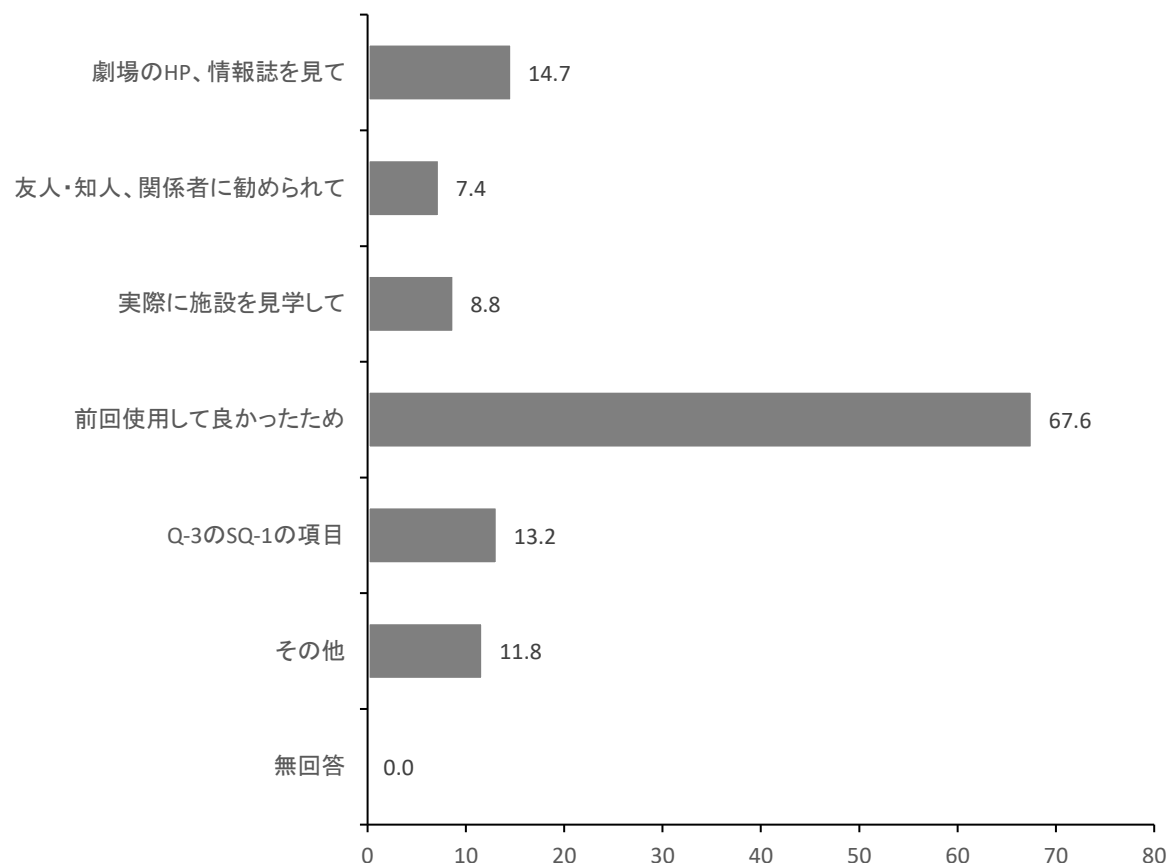
(5) 劇場を利用したきっかけ

Q4

劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、67.6%を占めている。劇場への満足度が高くリピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「劇場のHP、情報誌を見て」(14.7%)、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」(13.2%)となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっている。

	調査数(n)	Q4 劇場を利用したきっかけ【複数回答】 (単位: %)						
		劇場のHP、情報誌を見て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
2010年度	145	15.9	11.7	12.4	58.6	19.3	5.5	6.2
2011年度	163	12.9	12.3	12.3	61.3	22.7	6.1	5.5
2012年度	165	14.5	8.5	14.5	70.3	26.1	3.6	2.4
2013年度	152	10.5	14.5	11.2	71.7	23.0	9.9	1.3
2014年度	135	7.4	9.6	7.4	73.3	23.7	7.4	3.7
2015年度	170	10.6	8.2	7.6	71.2	18.2	5.3	5.9
2016年度	171	12.3	8.2	12.9	67.8	17.0	7.0	2.9
2017年度	155	7.7	6.5	8.4	72.9	20.6	11.0	2.6
2018年度	147	11.6	8.2	9.5	70.1	14.3	8.8	4.1
2019年度	154	11.7	11.0	6.5	67.5	14.9	9.1	3.2
2020年度	68	14.7	7.4	8.8	67.6	13.2	11.8	0.0

2020年度利用者の「劇場を利用したきっかけ」



参考 | 利用者調査 調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。

ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場） TEL093-562-8436/ FAX 093-562-2588

Q-1 今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的なご意見はいかがですか。

（○は1つ）

1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

（「まったく満足していない」とご回答された方へ） 具体的なお意見をお聞かせください

Q-2 本日ご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに○をつけてください。（○は各項目1つずつ）

（施設について）

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2 ホワイエや客席など雰囲気 がよかったですか。	1	2	3	4	
3 広さ（客席数等）はちょうど よかったですか。	1	2	3	4	
4 搬入・搬出がやりやすかつ たですか。	1	2	3	4	

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
5 舞台設備・機器は充実して いましたか。	1	2	3	4	
6 楽屋、休憩室など舞台裏の 施設・設備が使いやすかつ たですか。	1	2	3	4	
7 設備・機器を使用する際、 安全に使用できましたか。	1	2	3	4	

(運営・対応について)

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 施設利用や予約に関する情報 は入手しやすかったですか。	1	2	3	4	
2 利用問い合わせや予約・受 付は円滑でしたか。	1	2	3	4	
3 事前打合わせは円滑でし たか。	1	2	3	4	
4 当日の対応は適切でした か。	1	2	3	4	
5 事務スタッフの対応はよか ったですか。	1	2	3	4	
6 フロントスタッフの対応は よかったですか。	1	2	3	4	
7 技術スタッフの対応はよか ったですか（技術的な助言 や援助は適切でしたか）。	1	2	3	4	
8 苦情や要望への対応は適切 でしたか。	1	2	3	4	
9 設備、料金、使用時間等施 設の利用に関する説明は適 切でしたか。	1	2	3	4	
10 事故防止や非常時の対応等 に関する説明は適切でした か。	1	2	3	4	
11 現在の開館時間（午前10 時～午後10時）は適当で あると思いますか。	1	2	3	4	
12 次回利用する機会があれ ば、また利用したいと思いますか。	1	2	3	4	

Q-3 施設を利用する際、重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 立地がよいこと
2. 公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること
3. ホールの規模(客席数)が適切であること
4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと
6. ホワイエや客席などの雰囲気がいよいこと
7. 利用料金が安いこと
8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと
10. スタッフが親切なこと
11. その他(具体的に: _____)

SQ-1 上記10項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することは何ですか。

最も重視
すること

2番目に重視
すること

Q-4 北九州芸術劇場をご利用いただいたきっかけ及び理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 劇場のホームページ、情報誌(チラシなどを含む)を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q-3のSQ-1の項目が備わっているため
6. その他(具体的に: _____)

Q-5 北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。

また、ご利用回数が2回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎ 差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名(個人の場合はお名前)	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年 月 日() ~ 月 日()
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上 (いずれか1つに〇)

ご協力ありがとうございました。

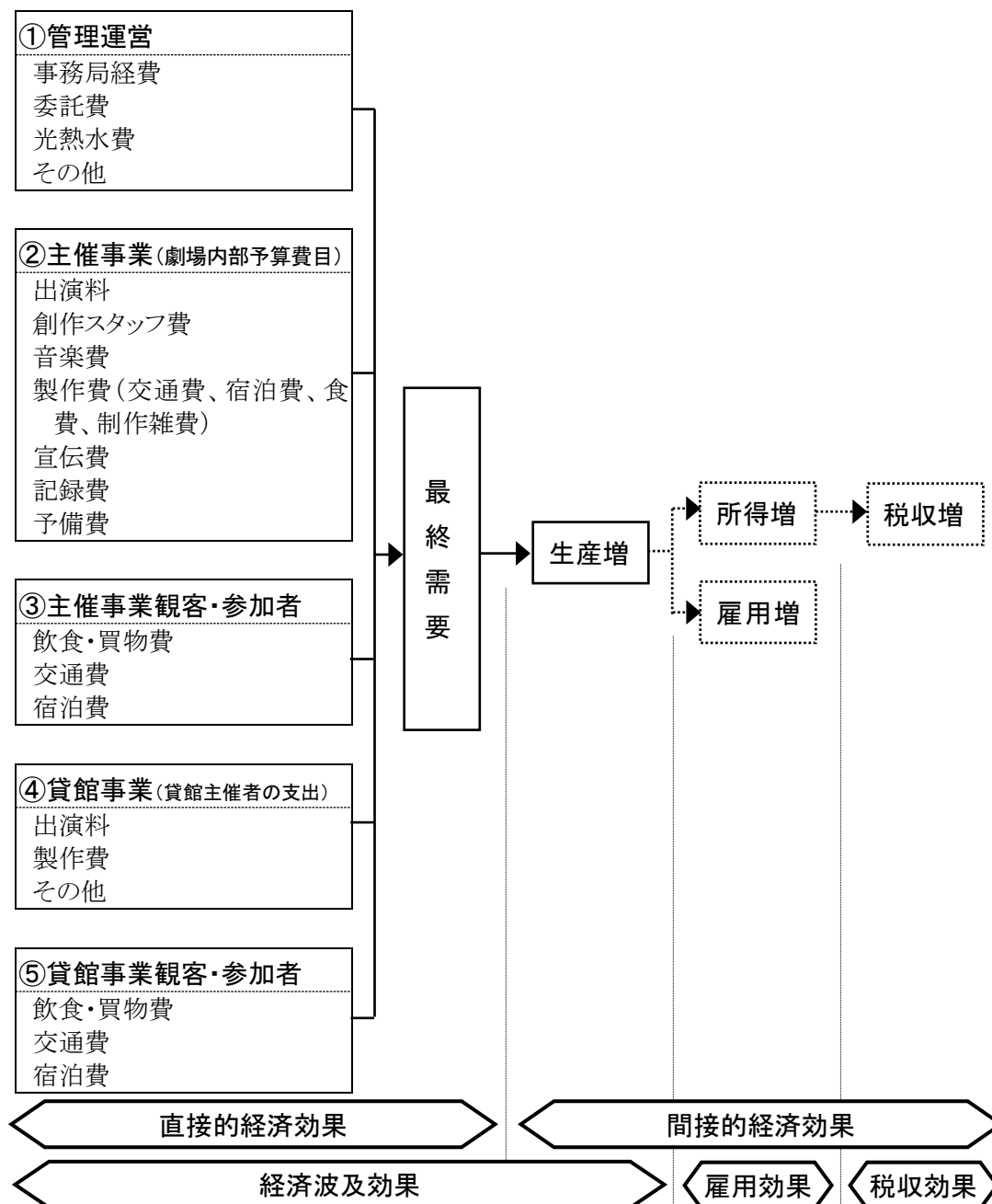
IV

經濟波及效果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅳ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅳ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの(①、②、④)と、観客の消費支出に伴うもの(③、⑤)に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅳ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅳ-2 産業連関表(平成23年度・37部門)と劇場における支出費目の関係

産業部門名	劇場運営・事業に伴う最終需要				
	管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1 農林水産業					
2 鉱業					
3 飲食料品					
4 繊維製品					
5 パルプ・紙・木製品					
6 化学製品					
7 石油・石炭製品					
8 プラスチック・ゴム					
9 窯業・土石製品					
10 鉄鋼					
11 非鉄金属					
12 金属製品					
13 はん用機械					
14 生産用機械					
15 業務用機械					
16 電子部品					
17 電気機械					
18 情報・通信機器					
19 輸送機械					
20 その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
21 建設					
22 電力・ガス・熱供給	光熱費 (電力・ガス)				
23 水道	上下水道費				
24 廃棄物処理	廃棄物処理	廃棄物処理		廃棄物処理	
25 商業	物品購入 (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)
26 金融・保険	保険料	保険料		保険料	
27 不動産					
28 運輸・郵便	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費	旅費・交通費 輸送費・郵便	旅費・交通費
29 情報通信	通信費	通信費	通信費	通信費	通信費
30 公務					
31 教育・研究					
32 医療・福祉					
33 その他の非営利団体サービス					
34 対事業所サービス	広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)、事務用品賃貸、委託(清掃・警備、舞台技術スタッフ)	広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)、委託(公演、舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)		広告(TV・ラジオ、新聞・雑誌等)	
35 対個人サービス	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	出演者・講師等 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	劇団等(興行団) 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)
36 事務用品	事務用品			事務用品	
37 分類不明					

注) 括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅳ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 その他の製造工業製品	印刷製本費	894	564	1,458	
22 電力・ガス・熱供給	光熱水量費	142,835	0	142,835	電気・ガス
23 水道	光熱水量費	7,175	0	7,175	
25 商業	消耗品費	3,670	112	3,783	
26 金融・保険	保険料	6,122	645	6,767	
28 運輸・郵便	旅費交通費	967	479	1,446	交通費
	通信運搬費	63	0	63	宅配便
29 情報通信	雑費・通信運搬費・支払負担金	189	1,966	2,155	電話等
34 対事業所サービス	広告宣伝費	6,312	837	7,150	
	委託費(舞台技術)	95,326	0	95,326	
	支払負担金(警備)	21,250	0	21,250	
	支払負担金(清掃)	37,245	0	37,245	
	その他	215,738	65,740	281,478	
35 対個人サービス	ケータリング費	0	6	6	
	旅費交通費	0	773	773	宿泊費
36 事務用品	消耗品費他	1,895	89	1,984	
計		539,681	71,211	610,892	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億1,089万円で、うち88.3%(約5億3,968万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅳ-4である。
- 主催事業では、スタッフ経費などの対事業所サービス、北九州までの交通費などの運輸、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、講師・スタッフの諸謝金(約1,125万円)が最も大きく、次いで、出演委託費(約926万円)、招聘旅費交通費(約684万円)などとあわせると、約2,900万円が使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約1億1,449万円、うち31.7%(約3,626万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅳ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 その他の製造工業製品	印刷製本費	1,941	464	2,405	チラシ・ポスター
22 電力・ガス・熱供給	光熱水量費	0	0	0	
24 廃棄物処理	廃棄物処理	0	0	0	
26 金融・保険	保険料	530	22	552	
28 運輸・郵便	招聘旅費交通費・旅費交通費	7,817	270	8,087	交通費
	委託費	0	764	764	運搬
	通信運搬費	194	0	194	宅配便
29 情報通信	通信運搬費	867	59	926	電話等
34 対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)	7,034	15,888	22,923	
	委託費(公演料・出演料・講師料)	3,866	36,489	40,356	
	委託費(調律費)	66	0	66	ピアノ調律
	委託費(広告宣伝)	1,308	985	2,293	
	委託費(デザイン費)	786	149	935	
	その他	1,083	4,654	5,737	
35 対個人サービス	委託費(委託・出演料)	2,087	7,176	9,263	
	諸謝金(講師・スタッフ謝金)	3,446	7,808	11,254	
	委託費(撮影・映像編集)	0	0	0	
	宿泊・招聘旅費交通費・旅費交通費	3,823	3,016	6,839	宿泊費
	ケータリング費	1,119	230	1,349	食費
	その他	40	250	290	
37 事務用品	消耗品費・消耗什器備品費	256	0	256	委託費・その他
計		36,263	78,226	114,489	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った(図表-資Ⅳ-5)。
- 2020年度の観客アンケートの調査結果を見ると、回答者数全体の457人のうち、62.1%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食金額の回答者数252人から、飲食をした人の割合は55.1%、一人あたりの平均金額は1,967.4円となっている。また、ショッピング金額の回答者数222人から、ショッピングした人の割合は48.6%、一人あたりの平均金額は2,859.5円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の約1.5倍となっている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業などの北九州市内(北九州芸術劇場)での公演の入場者(20年度の公演事業は北九州芸術劇場を含む市内のみ)は6,674人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約724万円、ショッピングの支出額は約927万円、計約1,651万円と推計される。なお、20年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で公演数と入場者数が減少し、19年度に比べて飲食の平均単価が増加したものの、ショッピングの平均単価は減少した結果、北九州市内での観客消費支出は大幅に減少している(19年度は約3,988万円の前年度比58.6%のマイナス)。

図表-資IV-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
アンケートでの金額の回答者数（人）	252	222
消費行動の割合	55.1%	48.6%
一人あたりの平均金額（円）	1,967.4	2,859.5

	観客数 （人）	合計支出額(千円)		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	6,674	7,241	9,271	16,511
北九州市外での公演	0	0	0	0
合計	6,674	7,241	9,271	16,511

注) 上記の表中の数値は、実数に基づく計算結果を転載したものである。消費行動の割合と一人あたりの平均金額は小数点第2位以下を四捨五入しているため、表中の数値を再計算したものと、合計支出額が異なる箇所がある(以下、いずれの表にも共通)。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
 - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JR とも片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までの JR 運賃(特急利用、新幹線利用なし)で試算した。
 - その他の地域には、広島・東京・千葉・神奈川・大阪・兵庫・神戸(03年度調査)などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
 - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
 - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる(03年度調査では約33%)が、すべて JR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資IV-6のとおり、合計で約4,727万円と推計される。

図表-資IV-6 主催事業の観客の消費支出額

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
25 商業	ショッピング(公演前後)	9,271	0	9,271	
28 運輸・郵便	旅費・交通費	2,755	20,513	23,268	
35 対個人サービス	食費(公演前後)	7,241	0	7,241	
	宿泊費	4,995	0	4,995	
	食費(宿泊に伴う)	2,497	0	2,497	
合計		26,758	20,513	47,271	

(4) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う最終需要(参考値)

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公

演(講演含む)当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。

- 20年度の貸館事業の公演等の年間延べ回数142件から、同一主催者・同一内容の利用で複数回の公演等を行ったものを1回として計上すると、75回の利用があった。そこから試算した結果は、下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約3,423万円、30%のケースで約5,134万円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資IV-7 貸館事業に伴う最終需要(参考値)

	金額(千円)			備考
	北九州市内	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の20%の場合	34,226	0	34,226	
1公演あたりの支出が主催公演の30%の場合	51,339	0	51,339	

(5) 貸館事業(市主催・共催含む)の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約1億2,092万円であった(図表-資IV-8)。試算の前提条件は以下のとおりである。
 - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくい。ため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
 - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
 - 20年度の貸館(市主催・共催含む)の総入場者数は、43,678人とした。

図表-資IV-8 貸館事業の観客の消費支出額(参考値)

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
25 商業	ショッピング(公演前後)	48,538	0	48,538	
28 運輸	旅費・交通費	34,477	0	34,477	
35 対個人サービス	食費(公演前後)	37,909	0	37,909	
合計		120,923	0	120,923	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2020年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果(図表-資IV-9)は、北九州市内が約6億9,589万円、北九州市外が約1億1,917万円、合計が約8億1,506万円で、それぞれ最終需要に対する生産

誘発係数は1.29、1.67、1.33である。

- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約4,714万円、北九州市外が約1億3,177万円、合計が約1億7,891万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.30、1.68、1.56である。
- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約9億9,396万円で、生産誘発係数は1.37である。

図表-資Ⅳ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

	管理運営			主催事業			(千円)
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	合計
最終需要(支出額)	539,681	71,211	610,892	36,263	78,226	114,489	725,381
農林水産業	23	116	138	40	898	938	1,076
鉱業	1,013	32	1,045	4	44	48	1,092
飲食料品	24	153	176	296	2,412	2,708	2,885
繊維製品	75	122	198	7	147	154	352
パルプ・紙・木製品	1,140	935	2,075	159	1,012	1,171	3,246
化学製品	20	998	1,018	2	1,157	1,159	2,178
石油・石炭製品	-127	800	673	-10	1,095	1,085	1,758
プラスチック・ゴム	1,927	1,381	3,308	139	1,368	1,507	4,816
窯業・土石製品	397	271	668	26	289	314	982
鉄鋼	318	1,296	1,614	20	1,241	1,261	2,876
非鉄金属	150	336	486	13	323	336	822
金属製品	576	373	949	53	442	495	1,444
はん用機械	134	678	812	5	606	611	1,423
生産用機械	855	888	1,743	35	789	824	2,566
業務用機械	174	436	610	8	399	408	1,018
電子部品	-103	1,068	965	-4	950	946	1,911
電気機械	677	642	1,318	29	576	605	1,923
情報・通信機器	3	74	77	0	68	68	145
輸送機械	1,644	3,520	5,164	82	3,171	3,253	8,417
その他の製造工業製品	5,295	1,643	6,938	2,245	1,537	3,782	10,720
建設	5,878	588	6,466	228	718	946	7,412
電力・ガス・熱供給	162,273	1,157	163,431	642	1,746	2,388	165,819
水道	7,947	171	8,118	108	375	482	8,600
廃棄物処理	684	107	792	76	334	410	1,202
商業	12,807	3,274	16,080	1,106	4,548	5,654	21,734
金融・保険	13,916	2,050	15,966	1,037	1,489	2,526	18,492
不動産	4,086	1,256	5,342	517	1,492	2,009	7,351
運輸・郵便	12,353	3,016	15,369	9,533	4,243	13,776	29,145
情報通信	16,757	9,455	26,212	1,789	6,971	8,760	34,972
公務	1,146	197	1,343	67	193	260	1,604
教育・研究	2,599	961	3,561	141	905	1,046	4,607
医療・福祉	33	12	45	5	13	18	62
その他の非営利団体サービス	960	222	1,181	73	268	341	1,522
対事業所サービス	431,889	78,778	510,667	17,352	69,942	87,294	597,961
対個人サービス	649	1,034	1,683	10,689	18,958	29,647	31,330
事務用品	2,947	262	3,209	350	193	543	3,752
分類不明	4,748	869	5,618	278	853	1,131	6,748
合計	695,889	119,169	815,059	47,141	131,765	178,906	993,964
生産誘発係数	1.29	1.67	1.33	1.30	1.68	1.56	1.37

注)各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果(図表-資IV-10)をみると、北九州市内が約3,452万円、北九州市外が約3,587万円、合計が約7,039万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.29、1.75、1.49となっている。

図表-資IV-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

	(千円)		
	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要(支出額)	26,758	20,513	47,271
農林水産業	54	16	70
鉱業	5	52	58
飲食料品	413	12	426
繊維製品	7	29	36
パルプ・紙・木製品	73	241	315
化学製品	1	130	131
石油・石炭製品	-5	2,400	2,394
プラスチック・ゴム	58	193	250
窯業・土石製品	16	46	62
鉄鋼	11	230	241
非鉄金属	4	43	48
金属製品	49	100	149
はん用機械	1	41	42
生産用機械	3	43	46
業務用機械	3	23	26
電子部品	0	58	57
電気機械	5	51	56
情報・通信機器	0	8	8
輸送機械	13	709	722
その他の製造工業製品	162	133	295
建設	194	425	619
電力・ガス・熱供給	819	397	1,216
水道	123	127	249
廃棄物処理	92	86	178
商業	10,228	952	11,180
金融・保険	359	649	1,009
不動産	539	619	1,158
運輸・郵便	3,778	23,103	26,881
情報通信	498	746	1,244
公務	41	55	96
教育・研究	72	163	235
医療・福祉	3	21	24
その他の非営利団体サービス	55	46	102
対事業所サービス	1,658	3,587	5,245
対個人サービス	14,942	34	14,976
事務用品	79	53	132
分類不明	170	243	413
合計	34,522	35,866	70,388
生産誘発係数	1.29	1.75	1.49

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と一致しない箇所がある。

(3) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う経済波及効果(参考値)

- 次に、貸館主催者の最終需要(事業支出)、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料IV-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約4,387万円、30%の場合は約6,580万円で、生産誘発係数はともに1.28である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約1億5,706万円、生産誘発係数は1.30である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州

市内への支出と想定した。

図表-資IV-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果(参考値)

	(千円)		観客の 消費支出
	貸館公演・講演事業 ケース①	ケース②	
最終需要(支出額)	34,226	51,339	120,923
農林水産業	33	49	141
鉱業	3	5	19
飲食料品	244	366	1,066
繊維製品	7	10	29
パルプ・紙・木製品	97	145	323
化学製品	2	3	3
石油・石炭製品	-5	-7	-42
プラスチック・ゴム	131	196	268
窯業・土石製品	24	36	61
鉄鋼	18	28	55
非鉄金属	11	16	18
金属製品	42	63	211
はん用機械	8	11	3
生産用機械	49	74	19
業務用機械	11	16	12
電子部品	-6	-9	-3
電気機械	39	59	25
情報・通信機器	0	0	0
輸送機械	100	150	107
その他の製造工業製品	992	1,488	657
建設	167	250	1,003
電力・ガス・熱供給	551	826	3,131
水道	84	126	444
廃棄物処理	58	87	298
商業	917	1,375	51,994
金融・保険	580	870	1,989
不動産	380	570	2,718
運輸・郵便	3,603	5,405	40,690
情報通信	1,308	1,962	2,268
公務	69	104	219
教育・研究	129	193	369
医療・福祉	3	5	17
その他の非営利団体サービス	71	106	198
対事業所サービス	24,876	37,314	8,981
対個人サービス	8,822	13,234	38,495
事務用品	163	245	361
分類不明	287	430	909
合計	43,868	65,801	157,059
生産誘発係数	1.28	1.28	1.30

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致していない。

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資IV-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合(①)、就業者数(労働量)で約119人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で108人、同じく30%と想定した場合(②)、就業者数(労働量)で約123人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で109人

の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。

- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業の分野での雇用効果が大きい。

図表-資Ⅳ-12 北九州芸術劇場の雇用効果(人)

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	1	1	1	1
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	2	2	2	2
商業	16	15	17	15
金融・保険	1	1	1	1
運輸・郵便	14	14	15	14
情報通信	1	1	1	1
対事業所サービス	58	52	60	53
対個人サービス	25	21	25	21
合計	119	108	123	109

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資Ⅳ-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約7億7,300万円で、そのうち、78.0%にあたる約6億300万円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約10億6,400万円で、そのうち73.1%にあたる約7億7,800万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.38、北九州市内で1.29である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみと想定)は、約2億100万円～2億2,300万円で、生産誘発係数は1.29である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約12億6,500万円～12億8,700万円で、北九州市内に限ってみると、約9億7,800万円～10億円となっている。これは、19年度に比べて総合計と北九州市内の両方で大幅に減少している(19年度は、総合計:約20億3,700万円～20億8,400万円、北九州市内:約15億100万円～15億4,800万円)。誘発係数は19年度を下回り1.36となっている。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約119～123人、雇用者ベースで約108～109人である。

注) 上記数字は、試算結果の計算値を転載したものである。図表-資Ⅳ-13の各データは百万円未満を四捨五入しているため、表中に掲載している数値を再計算したものと、合計値やパーセンテージが一致しない場合がある。

図表-資Ⅳ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(20年度)

	最終需要	経済波及効果	誘発係数
①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	⇒ 6億1,100万円 (5億4,000万円)	⇒ 8億1,500万円 (6億9,600万円)	1.33 (1.29)
②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	⇒ 1億1,400万円 (3,600万円)	⇒ 1億7,900万円 (4,700万円)	1.56 (1.30)
③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 4,700万円 (2,700万円)	⇒ 7,000万円 (3,500万円)	1.49 (1.29)
小計	⇒ 7億7,300万円 (6億300万円)	⇒ 10億6,400万円 (7億7,800万円)	1.38 (1.29)
④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	⇒ 3,400万円 ～5,100万円	⇒ 4,400万円 ～6,600万円	1.28
⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 1億2,100万円	⇒ 1億5,700万円	1.30
小計(参考値)	⇒ 1億5,500万円 ～1億7,200万円	⇒ 2億100万円 ～2億2,300万円	1.29
合計(参考値)	⇒ 9億2,800万円 ～9億4,500万円 (7億5,800万円 ～7億7,500万円)	⇒ 12億6,500万円 ～12億8,700万円 (9億7,800万円 ～10億円)	1.36 (1.29)
		↓	
雇用効果 (北九州市内)		119～123人(就業者ベース) 108～109人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

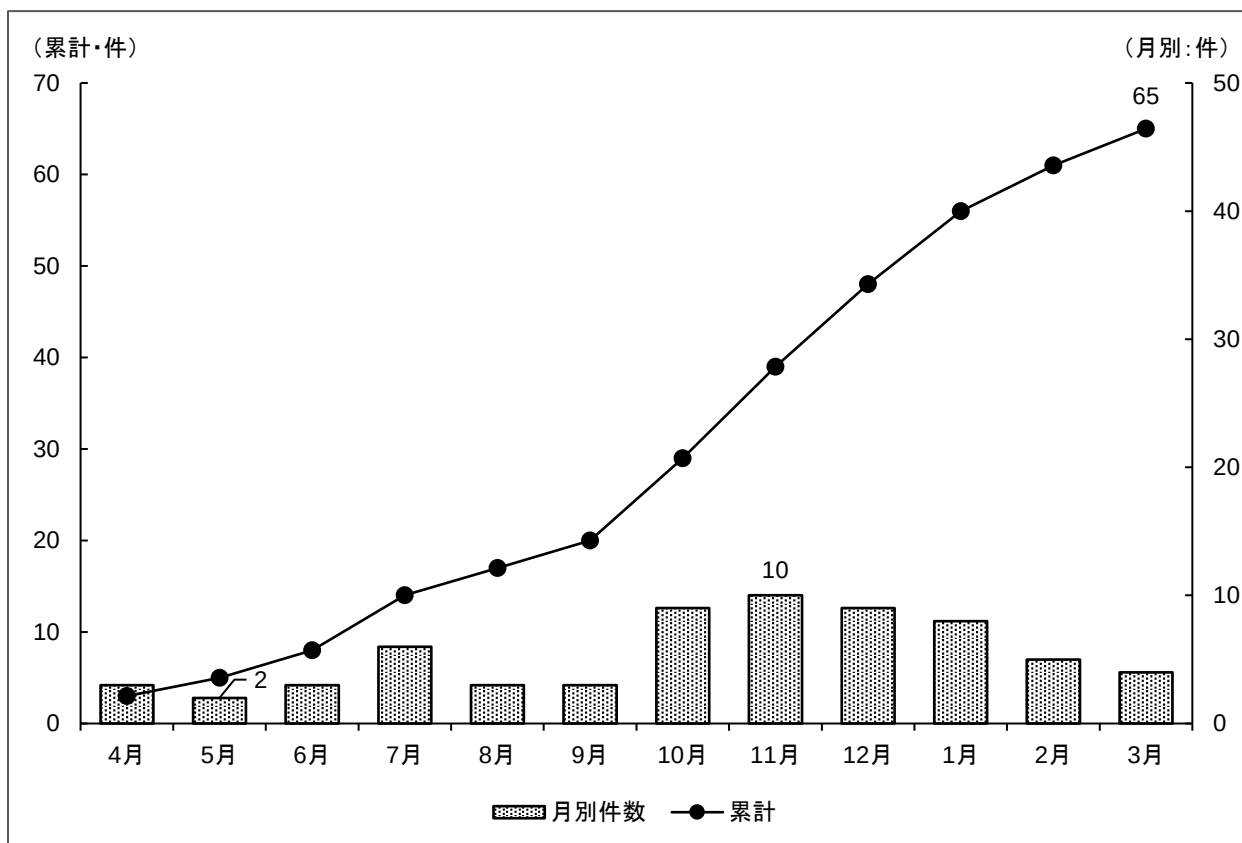


パブリシティ効果

(1) 月ごとの掲載件数と累計

2020年度のパブリシティ効果について、「日経テレコン」記事検索に基づき、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は65件となっている。11月の掲載件数が10件で最も多く、5月が2件で最も少なくなっている。

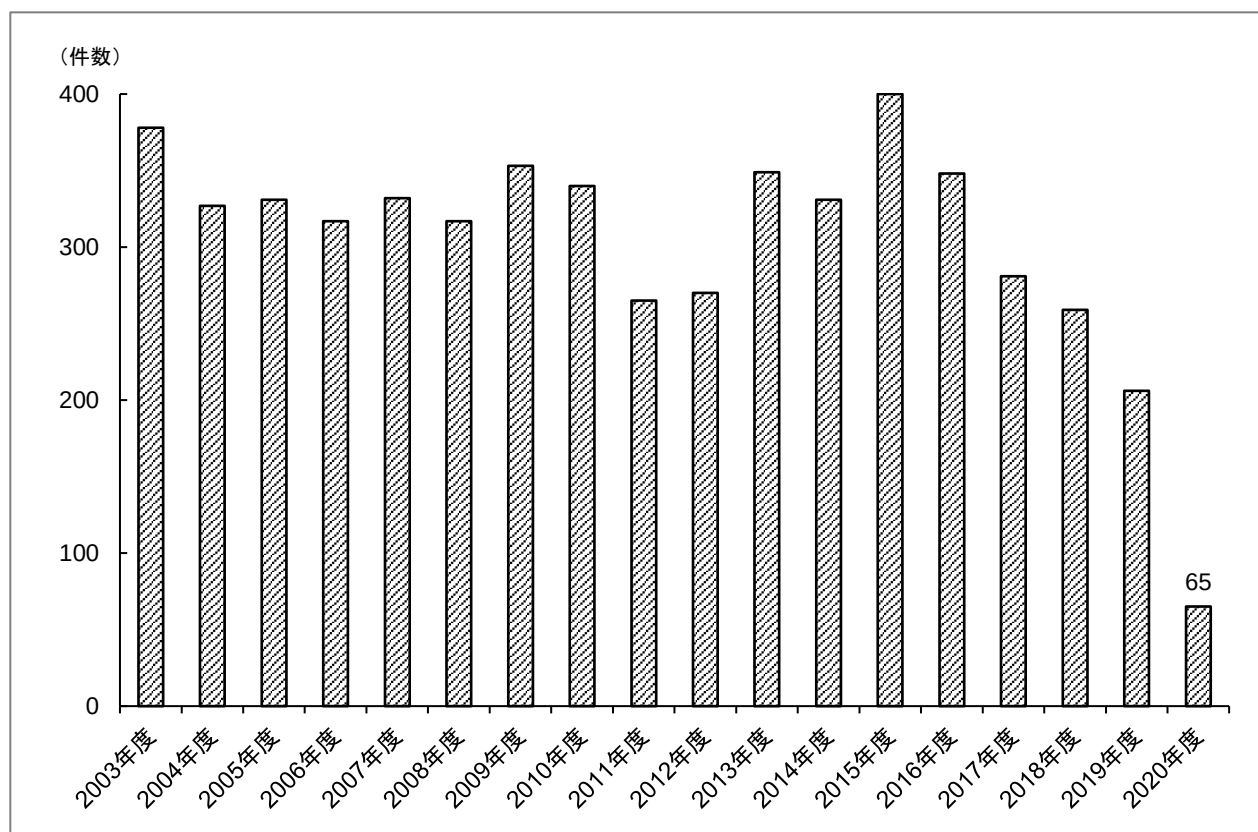
年	月	月別件数	累計
2020年度	4月	3	3
	5月	2	5
	6月	3	8
	7月	6	14
	8月	3	17
	9月	3	20
	10月	9	29
	11月	10	39
	12月	9	48
	1月	8	56
	2月	5	61
	3月	4	65



(2) 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移

2003年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられるが、20年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、掲載件数は開館以降で最も少ない件数となっている。

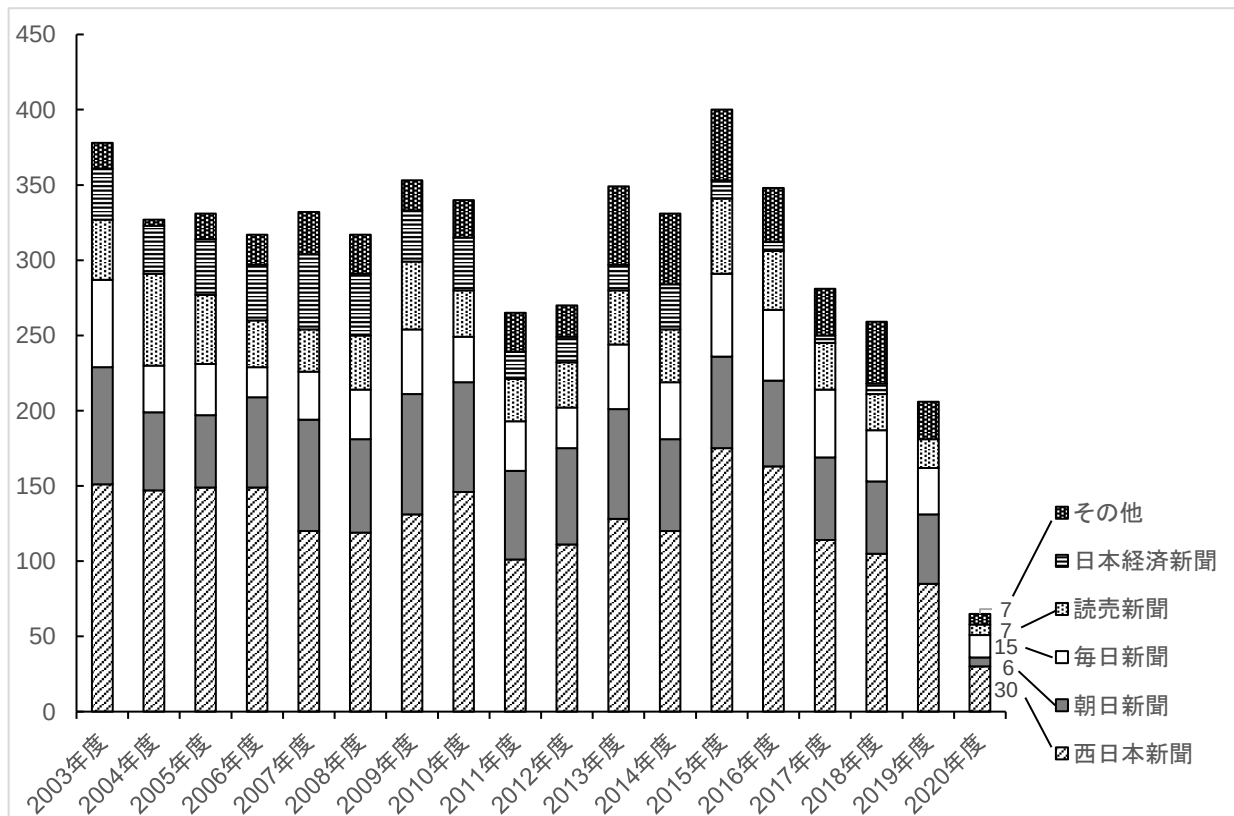
年度	掲載件数
2003年度	378
2004年度	327
2005年度	331
2006年度	317
2007年度	332
2008年度	317
2009年度	353
2010年度	340
2011年度	265
2012年度	270
2013年度	349
2014年度	331
2015年度	400
2016年度	348
2017年度	281
2018年度	259
2019年度	206
2020年度	65



(3) 新聞別件数一覧

新聞別に見ると、2020年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(30件)、次いで、毎日新聞(15件)、読売新聞(7件)、朝日新聞(6件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は7件となっている。

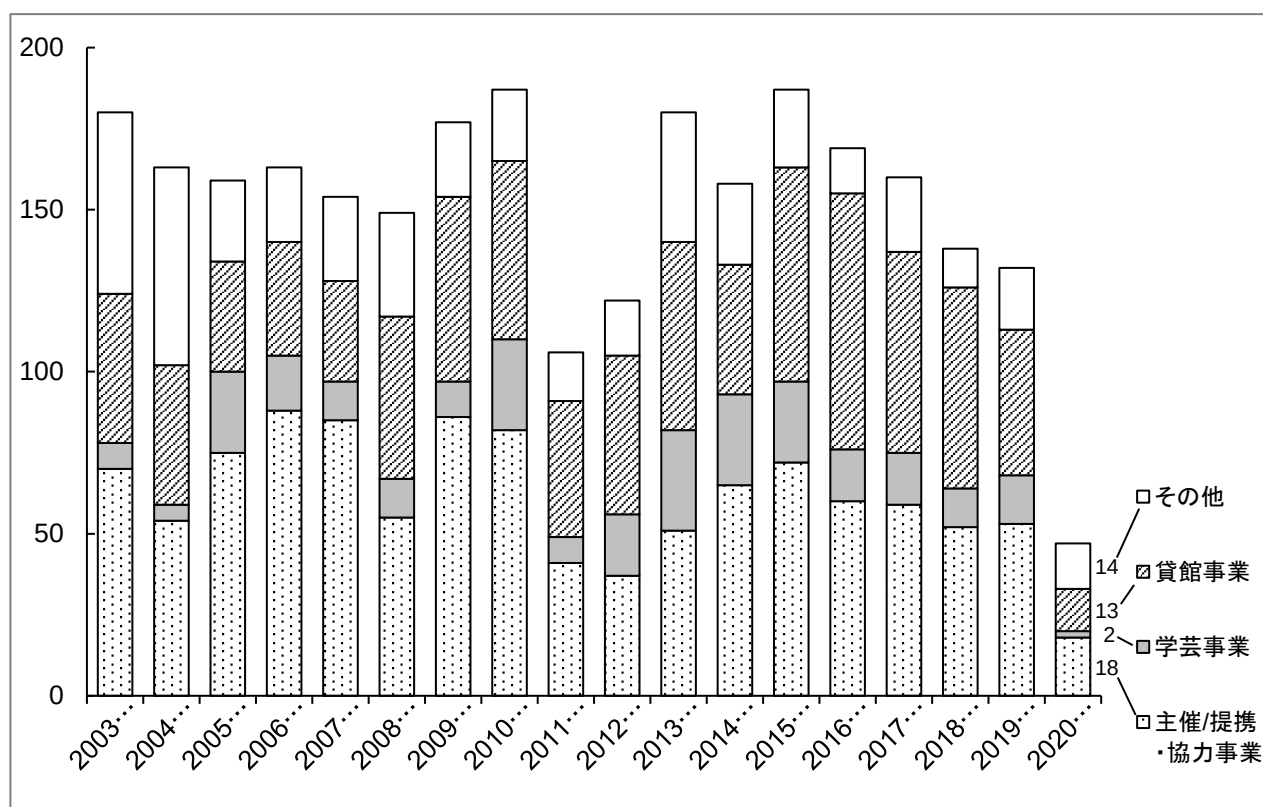
	西日本新聞	毎日新聞	読売新聞	朝日新聞	日本経済新聞	その他	計
2003年度	151	58	40	78	34	17	378
2004年度	147	31	61	52	32	4	327
2005年度	149	34	46	48	37	17	331
2006年度	149	20	31	60	37	20	317
2007年度	120	32	28	74	50	28	332
2008年度	119	33	36	62	41	26	317
2009年度	131	43	45	80	34	20	353
2010年度	146	30	31	73	35	25	340
2011年度	101	33	28	59	18	26	265
2012年度	111	27	30	64	17	21	270
2013年度	128	43	36	73	17	52	349
2014年度	120	38	35	61	30	47	331
2015年度	175	55	50	61	12	47	400
2016年度	163	47	39	57	6	36	348
2017年度	114	45	31	55	5	31	281
2018年度	105	34	24	48	7	41	259
2019年度	85	31	19	46	0	25	206
2020年度	30	15	7	6	0	7	65



(4) 新聞掲載記事の内容と件数

北九州芸術劇場として記事性が高く、公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、2020年度は47件であった(19年度:132件)。その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、18件、2件、13件、14件であった。

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	70	8	46	56	180
2004年度	54	5	43	61	163
2005年度	75	25	34	25	159
2006年度	88	17	35	23	163
2007年度	85	12	31	26	154
2008年度	55	12	50	32	149
2009年度	86	11	57	23	177
2010年度	82	28	55	22	187
2011年度	41	8	42	15	106
2012年度	37	19	49	17	122
2013年度	51	31	58	40	180
2014年度	65	28	40	25	158
2015年度	72	25	66	24	187
2016年度	60	16	79	14	169
2017年度	59	16	62	23	160
2018年度	52	12	62	12	138
2019年度	53	15	45	19	132
2020年度	18	2	13	14	47
累計	1,103	290	867	471	2,731



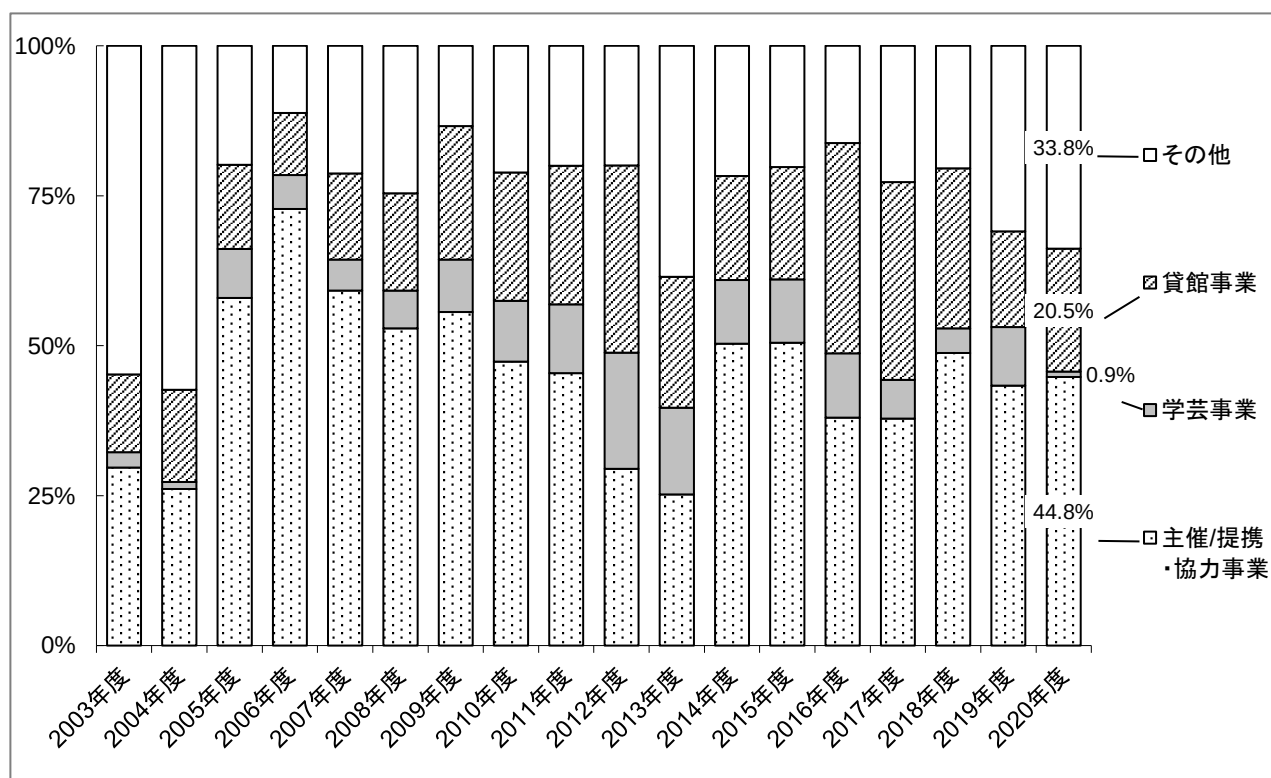
(5) 新聞掲載記事の内容と金額換算

北九州芸術劇場として記事性が高く、公演の内容紹介が掲載されている47件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約6,000万円という結果となっている(19年度:約1億4,500万円)。20年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,000万円であり、開館以降で初めて劇場事業のパブリシティ効果が補助金の規模を下回る結果となった。

(金額:千円)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	62,140	5,331	27,072	114,683	209,226
2004年度	46,211	2,141	27,235	101,577	177,164
2005年度	110,044	15,505	26,622	37,678	189,849
2006年度	160,243	12,451	22,741	24,680	220,115
2007年度	66,027	5,777	16,056	23,737	111,597
2008年度	66,588	7,926	20,392	30,961	125,867
2009年度	65,542	10,316	26,293	15,755	117,906
2010年度	64,078	13,718	28,986	28,598	135,380
2011年度	42,162	10,621	21,443	18,563	92,789
2012年度	31,969	21,021	33,825	21,646	108,461
2013年度	41,879	24,104	36,272	64,035	166,291
2014年度	104,207	22,050	35,890	44,928	207,075
2015年度	97,930	20,472	36,429	39,170	194,002
2016年度	56,447	15,910	52,070	24,061	148,488
2017年度	57,825	9,840	50,418	34,746	152,829
2018年度	80,236	6,733	43,848	33,605	164,423
2019年度	62,971	14,159	23,195	44,969	145,294
2020年度	26,684	530	12,205	20,153	59,572
累計	1,243,183	218,605	540,992	723,547	2,726,327

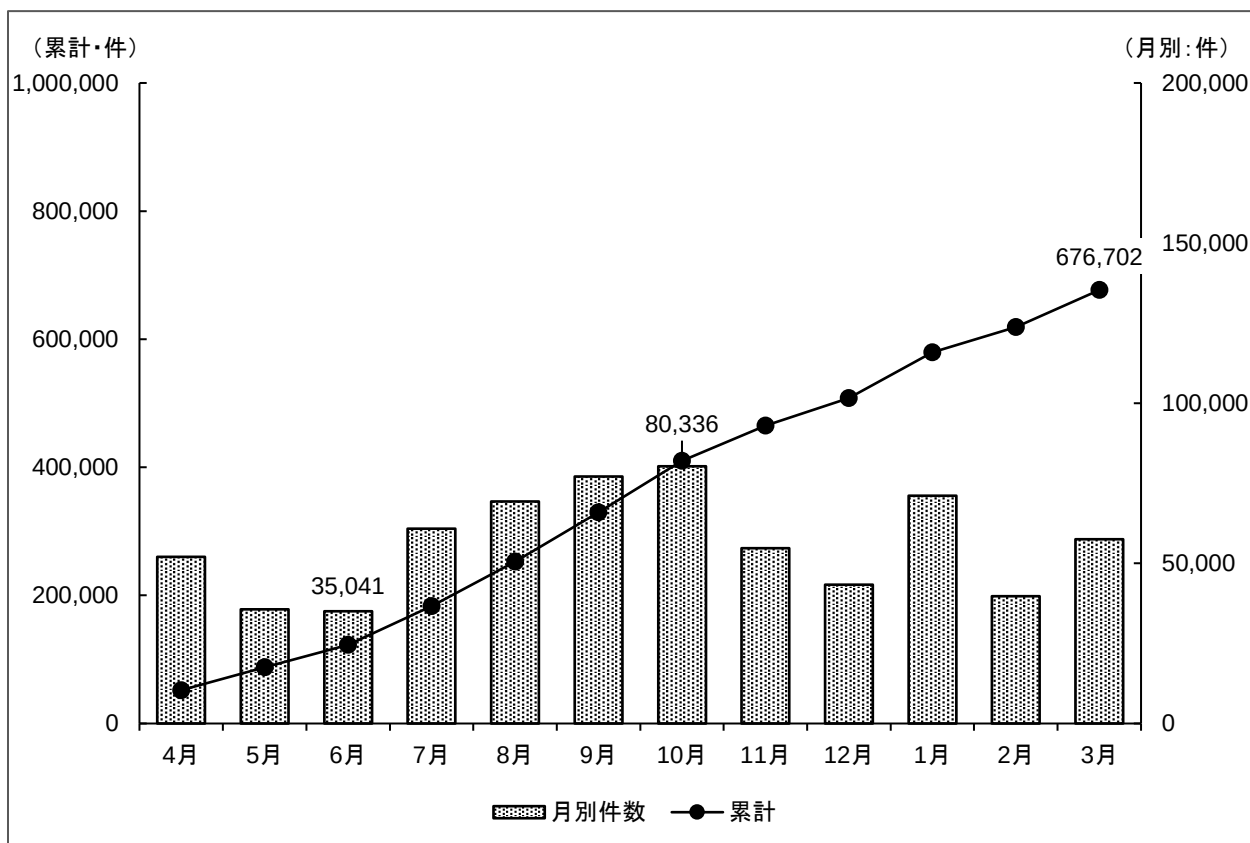
※千円未満を四捨五入しているため、合計・累計の金額が各データの計と合わない箇所がある。



(6) ホームページの月ごとのアクセス件数と累計

2020年度の北九州芸術劇場のホームページへのアクセス件数は累計で676,702件となっている。10月のアクセス件数が80,336件で最も多く、6月が35,041件で最も少なくなっている。月平均では56,392件となっている。

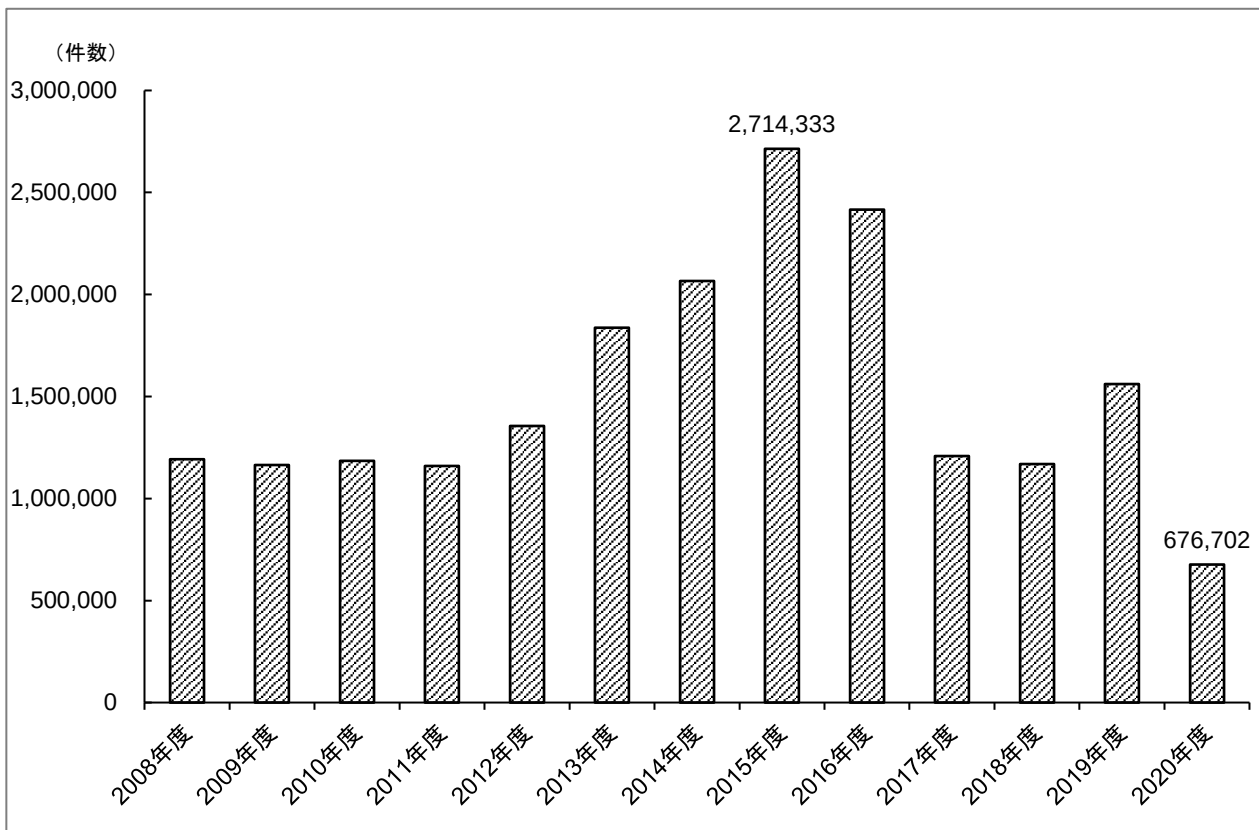
年	月	月別件数	累計
2020年度	4月	52,021	52,021
	5月	35,621	87,642
	6月	35,041	122,683
	7月	60,791	183,474
	8月	69,275	252,749
	9月	77,099	329,848
	10月	80,336	410,184
	11月	54,708	464,892
	12月	43,340	508,232
	1月	71,161	579,393
	2月	39,754	619,147
	3月	57,555	676,702



(7) 年度ごとのホームページアクセス件数の推移

2008年度以降の北九州芸術劇場のホームページのアクセス件数の推移を見ると、12年度から15年度にかけてアクセスが増加し、最も多いアクセス件数があったのは2015年度の2,714,333件で月平均では約22万6千件のアクセスがあった。20年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、アクセス件数、月平均件数ともに過去最少となっている。

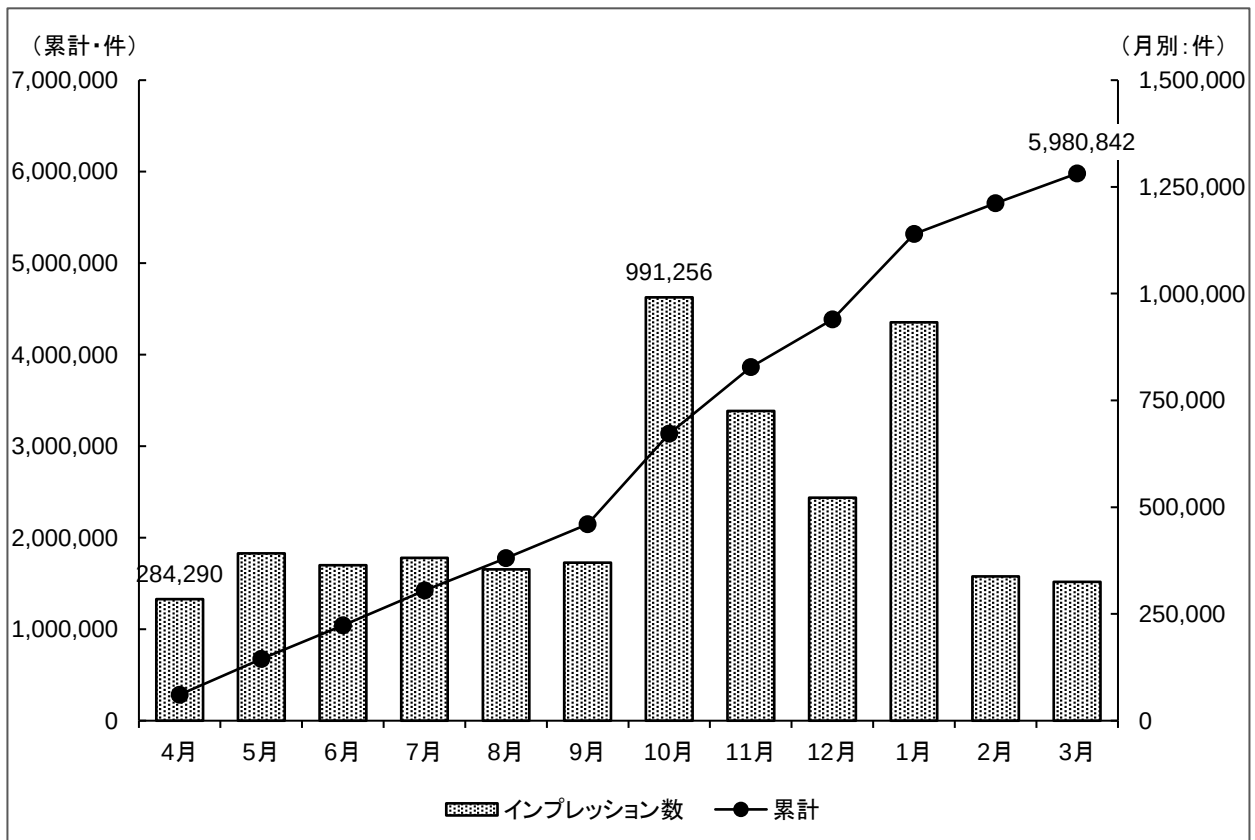
年度	アクセス件数	月平均件数
2008年度	1,191,747	99,312.3
2009年度	1,164,123	97,010.3
2010年度	1,184,765	98,730.4
2011年度	1,160,079	96,673.3
2012年度	1,356,413	113,034.4
2013年度	1,837,352	153,112.7
2014年度	2,065,905	172,158.8
2015年度	2,714,333	226,194.4
2016年度	2,416,185	201,348.8
2017年度	1,208,504	100,708.7
2018年度	1,169,697	97,474.8
2019年度	1,560,639	130,053.3
2020年度	676,702	56,391.8



(8) Twitterの月ごとのインプレッション数と累計

2021年3月31日現在のTwitterのフォロワー数は7,105人で、2020年度の北九州芸術劇場のTwitterのインプレッション数（投稿が他のTwitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数）は累計で5,980,842件となっている。10月のインプレッション数が991,256件で最も多く、4月が284,290件で最も少なくなっている。月平均では498,404件となっている。

年	月	インプレッション数	累計
2020年度	4月	284,290	284,290
	5月	391,464	675,754
	6月	364,143	1,039,897
	7月	381,646	1,421,543
	8月	354,177	1,775,720
	9月	370,375	2,146,095
	10月	991,256	3,137,351
	11月	725,142	3,862,493
	12月	521,953	4,384,446
	1月	932,909	5,317,355
	2月	338,053	5,655,408
	3月	325,434	5,980,842



北九州芸術劇場事業評価調査(その18)報告書

調査・発行 | 公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11
tel. 093-562-2655 fax. 093-562-2588

調査委託 | 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室
〒100-0073 千代田区九段北4-1-7
tel. 03-3512-1883 fax. 03-5211-1084

発行日 | 2022年3月

©(公財)北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
(株)ニッセイ基礎研究所
無断転載・複写を禁じます。

